

中国ハルビン市道外区における中国式西洋建築に
みられる装飾文様の地域特性

靖宇街周辺の歴史文化資源の再認識に基づく地域振興

2017年1月

千葉大学大学院工学研究科

デザイン科学専攻 デザイン科学コース

盛 穎魁

(千葉大学審査学位論文)

中国ハルビン市道外区における中国式西洋建築に
みられる装飾文様の地域特性

靖宇街周辺の歴史文化資源の再認識に基づく地域振興

2017年1月

千葉大学大学院工学研究科

デザイン科学専攻 デザイン科学コース

盛 穎魁

目次

序章	9
1. 研究背景	
2. 研究対象	
3. 研究目的	
4. 先行研究	
5. ハルビン市文化遺産保護志望隊などの民間団体	
6. 本研究において、デザイン文化の概念に対する理解	
7. 研究方法	
8. 論文構成	
注と参考文献	
第一章 20世紀初～30年代ハルビン市特有の都市文化の変遷と形成	17
1. ハルビン市の形成、発展	
2. ハルビン市道外区の概要	
2.1. 道外区の形成	
2.2. 道外区の変遷と靖宇街の形成	
3. 多民族都市の形成	
3.1. 20世紀初頭のハルビン市の移民ブーム	
3.2. ハルビン道外区における多民族の交流	
4. ハルビン市における歴史建築の発展と形成	
5. 道外区における靖宇街周辺の中国式西洋建築	
5.1. 中国式西洋建築	
5.2. 道外区における靖宇街の歴史建築の保存	
6. まとめ	
注と参考文献	
第二章 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する調査	29
1. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の建築スタイルの分類	
2. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の分類	

2. 1. コレスポンデンスの分析方法で解析

2. 2. 装飾文様の特徴と意味性

3. まとめ

注と参考文献

第三章 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に表出した生活文化 ……49

1. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現方法

1. 1. 装飾スタイルに基づく分類

1. 1. 1. 中国伝統装飾文様

1. 1. 2. 西洋装飾文様

1. 1. 3. 中西混用装飾文様

1. 2. 表現形式に基づく分類

1. 2. 1. 単一の文様による装飾

1. 2. 2. 組み合わせの文様による装飾

2. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現内容

3. 靖宇街における中国式西洋建築の特徴

4. 靖宇街における豊かな生活文化と生活空間の構築

5. まとめ

注と参考文献

第四章 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査 …… 67

1. 道外区靖宇街における中国式西洋建築に関する質問紙調査

1. 1. 調査方法

1. 2. 調査項目

1. 3. 回収結果

2. 質問紙調査結果

2. 1. 調査対象者の属性

3. 調査対象者の属性と当該地域における歴史文化資源に関する意識調査の解析

3. 1. 当該地域の歴史文化に関する認識調査

3. 2. 当該地域の文化資源に関する意識調査

3. 3. 当該地域の文化活動に関する意識調査

4. 質問紙調査の諸問題の間の関連性の解析

5. まとめ

図と表の出典

終章95

1. 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する調査
 - 1.1. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の建築スタイルの分類
 - 1.2. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の分類
 - 1.3. 装飾文様の特徴と意味性
2. 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の特質
 - 2.1. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現方法
 - 2.2. 靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の表現内容
 - 2.3. 靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の特質
3. 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査
 - 3.1. 調査対象者の属性と当該地域における歴史文化資源に関する意識調査の解析
 - 3.2. 質問紙調査の諸問題の間の関連性の解析
 - 3.3. 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査の特徴
 - 3.4. 調査質問の間の関連性と当該住民の意識の特徴
4. 道外区靖宇街における歴史建築と文化資源に基づく地域文化振興に関する指針と提案
 - 4.1. 地域文化資源に基づき地域振興の方針
 - 4.2. 道外区靖宇街における地域文化資源に基づき地域振興の提案
5. 本研究の今後の展望
6. 謝辞

添付資料 111

序 章

1. 研究背景

中国東北地域に位置する黒竜江省ハルビン市は、近代の新興都市としての成立以来およそ200年の歴史を有している(図1)。同市は、その地理的環境を要因として、1850～1930年頃の移民ブームを経て多民族の生活文化が融和しつつ、東北地域における有数の大都市になった[注1]。加えて、20世紀には、ロシア、日本などの多様な外国文化の影響を受け、特有の都市文化が形成された。

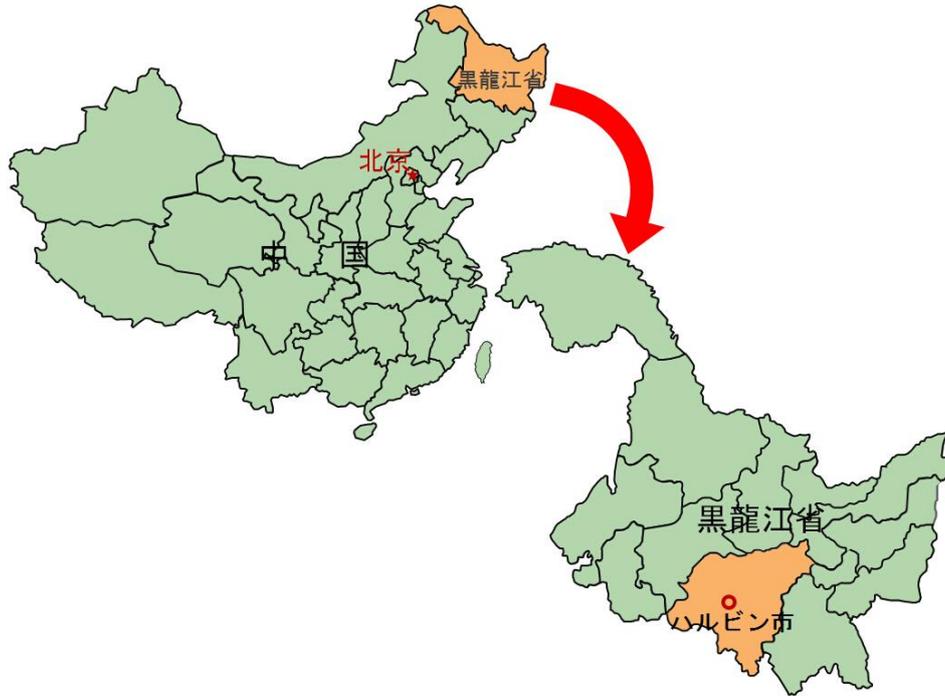


図1 中国黒竜江省ハルビン市の位置

本研究で取り上げる道外区の靖宇街周辺は、20世紀初頭に同市の中心商店街区として栄えた地域であり、外国人が多いなか、労働者としての中国人が主要な住人であった生活居住区である。当該地域の建築には、人びとが中国の伝統的な生活文化に外国文化を積極的に取り入れつつ構築した特有の生活文化が表出している。特に、道外区の靖宇街周辺の建築は、外面的には17世紀以降の西洋建築の特徴が色濃いが、それらのファサードには、蝙蝠、石榴、鶴、牡丹などの中国の伝統的な文様を中心として、西洋やロシア、日本から影響を受けたものと思われる文様が大量に施されている。それらは、当該地域の人びとが創出した貴重な文化遺産であるといえよう。

しかしながら、今日、ハルビン市は、中国における急激な経済発展に伴う生活様式の変容を主な要因として、こうした文化遺産の消失が進んでいる。道外区は、貧しい旧市街地とみなされ、急速な過疎化・高齢化が進行しており、商店街としての魅力も失われつつある。さらに、庶民の生活文化の象徴ともいえる中国式西洋建築も、長年の管理不足のために、取り壊しや無秩序な改築による消失が進んだ。そして、ハルビン市の都市開発計画の展開とともに、同市が、厳しい居住環境を改善し、健全な経済発展を実現するためには、旧市街地域の改善は重要である。同市政府も、関連する法律に対応しながら、古い街並みの改善を進めることを強調している。しかしながら、それは、当該地域の住民への情報公開と、住民の参与を高めることが必要である。開発政策と歴史建築保存条例も不断に再検討しなければならない。将来、どのように歴史建築を保存して、中国の伝統的建築装飾の文化的意味の再認識がなされ、さらに、ハルビン市の人びとの生活から姿を消しつつある本来の生活文化の再認識・育成に向けて、靖宇街周辺の中国式西洋建築に付随する豊かな生活の望み、あるいは積極的な生活の態度と方向性を目

指すことが喫緊の課題となっている。

2. 研究対象

20世紀初頭にさまざまな民族が生活していたハルビン市では、各国の人びとが居留するエリアによって、その建築のスタイルに差異がみられる。靖宇街は、当時道外区に居住していた中国人によって形成された中国人街であり、当時の様子を今日に伝える代表的なものの一つが歴史建築に施された装飾文様である。



図2 靖宇街における典型的な中国式西洋建築

たとえば、図2のように、1920年代で建てられた靖宇街412号の純化病院は、靖宇街における典型的な中国式西洋建築として法定Ⅱ類歴史保護建築に登録された。その歴史建築は、外面的には西洋建築の特徴が色濃いが、それらの正面のファサードには、中国伝統的な牡丹の唐草文様が施された。そして、両方の柱の上にも、中国伝統的な盤長文様と唐草文様が大量に飾られた。その建築の上部には、鈴蘭文様、花綱などの西洋風装飾文様が見られるが、中心部に中国伝統的な唐草文様と牡丹文様が多数採用されている。特に、その建築の細部をみると、左に梅文様、右に竹文様、下には壽字文様と古銭文様も飾られた。建築の外観は、一見すると西洋建築スタイルに似ていながら、その細部をよく見ると西洋建築とは大きく異なることは、靖宇街における中国式西洋建築の一つの特徴といえよう。今日、靖宇街周辺の残された歴史建築からその時期の中国式西洋建築スタイルと多種多様な装飾文様をよく見ることができる。

それらの歴史建築を、日本の建築学者である西澤康彦は、その著『図説「満洲」都市物語』に、「外観は、一見すると西洋建築スタイルに似ていながら、その細部をよく見ると西洋建築とは大きく異なる」と記している[注2]。さらに、「このような建築スタイルはいずれも中国人の設計・施工であり、彼らは西洋建築を根本的に理解していたわけでもなく、専門知識や技術をもっていたわけでもなく、目にみえるかたちを彼らが独自に理解することで、当該地域の特有の西洋建築が生まれた」とし、当該地域の市井の人びとが構築した生活文化のあらわれとして、その価値を高く評価している。

本研究においては、当該地域の建築物のスタイルが、必ずしも「バロック」に限定されず、折衷主義、アール・ヌーヴォー、アール・デコなど多種のスタイルが含まれていることから「中国式西

洋建築」と称することとした。

3. 研究目的

本研究は、中国黒竜江省・ハルビン市の道外区において発展した特有な建築スタイルである中国式西洋建築の現状、その歴史建築のファサードに施された装飾文様の種類と意味を調査する。その装飾文様の特質を抽出することを通して、当該地域に独自の中国西洋建築の装飾文化が有する社会的・文化的な役割を考察することを目的としたものである。さらに、そのような歴史文化資源に基づき、今後の内発的発展の方向性を見出すことを目指した。今後、ハルビン市道外区の歴史文化資源に基づく地域振興の具体策を提言する。

4. 先行研究

中国式西洋建築に関して執筆・出版された図書は多数ある。しかしながら、デザイン学の観点からみると、装飾文様に注目してなされた研究は極めて少ない。たとえば、『中国近代建築総覧・哈爾濱編』[注3]がある。同書には、ハルビン市の歴史建築の年代とスタイルが細かく整理されており、中国式西洋建築の歴史の変遷、現状などを今日に伝える大切な資料である。しかしながら、その内容の大部分は、当時残されていた資料をまとめたものであり学術的考察はなされていない。また、ハルビン市政府は、2005年に写真集『哈爾濱市歴史建築』[注4]を出版したが、同書は、ハルビン市の古い写真を年代順に並べたものであり、ハルビン市の発展史を視覚的に概観することができるものの学術的な考察はない。その他の当該地域を対象にした研究は、いずれも、道外区の都市計画や旧市街の空間形態や建築物の構造を考察したものであり、装飾文様に関してなされた研究は皆無である。

本研究の先行研究への考察を通して、これまでになされたハルビン市歴史建築の装飾文様に関する学術的な研究は決して多くないことがわかる。本研究は、靖宇街の歴史建築の装飾文様に対する考察を通して、その特質を把握しながら、かつて、ハルビン市道外区靖宇街の中国式西洋建築の歴史・文化的価値を明らかにしたものであり、当該地域の文化資源に基づく内発的発展の観点から中国式西洋建築を考察した研究は他にはないといえる。

5. ハルビン市文化遺産保護志望隊などの民間団体

「ハルビン市文化遺産志望隊」は、ハルビン市の建築専門家、建築学科の学生などと共に、ハルビン市の歴史建築の発見と保存、歴史生活文化の継承ために設立された民間団体である。筆者は、2013年から、積極的にハルビン市文化遺産保護志望隊の文化活動に参加した。その民間団体の先生、学生同士と一緒に、靖宇街の歴史建築の現状と保存、日本の内発的発展などの理念と日本における歴史建築の保存の事例を広範に交流した。本研究において、靖宇街における歴史建築の現地調査と歴史建築に関連した資料の解読について、貴重な意見を聞き取った。

6. 本研究において、デザイン文化の概念に対する理解

文化とは、「社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される行動様式ないし生活様式の総体。言語・習俗・道徳・宗教、種々の制度などはその具体例。文化相対主義においては、それぞれの人間集団は個別の文化をもち、個別文化はそれぞれ独自の価値をもっており、その間に高低・優劣の差はないとされる」[注5]。

本研究の理解は、デザインはモノの色や形を考えることだけではなく、われわれの人間の生活のあり方を探求する学科である。そのモノのデザインを通して、それぞれに豊かな生活の知恵と人類の歴史が内包されている地域固有の文化の価値を探求する。さらに、豊かな生活と維持可能な社会の構築を目指したデザイン提案を行う。その理念をもって、本研究は道外区靖宇

街周辺の歴史建築の装飾文様のデザインを入り口として、当該地域の固有の歴史建築文化と生まれた生活文化を考察する。

7. 研究方法

本論における研究方法は、以下の通りである。

(1) 文献調査

まず『哈爾濱市県誌』や『中国近代建築総覧・哈爾濱編』などの文献に基づき、当該地域成立の歴史を把握した。次に、1920～1930年代における『哈鉄概観』[注6]、『大哈爾濱市ノ建設』[注7]、『ハルビン案内』[注8]などの雑誌と新聞を取り上げ、その時期ハルビンの経済発展と都市開発と都市生活文化の形成を概観した。さらに、ハルビン市に生活していた日本人の文学作品と写真集より、その時期のハルビンの庶民生活や多民族都市としての文化の特質を把握した。そして、『哈爾濱市歴史建築』などの文献により、20世紀初頭から1930年代に建設された中国西洋建築の意匠の特徴を把握した。中国の伝統的な建築装飾に関する資料『中国吉祥文化』[注9]や『中国民間吉祥芸術』[注10]などの資料より中国伝統吉祥文化の概略を把握するとともに、『中国伝統吉祥図典』[注11]などの資料から中国伝統装飾文様の意味を確認し、靖宇街周辺伝統装飾文様の意匠特質を把握した。

また、満鉄時期の歴史建築に関する資料を把握した。満鉄は南満州鉄道株式会社の略称である[注12]。満鉄は1906年の会社創立から、1945年で中国に回収されるまで、中国東北地域において、多種の経営事業を展開していた。本研究は、日本に残された歴史文献と旧写真を参考して、その時期満鉄の歴史と経営活動を把握した。そして、日本満鉄専門家と建築学者らの著書を通して、ハルビン市における満鉄がつくった歴史建築についてその歴史背景と建築の特徴を把握した。

(2) 現地調査

2013年8月～9月、ハルビン市都市計画局の「道外区伝統商市風貌保護区规划设计」（「道外区伝統的商店街風貌区の保存計画」）によって制定された靖宇街周辺の法定保存歴史建築物群に関する現地調査を行った[注13]。調査範囲は、歴史建築が比較的に残されている「法定核心保護地区」を中心としたが、同保護区以外のⅠ類とⅡ類の歴史建築が存在する靖宇街東部の十二～十八道街を含めた(図3)。



図3 本研究における調査した靖宇街周辺の歴史建築(靖宇頭道街～靖宇十八道街)

なお、調査対象となった建築は、靖宇街周辺における法定保存建築Ⅰ類が2棟、Ⅱ類が8棟、Ⅲ類保存建築が44棟、その他の歴史建築が53棟である[注14]。2014年9月には、前年の調査によって得られた内容を踏まえ、それらのファサードに施された装飾文様に関する調査を行った。

その結果、107棟の中国式西洋建築を認めるとともに、964点の装飾文様を確認した。

(3)装飾文様の分類

文献調査ならびに現地調査で収集した写真と資料に基づき、ファサードに施された装飾文様を、植物、動物、人物、文字、幾何、その他の6種に分類し、それぞれの文様の意味と特徴を把握した。さらに、装飾スタイル、表現方法、表現内容などの観点から分析し、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様と特徴を抽出した。

(4)質問紙調査

2015年8月、筆者がハルビン市道外区の靖宇街周辺の中国式西洋建築に関する質問紙調査を行った。ハルビン市道外区と靖宇街の形成と歴史、靖宇街周辺の中国式西洋建築、中国伝統的装飾文様、靖宇街における歴史文化資源と靖宇街における文化活動についての五つの項目で構成した。その質問紙調査を通して、当該地域住民は、その中国式西洋建築と歴史文化資源に関する意識の実態を明らかにした。それから、単純集計、カイ2乗検定などの分析方法を用いて、調査対象者の年齢、職業と靖宇街の歴史建築と文化資源に関する意識の現状と特徴を考察した。

(5)道外区靖宇街周辺の建築文様の文化的・社会的な意味の再確認

最後、(1)～(4)の結果に基づき、靖宇街における中国式西洋建築の特質、今日における重要な歴史文化資源として継承・維持の意義を明らかにした。

8. 論文構成

なお、論文構成は、以下の通りである。

(1)20世紀初～30年代間のハルビン市と道外区の歴史を回顧し、ハルビン市における独特の多民族の都市文化の発展と中国式西洋建築スタイルの変遷を明らかにした。

(2)道外区靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する現地調査に基づき、ファサードに施された装飾文様を分類し、それぞれの文様の意味と特徴を把握した。

(3)道外区靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の装飾スタイル、表現方法、表現内容などの観点から分析して、その中国式西洋建築の装飾文様の特質を抽出した。

(4)道外区靖宇街周辺の住民の聞き取り調査に基づき、歴史建築と文化資源に関する意識調査を通して、当該地域の歴史建築文化と豊富な文化資源を再認識した。

(5)終章においては、(1)～(4)を総合し、靖宇街の周辺の歴史建築に基づく文化資源の再利用と、当該地域の生活者が中心となっている内発的な地域文化振興に関する指針を提言した。

注と参考文献

- 1) ハルビンの移民ブームは、3つの時期に分けて考えることができる。第一は、東北地域における中東鉄道初期の建設に関係し、労働者であった中国人の満州への大量移住時期である。第二は、1917年のロシア革命後、ソビエト政権から迫害され祖国を去った白系ロシア人がハルビン市に大量に流れ込んだ時期である。第三は、1920年代から日本、ドイツなどの資本主義諸国が、中国に市場を求めて進出する動きが活発になり、世界諸国の移民がハルビン市に大量に移住した時期である。
- 2) 西澤康彦：図説「満洲」都市物語(増補改訂版)、河出書房新社、2006
- 3) 候幼彬、西澤泰彦他：中国近代建築総覧・哈爾濱編、中国建築工業出版社、1992
- 4) 聶雲凌他：哈爾濱市歴史建築、黒竜江人民出版社、2005
- 5) 大辞林・第三版、株式会社三省堂、2264、2006
- 6) 『哈鉄概観』、哈爾濱鉄道局、奉天印刷所、1938年（国立国会図書館所蔵）
- 7) 『大哈爾濱市ノ建設』、交進社印刷工場、1933年（国立国会図書館所蔵）
- 8) 『ハルビン案内』、山田金城舎、1922年（国立国会図書館所蔵）
- 9) 沉利華、錢玉蓮：中国吉祥文化、内蒙古人民出版社、2005
- 10) 李振球、喬光：中国民間吉祥芸術、黒竜江省美術出版、2000
- 11) 李典：中国伝統吉祥図典、京華出版社、2005
- 12) 「ボーツマス条約によりロシアから獲得した長春以南の鉄道および付属事業を經營する目的で、1906年（明治39）設立された半官半民の国策会社でした。満州国成立とともに、同国内の鉄道全線の運営・新設を委託されたばかりでなく、鉱工業を中心とする多くの産業部門に進出し、植民地支配機構の一翼をになった。1945年で、中国が接収した。」
大辞林・第三版、株式会社三省堂、2422、2006
- 13) 王世華：哈爾濱歴史文化名城保護計画成果集、黒竜江科学技術出版社、72、2006
- 14) ハルビン市城郷計画局による。
- 15) 『満洲写真帖』、南満洲鉄道株式会社社長室情報課、中日文化協会、1929
- 16) 西澤康彦：図説満鉄「満洲」の巨人、河出書房新社、2000
- 17) 小林英夫：「満洲」の歴史、株式会社講談社、2008

図の出典

- 1) 図1と図3：筆者が作成
- 2) 図2：筆者、2013年8～9月撮影、道外区靖宇街

第一章

20 世紀初～30 年代ハルビン市特有の都市 文化の変遷と形成

はじめに

本章において、古い写真、調査報告書、紀行文、回想録などの歴史文献に基づき、ハルビン市の変遷、居住区の分布を把握した。20世紀初頭から30年代ハルビン市の各国人の居住空間、現存する多様な建築スタイルなどの事例を通して、その時期ハルビン市近代建築の発展と同市の多民族融和の生活文化について詳しく取り上げて論じる。それを入り口として、ハルビン市歴史建築の形成・発展の脈絡を把握した。

1. ハルビン市の形成、発展

ハルビン市は中国黒竜江省の中南部、北流して黒竜江に注ぐ松花江の河畔に位置する。清時代の書類の記載より、200年前に、清政府の魚取り作業の現場と牧草地と認識された。書類において、その拠点が「宮の網」と称され、すなわち専ら政府と宮廷のために鮮魚などの食材を貢進した機構であった。19世紀の半頃には、漁村に発展して、魚圈を設立し漁船も製造できるようになった。清政府の「封禁政策」が解禁すると、最初の漁村から官、商の往来に必ず経由する所であるために、集落へと発展した。特に、19世紀末になってから、ロシア人の東清鉄道の建設の開始の時、ハルビンには旅館、レストラン、商店、賃屋等あるだけではなく、焼き鍋、油屋、線香屋などの手工業現場もあった(図1)。その周りで、百余りの村があり、それらの集落と村は正にハルビンという都市の萌芽になった[注1]。

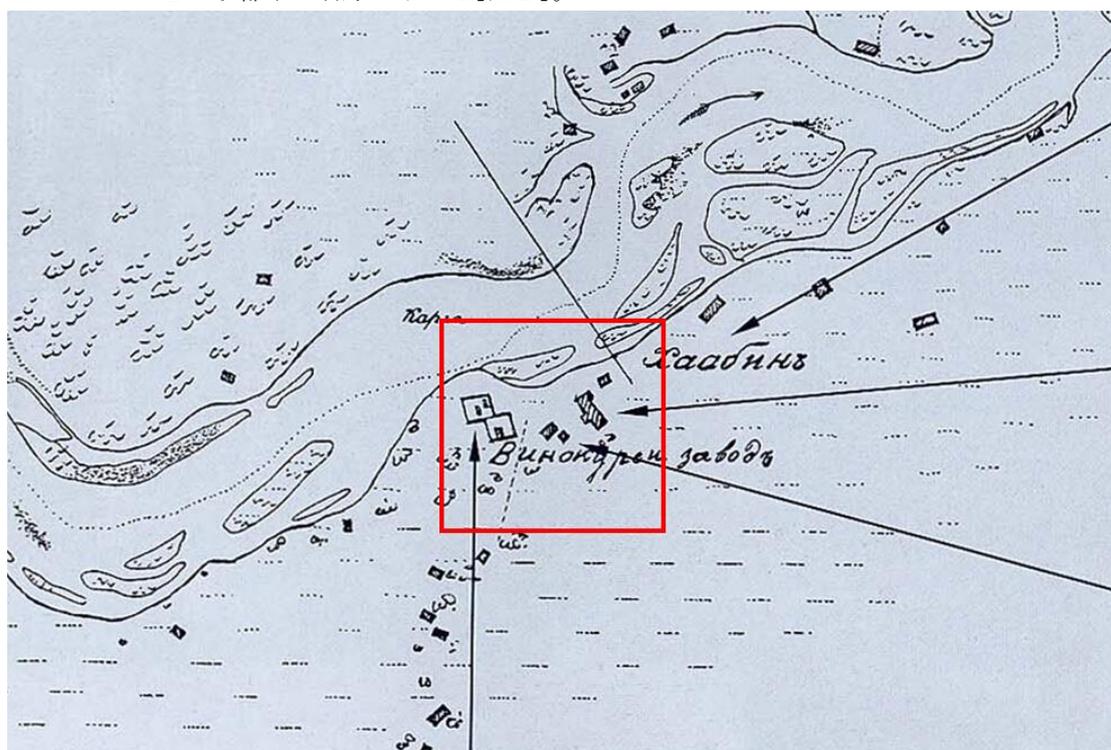


図1 1895年にロシア人が作成したハルビンの位置を示した地図

2. ハルビン市道外区の概要

ハルビン市における道外区ならびに靖宇街の形成は、ハルビン市そのものの成立と密接な関係がある。まず、本章において、ハルビン市の歴史を概観するとともに、道外区ならびに靖宇街成立の背景とかつての生活文化を概観したい。

2.1. 道外区の形成

ハルビン市誕生の起源は、12世紀の金王朝の時代にまで遡る。当時、金王朝が、上京会寧府[注2]の北西端、すなわち、今日の道外区の万宝鎮に食糧供給の拠点を設置したのである。その頃



図2 1890年代の傅家店

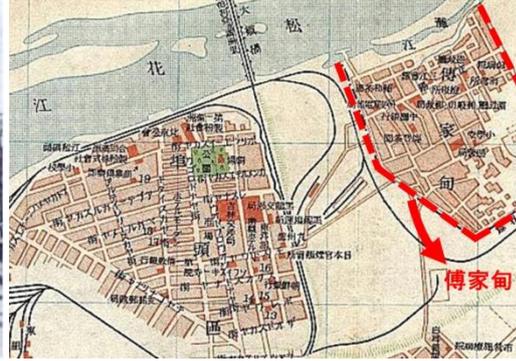


図3 20世紀20年代の傅家甸地区

から、当該地域は「馬草甸子(馬を飼う天然の牧場)」と称され、重要な牧草地や漁場と認識されてきた。18世紀から植民地の拡張を始めたロシア人に対抗するために、清政府が徐々に「封禁政策」を解禁すると、この「馬草甸子」には、山東省や河北省、山西省から多くの漢族の人びとが移住し、数千人の集落が形成された。その後、山東省徳平県出身の傅宝善がこの地区に薬局を開いたことや、その兄の傅宝山が宿屋や雑貨店を経営したことに由来し、1850年頃には、上述の「馬草甸子」は「傅家店」(図2)と呼ばれるようになった[注3]。その最初の拠点が今日の道外区である。

2.2. 道外区の変遷と靖宇街の形成

日清戦争後、ロシアは、中国の東北地域内に鉄道を敷設する権利を獲得し、1896年に松花江沿いに建設を始めた。ハルビン市の中心部は、こうした状況のなかで、1898年にロシア人によって新興都市として建設され始めた。その頃、ハルビン市は4地区で構成されていたが、それらは、1898年に「東清鉄道」[注4]を建設するためにやってきたロシア人が最初に仮の市街地を建設した「香坊区」、官庁街として建設された「新市街」、外資と資本規模の大きな店舗商業地として建設された「埠頭区」、肉体労働者の住居と小規模な商売活動が集まった「傅家店」であった。その「傅家店」が中国人居留地に設定され、ここに都市建設に従事するために多数の中国人労働者が流入した。その頃、ハルビン市の商業地区は「埠頭区」と呼ばれていたが、この地区と「傅家店」の間には上記の東清鉄道が走っていたために分断されており、ロシア人と外国人の街は「道裡」、中国人居住地は「道外」と呼ばれた。1907年からはハルビン市の自治が始められ、1908年1月に「傅家店」が「傅家甸」(図3)に改称され、さらに、1956年に正式に「道外区」に改称された。

道外区の中心地は、鉄道と松花江に囲まれた地区である。その中心となるのが、西を「景陽街」、南を「南勳街」、北を「北新街」、東を「靖宇公園」で区画され、東西に「靖宇街」が貫通する地区である。メインストリートである「靖宇街」を20本の南北方向の通りが横切っており、南北の通りは、最も西が「頭道街」、以下番号で呼称され、二道街から二十道街までがある。ハルビン市政府は、1890年から、「傅家甸」の開発建設とともに、「靖宇街」を中心に碎石を敷き道の原型を形成した。1936年に「靖宇街」の両側に排水設備の工事が行われるまで数十年の時間をかけて数回にわたって拡張され、ほぼ現在の姿となった。

3. 多民族都市の形成

3.1. 20世紀初頭のハルビン市の移民ブーム

ハルビン市の移民ブームは、3つの時期に分けて考えることができる。第一は、東北地域における中東鉄道初期の建設に関係し、労働者であった中国人の満州への大量移住時期である。第二は、1917年のロシア革命後、ソビエト政権から迫害され祖国を去った白系ロシア人がハルビン市に大量に流れ込んだ時期である。第三は、1920年代から日本、ドイツなどの資本主義諸国が、中国に市場を求めて進出する動きが活発になり、世界諸国の移民がハルビン市に大量に移住した時期である。



図4 1920年代の中央大街の一隅



図5 日本人居住区であった地段街

表1 20世紀20年代頃のハルビン市の人口

国別	ロシア人	中国人	日本人	イギリス人	米国人	ドイツ人	フランス人	朝鮮人	イタリア人	ポーランド人	ユダヤ人	コーカサス人	その他	合計
1916年	34115人	45481人	697人	43人	—	—	—	63人	—	2558人	5032人	400人	1362人	89751人
1918年	60200人	94000人	2768人	17人	33人	—	8人	338人	—	—	—	—	15人	157379人
1920年	131073人	150414人	3759人	143人	94人	59人	50人	722人	37人	—	—	—	142人	286493人
1922年	155402人	183696人	3883人	155人	81人	—	92人	517人	45人	—	—	—	48人	343923人

1922年で出版された『ハルビン案内』(表1)より、ハルビン市の人口において、中国人とロシア人が多数占めていたが、ロシア革命後、ソビエト政権から逃げたロシア系移民とハルビン市における商業活動を展開していた欧米人の人口も増えてきた。2万人程度のロシア国籍であったユダヤ人はロシア人に含まれた。その時期、世界諸国の移民はハルビン市において、各自の居住エリアを形成してきた。

ロシア人の居住区域

最初のロシア人が建設した都市であったハルビンにおいて、ロシア系移民が最も多かった。1898年の東清鉄道(中東鉄道)の建設開始からロシア人のエンジニア、技術者、軍人がハルビンに来ていた。その時期に、ハルビンではロシア文化が培われ、大学、学校や図書館など教育文化施設が建てられた。ロシア人は市内全体に居留していたが、特に居留者が多かったのは新市街、馬家溝、中央大街(図4)の周辺であった。中央大街において、欧米人の資本銀行、アール・ヌーヴォー様式のカフェー、ホテル、ロシア資本の百貨店と日本の松浦洋行などの外国資本建築が大量に建てられた。その時期の国際商業都市としたハルビン市は「極東のパリ」、「極東のモスクー」と評価されてきた。

日本人の居住区域

1899年には、中国六道街はヤボンスカヤ(ロシア語で日本街の意味)と呼ばれ、日本料理屋、日本食料品雑貨店、時計修理店、写真屋などができていた。1906年に日本総領事館が設置された。第1次世界大戦を契機に商社や輸出入業の会社が続々と進出した。日本の銀行、商社はプリスタンを中心にその数を増やしていた。1933年には在留日本人の数は1万人に達してその後も増加していった。日本人の居留の中心はプリスタンのキタイスカヤから東に延びる石頭道街とそれに交差する地段街沿いの区域であった。図5のように、その街並みにおいて、日本人のビジネスセンターで日本商工会議所、横浜正金銀行、登喜和百貨店、丸商百貨店、前田時計店、高岡ビルなどがあった。

ユダヤ人の居住区域

ロシア革命後ロシアから逃げてきたユダヤ人が多く、ハルビン市にはユダヤ人を迫害する勢力もなく、安住の地であった。その時期、ロシア国籍



図6 1917年建てたユダヤ人中学校

とポーランド国籍のユダヤ人が多く、彼らはロシア人の主な居住区域において混住していた。しかしながら、特別な宗教信仰と生活習慣のために、彼らはユダヤ人専門の小学校や中学校(図6)を設立し、中央大街より西側において、2つのユダヤ人寺院を建てた。

中国人の居住区域

1896年以降、中国人は東清鉄道の建設をきっかけにその工事に従事する労働者として大量に移住してきた。20世紀30年代まで、中国人の大資本商人、政府官員、中国籍鉄道会社社員、と公務員は、ハルビン市の新市街と中央大街に居住していた。しかしながら、大量の中国人労働者と貧しい階層がロシアの支配が及ばない鉄道附属地の外の傅家甸地区に居住して、中国人居住区域を形成した。そのゆえに、傅家甸地区も「道外区」(鉄道附属地以外の区域の略語)と言われた。

3.2. ハルビン道外区における多民族の交流



図7 1930年代賑やかな靖宇街の北頭道街



図8 中国語が付けされたロシア人の店

ハルビン市に移住した移民らが中東鉄道の従業員、技術者と、政治的な理由で国を去り亡命してきた外国難民、金を狙って新生活を開拓したい一般市民に分けられたが、当時のハルビン市は他の中国の租界都市より、種族、政治迫害することはないという安全な都市と考えられる。

特に、20世紀初期の東清鉄道の建設とともに、ハルビン市の都市開発計画に即して、道外区は急速に成長していった。東清鉄道は、ハルビン市の東を極東地区、西をシベリアやヨーロッパ、南を大連と接続し、ハルビン市の瀋陽と並ぶ東北地域の中心としての価値を大幅に高めた。また、道外区はハルビン市のなかで清政府の唯一の支配地区であり、20世紀初頭からの道外区の急速な発展とともに、靖宇街はハルビン市の華人の中心商店街として栄えるようになった(図7)。当時のハルビン市は、自由貿易が許されていたために、東北地域における中国商工業の発祥の地ともいわれ、中国人だけではなく、ロシアや日本などの各国から、特に非富裕階層が数多く到来した。図8のように小さな店舗から有名な大型商店まで、看板にはロシア語や日本語が併記され、埠頭で仕事をする労働者や小さな店舗の商人に至るまで、誰もが複数の外国語が話せる状況であったという。このように、当該地域の民びとは、各自の生活文化を基盤としながらも、異なる文化を吸収し、まさに多民族の文化が融和した特有の生活文化を形成していったのである。



図9 ロシア語文字

たとえば、筆者らは靖宇街周辺の歴史建築のなかに、壁面にロシア語が記されたものも確認した。その時期の道外区では外国移民の流入とともに、看板や建築のファサードにロシア文字や日本語が書かれた商店が多くみられた。たとえば、図9の建物の壁面には、「Собственная выделка НАШИМ ЗАВОДОМ ЛИСЬИХ, ЕНОТОВЫХ, СОБОЛЬИХ, ВЫДРОВЫХ И ДРУГИХ МЕХОВ ...」というロシア語がみられる。その意味は、「弊社は、キツネ、タヌキ、カワウソ、ヒョウなどの毛皮製品を加工できる」というものである[注5]。当該地域の住民らが、外来の文化に適応しつつ、他民族の生活文

化を取り入れていた歴史をうかがい知ることができる。

4. ハルビン市における歴史建築の発展と形成

上述したように、ハルビン市における建築物のスタイルは、20世紀初頭から1940年代までの同市の都市建設の進展とともに、西洋古典建築と中国文化を始めとした多様な文化との融和が進み、特有のものが創出されていった。さらに、1898年から1949年の大量の移民の流入とともに、ハルビン市における都市開発計画が急速に実施されていった。

ハルビン市の近代建築の建設時期は、およそ3つに分けられる[注6]。

①基礎形成期(20世紀初期～1920年代)

この時期は、ハルビン市の都市計画の策定と電気、交通、水道などの都市としての基礎施設の敷設の最初の段階であった。1899年、ロシアの「黄色ロシアの属国」というような構想によって、中東鉄道建設局が北を「松花江」、南を「馬家溝」までの丘陵地帯を選んでハルビン市の都市計画を始めた。丁字のような三つの鉄道線を通して、ハルビン市区を若干の区域に分けた。その時期のハルビン市は、4つの地区のそれぞれの都市機能に応じて都市計画が策定され実施された。それらは、ロシア人が最初に仮の市街地を建設した「香坊区」、鉄道の行政区として建設された「新市街地区(南岗区)」、外資と資本規模巨大な店舗商業地として建設された「埠頭区(道裡区)」、肉体労働者と小規模な商売活



図10 20世紀初建てた東正教教会堂

動が集まった「傅家甸(道外区)」であった。この地区において、鉄道管理局のビル、鉄道駅、ホテル、ショッピングモール、鉄道技術学校、ビジネス学院、クラブ、病院、社員一般住宅や図10のような東正教教会堂などの鉄道会社に関連する基礎建築が大量に建設された。それらには、近代的な建築材料が用いられ、構造、設備、装飾には、ロシア式、折衷主義などの西洋建築スタイル、さらに、当時最新の潮流であったアール・ヌーヴォーのようなスタイルが採用された。このように、ハルビン市の近代建築のスタイルの基調を築き上げたのは、まさにこの時期であった[注7]。

上述したように、ハルビン都市建築の発展は以下のような特徴があったと考えられる。まず、ハルビン市の数百年の都市構造が確認され、各地区の都市機能、住民によって近代の都市開発計画が展開されてきた。特に、同市の交通ネット、市政施設、都市景観、居住環境など方面から見ると、20世紀初期の流行していた都市開発計画の方針がよく見られる。そして、公共建築、居住建築、宗教建築のような近代的建築が大量に現れた。それらには、西洋の近代建築スタイルを大量に採用されたことが確認できる。

②発展期(1920年代～1930年代)

この時期は、ハルビン市の近代建築の重要な発展段階である。金融業、商業、建築業が20世紀初頭のハルビン市の都市としての発展を加速した。1917年の十月革命でロシア帝国がロシア・ソビエト連邦社会主義共和国となり、その後大量のロシア難民やヨーロッパ各国の移民がハルビン市に流入した。この時期、ロシア政府と鉄道会社の投資がだんだん減少していたが、逆に日本、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツイタリア、ポーランドなどの外国商業資本の進入とともに、外国移民数も数倍に増やした。1918～1931年前後、ポルトガル、オランダ、スウェーデン、イタリア、ベルギーなどの外国もハルビン市に進駐し、領事館(図11)を設立した。新住民

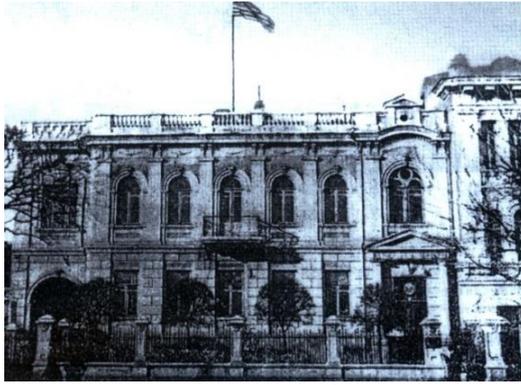


図11 1920年代のアメリカ総領事館



図12 1930年代の丸商百貨店

の流入とともに、ハルビン市における元来のロシア人の古い教会堂が修復・改築されていった。ユダヤ教、キリスト教会などの他の宗教の修道院や慈善院、教会学校などの建築物も大量に建てられていった。この時期の建築スタイルの基調である折衷主義スタイルの建物の軒数が、初めてアール・ヌーヴォースタイルの建築物を超え、ハルビン市における建築物の主流になった。他にも、中国の経済発展に伴い、中国の伝統文化の復興が叫ばれ、それに応えて、孔子廟や極楽寺などの中国式の建築も建てられた。ハルビン市において、中国の伝統的な庶民文化も強大なエネルギーをもっていたのである。

③成熟期(1931年～1945年)

新しい移民政策の実施に伴い、大量の日本移民が流入した。1936年まで、ハルビンにおける日本の移民が、約3万人に達した。その時期、ロシア、英、仏、美など欧米の外資商業が衰退していたが、日本人の主な居住区とする道裡区において、石頭道街、売買街、透籠の街、新城人街と中央大街の両側には、日本資本の店舗が急速に発展した。ハルビン市における建築スタイルは、ロシア式と折衷主義の建築スタイルに傾いた。1930年代に日本において流行していた「近代式」も採用された。正面は簡潔、素朴で、壁面に小さな磁器タイルを貼った建築物がみられるが、それが日本の影響ともいえる近代式である。図12のような丸商百貨店、満州テレコム株式会社など新築された建築はすべてこの種類に属する。この時期の建築スタイルは、それまでのハルビン市の建築の基調を打破し、古典的な西洋風のなかに東洋風と現代の要素が溶け込んだハルビン市独自の近代建築の多様性が創出された。

その後、1945年から中国で「改革開放」が実施された1979年に至るまでの期間は、大規模な都市建設はすべて停滞した。それゆえ、この時期は、ハルビン市における近代建築から現代建築の断層期といわれる。

5. 道外区における靖宇街周辺の中国式西洋建築

上述したように、20世紀初頭から30年代の間に、ハルビン市では中国東北の他の都市により、多様性に富んだ都市開発計画の展開が行われた。今日もその時期に建設され、残存する施設がいくつか見られる。また、宗教建築、クラブ、商店と学校の分布によって、ハルビン市の多種多様な民族構成を読み取ることができる。様々な民族が生活していたハルビン市では、各国人の居留するエリアによって、その建築スタイルにも特徴が見られた。その代表的なものが、新市街の東清鉄道住宅群と、靖宇街の中国式西洋建築群である。領事館などの公共機関が設定されていた新市街では、東清鉄道職員が数多く住んだアール・ヌーヴォー様式の高級住宅が多い。靖宇街は、鉄道附属地周辺に居住する中国人によって、形成された商業活動の中心地であった道外区に集中していた商店街であり、中国人の増加にともなって拡張を続けていった地区である。この地区の建物の特徴である中国式西洋建築は、靖宇街の広い地域で見られるスタイルである。

5.1. 中国式西洋建築



図13 1930年代の極楽寺



図14 1924年で建てた孔子廟

20世紀20年代から30年代まで、ハルビンの中国人居住区の経済発展とともに、中国の伝統文化の復興の叫びに応じて、極楽寺(図13)や孔子廟(図14)などの典型的な中国古典建築も建てられた。

一方、ハルビンの道外区において、中国の建築職人は西洋建築に対する理解の上に育成された「中国式西洋建築」も大量に建てられた。日本の建築学者である西澤康彦の『図説「満洲」都市物語』において、「中華バロック」という概念を始めて提出した。本論は、当該地域の建築のスタイルが、必ずしも「バロック」に限定されず、折衷主義、アール・ヌーヴォー、アール・デコなど多種のスタイルが含まれていることから「中国式西洋建築」を改称することとした。そして、西澤康彦は「その中華バロックが、侵略と植民地化が進んだ中国において、その外圧に抗していく中国人の職人たちの意気込みが宿っており、中国固有の精神を保ちながら西洋の技術を用いて近代化を図るという中体西用の思想があった」と高く評価した。筆者らは、その西洋近代建築の構造とファサードに、西洋装飾文様を参考しながら大量の中国伝統建築装飾を飾っていることがハルビンの近代建築の非常に重要な特徴の一つと考える。今日でも、靖宇街周辺の残された歴史建築からその時期の中国式西洋建築スタイルと多種多様な装飾文様がよく見られる。

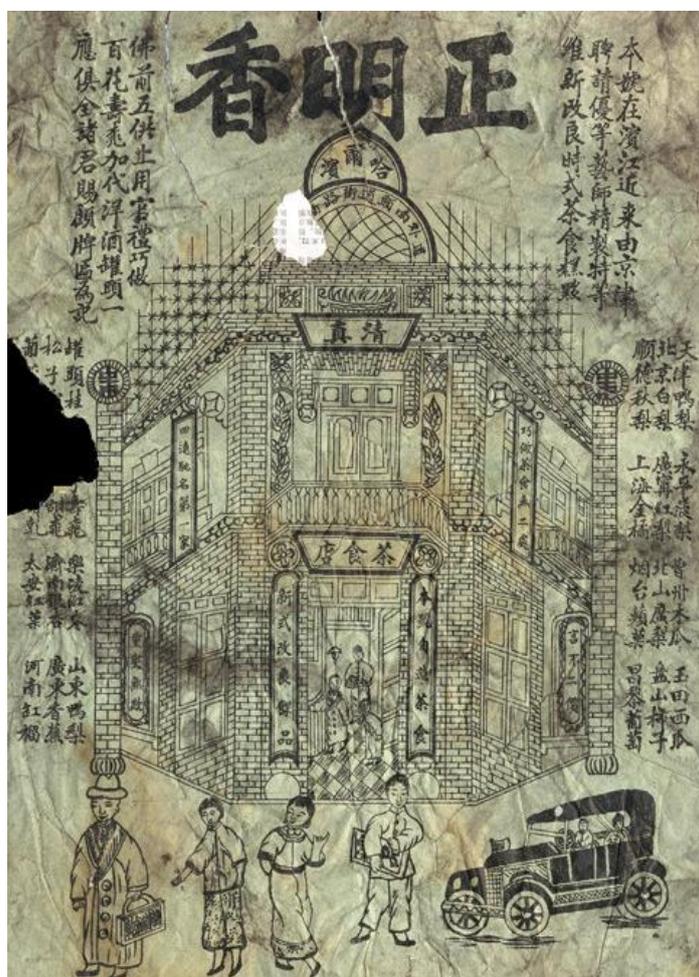


図15 30年代の「正明香」茶食店の広告

図15は20世紀初頭から30年代の雑誌に添付された広告である。それは靖宇街南頭道街の「正明香」というような人気の中国の茶食店である。その広告語は「優れたサービスと天津の洋梨、上海の蜜柑、山東のリンゴなどの中国各地の選りすぐった食材を贅沢に提供し、ハルビン市一番の店と自負していた」という意味である。その広告を通して、その時期の靖宇街は、東

北地域における中国工商業の発祥の地といわれ、ハルビン市の華人の中心商店街として栄えたことが判明できる。これは当該地域の中国式西洋建築の重要な歴史考証の一つと考えられる。

たとえば、その素朴な店舗の西洋建築のファサードには、中国伝統の装飾文様が用いられた。両方の柱頭のうえに、中国伝統の「寿」字紋と、窓のまわりには伝統の「古銭」文様が施され、家族健康、商売繁盛と大きな利益を得るなどの中国の吉祥寓意を表した。同時期の外資と資本規模の大きな店舗商業地として建設された「埠頭区」「新市街」における典型的近代西洋建築より、靖宇街の西洋建築には中国伝統的な建築装飾文様を飾ることを通して、小規模な商売活動が集まった中国人の居住地であった靖宇街の庶民生活文化が十分に表れた。一方、その建築の看板の上に「清真」という標示が書かれた。その漢字はこちらは回族や他のムスリムが経営していた店舗という意味である。イスラム教の信仰のために、他の民族の神話伝説と宗教に関する装飾文様が一概に採用されない。それゆえ、その建築のファサードには、中国伝統的な「古銭」「長寿」「唐草」文様がしか現れなかった。ハルビン市の発展と東清鉄道の建設とともに中国人、少数民族やムスリム、ロシア人などの各国の労働者が大量に道外区に移住してきた。今日、靖宇街周辺がハルビン市の最大のムスリム居留エリアとなっている。その中国式西洋建築の事例を通して、当該地域の住民らが各自の生活文化を守りながら、異なった文化を吸収し、多民族多宗教の文化が融和した特有の生活文化を創っていたことが推察される。

5.2. 道外区における靖宇街の歴史建築の保存

ハルビン市は、1994年に中国政府指定の「国家歴史文化名城」に登録され、1997年には「哈爾濱市保存建築与街道和地区的管理方法」（「ハルビン市保存建築、街道および地区の管理方法」）が提案された。靖宇街周辺における多くの建築物は、「重要傳統建築群」（「重要傳統的建築群」）に指定され、保存の条件が整えられた。1997年には「保存建築Ⅰ類～Ⅲ類」「保存地区」「保存街道」が規定され、2001年8月には「哈爾濱市傳統建筑与傳統街区保護条例」（「ハルビン市傳統的建築物と傳統的街並み保護条例」）が施行された。2009年7月には、ハルビン市人民代表会議より、「哈爾濱歷史文化名城保護条例」（「ハルビン市歴史的文化名城保護条例」）が公布され、2010年1月1日から実施された。1997年から現在に至るまで、道外区においては、法定保存建築Ⅰ類が2棟、Ⅱ類が8棟、Ⅲ類が62棟登録された[注8]。

6. まとめ

本章で上述したように、20世紀初頭から30年代までのハルビン市の歴史と近代建築の変遷を通してハルビン市の都市文化を考察した。ハルビン市における各国からの移民の背景と居住エリアからハルビン市都市生活文化の形成を把握した。ロシア帝政の移民政策によって、東清鉄道の建設とハルビン市都市開発計画の展開とともに、ロシア人や中国人、朝鮮人、日本人が、それぞれ住民がハルビン市に移り住み、異なった民族、宗教によって、各自の居留空間を構えた。ロシア人が埠頭区に進出し、日本人の商店が近くの地段街に集中し、また中国人も同様に道外区において中国人居住区を形成した。またユダヤ人はユダヤ人寺院を中心に互いのコミュニティとして固く繋がった。このように新興都市であったハルビン市において、各国の新住民が各自の特有の生活空間を創ったことが判明できる。一方、その時期、当該地域の人びとは、各自の生活文化を基盤としながらも、異なる文化を吸収し、多民族の文化が融和した特有の生活文化を形成していったことも推察される。道外区における住民らは、西洋建築文化の影響を受け取り、西洋装飾文様の技法と特点を模倣しながら、中国式西洋建築スタイルを創造した。

なぜなら当該地域の住民と職人らは、こうした西洋建築の細部とファサードに意匠にこだわったそれぞれの装飾文様を採用したのかを考えてみると、当時のハルビン市では他の中国の都市より大量の外国人が進出して、優秀な西洋建築、海外文化を積極的に学んだことは非常に重要な要素の一つと考えられる。また、中国人が自らの力で外国人が建設した都市に対抗し

てそれに見劣りしないような特有の建物を造ろうと考えたと推察される。

次章において、筆者らは靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様に対する分類を通して、靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の特徴と意味性を詳しく考察する。

注と参考文献

- 1) 哈爾濱市県誌による。
- 2) 黒竜江省ハルビン市の阿城区にある金代初期の都城である。当時の管轄区域は松花江、牡丹江、長白山を結ぶ地域とされた。
- 3) 「馬草甸子」は、満族語で「馬を飼う天然の牧場」という意味である。 哈爾濱市道外区地方誌編纂委員会：道外区誌、中国大百科全書出版社、1995
- 4) 「日清戦争後、ロシアが中国東北地方に建設した鉄道である。シベリア鉄道に接続する満州里・綏芬河の本線と、ハルビン・大連間の支線からなる。現在は中国長春鉄路と称されている。」舒新城：辞海第六版、上海辞書出版社、2959、2009
- 5) 靖宇街の北頭道街 19 号の建築物が、ハルビン市における唯一のロシア語広告を付けた歴史建築であった。ハルビン市の建築史においても大きな歴史的・文化的価値を有していると考えられたが、2013 年 5 月 26 日の夜中に、不動産開発会社によって強制的に取り壊されてしまった。
- 6) 候幼彬、西澤泰彦他：中国近代建築総覧・哈爾濱編、中国建築工業出版社、1992
- 7) 「アール・ヌーヴォーとは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、欧米各地で流行した装飾様式である。しなやかで優美な曲線と曲面に特色がある。」広田長治郎他：デザインの事典、朝倉書店、10～11、1989
- 8) ハルビン市城郷规划局による。

図の出典

- 1) 図 1、図 5～図 7、図 9～図 13：俞濱洋、「哈爾濱印・象」、中国建築出版社、2006
- 2) 図 2、図 14：筆者が作成
- 3) 図 3、図 4：麻田平草、「ハルビンの回想」、恵雅堂出版、1966
- 4) 図 8：筆者、2013 年 8～9 月撮影、道外区靖宇街

第二章

靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様 に関する調査

はじめに

本章において、靖宇街周辺の伝統歴史建築の装飾文様に対する考察を通して、その「中国式西洋建築」の特質を把握しながら、道外区の歴史建築の装飾文様の社会的・文化的価値を明らかにした。2013年8月～9月、2014年の9月の間に、靖宇街を中心とした伝統建築物において現地調査を行った。靖宇街の周辺地域には、各時期の伝統的な商家や民家が混在している。ハルビン市政府によって法的に保護された歴史建築物だけではなく、一般的な民居と廃棄された建築物も調査対象とした。靖宇街周辺の歴史建築において、法定保存建築一類の2点、二類の8点と三類保存建築の44点、その他の歴史的建築53点を調査した。

1. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の建築スタイルの分類

靖宇街周辺の歴史建築の一つの特徴は、ファサードに多様な装飾が施されている点である。本稿においては、靖宇街周辺の107棟の歴史建築において、964点の建築装飾文様を抽出した。

表1のように、『中国近代建築総覧・哈爾濱編』の資料に基づき、ハルビン市の歴史建築をスタイルの観点から分類すると、靖宇街の周辺における登録された歴史建築には、中華バロック式建築が25棟、折衷式建築が24棟あり、1920年代～1930年代の間に隆盛したアール・ヌーヴォー2棟、アール・デコ1棟と古典式1棟が確認された。さらに、西洋の建築と中国の建築を融合させた中華折衷式4棟、中華アール・デコ4棟、中華アール・ヌーヴォー式4棟もみられる。建築の年代とスタイルによって、装飾文様も異なっている。

表1 靖宇街周辺の歴史建築の建築スタイルの分類

	中華バロック	折衷式	中華+折衷	アール・デコ	中華+アール・デコ	アール・ヌーヴォー	中華+アール・ヌーヴォー	古典式	他	
歴史保存建築Ⅰ類	2棟	1							1	
歴史保存建築Ⅱ類	8棟	4	2		1		1			
歴史保存建築Ⅲ類	44棟	17	13	2			1	1	10	
その他	53棟	5	10	1	3	2	2		30	
総括	107棟	26	24	4	1	4	2	4	1	41

2. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の分類

本稿においては、現地調査に基づき、靖宇街周辺の107棟の歴史建築における装飾文様964点と、そのモチーフによって、(1)植物、(2)動物、(3)人物、(4)文字、(5)幾何、(6)その他の6種に分類した。それらを整理したものが表2である。それらの文様個数は、612点、49点、19点、4点、89点と191点である。図1のように、その歴史建築における装飾文様には、植物文様が施されたものが数多くみられ、64%が占めている。第2位の幾何文様は20%であり、人物文様が一番少なくなることがみられる。

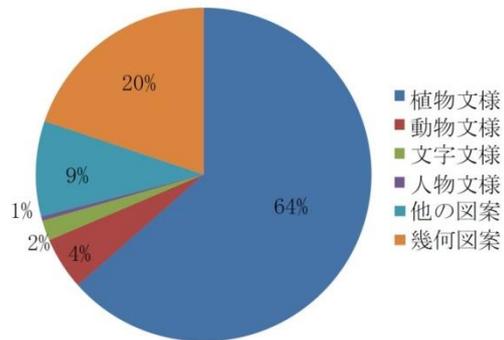


図1 歴史建築における装飾文様の種類

2.1. コレスポンデンスの分析方法で解析

本論は、表2の靖宇街における歴史建築の装飾文様の統計表に基づき、コレスポンデンスの分析方法を用いて、その歴史建築の保存類型、建築スタイルとその歴史建築の装飾文様の関連性を解析する。たとえば、筆者は靖宇街周辺の107棟の歴史建築の保存類型と、その装飾文様の分類でコレスポンデンス分析を行えば、表3のクロス集計表の結果を強く反映している。そこで、第1分類群の数値化の結果を横軸に、第2分類群の結果を縦軸として、歴史建築の保存類型と装飾文様の分類の関連性を散布図にマッピングした。図2のように、この散布図において近くに位置している要素は相対的に関連性が強いということである。たとえば、左下段を見ると、Ⅲ類歴史建築と幾何文様、植物文様、人物文様が隣にならんでいる。このことから、その4つの要素は関連

表2 靖宇街周辺の歴史建築における装飾文様の統計表

No.	歴史的建築分類	建築番地	建築スタイル	植物図案	動物図案	文字図案	人物図案	他の図案	幾何図案	計
1	I 類歴史建築	北四道街20号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	3	3
2		南十二道街176号	—	0	0	0	0	0	4	4
3	II 類歴史建築	靖宇通り283号	中華バロック建築様式	4	2	0	0	0	2	8
4		靖宇通り297号	中華+アール・ヌーヴォー	3	0	2	0	8	4	17
5		靖宇通り318~322号	中華+折衷主義建築様式	10	2	0	0	0	1	13
6		靖宇通り324~328号	中華バロック建築様式	2	3	1	0	7	0	13
7		靖宇通り325号	中華+折衷主義建築様式	0	0	1	0	0	5	6
8		靖宇通り412号	中華バロック建築様式	21	2	0	0	2	1	26
9		南二道街61号	中華バロック建築様式	35	1	0	0	0	0	36
10		南順道街25~29号	中華+アール・デコ	12	1	0	0	0	3	16
11	III 類歴史建築	北大六道街14~18号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	0	0
12		北七道街1号	中華バロック建築様式	71	6	1	0	2	5	85
13		北四道街22~32号	—	1	0	0	0	0	0	1
14		北四道街56~90号	折衷主義建築様式	3	0	1	0	0	3	7
15		北順道街5~9号	—	1	0	0	0	0	0	1
16		北順道街8号	中華バロック建築様式	11	0	0	0	0	3	14
17		北順道街11~13号	中華+折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	0	0
18		北順道街16~20号	—	3	0	0	0	0	3	6
19		北順道街23号	古典主義建築様式	0	0	0	0	0	0	0
20		北順道街25~27号	—	1	0	0	0	0	2	3
21		北順道街29~33号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	2	2
22		北順道街35~39号	—	7	0	0	0	0	2	9
23		北順道街41~51号	—	3	0	0	0	0	4	7
24		靖宇通り31~35号	—	1	0	0	0	0	2	3
25		靖宇通り37~43号	中華バロック建築様式	6	0	0	0	2	4	12
26		靖宇通り168~170号	中華バロック建築様式	93	3	0	1	0	0	97
27		靖宇通り172号	中華+折衷主義建築様式	1	0	0	1	11	0	13
28		靖宇通り178号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	0	0
29		靖宇通り245~249号	中華バロック建築様式	5	0	0	0	0	4	9
30		靖宇通り261~265号	中華バロック建築様式	22	1	0	0	1	0	24
31		靖宇通り267~273号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	4	4
32		靖宇通り308~310号	—	0	0	0	0	0	2	2
33		靖宇通り312~316号	—	0	0	0	0	0	0	0
34		靖宇通り334~336号	中華バロック建築様式	2	0	0	0	1	3	6
35		靖宇通り338~344号	中華バロック建築様式	3	0	0	0	0	0	3
36		靖宇通り350号	中華バロック建築様式	6	0	0	0	0	0	6
37		靖宇通り354号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	0	0
38		靖宇通り356号	—	0	0	0	0	0	0	0
39		靖宇通り359号	折衷主義建築様式	7	0	0	0	2	1	10
40		靖宇通り378~380号	折衷主義建築様式	1	0	0	0	1	2	4
41		靖宇通り379号	折衷主義建築様式	1	0	0	0	0	3	4
42		靖宇通り381号	中華バロック建築様式	9	0	0	0	0	2	11
43		靖宇通り382~384号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	0	2	2
44		靖宇通り383号	中華バロック建築様式	16	1	0	0	1	5	23
45		靖宇通り392号	中華バロック建築様式	3	0	0	0	1	3	7
46		靖宇通り398号	中華バロック建築様式	17	4	0	0	0	3	24
47		靖宇通り408号	折衷主義建築様式	13	2	0	0	1	2	18
48		南二道街19号	—	1	0	0	0	0	1	2
49		南二道街30号	中華+アール・ヌーヴォー	2	0	0	0	0	2	4
50		南七道街262~268号	折衷主義建築様式	2	0	0	0	3	6	11
51		南七道街271号	中華バロック建築様式	8	0	1	0	0	4	13
52		南七道街273~277号	折衷主義建築様式	5	1	1	0	1	3	11
53		南順道街49~51号	中華バロック建築様式	3	0	1	0	0	3	7
54		南順道街91号	中華バロック建築様式	9	1	0	0	0	1	11
55	その他の歴史建築	北二道街15号	中華+アール・ヌーヴォー	0	0	0	0	0	0	0
56		北二道街38~40号	—	0	0	0	0	0	6	6
57		北二道街50号	—	0	0	0	0	0	6	6
58		北二道街51号	—	0	0	0	0	0	0	0
59		北二道街53号	アール・ヌーヴォー	1	0	0	0	0	2	3
60		北二道街104号	—	0	0	0	0	0	9	9
61		北三道街2号	アール・デコ	3	0	0	0	0	4	7
62		北三道街6号	—	3	1	0	0	0	0	4
63		北三道街8号	折衷主義建築様式	0	0	0	0	1	2	3
64		北三道街10号	—	0	0	0	0	0	1	1
65		北三道街12号	折衷主義建築様式	3	1	1	0	1	5	11
66		北三道街44号	中華+アール・デコ	4	0	0	0	0	0	4
67		北三道街48号李氏	折衷主義建築様式	2	2	0	1	2	0	7
68		北三道街50号綠窓	折衷主義建築様式	5	2	0	0	0	1	8
69		北四道街4号	折衷主義建築様式	4	0	0	0	0	2	6
70		北四道街100号	—	0	0	0	0	5	0	5
71		北小六道街8号	—	0	0	0	0	0	2	2
72		北小六道街25号	—	7	0	0	0	0	0	7
73		北七道街10号	—	1	0	0	0	0	0	1
74		北七道街17号	—	1	0	0	0	0	0	1
75		北七道街22号	—	0	0	0	0	0	0	0
76		北七道街52号	—	2	0	1	0	0	3	6
77		北七道街14号大興社区	—	1	0	0	0	0	0	1
78		北八道街1号	中華バロック建築様式	6	1	1	0	0	0	8
79		北八道街4号	折衷主義建築様式	21	2	1	1	5	1	31
80		北九道街9号	中華+アール・デコ	0	0	1	0	1	3	5
81		北九道街15号	アール・ヌーヴォー	4	0	0	0	0	1	5
82		北九道街16号	—	0	0	0	0	0	4	4
83		南順道街5号	—	3	0	0	0	0	1	4
84		南順道街6号	中華+アール・ヌーヴォー	5	0	0	0	0	2	7
85		南順道街7号	折衷主義建築様式	4	0	0	0	1	2	7
86		南順道街8号	—	0	0	0	0	0	0	0
87		南順道街9号	—	0	0	0	0	1	0	1
88		南順道街10号	中華バロック建築様式	11	2	0	0	0	1	14
89		南順道街11号	中華バロック建築様式	7	0	0	0	0	1	8
90		南順道街万福福祥	—	0	0	0	0	1	0	1
91		南二道街1期	—	4	0	0	0	1	0	5
92		南二道街1期2-5	中華+アール・デコ	7	1	0	0	4	2	14
93		南二道街1期5-1	—	0	0	0	0	1	0	1
94		南二道街2期	—	2	1	0	0	0	0	3
95		南二道街和同志	—	2	0	0	0	2	0	4
96		南二道街嘉和金店	—	1	0	1	0	6	1	9
97		南二道街京祥綬社	—	0	0	0	0	0	0	0
98		南二道街書園芸術庁	—	1	0	0	0	0	2	3
99		南二道街同義樓	—	0	0	0	0	0	0	0
100		南三道街大興鴻	折衷主義建築様式	8	0	1	0	2	3	14
101		南三道街天和泰	折衷主義建築様式	3	0	1	0	8	8	20
102		南三道街善曾徳	中華バロック建築様式	23	3	0	0	0	0	26
103		南四道街18号?興	—	5	0	0	0	0	0	5
104		南四道街20号?方	—	0	0	0	0	0	0	0
105		南七道街281号	折衷主義建築様式	5	0	0	0	0	1	6
106		南九道街182号	—	2	0	2	0	1	4	9
107		北原工場	中華バロック建築様式	27	3	0	0	2	2	34
				612	49	19	4	89	191	964

表3 歴史建築の保存類型と装飾文様の関連性の解析

クロス集計表						
	植物図案	動物図案	文字図案	人物図案	他の図案	幾何図案
I類歴史建築	0	0	0	0	0	2
II類歴史建築	7	6	3	0	3	6
III類歴史建築	33	8	5	2	12	30
その他の歴史建築	34	11	9	2	18	29
固有値	成分1		成分2			
	0.0354		0.0169			
第1分類群の得点	成分1		成分2			
植物図案	-0.0803		-0.8234			
動物図案	2.0001		1.2444			
文字図案	1.4409		0.1737			
人物図案	-1.3132		-2.2263			
他の図案	0.2366		-1.0526			
幾何図案	-1.0614		1.0525			
第2分類群の得点	成分1		成分2			
I類歴史建築	-5.6398		8.0816			
II類歴史建築	2.1474		1.6578			
III類歴史建築	-0.6539		-0.1551			
その他の歴史建築	0.1596		-0.4238			

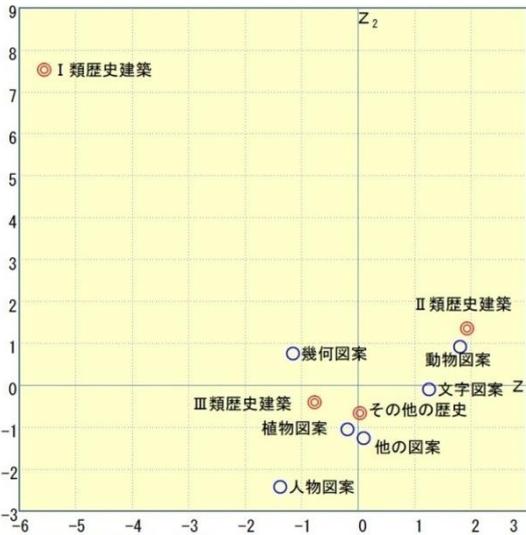


図2 表3の解析結果の散布図

表4 建築のスタイルと装飾文様の解析

クロス集計表						
	植物図案	動物図案	文字図案	人物図案	他の図案	幾何図案
折衷主義	16	6	6	2	12	20
中華バロック	25	14	5	1	9	17
中華+アール・ヌーヴォー	3	0	1	0	1	3
中華+折衷主義	2	1	1	1	1	2
中華+アール・デコ	3	2	1	0	2	3
アール・ヌーヴォー	2	0	0	0	0	2
アール・デコ	1	0	0	0	0	1
その他	22	2	3	0	8	19
固有値	成分1		成分2			
	0.0608		0.0376			
第1分類群の得点	成分1		成分2			
植物図案	-0.5438		-0.5405			
動物図案	2.1246		-1.6193			
文字図案	0.684		0.9767			
人物図案	3.3319		4.8689			
他の図案	0.2364		0.6044			
幾何図案	-0.6808		0.3715			
第2分類群の得点	成分1		成分2			
折衷主義	0.2639		0.9832			
中華バロック	0.7684		-1.0766			
中華+アール・ヌーヴォー	-1.3957		0.6808			
中華+折衷主義	1.9908		2.8081			
中華+アール・デコ	0.6385		-0.7397			
アール・ヌーヴォー	-2.483		-0.4511			
アール・デコ	-2.483		-0.4511			
その他	-1.2546		-0.0417			

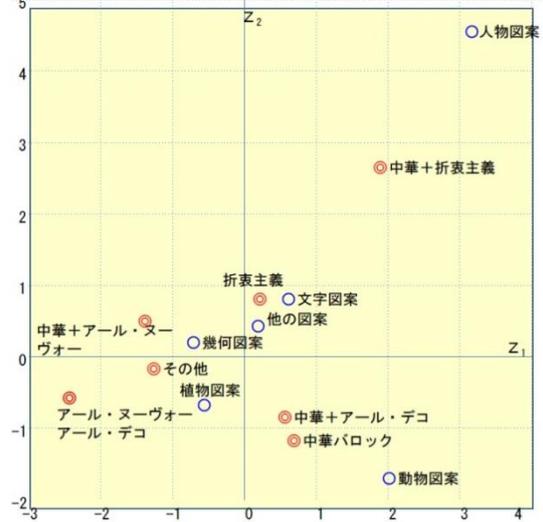


図3 表4の解析結果の散布図

性が強いということが判明した。右上段のII類歴史建築は動物文様、文字文様の近くに位置して、その他の歴史建築は植物文様、文字文様などの装飾文様との関連性が強いことも推察される。逆に、遠くに位置しているI類歴史建築はそれぞれの装飾文様との関連が弱いということもわかる。散布図全体を見ると、靖宇街周辺のIII類歴史建築と他の歴史建築には、装飾文様が数多く施された現状が読み取れる。

そして、表4のクロス集計表の結果に基づき、靖宇街周辺の歴史建築のスタイルと、その装飾文様の分類の関連性をコレスポネンス分析方法で解析したい。図3のように、靖宇街周辺の歴史建築のスタイルと装飾文様の分類の関連性を散布図にマッピングした。左側を見ると、中華アール・ヌーヴォー、アール・ヌーヴォー、その他の建築スタイルと、幾何文様、植物文様が近くなっている。その優美な曲線と曲面などの特徴を強調するアール・ヌーヴォーの建築スタイルには、幾何文様と植物文様が数多く施されたことが推察される。一方、マップの下段をみると、しなやかな植物文様を用いることはアール・デコ、中華アール・デコなどの建築スタイルの特徴だと推測できる。そして、中華バロックの建築スタイルには、植物文様と動物文様が数多く用いられることも判明した。マップ全体を見ると、中心部に位置している折衷主義の建築スタイルは、相対的に文字文様、幾何文様などのそれぞれの装飾文様との関連性が強いことを示している。それはまさしく自由に多様な装飾文様を選択して組み合わせる折衷主義の建築スタイルの特徴といえよう。

2.2. 装飾文様の特徴と意味性

以下の通りに、それぞれの建築装飾文様の特徴とその意味を具体的に引き上げつつ概観する。

(1) 植物文様

道外区靖宇街周辺の歴史建築には、植物文様が施されたものが数多くみられ、964点の文様のうち612点を植物文様が占めている。それらは、さらに、唐草文様、牡丹文様、花綱文様、アカンサス文様、葡萄文様、瓜文様、蘭文様、石榴文様など25種類に分類される。牡丹や石榴、瓜、蘭などは中国の伝統的な文様であり、それらが多く用いられている一方で、花綱、アカンサスなどの西洋式もみられる。さらに、唐草文様のように、西洋の文様を

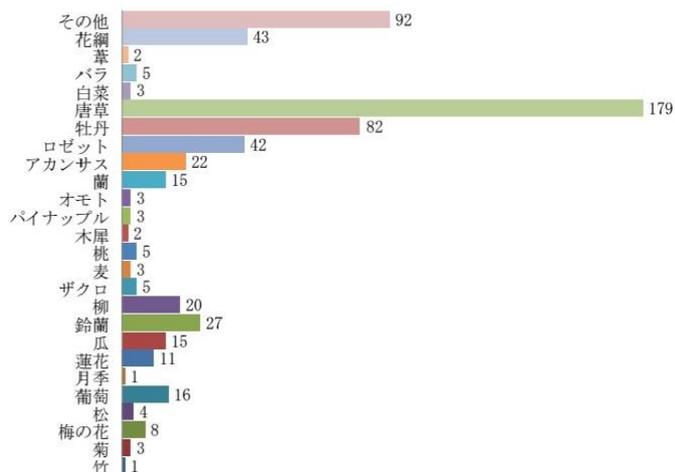


図4 植物図案

基盤としながらも中国の伝統的な文様が混用されている事例もあり、そうした姿が当該地域の建築装飾文様の重要な特徴を形成していると考えられる。

①唐草文様

靖宇街周辺の建築には唐草文様が179点みられる。唐草文様は、植物の葉、花、茎やつるが伸びたり絡んだりした形を図案化した植物文様の総称である。ギリシアの神殿などの遺跡でアカイア式円柱などに見られる草の文様が唐草文様の原型とされ、メソポタミアやエジプトから各



図5 牡丹唐草文様

地に伝播したと考えられている[注1]。靖宇街周辺の建築には、西洋建築の唐草文様の対称性、複数性などの特徴が模倣されており、中国の伝統的な唐草文様を参考にしつつ多様な造形の大量の唐草文様が創出されたことがうかがえる。図5のように、靖宇街建築の壁面には、牡丹のような唐草文様が採用され、富貴吉祥の願いが込められた。その住民らが好んだ吉祥文様を唐草文様に溶け込ませて変化させることが靖宇街周辺の歴史建築の特徴といえよう。

②牡丹文様

牡丹文様は82点が確認される。牡丹(図6)は、中国の吉祥文化において最も重要なモチーフのひとつと考えられてきた。元時代には薬用として利用され、唐時代以降は「花の王」として他のどの花よりも愛好されるようになった。宋時代の文豪である周敦頤



図6 牡丹文様

も「牡丹、花之富貴者也(牡丹は花の地位や身分が高い者である)」と述べている通り[注2]、富貴、吉祥、繁栄隆盛の寓意が与えられてきた。道外区靖宇街はハルビン市の中心商店街として栄えた地域であり、当該地域の人びとが、より豊かな生活を希求し、商店の建築物のファサードに牡丹の文様を多用したと考えられる。

③花綱文様

612点の植物文様のうち43点が花綱文様である。花綱(図7)装飾は、花、枝葉、果実、穀物等を帯状の布で巻いてつくられる綱状のものの中央部をたるませ、両端を縛り緩やかに下げた形を示した装飾文



図7 花綱文様



図9 葡萄の唐草文様



図10 瓜と葡萄の文様

様である。これは、ヨーロッパの影響を受けた文様と考えられる。古代ギリシア・ローマにおいて、生贄として牛や羊を神に捧げる際に、花で編んだ飾りで祭壇を設えたことに由来するとされている[注3]。この花綱文様は西洋古典建築の荘厳な歴史の重みを感じさせ、当地の庶民階層に好まれたことがうかがえる。なお、この文様は、西洋建築のスタイルを模倣した歴史建築に多くみられる傾向がある。

④アカンサス文様

612点の植物文様のうち22点がアカンサス文様である。アカンサスは地中海地方に自生する鋸歯状の葉を有する植物である。古代ギリシアのコリント式柱頭装飾に用いられ、今日に至るまでヨーロッパでは一般的な植物文様として頻繁に使われている。中世やルネサンス期には、彫塑や木彫にも用いられた[注4]。道外区靖宇街の建築には、西洋建築スタイルの影響で、柱頭装飾が模倣されているが、建築装飾の立体感と葉の鋸歯状の美観が強調されるとともに、中国の伝統的な吉祥寓意と中国風文様の意匠が加えられている。たとえば、図8のように、柱頭はアカンサス装飾にみえるが、細部をみると「白菜」の様子が施されたものがある。白菜が中国人にとって、特別な文化的な寓意が込められていることから派生したものであると考えられる。ちなみに、中国語で白菜は「百財」と同じ発音であることから、古くから金銭を呼び込む吉祥植物と考えられてきた。また、「菜」と「才能」の「才」も同音であり、知識が豊かで、多くの分野の才能に恵まれているという意味もある。



図8 アカンサス文様

⑤葡萄文様

靖宇街周辺の建築には、植物文様の一つである葡萄文様を16点確認することができる。古くから、葡萄の実が粒が多いため、多産・豊饒の象徴として、神聖な果物とされてきた。また、ヨーロッパにおけるキリスト教美術の重要な装飾文様として、どこまでも伸びる葡萄の蔓は強い生命力の寓意を表している。この葡萄文様は、紀元前2世紀頃の漢代に葡萄が西域から中国に伝播し、当初は西域の仏教美術と結び付き、仏教彫刻に現れるようになった。唐代には葡萄栽培の普及と仏教の発展と共に盛んに用いられるようになった。靖宇街周辺の近代建築には、葡萄の実から子孫繁栄を象徴する中国の伝統的な文化と葡萄の文様を有機的に組み合わせた葡萄唐草文様が大量に現れている(図9)。

⑥瓜文様

靖宇街周辺の建築には、瓜の文様が15点確認される。中西が混用された文様の一つが瓜文様である。瓜は中国の伝統的な農産物の一つとして、農産物の収穫、五穀豊穰の意味が包含されてきた。古代の『詩経・大雅・綿』においては、「綿綿瓜瓞、民之初生、自土沮漆」という記載が現れ[注5]、それは「国家の人民は、実が多く蔓が伸びる瓜科のように繁栄し、生き続けていく」という意味である。その時期から民間においては、自身の家族が瓜のように子孫を増やして絶えずに繁栄する「瓜瓞綿綿」[注6]という吉祥的な文化寓意が広く用いられるようになった。外国の建築文様の影響の拡大とともに、図10のように靖宇街周辺の建築には胡瓜、南瓜、冬瓜、糸瓜、瓢箪など瓜科を組み合わせた西洋建築スタイルの装飾文様が大量に採用された。豊作と幸福の吉祥寓

意が建築装飾文様の主流となっていたことがうかがえる。

⑦蘭文様

612点の植物文様のうち15点が蘭文様である。たとえば、靖宇街北七道街の歴史建築においては1棟だけで71点の植物文様が確認された。その壁の上部に飾られているのが、伝統的な蘭文様のひとつである(図11)。これは、明らかに、中国の伝統的な生活文化の強い影響を受けたものといえる。中国において、



図11 蘭文様

蘭は、草木のなかでも気品が高く君子の風格をもつものとされ、梅、竹、菊とともに「四君子」と呼ばれてきた。『周易・系辞上』にも蘭に関する記述があり、「二人同心、其利断金；同心之言、其臭如蘭」と記されている[注7]。その意味は、「二人の想いが完全に一致すれば、鋭利な刃物のように金属でさえ切ることができる。二人の誓いは、蘭の花のように気高く香しい」といったものである。そのゆえ、蘭文様には気高く生きたいという人びとの願いが表出しているといえよう。

⑧石榴文様



図12 ザクロ文様

衣は食用に供される。中国の伝統的な吉祥文化において、石榴は、桃、仏手柑と共に三大吉祥果とされ、それらを組み合わせた文様は「三多」といわれ、多子孫、多福、多寿の意味がある。中国文化においては、石榴には種子が多いことから、「石榴は百の実を付ける」ともいわれ、子室に恵まれる吉木とされてきた。このように縁起のよい意味として、靖宇街周辺の歴史建築のファサードの装飾にしばしば現れる。

612点の植物文様のうち5点が石榴文様である。図12がその代表的なものである。石榴は、中国の漢時代に西域から伝来した観賞植物である。庭木、盆栽など観賞用に栽培されることが多く、皮と種子を除いた種衣は食用に供される。

⑨白菜文様

白菜(図13)は、古代で「菘」といわれ、中国原産された野菜として長い歴史を持っている。『詩経・邶風・谷風』の中に、そのような野菜を採る場面が記載された[注8]。三国時代までも日常的な食用野菜になった。宋時代に、「白菜」が正式な名称として確立された。清時代まで、白菜が古代の日常の食材からデザイン紋様も広範的に採用され、陶磁器、竹の器具、木製家具において、特別な文化寓意を派生された。中国では「白菜」が「百財」と同じ発音であることから、金銭を呼び込む中国伝統的な吉祥植物と考えられてきた。また、「菜」と「才能」の「才」も同音であるため、知識が豊かで多くの分野の才能に恵まれている意味もある。そして、潔白を寓意する「白菜」も君子の品德の純



図13 白菜文様

潔、高尚を象徴された。20世紀初頭において、道外区靖宇街に移住した貧弱の新住民らは、楽観の開拓精神を持ちながら金を稼ぎ、家族の生活条件を改善する願望が非常に差し迫った。しかしながら、彼らは自分の汗と力で靖宇街を築きあげ、一方、中国の伝統的な「君子愛財、取之有道(君子は財を欲するも、その取得には徳行というものがある)」という古語で訓戒され、商店街の信用と良き伝統を継承した。その中国伝統的な徳行を守りながら新たな豊かな生活をつくるのが当時の靖宇街における住民の共有意識になった。今日、歴史建築の壁面には残っている白菜の



図 14 菊の唐草文様



図 15 蓮と鯉の文様



図 16 鈴蘭文様



図 17 柳文様

装飾文様からその時期の当該地域生活文化がうかがえるといえよう。

⑩菊文様

菊(図14)は中国の代表的な花の一つである。主に秋に花を咲かせ、その色と形などにより、非常に多くの品種がある。中国伝統的な花の一つとして、すでに3000年前にも菊に関する記載がみられた。高潔な美しさが君子にたとえられ、梅、竹、蘭と共に「四君子」と呼ばれた。菊が中国語の「居」と「拠」の発音に近く、中国語の「官」と同音であり、ギリギリスが「蠃蠃」といわれ、一匹のギリギリスが菊の上に伏せたような造形が「高居官位」といわれ、地位の高い官職に居る就くことを意味している[注9]。中国の伝統的な文化において、国家の科挙合格になり、国家のために自分の力を尽くすことが人生の最終目標と思われる。古典の『論語』にも「学而優則仕」という記載があり、「学問をして余力があれば仕官をするべき」という意味である。そして、その時期の「実業救国」思想の影響を受けて、商店街であった道外区靖宇街における住民らもこの思潮で激励され、国家と民族に自分の力を貢献する雰囲気に入れ込んだ。その時期の建築文様を通して当該地域の住民共有意識がみられるといえよう。

⑪蓮文様

蓮は中国伝統的な観賞植物一つである。中国の民間において、蓮は果実が多く、それも家族隆盛、子孫繁栄の象徴と思われた。そして、漢時代の楽府『江南・古辞』において、「魚戯蓮葉間」などの記載があった。「蓮」が「恋」と同音であり、その魚は蓮の葉の間で戯れている場面を通して、恋人間の理想的な愛情生活を表した。そのゆえ、「魚戯蓮」文様は中国伝統的な吉祥文化象徴として、紙切り、刺繍、家具など民間芸術に多く見られた。仏教の発展とともに、蓮は泥水の中から生じ清浄な美しい花を咲かせる姿が、知恵や慈悲の象徴とされ、広く伝わった。中国の庶民生活文化の発展に従って、蓮の文化寓意も不断的に豊富になった。元来の蓮の「多子・多孫」の文化意味に加え、「収穫・豊穡」の意味を含むようになった。伝統的な「魚戯蓮」文様(図 15)のなかにも、「魚」が「余り」、「蓮」が「連年」の吉祥寓意とされ、即ち毎年豊かな生活が続いていくようにという願いが込められた。

⑫鈴蘭文様

鈴蘭(図 16)は中国人の漢方薬の重要な材料とされてきた。しかし、その以前より、ヨーロッパにおいて重要な観賞用植物であり、靖宇街のものは、その影響と思われる。鈴蘭は、古くから春の訪れを告げる花とされ好まれた。そして、鈴蘭の花束を送られると、その人には幸せが訪れると言われる。フランスで花嫁に鈴蘭を贈る風習がある。イギリスはイエスの磔刑の際に、その母マリアの流した涙が鈴蘭になったという伝説がある。その幸福・美満などの寓意、典雅な美しい造形であった鈴蘭文様が西洋建築のファサードに大量に用いられる。道外区靖宇街の歴史建築の

パネルに、鈴蘭が典型的な西洋装飾文様として 27 点が見られる。

⑬柳文様

中国人は古くから柳を人工栽培した記載がある。最古の甲骨文字において、抽象的な「柳」の表記が現れた。『集韻・有韻』において、「柳とは、集まる」という注釈があった。古人は柳が天地の精霊の力を集まった珍しい木とされ、「精霊を寄生した神木」と言われた。柳が何回切れても、また頑丈によく生えてくる。厳しい環境に成長しても、天を突く木の枝葉が繁茂した木になり、その木陰も後世に恩恵をもたらした。そのゆえ、古人が道と庭によく柳を植え、柳のように厳しい環境に適応でき、何処にも頑丈に生きているという意味を望む。靖宇街周辺の歴史建築のうえに、柳文様(図 17)が 20 点見られる。その時期、各地からハルビン市に移住された新住民らは、その柳のように頑丈に未知の環境で新天地を開拓していたといえよう。

⑭葦文様

靖宇街周辺の歴史建築には、図18のような葦と蟹の文様が2点現存している。葦は水辺に群生する多年草である。ススキに似た穂を付ける。中が空洞の茎はすだれの材料にされる。漢字で、蘆、葭、芦といった漢字表記がある。中国の古代の科挙においては、最後に会試覆試を経て紫禁城保和殿で殿試を行い、通過者に進士という称号を授与した。『明史・選挙誌』で「会試の第一位が会元、二甲(第二位)が伝臚」と記載され、『幼学須知』にも、「天子臨軒、宰臣進三卷、…齋声伝呼之、謂之伝臚」というように行事に関する記述がある。中国の古代の科挙において、進士合格発表式を伝臚または唱名といった。首席合格者を状元次席合格者を榜眼、三席合格者を探花といい、彼ら3名を第一甲と呼んだ。第二甲若干名に進士出身、残りの第三甲には同進士出身という学位を各々授与した。中国語で、葦は漢字の「臚」と同音であり、その意味は、後世の家族の者が国家科挙の最終試験に合格し前途を切り開くことを願った祝福の言葉である。



図18 葦と蟹文様

⑮梅文様

梅は、中国原産の重要な観賞用庭木として珍重される。中国古典の文化の中に「春の蘭」「夏の蓮」「秋の菊」「冬の梅」と称され、梅が冬季の花の代表になった。梅の花は厳冬と早春、葉に先立って開き、白色・淡紅色の五弁または重弁で芳香がある。そして、梅の花の五弁が快樂・幸福・長寿・順調・平和という意味である。中国の古籍において「梅具四徳、初生為元、開花為亨、結子為利、成熟為貞」というような記載があった。その意味は梅の花が「元」「亨」「利」「貞」というような「四徳」を持っている。発芽の「元」が万物の始、開花の「亨」が万物の成長、着果の「利」が万物の生育、成熟の「貞」が万物の成就となり、上天の四徳として「春・夏・秋・冬」と「仁・礼・義・智」に配する[注 10]。また、梅が蘭・竹・菊とともに四君子とされ、また松・竹と一緒に「歳寒三友」また「松竹梅」といわれた。梅は寒中にも色褪せず、また寒中に花開く。これらは「清廉」「不屈」という、文人の理想を表現したものと認識された。中国の吉祥文化において、前記理由で梅が頻繁に取り上



図19 梅文様

げられていくのである。そのゆえに、木製家具、陶磁器、漆器と刺繍に描かれることが多い。また、吉報、新春の祝い事に用いられる主題として民間に定着し、靖宇街周辺の歴史建築にも用いられる(図 19)。

⑯木犀文様

中国原産の木犀は「桂花」と称され、中国の南方に最もよく見られる観賞植物である。人々はよく桂花酒と桂花蜜をつくった。特に、桂花の「桂」の発音が漢字の「富貴」の「貴」と同じであり、木

犀が富貴、高貴の象徴とされた。中国の伝統的吉祥文化において、蘭と木犀の組み合わせた文様が「蘭桂齋芳」といわれ、後世の子孫が繁栄富貴、先祖の名声を上げるという意味である。靖宇街の歴史建築のファサード



図 20 木犀文様

の上に、その木犀の文様は「連生貴子」といわれ、高貴、優れた子供が続けて生まれることを願う意味である(図 20)。

⑰竹文様

竹(図 21)は、東アジアにおいて人々の日常生活に近く成長が速い植物である。さまざまな用途に利用されている。竹の茎には節があり、節と節の間の内部が中空なので、硬くて耐久性に富み、管の性質を強く持っている。中国伝統文化においては、竹のその特性を堅く守り屈服しない節操を持つ君子象徴とされた。そのような意匠が中国人の審美意識と精神文化に深く影響を及ぼしていた。「竹松梅」と共に、「歳寒三友」とされ、「梅蘭菊」と一緒に「四君子」といわれた。竹も文学、芸術作品に大量に現れた。古代の文人が竹を水墨画の主題として描き始め、陶磁器、染織、家具に描かれることも盛んになった。そのゆえに、竹文様も中国の吉祥として、靖宇街の歴史建築のうえに、大量に採用された。



図 21 竹文様



図 22 松の文様



図 23 桃の文様



図 24 花籠文様

⑱松文様

松(図22)は、独特な植物の特性と豊富な文化が内包されているため、中国人の心のかけがえない位置を占めている。神話時代から、古人らは松を後世を守ってくれる祖先の神聖なる神として崇めてきた。また、松は千年の樹齢を保つ吉祥樹として「百木の長」ともいわれ、常緑植物として冬も緑の葉を茂らせることから、若さ・不老長寿の象徴とされた。当該地域の歴史建築において、鶴、松など組み合わせた文様が長寿の象徴として、建築の壁面に現れている。その中国人の最も素朴な願いが靖宇街にも重要な伝統的な文化として共有された。

⑲桃文様

桃は中国原産の伝統的な観賞用植物である。中国の伝説によって、崑崙山中に棲む西王母が、3千年に一度だけ実が成るといふ桃の木を持っており、その実を食べると数千年の長寿を得たといふ桃の実中国において仙果と呼ばれ、不老長寿を与える果物として親しまれている。それゆえ、古くから祝い事の際には桃の実のような壽桃を食べる習慣がある。靖宇街周辺の歴史建築にその長寿・吉祥の寓意に由来する桃に関する建築文様が多く見られる(図23)。

⑳花籠文様

花籠(図 24)は、各種の花を竹で編んだ籠に盛ったモチーフである。中国の神話伝説の八仙人の一人であった韓湘子が持っている宝器とされ、その花籠文様は古くから中国の伝統的な吉祥文様

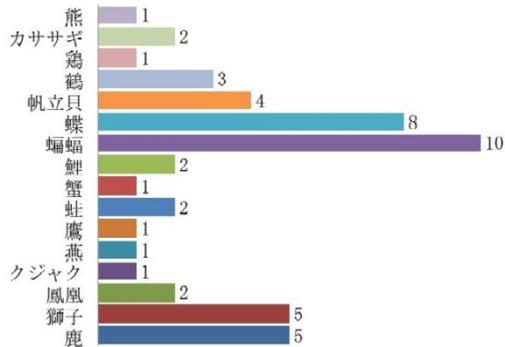


図25 動物図案



図26 蝙蝠文様



図27 鹿文様

として、陶磁器、刺繍、家具、木彫刻で広範的に用いられた。

(2)動物文様

靖宇街周辺の歴史建築における964点装飾文様のうち49点が動物文様である。それらは、蝙蝠文様、鹿文様、獅子文様、鳳凰文様などの16種類に分類された(図25)。

①蝙蝠文様

蝙蝠の「蝠」は漢字の「福」と同音であり、それゆえに、中国の伝統的な文化において、蝙蝠は長寿、吉祥、幸福の象徴とされてきた。靖宇街における歴史建築にも、大量の蝙蝠紋様が採用されている。図26は、蝙蝠と雲紋を組み合わせた伝統文様の「雲紋蝙蝠彫刻」であり、それは福が雲のように絶えず続いているという意味である。

②鹿文様

靖宇街周辺の建築には、鹿文様が5点みられる。中国の吉祥文化において、鹿は性質が温順な動物として親しまれてきた。また、鹿は「禄」と同音であり、富貴、幸せという意味があるとされてきた。『詩経・小雅・鴛鴦』に、「君子万年、福祿宜之」という記載が現れ、「美德を備えた人は長寿と健康であり、福祿に適する」という意味である[注11]。靖宇街の建築の上には、図27のような鹿と鶴を描いた文様があり、これは「六合同春」示している。「鹿鶴」と「六合」の発音が同音であり、「六合」とは上下天地と東西南北を指すことから、「六合同春」とは全天下が同春、すなわち春と同じように活力・生命力が溢れた状況という寓意である。

③獅子文様

49点の動物文様において、5点が獅子文様である。獅子は、古くから百獣の王として最も強い動物であると考えられてきた。太陽の力に匹敵する動物とされ、王権や支配権の象徴としてよく使われた。仏教においては獅子が文殊菩薩の乗騎とされ、仏画によく描かれている。それゆえ、中国の吉祥文化においても、獅子は平安、吉祥の動物



図28 獅子文様

文様としてもっとも広まっているものの一つであり、家宅や墓を守り辟邪する聖獣として建築物の前に石造の獅子を置いて駆邪と降福を祈る事例がしばしばみられる。中国の伝統的な祭りには獅子を重要な題材として取り上げた獅子舞もあり、図28のような獅子舞の文様が、吉祥と降福の象徴として、靖宇街周辺の建築の上に見られる[注12]。

④鳳凰文様

靖宇街周辺の歴史建築には、鳳凰文様が2点確認される。鳳凰は中国神話の伝説の鳥とされ、中国文化において最も重要な霊鳥とされてきた。『礼記』においては、龍、麒麟、玄武とともに「四霊獣」と称されている[注13]。漢の時代の『爾雅』によ



図29 鳳凰文様



図30 蝶文様



図31 鶴文様



図32 カササギ文様

れば、鳳凰の嘴は鶏、額はツバメ、頸は蛇、背は亀、尾は魚で、色は黒・白・赤・青・黄の五色で、高さは六尺程とされる[注14]。また、『山海経』において鳳凰の外形は鶏に似ており、頸に「徳」、翼に「義」、背に「礼」、胸に「仁」、腹に「信」の紋があるとされ、「仁義礼智信」の象徴とされる瑞獣であった[注15]。徳の高い王者による平安な世となり、優れた知性を持つ人が生まれると鳳凰は五色の姿となるという伝説がある。

それゆえに、鳳凰には、伝統的な吉祥の寓意が込められてきた。『詩経』には、鳳凰は甘い泉の水だけを飲み、竹の実のみを食物とし、梧桐の木にしか止まらないという記述があり[注16]、鳳凰と梧桐を組み合わせた図案は「鳳棲梧桐」(図29)といわれ、「鳳凰が木を選んで巣をつくるように、賢い人は自分の主君をよく選んで仕える」という寓意とされてきた。

⑤蝶文様

靖宇街周辺の歴史建築のパネルのうえに、蝶の文様が8点見られる(図30)。蝶は、中国の民間において綺麗な縁起のよい動物と思われ、家具、陶磁器、織物で大量に採用された。その蝶と各種の花の文様と一緒に文様が「恋する蝶が花に舞いおる」といわれ、婚姻円満と家族幸福の意味である。そして、漢字の「蝶」が耄耋の「耄」と同音であり、蝶と牡丹の組み合わせた文様が「耄耋富貴」と言われた。長寿と富貴の意味がある。

⑥鶴文様

鶴(図31)は、長いくちばし、首、足をもつ大型の水鳥である。中国の古籍の『花鏡』において、「鶴、一名仙鳥、羽族之長也」[注17]という記述が記載された。その意味は、鶴が古くから鳥類の長になり、仙鳥と言われた。『相鶴経』の中に、「寿不可量」[注18]、『淮南子』も「鶴寿千歳、以極其遊」を記述した[注19]。鶴が千年生きるとされ瑞鳥として尊ばれ、仙境の瑞雲の中に飛翔したという意味である。それゆえ、鶴は鳳凰に次ぐ吉祥鳥と思われ、靖宇街周辺の歴史建築の上にも、しばしば長寿、吉祥な動物文様として採用されている。

⑦カササギ文様

カササギ(図32)は、古くから中国人の吉祥鳥と考えられてきた。人間の運勢と未来を占うことができ、「神女」「陽鳥」とも呼ばれた。秦時代以前において、すでに「鵲者陽鳥、先物而動、先事而応」という記述がある。その意味は、カササギはよく春の陽気を感じ、他の動物よりも先に巣づくりを始めるというものである。中国の伝統的な七十二候も「鵲始巢」というカササギが巣をつくり始める春の季語がある[注20]。

また、カササギの声は鵲声といって、吉事の前兆で喜びことをもたらすことである。『西京雜記』のなかに「乾鵲而行人至、蜘蛛集而百事喜」[注21]と『天寶遺事・靈鵲報喜』[注22]における「時人之家、聞鵲声、皆曰喜兆、故謂靈鵲報喜」のような記載があり、これらは、友人が来るとか、科挙が合格するとか、おめでたいことの前兆としてカササギが鳴くという意味である。それゆえに、カササギは中国で「喜鵲」とも呼ばれ、春と新年の喜びを伝えるなどの吉祥寓意が与えられた。

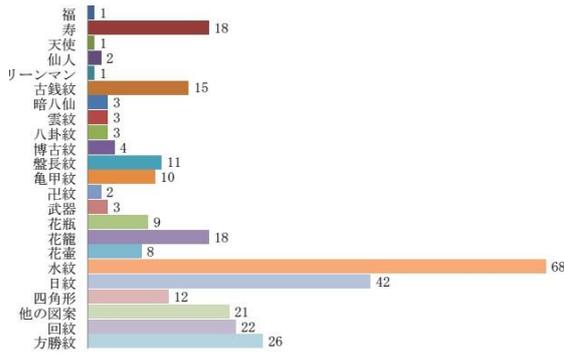


図34 文字、人物とその他の装飾文様



図33 鶏文様



図35 仙人文様



図36 グリーンマン文様

⑧鶏文様

鶏は古くからの中国の伝統的な家禽で、十二属相の一つであり、重要な吉祥物と考えられてきた。漢代の劉向の『新序・雜事第五』において、「君独不見夫鶏乎？頭戴冠者、文也；足傳距者、武也；敵在前敢闘者、勇也；見食相呼、仁也；守夜不失時、信也」というような記載がある。その意味は鶏が文・武・勇・仁・信の五徳を持っている。そして、中国の古代の伝説のなかに、鶏は天上の玉衡星から変えられ南方の陽気の象徴とされた。旧暦の正月初一は「鶏の日」と呼ばれ、初七日が「人の日」になる。それゆえ、「元日に戸に鶏を描く」「初七日に人形を貼る」という春節の習俗がある。

『風俗通義』[注23]において、「元日に家宅の正門に鶏を貼る」、『荆楚歳時記』[注24]の中にも「正門に鶏を描いて、葦を付け、門の脇に桃の木で作った札を飾り、百鬼の畏れ得る」という記述があった。鶏が漢字の「吉」、鶏冠の「冠」が「官」と同音であり、鶏と鶏冠花を組み合わせた文様が「官上加官」とよばれ、官職の上に官を加えて出世を意味している吉祥寓意である。鶏と五匹の雛と一緒に文様が「五子登科」といわれ、家族の五人が全員科挙に合格し、家族繁栄を願う吉祥寓意である。そのゆえ、中国民間において鶏が辟邪、幸運の象徴として、靖宇街の歴史建築の上にも重要な吉祥建築文様として用いられた(図33)。

(3)人物文様

694点の装飾文様うち4点が人物文様である。図34のように、それらは、中国の伝統的な仙人文様が2点、西洋式のプット文様が1点とグリーンマン文様が1点である。仙人(図35)は、俗界を離れて山中に住み、神通力をもつといわれる人物である。中国の道教の伝説によると、彼らは俗界を離れた静かで清浄な仙境に暮らし、不老不死の仙術を得るとされてきた。靖宇街の住民は建築に仙人の文様を施すことで、仙人のように快適で健康的な生活を送り、長生きすることを願ったものと思われる。図36のグリーンマン文様は植物と人間を合成したもので、ロマネスクやゴシックの建築装飾やルネサンスのグロテスク文様に使われる。髪の毛や髭が植物の茎や葉になっていたり、下半身がアカンサスなどの植物になっていたりする[注25]。豊饒や多産を象徴するものとして靖宇街周辺の建築に使われている。

(4)文字

靖宇街周辺の建築には、「寿」(図37)18点と「福」(図38)1点の2種類、計19点の文字文様が確認された。

『説文解字』に、「寿とは、命が長い」[注26]という解釈があるように、寿は「老いるまでの長い年月」を意味し、中国人に非常に愛されている漢字の一つである。数千年にわたり洗練され、「寿」の文字は図案化さ



図37 壽字文様



図38 福字文様

れ、吉祥文様となり、「寿字紋」と呼ばれるようになった。当該地域においても、その文様が使われており、当地の住民の生命に対する熱望と健康に対する渴望がよく表れている。一方、「福」も中国の民間において、もっとも用いられてきた漢字の一つである。『韓非子』に「全寿富貴之謂



図39 日紋と水紋



図41 回文様

福」という記載があり[注27]、その「福とは健康長寿や富貴幸運」の意味である。『尚書・洪範』にも、人間の五福は「長寿(寿命が長いこと)」「富貴(財力が豊かなこと)」「健康(無病息災であること)」「好徳(徳を好むこと)」「善終(天命を全うすること)」であると記述されている[注28]。宋代の『夢梁録』[注29]により、中国の春節には家々に「福」の字を書いた赤色の紙を貼る「貼春牌(春牌を貼る)」という習俗が生まれた。その「福」の漢字は、幸福・福気・福運の意味で使用されることが多い。

(5) 幾何文様

靖宇街周辺の歴史建築において、幾何文様が施された建築が数多くみられる。694点の装飾文様うち191点が幾何文様である。それらは、水紋(直線)、日紋(円形)、方勝文様、回文様、四角文様とその他の6種類に分類された。それらの出現回数は、68点、42点、26点、22点、12点、21点である(図34)。また、中国伝統的な幾何文様が多く現れる一方で、1930年代の日本で流行していた近代建築スタイルの影響を受け、靖宇街周辺の建築には素朴な壁面に簡単な幾何文様が採用されているのがみられる。

①水紋と日紋

191点幾何文様のなかに、「水紋」が68点、「日紋」が42点みられる。図39のように、直線と円形文様が靖宇街周辺の歴史建築に多くみられる。当該地域の住民はそのような西洋スタイルの文様を水紋と日紋と称してきた。家族が太陽や水のように永遠に生き続くという寓意が象徴されるという[注30]。

②方勝文様

靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様において、方勝文様が26点みられる。図40のように二つの菱形を横にずらして重ねた「方勝」文様は、中国古代における重要な装飾文様である。こ



図40 方勝文様

の文様は古代の婦人が髪に挿した簪に由来しており、唐時代から宝珠・珊瑚・犀角・磬・古銭・如意・銀錠とともに唐八宝といわれるようになった。方勝は勝運を象徴するので非常に縁起が良いものであり、同時に中央に、菱形を重ねた際に生じる穴があるため、「同心」の意味が内包されると考えられてきた。それゆえに、方勝文様は「同心合意」「優勝幸運」の吉祥文様として、靖宇街の歴史建築に大量に採用されたものと思われる。

③回文様

靖宇街周辺の歴史建築群には、回文様が22点みられる。図41のような渦巻状の四角と直線で表した形は「雷紋」と呼ばれる。単独ではなく、いくつか連続して複雑な文様を構成する例が多い。古代中国の陶器、銅器に主文様として多く用いられ、殷時代の青銅器の文様に最も多く採用された。その複数個の方形渦形が漢字の「回」によく似ているので、回紋ともいわれ、中国の民間では富貴と幸福が永遠に伝え続くという吉祥の寓意が象徴される。



図43 博古文様



図44 雲紋文様



図45 金銭文様



図46 亀甲文様

(6) その他の図案

694点装飾文様のうち上記以外に89点がみられ、それらはさらに12種類に分類された。以下、典型的な事例を取り上げる(図34)。

①武器文様

その他の図案において武器文様が3点みられる。たとえば、図42は中国古代の武器一つ「戟」である。これは戈と矛が一体化したもので、殷・周時代から用いられたが、宋時代までには主に祭儀に用いられるようになった。唐代においては、官位、爵位と勲功がいずれも三品以上に達した官員と貴族の家宅の正門の前に戟が立てられ、最高位であることが表彰された。その頃から戟の文様は富貴と権力がある家柄の象徴とされ、貴族と大氏族は「戟門」「戟戸」といわれた。また、戟は「吉」と同音であり、



図42 武器文様

中国の民間では、吉祥、幸運の寓意が与えられている。図42のような花瓶に戟を三本挿した図案は「平昇三級」と呼ばれ、昇進運が良く3等級続けて昇級するという願いが込められたものである。

②博古文様

博古(図43)とは、古代の貴族と文人が壺、瓶、玉器など珍貴な古器物を集めることを通して、修養と高雅な趣味や志向を表現したことである。棚に貴重な花瓶や香炉などの骨董を飾ることを指しており、骨董品を飾る棚を博古架と称した。博古架は、中国家具の重要な様式の一つである。靖宇街における庶民階層の壮大とともに、伝統的な博古架を模倣して、古代の貴族や文人のように書画や器物を鑑賞する高雅で風流あふれる生活への憧れを示す博古文様が建築に大量に現れた。

③雲紋

靖宇街周辺の歴史建築には、雲紋が2点みられる。中国においては古代から、雲のかたちや色の変化によって吉兆を占ってきたが、それゆえに、雲紋は人びとに農産物の生育が順調で、五穀豊作をもたらす吉祥的な文様として盛んに使われるようになった。建築装飾文様の発展とともに、この雲紋も進化して渦巻きのような抽象的な文様が現われた。この雲紋は単独で用いられることは少なく、連続して組み合わせ用いることが多い。たとえば、図44のように、靖宇街の歴史建築の壁面の上には、雲紋と牡丹を組み合わせた文様が描かれている。この文様は富貴吉祥、商売隆盛の意味である。

④古銭文様

その古銭文様が中国民間において「圧勝銭」とも呼ばれた。中国古代のお年玉「圧歳銭」の別称であり、市場に流通している貨幣ではなく、古代の貨幣を模して造られた観賞用の貨幣である。その古銭の表面には「万歳千秋」など縁起がよい吉祥動植物の図案が描かれた。靖宇街周辺の歴史建築のパネルのうえに、その古銭文様が15点見られる(図45)。

⑤亀甲文様

靖宇街における歴史建築に亀甲文様(図46)が10点みられる。亀甲紋は亀の甲の形に由来するものと思われた。亀は中国神話時代の四神獣の一つとして長寿の瑞獣と思われた。それゆえに、長寿の象徴とされた亀甲文様も民間で非常に愛された吉祥文様である。そして、その連続の文様も



図47 花瓶文様

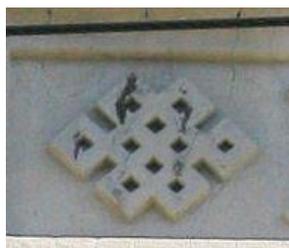


図48 盤長文様



図49 卍文様

永遠の繁栄を願った吉祥寓意と思われた。

⑥花瓶文様

瓶は、中国人の日常生活において広範的に用いられる生活容器である。漢代から流入された仏教文化の影響とともに、瓶が法螺・法輪・宝傘・白い蓋・蓮華・金魚・盤長とともに「八宝」或は「八吉祥」と呼ばれた。その宝瓶が中国の民間で重要な縁起よい物として、不死の甘露を注ぎ福智円満な宝器と思われた。民家の建築にもその瓶の文様が見られる(図47)。そして、瓶が漢字の平安の「平」と同音になり、平安順調の意味が与えられる。特に、宋時代から中国人に愛された花が瓶に挿している花瓶の造形が多く見られる。後世は花瓶の文様が家族の健康幸福と平安順調を常に伝え続けてきた吉祥寓意と思われ、陶磁器、家具、建築文様に大量に採用された。そのゆえに、靖宇街の歴史建築のパネルのうえに、花瓶文様も9点見られる。

⑦盤長文様

仏教が漢代に中国に伝わって以来、瓶、法螺、法輪、宝傘、白い蓋、蓮華、金魚、盤長とともに「八宝」或は「八吉祥」と呼ばれる。それらも中国の民間において重要な縁起よい物として、靖宇街の歴史建築に大量に使用されている。仏教の「八宝」の一つである盤長紋は、終わりのない愛と調和で、広大無辺な慈悲を表している。盤長紋には家族の後世の子孫が健康長寿で、生き続けるという吉祥寓意が与えられる(図48)。

⑧卍紋

卍字紋(図49)は、最初古代インドから中国へ伝来された仏教で用いられたものであり、中国語の意識で「吉祥の海雲」というような意味である。唐の時代から「卍」を「万」と読むことが定められた。吉祥万徳の集まる所という意味である[注31]。仏教の象徴する記号としてよく知られるが、靖宇街の歴史建築の上にその卍字紋が吉祥幸福の文様の象徴とされ広範的に使用される。

3. まとめ

以上、靖宇街の周辺における建築装飾文様の種類に関する現地調査を通して、当該地域の歴史建築には、西洋建築のうえに中国伝統的装飾を加えて独特な建築スタイルを創出したことが見出された。以下のように靖宇街の歴史建築装飾文様の特徴を確認した。

(1) 靖宇街周辺地区だけでも964点にもおよぶ装飾文様が施されており、それらは、植物、動物、人物、文字、幾何などに分類される。靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様には、漢字の同音の特点、身近な動植物の特性や伝統的神話伝説などの伝統的な表現方法を十分に利用して、中国伝統的な吉祥文化が共有、継承されてきた。

(2) それらの装飾文様は、中国における伝統的生活文化にみられる要素を中心として、建築スタイルとともに流入したであろうヨーロッパやロシアや日本のものもみられる。洋の東西を問わずさまざまな国さまざまな時代の建築装飾が融合されており、国際都市として形成されたハルビン市の歴史が反映されている。そして、当該地域の住民らが近代の西洋建築のスタイルと装飾文様を模倣しながら、自身の生活文化と豊かな生活への憧憬を表したものと思われる。そのように積極的に外来の文化を吸収し、幸せな生活の願望と楽観的な生活態度を自由に表現しつつ、ハルビンの都市文化の形成および発展を促進させた。

(3)それらの装飾文様の多くには、当時の当該地域の人びとが共有していた「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの吉祥寓意が確認される。靖宇街周辺の歴史的建築にみられる装飾文様には、当該地域住民の「世々代々」に渡って吉祥を願う文化が継承されている。事業の成功、善い行い、健やかな成長、科擧の合格、子孫の繁昌など、市井の人びとの幸せを願う切実な気持ちが表現されているといえよう。靖宇街の歴史建築の装飾文様は伝統的な吉祥文化のみならず、人格的道德教育と正確な生活価値観を継承、普及させていくための重要な役割を担っていた。20世紀初頭、肉体労働者と小規模な商売活動が集まった靖宇通りにおいて、文字の読み書きができない人は少なくなかった。彼らは本稿で概観してきたような代々の建築装飾文様の寓意と意匠を継承することを通して、自身の道徳と文化への帰属意識を高め、固有の伝統的な生活文化と地域の愛着を普及していたのである。

当該地域の歴史建築物にみられる装飾文様には、当該地域で暮らした人びとが、国内外の装飾を柔軟に吸収しながら、自己表現の手段として巧みにアレンジした姿が確認される。それらが街路という公共空間で共有され、当該地域ならではの約束事が形成され、文化として継承されてきたのである。これら豊かな歴史的遺産の再認識を通して、今日消失しつつあるハルビン市のアイデンティティを再発見し、生活文化創生を目指すことは、極めて大きな意義を有している。

次章においては、靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様についてをさらに掘り下げ考察し、当該地域の人びとが共有した生活文化の特質を論じることとしたい。

注と参考文献

- 1) 城一夫：西洋装飾文様事典、朝倉書店、101、1993
- 2) 周敦頤(1017年～1073年)中国の宋時代の思想家、哲学者、儒学者である。『通書』と『太極図説』を著書した。
- 3) ヨーロッパの文様事典、株式会社視覚デザイン研究所、178～179、2000
- 4) 前掲注1、4
- 5) 『詩経』の分類の一つである。周王朝の宮廷で儀式・祭祀・宴席などで奏せられた歌74編を収める。
- 6) 「瓜瓞綿綿」の文様のなかで、大きな瓜が「瓜」、小さいものが「瓞」といわれた。「瓞」が中国語の「蝶」と同音であることから、しばしば「瓜」と「蝶」の図案が組み合わされて意匠が凝らされている。
- 7) 『周易』は『易経』とも呼ばれ、儒教の基本書籍である五経の一つである。陰爻と陽爻を六つずつ組み合わせた64卦によって自然と人生との変化の法則が説かれている。舒新城：辞海第六版、上海辞書出版社、3010、2009
- 8) 五経の一つ、中国最古の詩集である。春秋中期までの詩311篇を風・雅・頌の三部に分けた。広辞苑第六版 岩波書店、p.1209、2008
- 9) 沉利華、銭玉蓮：『中国吉祥文化』 内蒙古人民出版社、168～170、2005
- 10) 『易経・乾卦』からの説明する用語である。「元」「亨」「利」「貞」を天の四徳として春夏秋冬、仁礼義智に配するという意味である。
- 11) 前掲注8
- 12) 獅子舞は、獅子頭をかぶって行う舞である。年中行事で五穀豊穰の祈祷、悪魔払いとして行われるようになった。
- 13) 『礼記』は中国古代の五経のひとつであり、秦・漢時代の儒者の古礼に関する説を集めた書である。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、2919、2008
- 14) 『爾雅』は、中国古代の辞書である。諸経書の伝注を採録したものといわれる。
- 15) 『山海経』は、中国古代の神話と地理の書である。山や海の動植物や金石草木、また怪談が記されている。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、1589、2008
- 16) 『詩経』は五経の一つ、中国最古の詩集である。春秋中期までの詩311篇を風・雅・頌の三部に分け紹介されている。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、1209、2008
- 17) 『花鏡』は、『秘伝花鏡』とも言われ、中国清時代の鳥類、観賞魚類、花譜、園芸技術に関する解説書である。
- 18) 『相鶴経』とは、『鶴経』とも言われ、宋時代の文学作品で、作者が不詳であったが、『相鶴経』を校正した明時代の周履靖が後世によく知られる。
- 19) 『淮南子』とは、前漢時代の淮南王劉安(紀元前179年-紀元前122年)が学者を集めて編纂させた思想書である。
- 20) 七十二候とは、旧暦で、五日を一候とし、三候を一気とし、六候を一カ月とし、二十四気すなわち一年間を七十二分して、時候の変化と示したものである。広辞苑第六版、岩波書店、1245、2008
- 21) 『西京雑記』とは、前漢時代の西京(長安)の雑事を記録したという形式による逸話小説集である。6巻。その時期の有名人の逸話、宮室、制度、風俗などに関する記録したものである。
- 22) 『天竺遺事』とは、中国、盛唐の栄華を物語る遺聞を集めた書である。中国唐代の長安の物語と遺聞を集めた書である。その時代の七夕、端午など祭りと習俗をよく記録した。
- 23) 『風俗通義』は、中国の後漢時代の応劭(153年-196年)の著書である。もと31編であった

が、現存するのは10編である。その時期盛行した風俗を厳しく批判したが、当時の社会習俗を概観できる。

- 24) 『荊楚歳時記』中国の楚(湖北・湖南地方)の年中行事を記した書である。民間の風俗を記した中国現存最古の歳時記である。広辞苑第六版、岩波書店、p. 864、2008
- 25) 前掲書3、1366
- 26) 『説文解字』は、中国最古の部首別辞書で、中国文字学の基本的古典である。漢字9000字余を分類し、六書の説により字形の成り立ちとそれぞれの漢字本来の意味が解釈されている。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、1579、2008
- 27) 『韓非子』は、韓非及びその後学の著書である。法律・刑罰を以て政治の基礎と説いた。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、647、2008
- 28) 『尚書』は、中国の古代の四書五経の一つ『書経』の古名である。新村出：広辞苑第六版、岩波書店、1380、2008
- 29) 中国の南宋時代の地理風俗を記した随筆集である。当時の生活や風俗などについて詳しく記した。
- 30) 靖宇街における住民への聞き取り調査による。
- 31) 「卍紋、梵語の功德圓滿の意味である。仏像の胸に描き、吉祥万徳の相とするものである。」広辞苑第六版、岩波書店、2673、2008
- 32) YU Ge : The Influence of Baroque to 19th Century Harbin Architecture、The Border Economy and Culture、6、165～167、2011
- 33) He Ying、Liu Songfu、Sun Quan : Material Factor for the Beauty of Modern Architecture Decoration in Harbin、Procedia Engineering、24、395～399、2011

図の出典

- 1) 図1～図4、図25と図34：筆者が作成
- 2) 図5～図24、図26～図33、図35～図49：筆者、2013年8～9月・2014年9月撮影、道外区靖宇街

第三章

靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に表出した生活文化

はじめに

靖宇街周辺の歴史建築の最大の特徴は、通りに面したファサードに多様な装飾が施されている点である。筆者らは、前章に引き続き、靖宇街周辺の107棟の歴史建築に施された964点装飾文様を対象として考察を進めた。前報で抽出・整理した65種類の装飾文様を、さらに「表現方法」と「表現内容」によって分類し、その文様の特徴を分析した。本章においては、靖宇街周辺の中国風西洋建築の装飾文様に関する表現方法を以下の「スタイル」と「表現形式」の2つの観点から考察した。

1. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現方法

1.1. 装飾スタイルに基づく分類

筆者は、靖宇街周辺の歴史建築にみられる装飾文様をそのスタイルによって、「中国装飾文様」「西洋装飾文様」「中西混用文様」の3つに分類した。それらの出現回数は51点、16点、9点であった。以下、それぞれの文様スタイルとその意味性を、事例を取り上げつつ概観する。

表1 靖宇街周辺の中国風西洋建築の装飾文様に関するスタイルの分類

スタイル	植物																				動物													
	竹	菊	梅	松	葡萄	月季	蓮花	瓜	鈴蘭	ザクロ	麦	桃	木犀	パイナップル	オモト	蘭	アカンサス	ロゼット	牡丹	唐草	白菜	バラ	葎	花綱	他	鹿	獅子	鳳凰	孔雀	燕	鷹	蛙		
中国装飾文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
西洋装飾文様					●												●	●																
中西混用文様					●		●										●	●							●									
登場回数	2	3	8	4	16	1	11	15	27	20	5	3	5	2	3	3	15	22	42	82	179	3	5	2	43	92	5	5	2	1	1	1	2	
スタイル	文字										人物										他の図案													
	蟹	鯉	蝙蝠	蝶	帆立貝	鶴	鶏	カササギ	熊	福	寿	天使	仙人	グリーンマン	古銭紋	暗八仙	雲紋	八卦紋	博古紋	盤長紋	亀甲紋	卍紋	武器	花瓶	花籠	花壺	水紋	日紋	四角形	回紋	方勝紋	他の図案	計	
中国装飾文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	51
西洋装飾文様					●																													16
中西混用文様																										●		●	●					9
登場回数	1	2	10	8	4	3	1	2	1	1	18	1	2	1	15	3	3	3	4	11	10	2	3	9	18	8	68	42	12	22	26	21		

1.1.1. 中国伝統装飾文様

表1に示すように、65種類の文様のうち伝統装飾文様とみなされるものは51種類であった。ハルビン市の道外区は、20世紀初頭に中国人の居住区として発展した地域である。特に、中国の伝統的な神話・伝説と結び付き、「健康」「長寿」「吉祥」「富貴」などの観念が中国の民間の各階層に広く受け入れられ、その意味が包含された建築装飾文様が用いられてきたと考えられる。また、中国の古代の民間信仰を基盤として成立した「道教」「仏教」などの宗教に関連した文様も多数確認される。筆者らは、靖宇街の歴史建築に施された吉祥寓意に関する「牡丹」「柳」「蘭」「蝙蝠」「パイナップル」などを「動植物文様」、「方勝紋」「回紋」「盤長」「八卦」などを「宗教文様」と分類した。本節においては、当該地域の歴史建築に飾られた典型的な「蝙蝠文様」と「パイナップル文様」、数種類の「宗教文様」の事例を取り上げ、当時の靖宇街中国風西洋建築の文様の特質を概観したい。

① 蝙蝠文様

蝙蝠文様は、動物文様のなかでも代表的な装飾文様といえよう。蝙蝠の「蝠」は中国語の「福」と同音であり、それゆえ、中国において蝙蝠は吉祥幸福の象徴とされ、その図像は、しばしば、木製家具、陶磁器、建築物などに採用されてきた。靖宇街周辺の歴史建築にも、中国の伝統的な蝙蝠の意匠を継承した装飾文様が認められる。その数は、調査対象の靖宇街の107棟の歴史建築のうち10点におよび、それぞれが異なる形態と意味を有していることから、蝙蝠はその外貌こそ醜悪であったが、中国の伝統的な吉祥物として靖宇街の住民に親しまれたことがうかがえる。たとえば、図1は中国の伝統的な「蝙蝠雲紋文様」であり、それは「福が雲のように絶えずに続いていく」という意味である。図2のように五個の蝙蝠が集まる文様は「五蝠」と称され



図1 蝙蝠雲紋文様



図3 双蝠文様



図4 蝙蝠盤長文様



図5 蝙蝠銜銭文様



図2 五蝠文様



図6 蝙蝠銜銭文様

てきた図案である。「五蝠」は中国語の五福の同音であり、すなわち「長寿・富貴・健康・好徳・善終の五つの福が集まる」という意味である。その一双の蝙蝠の文様は「双蝠」といわれ、「双福」の意味である(図3)。中国の伝統文化においては「好事成双」という熟語があり、「福が重なるように」という吉祥寓意である。また、靖宇街の歴史建築のファサードには蝙蝠が盤長紋をくわえた文様が見られる(図4)。盤長紋は、終わりのない愛と調和で、広大無辺な慈悲を表した吉祥文様とされおり、蝙蝠と盤長紋を組み合わせた文様は、家族の後世の子孫が幸福で生き続けるという吉祥寓意が与えられている。他にも、図5と図6のように蝙蝠が古銭をくわえた文様も見られる。中国文化において、古銭の「銭」は「前」と同音であり、その文様は「福到眼前」といわれ、幸福が目前に来ているという吉祥寓意である。天上から幸福と金運が贈られるという意味もある。

このように、主に中国人が居住していた靖宇街においては、多様な文様が組み合わせられ、中国語の同音異義を利用して意味が与えられた吉祥文様で飾られた建築が多く見られる。また、当該地域における建築には、葡萄、瓜、牡丹、鯉などの同種の動植物でもさまざまな文様が組み合わせられた事例も多い。それらは靖宇街中国式西洋建築の装飾文様の多様性を生み出す要因のひとつとなっている。

②パイナップル文様

パイナップルは、典型的な熱帯の植物である。中国では古くから「鳳梨」と称され、特に中国の南方では「旺来」と発音が同じであることから、「商売が繁盛する」という意味が与えられてきた。また、その花は「鴻運当头」とも呼ばれ、「鴻運」とは幸運の意味であり、「当头」とは目前に迫るという意味であることから、パイナップルには「幸運がすぐ訪れる」という意味が内包されてきたのである。このようなパイナップルの文様は、家族が健康で商売が盛んな縁起よい文様として、中国南部の沿海地域の伝統建築にしばしば採用されるが、北方の建築装飾文様に用いられることはきわめて少なかった。しかしながら、ハルビン市は中国の最東北の都市のひとつであるにもかかわらず、その姿をよく目にすることができる(図7)。このように、地域の制約から脱却し、多様な文化要素が大胆に利用されたことは、20世紀の新興都市としてのハルビン市の特有の生活文化の一端を象徴しているといえよう。



図7 パイナップル文様

③宗教文様

中国式西洋建築が建設された19世紀末から20世紀初頭にかけては、中国各地から人びとが靖宇街に到来するとともに、それぞれの宗教や習俗がもたらされた。それゆえ、靖宇街の歴史建



図8 八仙の瓢箪文様



図9 八仙の扇文様



図10 八卦文様

築の装飾文様には、中国の伝統的な宗教文様が少なくない。たとえば、「瓢箪(図8)」「扇(図9)」などの装飾文様が施された建築がみられる。これらは、道教において信じられてきた八人の仙人である「八仙」[注1]がそれぞれもつとされる法器で、いずれもきわめて縁起の良いものとされてきた。また、八卦[注2]は、古代中国の占術である「周易」において、自然界の現象を八つの象に分類したものである。その八卦(図10)を圖像化した文様は家宅の邪気を避け、家内安全・招財を願う護符とされてきた。その文様が靖宇街の歴史建築のファサードにも採用されたことがうかがえる。

当時、小規模な商店が栄え、多くの肉体労働者集まった靖宇街においては、人びとの識字率は必ずしも高いとはいえなかった。しかしながら、当該地域の住民らは自家の建築に神話伝説と民間宗教の文様を飾ることを通して、吉祥幸福や社会安定を希求していたことがうかがえる。靖宇街は、まさに、そうした人びとの望みが形となり積層した空間であったといっても過言ではない。また、街並みの建築の文様を通じて吉祥の願いや豊かな生活に対する期待等が共有され、当該地域ならではの社会的な雰囲気が形成されたといえよう。このようにして、建築物に施された装飾文様は、伝統的な生活習俗と民族文化の継承と教育の重要な役割を担った相違ない。

上述してきたように、靖宇街の歴史建築における中国伝統的な装飾文様の造形・意匠を概観すると、中国の伝統建築文化の姿が色濃く表出していたことがうかがえる。特に、新興都市としてのハルビン市の近代都市の建設とともに、靖宇街の住民らが、自ら、それぞれの近代西洋建築に、積極的に中国の伝統的な装飾文様を採用したのである。また、当該地域人びとは、代々中国の伝統的な装飾文様の寓意と意匠を継承することを通して、固有の生活文化を継承し、独自の生活空間を構築したのみならず、いわば内発的に共通意識を醸成したと思われる。中国の伝統的な生活文化を継承し、多種多様な中国装飾文様を採用したことは靖宇街における中国西洋建築のひとつの特質といえよう。

1.1.2. 西洋装飾文様

当時の道外区は中国人の庶民階層の居住区域であったが、ハルビン市への外国移民の流入とともに、西洋の生活習俗と建築文化が受容された様子がうかがえる。靖宇街の建設に携かった中国人の工匠も、ハルビン市近代都市建設の展開とともに西洋建築のスタイルを模倣し、西洋式建築装飾技法と西洋建築文様を大量に採用したのであろう。65点のカテゴリーにおいて、「帆立貝文様」「プット文様」などの西洋建築文様が16点確認された。以下、典型的な事例を挙げ概観したい。

①帆立貝文様

道外区靖宇街周辺の建築文様には、ルネサンスの代表的な装飾文様のひとつである。帆立貝文様(図11)が4点確認された。それまでの中国のなかで活用された事例は確認されておらず、当時のハルビン市は全国的にみてもきわめて珍しい事例であるといえよう。帆立貝文様[注3]は、西洋建築において、建築や家具の装飾など幅広く使われたものである。靖宇街の歴史建築においては、円筒形の壁の頂上に、浅い皿の形をした水盤として用いられ、ルネサンスのスタイルを模倣して使用されたことがうかがえる。



図11 帆立貝文様



図12 プット文様

②プット文様

プット文様とは、背中に羽根が付された幼児の姿を圖像化したものである。キリスト教には同様の形態の天使に「愛」や「神の使者」の寓意が付与されてきた。ルネサンス以降も頻繁に建築装飾などに採用された[注4]。中国人が居住していた靖宇街においては、西洋建築のスタイルのプット文様が1点みられる(図12)。

20世紀初頭のハルビン市は、比較的自由的な政治環境であったために、中国人のみならず世界各国から多くの移民が到来した。帆立貝文様、プット文様などの典型的な西洋建築装飾文様が靖宇街周囲の他の街の有数の歴史建築にみられることから、その西洋装飾文様を通して、当時の工匠らが外来装飾を学び、靖宇街の建築に大胆に利用を試みたことがうかがえる。

1.1.3. 中西混用装飾文様

前述した中国装飾文様、西洋装飾文様に加えて、当該地域の歴史建築には、中国装飾文様と西洋装飾文様が混用されたと思われる文様を多数確認することができる。筆者らは、これらを、「中西混用装飾文様」と命名した。当該地域の建物の建築を担当した工匠が、周囲の街区の西洋建築に施された装飾文様を模倣し生み出したものと考えられる。たとえば、「花壺」「アカンサス」「唐草」などの装飾文様が、靖宇街の歴史建築に多くみられる。

①花壺文様



図13 花壺文様

たとえば、図13に示す装飾は、花壺文様的一种であると考えられる。花壺文様は、古くはエジプトのコプト美術で使われ始めたが、15～16世紀にヨーロッパにおいて建築装飾や工芸品、染織の文様として愛好されるようになったものである。その時期から、壺の文様はキリスト教的な「生命の泉」という象徴性を失い、元来、生命力を表していた壺から延びた唐草状の植物も、いつしか装飾性を重視した花束に置き代わっていったと考えられている[注5]。靖宇街における歴史建築には、その花壺文様の造形を採用した事例が多くみられる。一方、中国文化においては、花瓶は仏教の宝器の一つとされてきた。また、壺に似た「瓶」は、中国語の発音「平安」の「平」と同音であることから、吉祥・平安の願いが込められたが、それらが混同されてきた可能性がある。それゆえに、20世紀初頭の靖宇街において花壺文様は、西洋から輸入された装飾文様のひとつではあったが、吉祥寓意を与えられた花瓶と混同されて人びとに親しまれてきたものと考えられる。

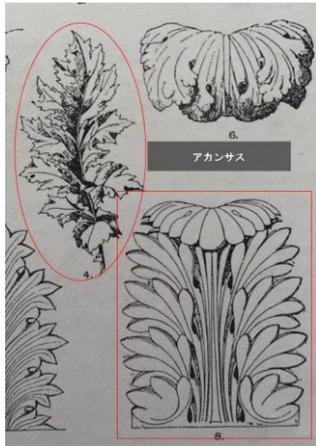


図14 アカンサスと西洋建築
のアカンサス文様



図15 17世紀のアカンサス文様



図16 靖宇街歴史建築における
アカンサスの柱頭

②アカンサス文様

前章において、筆者はアカンサス文様の意味と特徴を分析した。そのアカンサスはヨーロッパにおいて、もっとも一般的な植物である。ギリシアで使用されて以来、西洋風なものの中に何度か表われていた。図14のように、古代ローマ風のアカンサスは、葉の先が丸く広くて、強い曲り方している造形で、強い生命力の象徴とされ、神殿の柱頭を飾る主題であった[注6]。しかしながら、17世紀以降のルネサンス風格の流行とともに、アカンサス文様が長く伸びたアザミのような唐草文様として、建築と芸術品に大量に施された。図15は、17世紀アカンサス唐草文様の銀のジョッキである[注7]。今日、近現代の芸術品と建築の上にも、そのようなアカンサス唐草文様がよく見られる。

その時期、靖宇街の中国式西洋建築において、西洋建築の装飾であったアカンサス文様も大量に採用された。図16のように、靖宇街において、古代のローマ建築スタイルを模倣して、アカンサス柱頭文様を施した歴史建築がよくみられたが、図17のように、南頭道街91番の建築の工匠は、アカンサス文様の葉の美しい鋸歯状と、その柔らかな曲線のなどの特性を参照して、吉祥寓意が持ってきた白菜の柱頭文様を創造した。それは単純に海外の装飾文様の造形の模倣ではなく、個人の願いとニーズにより新しい装飾文様を創造することと考えられる。まさにそれは、中国式西洋建築における装飾文様の一番重要な特徴といえよう。

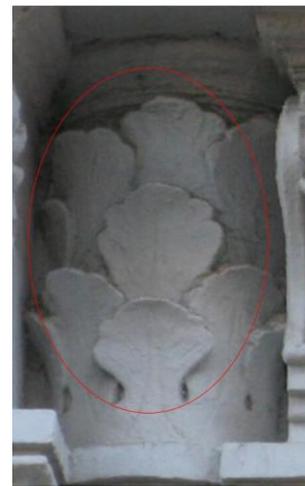


図17 白菜のアカンサス
柱頭文様

③唐草文様

靖宇街周辺の107棟の歴史建築には、本稿において取り上げた中国装飾文様、西洋装飾文様、中西混用装飾文様の3種類のスタイルを包含した唐草文様が179点もみられる。筆者らは、前章において、唐草文様の起源と文様の特質を考察したが、本項では靖宇街周辺の歴史建築に大量に用いられた唐草文様の装飾スタイルについて分析したい。その時期の靖宇街において、古典主義建築だけではなく、バロック、アール・ヌーヴオーなどの建築スタイルも多く見られた。そのゆえに、前項で説明したアカンサスの唐草文様も大量に施された。

たとえば、図18は西洋建築装飾文様の特徴を模倣した唐草文様であると考えられる。ギリシア神殿の円柱にみられる草文様が原型とされており、ヨーロッパと中東地区の植物造形を採用したものである[注8]。当時の建築工匠が西洋建築装飾の影響を受け、当該地域の建築に適用したことがうかがえる。一方、図19のように、西洋スタイルの唐草文様に、牡丹や月季など中国の伝統的な要素を加えた唐草文様が大量にみられる。西洋スタイルの唐草文様の対称性、複



図18 西洋風唐草文様



図19 中西混用唐草文様



図20 中西混用唐草文様



図21 中西混用唐草文様

数性などの特徴を参照しつつも、中国の伝統的な審美要素を加えることを試みたものといえよう。さらに、一部の唐草文様には、当該地域の人びとが、当地の生活文化に対応した新たな唐草文様を創造したことをうかがわせる事例がある。たとえば、図20の唐草文様は、元来、西洋の植物であるべき部分が中国の伝統的な牡丹の葉、花、茎に置き換えられており、これらは、外来の唐草文様に吉祥富貴の寓意を込めたものに他ならない。また、図21の唐草文様は、元来、西洋においてはアカンサス文様であったものが、中国において人びとが親しんできた白菜の文様に置き換えられている。今日、靖宇街における歴史建築に関する資料は、家主や建築士、工匠などの情報を含めて大部分が消失してしまっているが、上述してきたように、歴史建築に残された文様から、当時の人びとが積極的に海外文化を吸収し、多様な装飾文様を利用し、靖宇街の特有な中国式西洋建築を創造した様子を確認することができる。

このように、装飾文様に注目すると、中国人の居住地であった靖宇街においては、中国伝統的な装飾文様が当該地域の主流ではあったが、ハルビン市の近代建築の発展とともに、西洋的な装飾文様が導入されていったことがわかる。一方、当時の建築工匠らは、当該住民の好みと個人の想像力を最大限に駆使して近代建築を飾りながら、中西混用装飾文様という新たな文様を創造したのである。それぞれの建築装飾文様を通して、靖宇街における健康長寿、吉祥富貴、隆盛平安の永続を願う共通意識が形成されたものと思われる。人びとが積極的に共同の生活空間をつくり、創造した装飾文様には、当時のハルビン市の豊かな生活文化が表出しているのである。

1.2. 表現形式に基づく分類

次に、道外区靖宇街周辺の歴史建築における964点の建築装飾文様を、表現形式の観点から概観していきたい。表2のように、当該地域の歴史建築の装飾文様は、単一の文様と組み合わせた文様の2種類に分けることができた。

1.2.1. 単一の文様による装飾

表2 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する表現形式の分類

表現形式	植物																				動物															
	竹	菊	梅	松	葡萄	月季	蓮花	瓜	鈴蘭	柳	ザクロ	麦	桃	木犀	パイナップル	オモト	蘭	アカンサス	ロゼット	牡丹	唐草	白菜	バラ	葎	花綱	他	鹿	獅子	鳳凰	孔雀	燕	鷹	蛙			
単一の文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
組み合わせ文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
登場回数	2	3	8	4	16	1	11	15	27	20	5	3	5	2	3	3	15	22	42	82	179	3	5	2	43	92	5	5	2	1	1	1	1	2		
表現形式	文字										人物										他の図案															
	蟹	鯉	蝠	蝶	帆立貝	鶴	鶏	カササギ	熊	福	寿	天使	仙人	グリーンマン	古銭紋	暗八仙	雲紋	八卦紋	博古紋	盤長紋	亀甲紋	卍紋	武器	花瓶	花籠	花壺	水紋	日紋	四角形	回紋	方勝紋	他の図案	計			
単一の文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	51
組み合わせ文様	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	32
登場回数	1	2	10	8	4	3	1	2	1	1	18	1	2	1	15	3	3	3	4	11	10	2	3	9	18	8	68	42	12	22	26	21				



図22 牡丹文様



図24 牡丹文様



図25 ロゼット文様



図23 牡丹の唐草文様

靖宇街周辺の歴史建築には、65種類の装飾文様のうち、51種類が単一の文様による装飾が施されている。牡丹、梅、菊、桃などの中国伝統的な文様もあれば、アカンサス、ロゼットなどの西洋装飾文様もあり、福や寿などの文字図案もみられる。それらは、動植物の文化的な特性、宗教神話と結び付き、装飾的効果のみならず寓意にまで達している。こうした姿が当該地域の建築装飾文様の大きな特徴の要素のひとつと考えられる。本項では、比較的登場回数が多い牡丹とロゼットを事例として取り上げつつ、その表現形式の特徴を概観したい。

①牡丹文様

靖宇街の歴史建築には、牡丹文様が82点確認された。それらの大部分に牡丹が単一で用いられている(図22)。牡丹は、中国の吉祥文化において最も重要なモチーフのひとつと考えられてきたもので、古くから富貴、吉祥、繁栄の寓意が与えられてきた。それゆえに、商店街として栄えた靖宇街周辺の建築物に、牡丹の文様が多用されたと考えられる。靖宇街の住民らは、図23のような牡丹の曲線と枝葉などに中国の伝統的な装飾要素を存分に盛り込んだ牡丹唐草文様を付与する一方で、伝統的な造形にこだわらず、誇張した牡丹文様を創造した(図24)。

②ロゼット文様

靖宇街周辺の建築には、42点のロゼット文様がみられる。西洋風のロゼット文様は太陽の光条をかたどったもので、中央から放射状に広がる円形の装飾文様である。バラ、菊花の文様にも似るが、太陽文様の一種として建築のレリーフ、陶器などに施されてきた[注9]。図25のように、靖宇街の歴史建築には、ロゼット文様が太陽のような模様だけではなく、菊、バラ、月季、牡丹などのロゼット文様も多くみられる。

上述してきたように、それぞれの建築に誇張したり、独特な建築文様を用いたりすることを通して、認知度を高めようとしたことが靖宇街の歴史建築のひとつの特徴と考えられる。中国の建築学者である劉松茂は、その著作『哈爾濱「中華巴洛克」建築及特徴』[注10]で、次のように記している。「建築以其豊富的装飾渲染出商業建築所特有的熱鬧氣氛。傅家甸的建築…(中略)…除了灯光、招牌、窗等補助手段外、建筑上的各色装飾也是招攬顧客、表現商業氣息的重要手段。(中国式西洋建築は、ファサードに付された豊富な装飾文様を通じて商業店舗の特有の賑やかな雰囲気を実際立たせていた。傅家甸(道外区靖宇街)の建築は…(中略)…照明、看板、窓などの補助手段のほかにも、それぞれの建築装飾が、商業的な雰囲気を高め、消費者を招き寄せる重要な手段であった。)。競争が激しい商店街であった靖宇街において、各店舗が自家の建築のうえに、華やかな装飾文様を飾ることを通じて注目される広告的な効果があったと推察される。

1.2.2. 組み合わせの文様による装飾

中国の伝統的吉祥文化の特徴のひとつに、しばしば、多様な吉祥要素の組み合わせが挙げられる。靖宇街においては、22点の組み合わせ文様が確認された。そのなかで用いられる文様は、65種類の装飾文様のなかから32種類に上っている。たとえば、鷹と熊、葦と蟹、鯉と蓮、花瓶



図26 熊と鷹文様



図27 葦と蟹文様

と月季、鹿と松、カササギと梅などの組み合わせがあり、これらは、当該地域の人びとの豊かな生活への期待が、中国伝統文化の同音異義の表現形式を用いて表現されたものである。ここでは、鷹と熊、葦と蟹、鯉と蓮を事例として取り上げる。

①鷹熊文様

当該地域の建築物には、鷹と熊の組み合わせ文様が1点みられる。鷹は鋭い爪と嘴をもち他の動物を捕食する猛禽である。中国の民間においては、強さ、権力と高貴さの象徴として辟邪し家宅を守る文様として用いられることが多い。靖宇街の歴史建築には、これが熊の文様と組み合わせられており全国的にもきわめて珍しい事例といえよう。中国語において鷹は「英」、熊は「雄」と同音であり、鷹が熊と闘う組み合わせ文様は「英雄闘智」と呼ばれた。図26のように、鷹の闘う姿は武を示し、熊の勇ましい姿を現して、その家族の後代の男子が鷹と熊のように知恵と勇気を兼備する願いが表出している。

②葦蟹文様

靖宇街周辺の歴史建築には、葦と蟹の文様が1点現存している。葦は水辺に群生する多年草である。ススキに似た穂を付ける。中が空洞の茎はすだれの材料にされる。漢字で、蘆、葭、芦といった漢字表記がある。中国の古代の科挙においては、最後に会試覆試を経て紫禁城保和殿で殿試を行い、通過者に進士という称号を授与した[注11]。『明史・選挙誌』で「会試の第一位が会元、二甲(第二位)が伝臚」と記載され[注12]、『幼学須知』にも、「天子臨軒、宰臣進三卷、…齋声伝呼之、謂之伝臚」というように行事に関する記述がある[注13]。中国語で、葦は漢字の「臚」と同音であり、大きな蟹は「甲」とも呼ばれる。図27のような蟹と葦の組み合わせた文様は、「黄甲伝臚」または「二甲伝臚」といわれ、その意味は、後世の家族の者が国家科挙の最終試験に合格し前途を切り開くことを願った祝福の言葉である[注14]。その文様を通して、靖宇街の住民らは、家族と民族のために栄光を勝ち取る強い信念を抱き、強く懸命に奮闘しようとしたことがうかがえる。

③鯉蓮文様

靖宇街周辺の歴史建築には、図28のような鯉と蓮の組み合わせた文様が2点みられる。鯉[注15]は、中国では古くから食用とされてきた重要な淡水魚である。自然界においては、繁殖力と生命力が極めて強く、平均20年以上生きる魚である。中国の古人は、鯉を子孫繁栄、健康長寿、家族繁栄の吉祥物と考えた。それゆえ、鯉の造形が伝統的な吉祥文様として、家具、陶磁器、刺繍などの生活用品に大量に現れる。中国の古文獻の『埤雅・積魚』には、「俗説魚躍龍門、過而為龍、唯鯉或然」という記載がある[注16]。その意味は、「黄河の上流にある竜門の滝と呼ばれる急流を登りきれた鯉は、化して竜になる」ということである。唐の時代代から、難関とされる科挙



図28 蓮と鯉文様

を登りきれた鯉は、化して竜になる」ということである。唐の時代代から、難関とされる科挙

の試験を「龍門」といい、科挙の試験に合格した「進士」となることを「登龍門」と呼んだ。それゆえ、当該地域の人びとは靖宇街の周辺の建築のファサードに鯉の文様を装飾して、家族の子孫後代が「龍門を登った」鯉のように科挙の試験に合格することを願った。また、「蓮」が「連年」、「魚」と余裕の「余」、「鯉」は利潤の「利」と同音であり、鯉と蓮の文様そのものが商家の商売繁盛、毎年豊かな生活が続くという意味もあり、その象徴として用いられた[注17]。

上述してきたように、中国人の居住区であった靖宇街周辺の歴史建築には、動植物や日常生活用具、家具などの身近なものに吉祥寓意を与えた装飾文様が数多く確認された。また、人びとが見様見まねで導入したと思われる西洋装飾文様やそれらの一部を中国の伝統的な文様に置換した装飾もみられ、それらが、当該地域の生活空間の特徴となっている。また、後者においては、置換される装飾は、しばしば、中国文化で共有された文様であり、それは、当該地域に生活した人びとが、商店街の繁栄、子孫の健やかな成長、自身道徳の修養、家族の繁盛などの幸せを願う切実な気持ちを建築の装飾文様に託した証であろう。まさに、当時の住民が日常生活活動に基づいて、内発的に特有の生活空間を形成したのであった。

2. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現内容

さて、それでは、靖宇街の人びとが希求した生活空間とは、一体どのようなものであったのであろうか。筆者らは、それを理解するために、65種類の文様に内包される意味を抽出し表3にまとめた。その結果、16種類の表現内容を得た。さらに、それらを、福・禄・寿・財・雅・和順と平安の7つのグループに分類した。以下、それぞれ具体的に事例を取り上げ概観する。

表3 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する表現内容の分類

	植物																	動物																	
	竹	菊	梅	松	葡萄	月季	蓮花	瓜	鈴蘭	柳	ザクロ	麦	桃	木犀	パイナップル	オモト	蘭	アカンサス	ロゼット	牡丹	唐草	白菜	バラ	葦	花綱	鹿	獅子	鳳凰	孔雀	燕	鷹	蛙			
福	富貴吉祥					●						●							●					●	●	●	●	●				●			
	厄除開運												●						●													●			
	多子多孫				●							●																							
	子孫繁栄						●							●																					
夫婦円満							●																												
禄	仕官順調	●																																	
	科挙合格																																		
寿	不老長寿	●			●								●																						
	家族健康					●							●																						
財	財宝盈溢																						●												
	商売繁盛																																		
雅	品徳修養	●	●	●			●																												
和順	五穀豊穰					●						●	●																						
平安	天下太平																																		
	四季平安																																		
家宅安全					●																														
	動物				文字		人物		他の図案										幾何図案																
	蟹	鯉	蝙蝠	蝶	帆立貝	鶴	鶏	カササギ	熊	福	寿	天使	仙人	グリーンマン	古銭紋	暗八仙	雲紋	八卦紋	博古紋	盤長紋	亀甲紋	卍紋	武器	花瓶	花籠	花壺	水紋(直線)	日紋(円形)	四角形	方勝紋	回紋				
福	富貴吉祥		●	●		●		●				●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								23	
	厄除開運						●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								12	
	多子多孫		●																															7	
	子孫繁栄												●																						9
夫婦円満													●																					10	
禄	仕官順調																																	5	
	科挙合格	●																																3	
寿	不老長寿																																	9	
	家族健康																																		6
財	財宝盈溢																																		3
	商売繁盛	●	●																																8
雅	品徳修養																																		12
和順	五穀豊穰																																		10
平安	天下太平																																		6
	四季平安																																		2
家宅安全																																			18



図29 瓜文様



図30 燕文様



図31 松文様

(1) 福

中国の吉祥文化において、「福」とは、元来、幸運や富貴の意味であった。時代の進展とともに、出産順調、子孫繁栄、婚姻円満などの吉祥寓意を包含するようになった[注18]。今日、靖宇街の歴史建築に現存する歴史建築に施された文様には、20世紀初頭の当該地域における住民らが求めた福へのさまざまな願いがうかがえる。

「子孫繁栄」

家族の子孫が健康長寿で繁栄することである。たとえば、靖宇街周辺の歴史建築には、瓜の文様が15点みられる。中国においては、古くから、実が多く蔓が長く伸びる瓜のように、自身の家族が子孫を増やし絶えず繁栄するという吉祥的な文化寓意として、瓜の文様が広く用いられてきた。靖宇街においては、図29にみられるように、胡瓜、南瓜、冬瓜、糸瓜などの瓜科の植物を組み合わせた装飾文様もみられ、人びとが、後世の子孫の繁栄を願っていたことがうかがえる。

(2) 禄

「禄」とは、中国の古代社会において官に仕える者に下付された給与である。中国の科挙制度の発展とともに、禄は個人の仕途はもとより、事業の成功や出世と密接に関連する概念として認識されるようになった。また、儒教文化の影響で、科挙試験に合格し国家のために力を尽くすことが人としての最高位の価値と考えられるようになった。古代典籍のひとつである『論語』にも「学而優則仕」の記載があり、それは「学問をして仕官するべき」という意味である[注19]。

「科挙合格」

科挙の試験に合格し、国家のために尽力することである。中国において、燕は冬を南の越冬地で過ごした後、春になると元の巣に戻るがゆえに、古くから「迎春」を象徴する「玄鳥」「吉祥鳥」といわれてきた。図30のように燕が三つの環をくわえた文様は「燕銜三環」という伝統的な吉祥文様である。この場合、三環とは三元、すなわち、古代中国の科挙の三つの試験である郷試・会試・殿試のすべてに最高位の成績で合格するという吉祥の意味がある。20世紀初頭の靖宇街における住民のなかにも、個人の仕途、事業の成功、出世、国の発展に尽くそうとする思潮があったことがうかがえる。

(3) 寿

「寿」は命が長いという意味である。中国において、命は天の恵みであり、人間が制することができないものと考えられてきた。特に医療技術が未発達であった古代においては、人が健康のまま長寿を全うすることはきわめて希なことであり、それゆえ、寿は最も重要な願いのひとつであった。

「不老長寿」

健康で長く生きることである。松(図31)は、その植物としての特性から、豊富な文化的な意味が内包され、中国の人びとの心にかげがえのない位置を占めてきた。松は千年もの樹齢を保



図32 蛙文様

図33 白菜文様

図34 孔雀文様

図35 小麦文様

つと信じられ、「百木の長」とも称され最も重要な吉祥樹とされてきた。また、常緑植物であり冬でも緑の葉を茂らせることから、健康・長寿の象徴とされてきた[注20]。当該地域の歴史建築のファサードにも、鶴などと組み合わされた装飾が数多くみられる。20世紀初頭の当該地域にあって、家族の健康と長寿は当該地域住民の共通の重要な願いであったことがうかがえる。

(4)財

道外区靖宇街に移住してきた人びとにとって、「財」を成すことは、家族の生活条件を改善する願望と連動しきわめて差し迫ったものであったに違いない。一方、中国においては、「君子愛財、取之有道(君子であれば、財を欲するも、正しい方法で取得しなければならない)」という古語があり、人びとは、この古語で訓戒されるように、商店街の信用と良き伝統を維持しようとした。このように、中国の伝統的な徳行を守りながら新たに豊かな生活をつくることは当時の靖宇街の住民らの共同の目標であったと考えられる。今日、靖宇街の歴史建築のファサードに現存するそれぞれの装飾文様からは、当時の当該地域の人びとが、共に豊かな地域を構築しようとしたあくなき姿勢がうかがえる。

「商売繁盛」

商業活動が順調になることである。図32の蛙は、棲息に好適な水辺や水田が多かったことから、中国において身近に生息する動物として親しまれてきた。稲作においては、害虫を駆除することから、豊作を鎮守する神の象徴とされた[注21]。また、古代から月の天宮には金貨を食する三本脚の蛙が棲むという伝説があり、周りの金を集め人びとの財運や商売運を向上させる吉祥物と信じられてきた。それゆえに、商店街であった靖宇街周辺の店舗のファサードには、蛙の文様が商売繁盛の縁起物として飾られたのである。

「財宝盈溢」

金運を呼び込むことである。白菜(図33)は、中国において古代から利用されてきた日常的な食材であったが、中国語で「百財」と同じ発音であることから、財を呼び込む吉祥植物とされ、意匠化された文様が、しばしば、陶磁器、竹の器具、木製家具等に広範に採用されてきた。靖宇街の建築においても多数の白菜文様がファサードに飾られている。

(5)雅

中国文化において、「雅」とは上品で優雅で知的に洗練された情趣であり、貴族や文人に不可欠な教養と考えられてきた。20世紀初頭の靖宇街における住民のなかには、自らの道徳と文化修養を高めることを願い、建築物に装飾文様を施した者がいた。

「品德修養」

君子のように優れた知性と正しい価値観をもっていることである。図34にみられるのは孔雀であり、古代から中国の伝統的な吉祥鳥として、高貴と美の象徴とされてきた。『逸周書』によると、忠・信・敬・剛・柔・和・固・貞・順の9つの徳をもつ鳥と考えられ[注22]、『太平経』にも「行則有儀、飛則有次、動不失法」という記載があり、それは、孔雀はいつも美しい立

ち振る舞いで優雅な印象であることから、人びとの日常行為の模範とするべきという意味である[注23]。靖宇街の歴史建築にも、この孔雀の文様がよくみられる。

(6)和順

「和順」の意味は、自然・気候が順調で、穏やかで安定していることである。中国文化において、和順は重要な吉祥寓意として中国人の心に深く入り込んでいる。

「五穀豊穰」

穀物が多く収穫できることである。小麦(図35)は、中国に伝来した重要な穀物である。米はいうまでもなく中国の重要な穀物である。中国の人びとは、すくすく生長する麦穂と稲穂の文様を飾り、気候が良く、五穀豊穰であることを願った。当該地域の住民も靖宇街の万事順調、商業隆盛の願いを込め、建築のファサードにその文様を多用したと考えられる。

(7)平安

古代から、「平安」つまり太平と安全は、中国の重要な吉祥要素である。靖宇街が建設された19世紀末期から20世紀中期の間は、長年の戦乱が続いたことから、中国の人びとは安心した生活ができない時代であった。当時の道外区靖宇街の人びとが国家の平和・安定、社会の繁栄を切に望んだことは想像に難くない。また、それゆえに、家宅安全・四季平安などの吉祥寓意を託された文様が当該地域の歴史建築に大量に飾られたと考えられる。

「家宅安全」

家宅の邪気を避け、安全を守ることである。たとえば、オモト(図36)は中国の伝統的な観賞用・薬用の園芸植物である。古くから、四季を問わず豊かで強靱な緑色を呈することから、「万年青」とも呼ばれ、転居などの祝い事に縁起の良い贈りものとして使われるようになった[注24]。また、庭にオモトを植えると災難を防ぎ万年にわたって家が栄え続けるといわれ、子孫が増え、家が繁栄するという願いが込められた吉祥寓意でもある。20世紀初頭、中国各地から靖宇街周辺に流入した移民はオモトのように強い生命力をもち、厳しい環境を克服し、未知の土地において開拓・創造した靖宇街の永続・繁栄を願ったのだといえよう。



図36 オモト文様

「四季平安」

一年を通じて平安になることである。花瓶は、古くから、仏教において重要な法器と考えられてきた。また、瓶は、平安の「平」と同音であり、平安の意味が与えられてきた。月季(コウシンバラ)は、寒さに強く冬にも開花することから、古くから中国人に愛されてきた観賞花の一つである。「長春花」「四季花」など別称もある。牡丹の富貴の文化寓意とは異なり、月季は健康幸福を伝えるもので、結婚、祝寿、春節など祝い事に縁起の良い吉祥物として使われてきた[注25]。図37のような月季花が花瓶に挿された図案は「四季平安」といわれ、国家や家族の常なる平安を象徴するがゆえに靖宇街の歴史建築のファサードに飾られる。



図37 四季平安文様

このように、道外区靖宇街の歴史建築の装飾文様には、当時、当該地域に生活した人びとの願望・希望が如実に映し出されているといえよう。当該地域の人びとは、幸福で安定した社会と豊かな生活に憧れ、自らが生活する空間とアイデンティティを創出した。すでに数十年の時が経過し現存する歴史建築はわずかではあるが、

今日残された歴史建築に施された装飾文様からは、20世紀初頭に靖宇街をつくり上げた人びとの積極的な生活態度をうかがい知ることができる。

3. 靖宇街における中国式西洋建築の特徴

要するに、典型的な中国式西洋建築であった靖宇南三道街大興鴻の事例を通して、当該地域装飾文様の特徴を分析したい。



図38 靖宇街南三道街の「大興鴻」歴史建築における装飾文様

図38のように、その靖宇街南三道街の中国式西洋建築の正面には、中国伝統的な蘭、蓮、菊と梅文様が飾られた、中国装飾文化においてそれらは分別に春、夏、秋と冬の象徴とされた。そして、そのオモト文様も家宅安全の吉祥文様と思われ、方勝文様と一緒に施された。それは家族が一年を通じて、永遠に家宅安全・健康幸福になっていくという吉祥寓意であった。靖宇街において、その中国語の同音異義を利用して、多種多様な装飾文様と組み合わせられ、それぞれの吉祥文様が飾られる建築が多くみられる。それは中国伝統建築文化の特徴と一致と考えられる。

そして、その建築の壁面にも、強い生命力を表した西洋風の葡萄文様とアカンサス文様を加えた。さらに、近代建築の幾何文様であった簡潔の直線も見られた。その直線は靖宇街において水紋と言われ、家族が水のように絶えずに永遠に生き続けていく吉祥寓意があった。西洋風の鈴蘭文様が施されたが、細部を見ると数点の小花が添加された。近代の西洋建築として、西洋風の装飾文様を用いながら、巧みに個人の好みと審美要求を添加して特有な装飾文様を創造した。

確かに、その建築を一見すると、繁雑感があった。しかしながら、その建築の壁面を十分に利用して、多民族の文化要素が有機的に組み合わせ、そのさまざまな装飾文様を飾ることを通して、自身の家族と靖宇街を守り、もっと健康・幸福、もっと社会安定の豊かな生活を実現しようとした靖宇街の住民の意識が如実に反映された。それは、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様のもっとも重要な特徴と言えよう。

4. 靖宇街における豊かな生活文化と生活空間の構築

本研究は、道外区靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の特徴を通して、当該地域における装飾



図39 靖宇街における豊かな生活文化と生活空間の構築

文様デザインと生活デザインの間に関連性を明らかにした。

当該地域の住民は、代々靖宇街の建築に施された装飾文様の寓意と意匠を継承することを通して、伝統的な生活文化を習得した。そして、彼らは独自の生活のみならず、その装飾文様から表出した「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの装飾文化を共有することを通して、内発的に靖宇街から生まれた共通意識と共同の生活空間を構築してきた。さらに、国内外の文化を吸収し、特有な装飾文様と中国式西洋建築という建築スタイルを創造した。まさに、靖宇街の人びとは積極的に共同の生活空間をつくり、創造された装飾文様を通して、当時のハルビン市の豊かな生活文化が伝達していたと考えられる。それは、20世紀初頭～30年代の間に、靖宇街の住民らは内発的に装飾文様デザインを通して、豊かな生活デザインと地域デザインの方向性を発見したといえよう。

5. まとめ

20世紀初頭のハルビン市道外区靖宇街周辺においては、同市の都市の形成・発展とともに、当該地域に特有の建築スタイルが生み出された。本稿は、それらの歴史建築に施された多様な装飾の文化的特質を明らかにすることを目指したものである。調査・考察の結果、得られた知見を総括すると以下のようにまとめることができる。

(1) 靖宇街周辺の歴史建築に付された装飾文様には、中国の伝統的なスタイルのものが多く確認された。また、文様の組み合わせや同音異義などの表現方法をみても、中国の伝統的な吉祥文化が基盤となっていることがうかがえる。

(2) 20世紀初頭のハルビン市の近代建築運動の展開とともに、当時の工匠らは外国の建築のスタイルを模倣し、靖宇街の建築のファサードに西洋スタイルの装飾文様を施したことがうかがえる。

(3) 西洋文様を参照しつつも、一部あるいは全体が中国の伝統的文様に置き換えられたものもみられ、こうして、靖宇街の中西混用装飾文様が創造された。このような大胆ともいえる文様は、靖宇街における中国式西洋建築の大きな特質のひとつと考えられる。

(4) 靖宇街の建築装飾文様には、それぞれに内包される寓意を通して、中国の伝統的な生活文化を継承しつつも、新天地である当該地域において豊かな生活を実現しようとした人びとの意識が如実に反映されている。

このように、当該地域の人びとと工匠らがいれば協力しつつ施した歴史建築の装飾文様は、靖宇街という共有空間を構築する重要な要素である。それぞれの建築装飾文様を通して、靖宇街は健康・吉祥・富貴・隆盛・平安などが永続する願いが横溢する空間を構成したといっても過言ではない。また、それがゆえに、当該地域人びとの共通意識の形成に寄与し、それが、人びとに、自らの修養と地域への帰属意識を高め、固有の伝統的な生活文化と地域の愛着を共有

する媒体になったに相違ない。

しかしながら、ハルビン市の庶民の生活文化の象徴ともいえる靖宇街の中国式西洋建築は、今日の急激な都市改造や長年の管理不足を主な要因として、取り壊しや無秩序な改築による消失が進んでいる。今後にあっては、先人たちが創出した豊かな生活文化として次世代へと継承させていくべきである。そのためには、当該地域の歴史建築が形成された文化を再確認・再認識し、これからの当該地域における生活づくり、地域づくりなどの社会活動と一体化させて継承していくことが求められる。

注と参考文献

- 1) 八仙は、中国民間伝承による八人の仙人である。広辞苑第六版、岩波書店、2268、2008
- 2) 周易で陰陽の爻を組み合わせた8つの図形である。自然 界・人事界百般の現象を象徴する。広辞苑第六版、岩波書店、2265、2008
- 3) ヨーロッパ文様事典、株式会社視覚デザイン研究所、207、2000
- 4) 前掲書3、164～165
- 5) 前掲書3、174～175
- 6) フランツ・S・マイヤー：装飾のハンドブック、東京美術、42、1966
- 7) 城一夫：フランスの装飾と文様、東京印書館、75、2015
- 8) 城一夫：西洋装飾文様事典、朝倉書店、101、1993
- 9) 前掲書8、76
- 10) 劉松荻：哈爾濱「中華巴洛克」建築及特徴、2004年中国近代建築史論文集、241～248、2004
- 11) 科挙とは、中国で行われた官吏登用試験である。隋、唐の時に制定、清末の1905年に廃止された。広辞苑第六版、岩波書店、493、2008
- 12) 中国の古代の科挙において、進士合格発表式を伝臚または唱名といった。首席合格者を状元次席合格者を榜眼、三席合格者を探花といい、彼ら3名を第一甲と呼んだ。第二甲若干名に進士出身、残りの第三甲には同進士出身という学位を各々授与した。『明史』は、中国の二十四史の一つ、明朝の歴史を記した書である。本紀24巻、志75巻、表13巻、列伝220巻、目録4巻。
- 13) 『幼学須知』とは、清代の程允升によって記された書である。広く自然、社会、歴史、倫理方面の知識や典故を収録し、かつては児童の必読書とされた。
- 14) 叢恵珠：中国吉祥図案積義(下)、華夏出版社、81、2001
- 15) 銭正坤、銭正盛：中国吉祥装飾図案大全：吉祥動物、東華大学出版社、293～294、2006
- 16) 『埤雅』とは、宋時代の陸佃が、中国古代の最古の字書である『爾雅』に対する注釈集である。「稊魚」「稊草」「稊虫」など20巻に分け、漢字の意味を説明する。
- 17) 前掲書8、40
- 18) 宋立達：具像吉祥：図説中国伝統吉祥文化、金城出版社、9、2007
- 19) 四書の一つ、春秋時代の思想家孔子とその弟子たちの言行記録を編集したものである。
- 20) 銭正坤、銭正盛：中国吉祥装飾図案大全：吉祥禽鳥、植物、東華大学出版社、180、2006
- 21) 銭正坤、銭正盛：中国吉祥装飾図案大全：吉祥動物、東華大学出版社、287、2006
- 22) 『周書』とも言われ、二十四史の一つ、北周の歴史を記録した著書である。広辞苑第六版、岩波書店、1323、2008
- 23) 中国の道教の経典の一つ、『太平清領書』ともいう。陰陽五行説と自然や人倫の調和によって平和な社会の理想像を描いている著書である。
- 24) 前掲書20、244
- 25) 叢恵珠：中国吉祥図案積義(上)、華夏出版社、35、2001

図の出典

- 1) 図1～図13、図16～図38：筆者、2013年8～9月・2014年9月撮影、道外区靖宇街
- 2) 図14：装飾のハンドブック、東京美術、42、1966
- 3) 図15：フランスの装飾と文様、東京印書館、75、2015
- 4) 図39：筆者が作成

第四章

靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査

はじめに

2015年8～9月、筆者はハルビン市道外区の靖宇街周辺の中国式西洋建築に関する質問紙調査を行った。当該地域の住民らのその中国式西洋建築に対する認知度と保存現状、歴史建築に施されたそれぞれの伝統的な装飾文様の意味に関する質問紙調査に基づき、そのような歴史文化資源の再認識を通して、積極的に地域の文化活動に参加し、伝統的な生活文化に基づく地域振興のあるべき姿の再確認と歴史文化資源の再利用を目的とする。

1. 道外区靖宇街における中国式西洋建築に関する質問紙調査

1.1. 調査方法

- (1) 調査対象地域 ハルビン市道外区靖宇街(靖宇頭道街～靖宇二十道街)
- (2) 調査対象者 靖宇街周辺の歴史建築物の居住者、使用者及びハルビン市民
- (3) 調査方法 現場において質問紙調査を行い、靖宇街の周辺の中国式西洋建築に対する当該地域住民の意識の実態を明らかにした。
- (4) 調査期間 2015年8～9月

1.2. 調査項目

- (1) ハルビン市道外区と靖宇街の歴史と形成
道外区は、ハルビン市の成立以来およそ200年の歴史を有している。本研究は、道外区と靖宇街の成立と都市発展の歴史に関する内容に基づき、当該地域の住民はその歴史に対する意識の現状を考察した。
- (2) 靖宇街中国式西洋建築
靖宇街から生まれた中国式西洋建築は当時のハルビン市特有な都市生活文化を反映していた。筆者は靖宇街周辺の中国式西洋建築の由来、認知度と保存現状について、当該地域の住民を調査対象として、質問紙調査を行った。
- (3) 中国式西洋建築の装飾文様
靖宇街における中国式西洋建築には、大量な伝統建築装飾文様が施された。筆者は、107棟歴史建築に施された964点装飾文様から典型的な伝統装飾文様の事例を抽出して、その文様の認知度と意味性について、質問紙調査を行った。
- (4) 靖宇街における歴史文化資源
靖宇街周辺の中国式西洋建築は当該地域において重要な歴史文化資源と考えられる。当該地域の住民はそのような歴史文化資源に対して、どのような認識と評価があるかについて、筆者は靖宇街の住民を調査対象者として、その歴史文化資源の認知度と関心度に関する質問紙調査を行った。
- (5) 道外区靖宇街における文化活動
筆者は、道外区の靖宇街における文化活動の認知度、伝統的な地域文化の発展と継承とハルビン市文化遺産志望隊のような民間団体の文化活動の参加度について、質問紙調査を行った。

1.3. 回収結果

本論の靖宇街の中国式西洋建築に関する質問紙調査において、質問紙が148枚配付され、132枚が回収されたことが確認できる。質問紙の回収率は89.2%である。質問紙の回収率を通して、当該地域の住民は靖宇街の中国式西洋建築、その歴史文化資源と今後の文化資源に基づく文化活動について、高い関心を反映している。次項において、質問紙調査の事例を抽出して、当該地域における日々生活している住民の靖宇街の歴史文化資源に対する意識の現状を考察したい。

2. 質問紙調査結果

2. 1. 調査対象者の属性

表 1 調査対象者の属性

性別	男性 70人				女性 62人		
民族	漢族 124人		満族 6人		朝鮮族 2人		
年齢	20代 60人	30代 32人	40代 20人	50代 15人	60代 5人		
職業	学生 53人	非正規雇用者 25人	個人事業主 21人	定年退職者 15人	公務員 8人	サラリーマン 6人	教師 4人

表 1 のように、今回の道外区における靖宇街の周辺の中国式西洋建築に関する質問紙調査において、132 人の調査対象者をみると、男性 70 人、女性 62 人であり、それらの比率が 53%と 47%である。民族構成をみると、回答者が漢族 124 人、満族 6 人、朝鮮族 2 人であり、それらは 94%、5%と 1%を占める。対象者の年齢構成をみると、20 代 60 人、30 代 32 人、40 代 20 人、50 代 15 人と 60 代 5 人である。図 1 のように、それらの比率は 46%、24%、15%、11%と 4%である。調査対象者の職業構成をみると、学生 53 人、非正規雇用者 25 人、個人事業主 21 人、定年退職者 15 人、公務員 8 人、会社社員 6 人、教師 4 人 7 種類であり、それらが 40%、19%、16%、11%、6%、5%、3%を占める(図 2)。

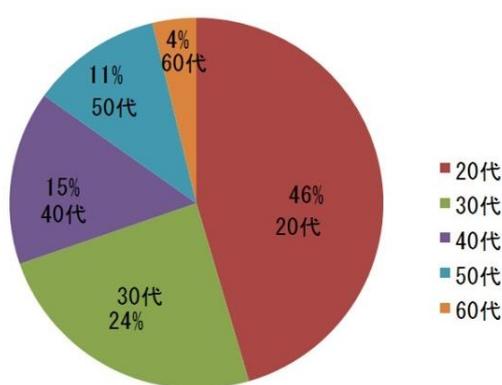


図 1 調査対象者の年齢構成

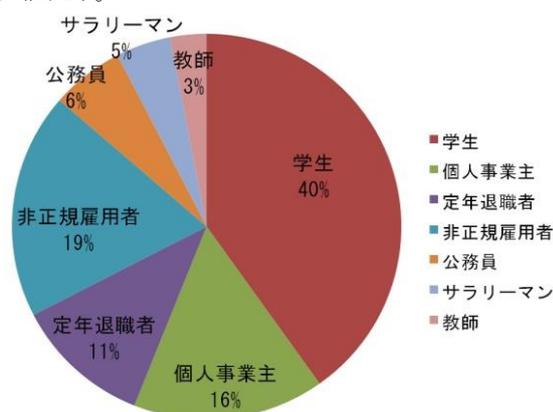


図 2 調査対象者の職業構成

表 2 調査対象者の属性のクロス表

	20代	30代	40代	50代	60代	
学生	36	16	0	0	0	52人
非正規雇用者	4	9	13	0	0	26人
個人事業者	10	6	5	0	0	21人
定年退職者	0	0	0	10	5	15人
公務員	3	1	2	2	0	8人
サラリーマン	6	0	0	0	0	6人
教師	1	0	0	3	0	4人
	60人	32人	20人	15人	5人	

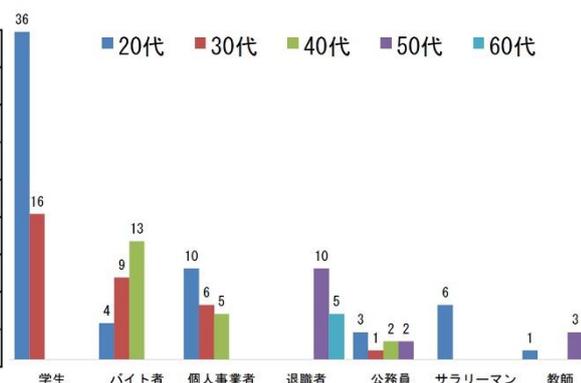


図 3 表 2 の調査対象者の属性図

そして、表 2 の属性クロス表により、伝統的な商店街とした靖宇街における回答者の属性をみると、20 代の学生が一番多く、30 代と 40 代の年齢層において、非正規雇用者と個人事業者が多く占めることがわかる。当該地域回答者の低年齢化、30 代のと 40 代の回答者が生活と職業の不安定性などの要因によって、次項の質問紙調査の結果に影響を与えたと考えられる。

3. 調査対象者の属性と当該地域における歴史建築と文化資源に関する意識調査の解析

本章の質問紙調査は、①ハルビン市道外区と靖宇街の形成と歴史、②靖宇街周辺の中国式西洋建築に関する保存現状、③中国伝統的装飾文様に関する認知度、④靖宇街における歴史文化資源に関する評価度、⑤靖宇街における文化活動についての5つの項目で構成された。筆者は調査結果をカイ2乗検定の分析方法を用いて、調査対象者の年齢、職業などの属性と当該地域における歴史建築と文化資源に関する意識の関連性について考察した。以下のように、それぞれの典型的な事例を抽出して解析したい。

3.1. 当該地域の歴史文化に関する認識調査

道外区はハルビン市における伝統的な中国人の生活居住区として、ハルビン市の設立以来、200年以上の歴史を有していた。本研究は、現在、当該地域に生活している住民を対象として道外区と靖宇街の歴史の理解度に関して、質問紙調査を行った。

①当該地域の歴史に関する認識調査

表3 年齢と道外区の歴史のクロス表

			ハルビン市道外区の形成歴史を知っているか？		合計
			知らない	知っている	
年齢	20代	度数	54	6	60
		年齢の%	90.0%	10.0%	100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2	
	30代	度数	28	4	32
		年齢の%	87.5%	12.5%	100.0%
		調整済み残差	1.6	-1.6	
	40代	度数	15	5	20
		年齢の%	75.0%	25.0%	100.0%
		調整済み残差	-.3	.3	
	50代	度数	4	11	15
		年齢の%	26.7%	73.3%	100.0%
		調整済み残差	-5.0	5.0	
	60代	度数	1	4	5
		年齢の%	20.0%	80.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.1	3.1	
合計	度数	102	30	132	
	年齢の%	77.3%	22.7%	100.0%	

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)			モンテカルロ有意確率 (片側)		
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗 尤度比	38.711 ^a 33.475	4 4	.000 .000	.000 ^b .000 ^b	0.000 0.000	.034 .034			
Fisher の直接法	32.730			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関 有効なケースの数	31.045 ^c 132	1	.000	.000 ^b	0.000	.034	.000 ^b	0.000	.034

- a. 4セル (40.0%) は期待度数が 5未満です。最小期待度数は 1.14です。
b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は 5.572 です。

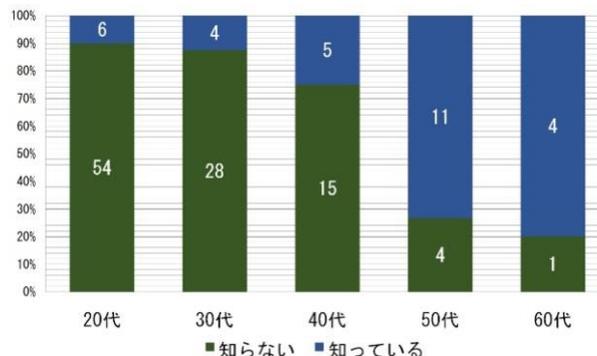


図4 表3の回答者の年齢別の棒グラフ

ハルビン市道外区と靖宇街の歴史に関する認識調査において、表3のように、カイ2乗検定の分析方法を用いて、対象者の「年齢」と「職業」と「ハルビン市道外区の形成歴史を知っているか」の関連性について考察した結果、有意差が認められた(フィッシャーの正確確率検定を行

い、 $p < 0.05$)。すなわち調査対象者の属性と当該地域の歴史に関する認識には関連性があるといえる。たとえば、132人の回答者のうち、「知っている」は30人、「知らない」は102人である。それらは22.7%、77.3%を占める。年齢層をみると、具体的に調整済み残差が+1.96以上の20代、30代、50代、60代に強い正の関連性があることが判る。図4のように、20代の60人の中に54人が当該地域の歴史を知っておらず、90%を占める。そして、87.5%の30代も知らないと回答した。逆に、73.3%の50代と80%の60代の対象者がよく知っていると答えている。表4の職業をみると、調整済み残差が+1.96以上の学生と退職者が強い関連性が表れる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図5のように、52人の学生の中に、90.4%の対象者が知らないと回答した。86.7%の高齢退職者は当該地域の歴史をよく知っていることが判明できる。

表4 職業と道外区の歴史のクロス表

		ハルビン市道外区の形成歴史を知っているか?		合計
		知らない	知っている	
学生	度数	47	5	52
	職業の%	90.4%	9.6%	100.0%
	調整済み残差	2.9	-2.9	
非正規雇用者	度数	22	4	26
	職業の%	84.6%	15.4%	100.0%
	調整済み残差	1.0	-1.0	
教師	度数	3	1	4
	職業の%	75.0%	25.0%	100.0%
	調整済み残差	-1	.1	
公務員	度数	5	3	8
	職業の%	62.5%	37.5%	100.0%
	調整済み残差	-1.0	1.0	
退職者	度数	2	13	15
	職業の%	13.3%	86.7%	100.0%
	調整済み残差	-6.3	6.3	
個人事業者	度数	18	3	21
	職業の%	85.7%	14.3%	100.0%
	調整済み残差	1.0	-1.0	
サラリーマン	度数	5	1	6
	職業の%	83.3%	16.7%	100.0%
	調整済み残差	4	-4	
合計	度数	102	30	132
	総和の%	77.3%	22.7%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	42.791 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	36.752	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	35.712			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	8.175 ^c	1	.004	.000 ^b	0.000	.034	.000 ^b	.034	
有効なケースの数	132								

a. 7セル (50.0%) は期待度数が 5未満です。最小期待度数は .91です。
b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は 2.859 です。

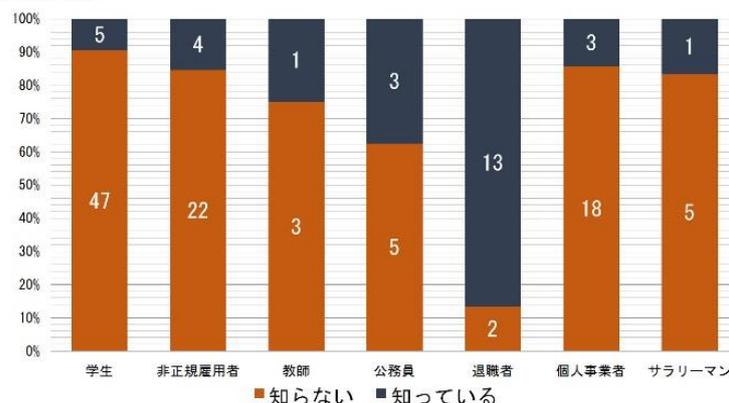


図5 表4の回答者の職業別の棒グラフ

「道外区の靖宇街の歴史を知っているか」に関して、「知っている」は78人、「知らない」は54人である。カイ2乗検定を用いて、対象者の属性と「道外区靖宇街の歴史を知っているか」の関連性について考察した結果、有意差が認められた(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。表5の年齢層をみると、調整済み残差が+1.96以上の20代、40代と50代が強い関連

性が表れる。図6のように、20代の68.3%が靖宇街の歴史を知らない。しかしながら、40代の95%と50代の全員が靖宇街の歴史を知っていると回答した。靖宇街における20代の若い世代の大部分が当該地域の歴史を全く知らないことが考察された。

表5 年齢と靖宇街の歴史のクロス表

		道外区靖宇街の歴史を知っているか?		合計	
		知らない	知っている		
年齢	20代	度数	41	19	60
		年齢の%	68.3%	31.7%	100.0%
		調整済み残差	5.9	-5.9	
	30代	度数	11	21	32
		年齢の%	34.4%	65.6%	100.0%
		調整済み残差	-.9	.9	
	40代	度数	1	19	20
		年齢の%	5.0%	95.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.5	3.5	
	50代	度数	0	15	15
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.4	3.4	
60代	度数	1	4	5	
	年齢の%	20.0%	80.0%	100.0%	
	調整済み残差	-1.0	1.0		
合計		度数	54	78	132
		年齢の%	40.9%	59.1%	100.0%

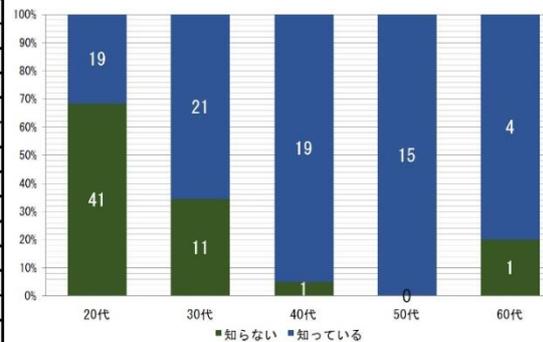


図6 表5の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	41.190 ^a	4	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	49.555	4	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	44.566			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	33.867 ^c	1	.000	.000 ^b	0.000	.034	.000 ^b	0.000	
有効なケースの数	132								

- a. 2セル (20.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.05です。
 b. 初期シード 1347595139 をとらせた 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は 5.819 です。

表6 職業と靖宇街の歴史のクロス表

		道外区靖宇街の歴史を知っているか?		合計	
		知らない	知っている		
職業	学生	度数	27	25	52
		職業の%	51.9%	48.1%	100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.1	
	非正規雇用者	度数	6	20	26
		職業の%	23.1%	76.9%	100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1	
	教師	度数	0	4	4
		職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	1.7	
	公務員	度数	1	7	8
		職業の%	12.5%	87.5%	100.0%
		調整済み残差	-1.7	1.7	
退職者	度数	1	14	15	
	職業の%	6.7%	93.3%	100.0%	
	調整済み残差	-2.9	2.9		
個人事業者	度数	14	7	21	
	職業の%	66.7%	33.3%	100.0%	
	調整済み残差	2.6	-2.6		
サラリーマン	度数	5	1	6	
	職業の%	83.3%	16.7%	100.0%	
	調整済み残差	2.2	-2.2		
合計		度数	54	78	132
		総和の%	40.9%	59.1%	100.0%



図7 表6の回答者の職業別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	28.976 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	32.985	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	28.675			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	.347 ^c	1	.556	.477 ^b	.365	.589	.212 ^b	.120	
有効なケースの数	132								

- a. 6セル (42.9%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.64です。
 b. 初期シード 897978343 をとらせた 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は -.589 です。

また、表6を通して、学生、非正規雇用者、退職者、個人事業者とサラリーマンは調整済み残差が+1.96以上になり、その問題との関連性が強くなるということがわかる(フィッシャーの正確

確率検定を行い、 $p < 0.05$)。たとえば、図7のように、51.9%の学生、66.7%の個人事業者と83.3%のサラリーマンは靖宇街の形成の歴史を知らない。しかしながら、公務員、非正規雇用者と大部分の退職者と教師全員は伝統的な商店街とした靖宇街の歴史をよく知っていることが考察された。

総じて、50代と60代の高齢世代が道外区の形成の歴史、ハルビン市伝統的な商店街とした靖宇街の形成の歴史をよく理解している。調査対象者の中に、20代と30代の人数が一番多く、若い世代は当該地域の形成歴史に関することが相対的に理解度が低くなる。職業を見ると、教師、定年退職者は当該地域の歴史をよく理解している。公務員はその歴史の形成を少々理解していることがわかる。若い世代の学生、個人事業者と非正規雇用者は当該地域の歴史に対する理解度が非常に低いことが確認された。

要するに、当該地域に生活している住民は普遍的に道外区と靖宇街の形成の歴史に関する理解度が低い。調査対象者の教育水準、仕事環境と専門知識によって、道外区の歴史に関する理解度も異なることがわかる。近年、ハルビン市の都市開発の進展とともに、新興の居住地域の開発より旧市街区であった道外区と靖宇街の注目度がだんだん低くなっている。伝統産業の不況と商店街の衰退とともに、今日の靖宇街において、非正規雇用者と個人事業者に基づく低所得の生活者が多い。そして、道外区政府は伝統的な旧まちの歴史文化の継承について、具体的な政策が乏しく、宣伝不足などの問題も浮かび上がった。それゆえ、道外区の靖宇街に居住している住民は当該地域の歴史とのつながりが分断されていたことが推察される。

②当該地域の伝統的建築文化に関する意識調査

今回の質問紙調査を通して、靖宇街周辺の歴史建築の中国伝統装飾文様に対する認知度に関する調査も行った。

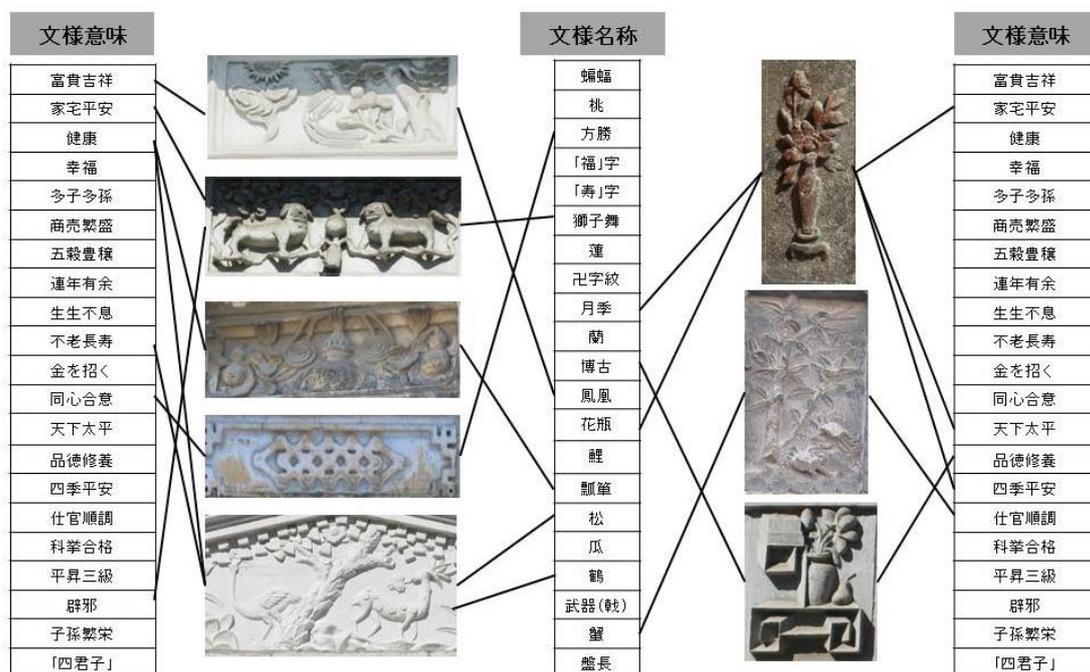


図8 中国伝統装飾文様に関する質問紙調査(事例)

図8のように、調査対象者がそれぞれの装飾文様を写真によってその建築装飾文様の名称とその意味を判断して選んだ。図9のように、132人の回答者のなかで、「その歴史建築の装飾文様の名称を知っているか？」に対して、「知っている」は115人、「知らない」は17人である。それらは87%と13%を占める。しかしながら、「その装飾文様の意味を知っているか？」については、「知っている」49人、「知らない」83人であり、それぞれ37%と63%を占める。大部分

の調査対象者は靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の名称に対する認知度が高く、それぞれの装飾文様の名称と造形を判別できる。しかしながら、60%以上の対象者は、その装飾文様の意味をきちんと説明できないことも明らかになった。



図9 装飾文様の名称と意味の認知度

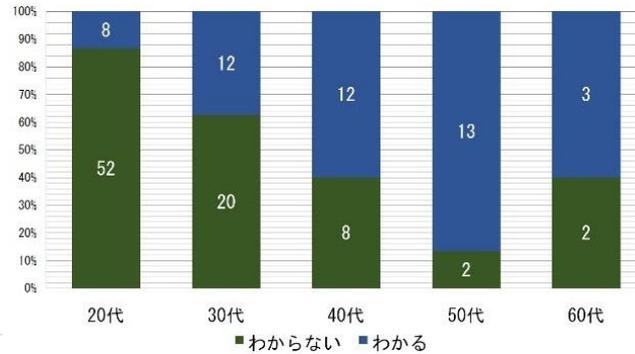


図10 表7の回答者の年齢別の棒グラフ

筆者は、その質問紙調査の結果をカイ2乗検定の分析方法を用いて、対象者の年齢、職業と「歴史建築装飾文様の意味」の関連性について考察した（フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$ ）。まず、表7のように、その対象者の年齢層をみると、具体的に調整済み残差が+1.96以上の20代、40代、50代がその問題の間に強い正の関連性があることが判る（フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$ ）。たとえば、図10のように、20代の中で、52人が当該地域の歴史建築の文様の意味を知っておらず、86.7%を占める。一方、40代の60%と50代の86.7%の調査対象者はよく知っていることがわかる。

表7 年齢と装飾文様の意味のクロス表

		歴史建築装飾文様の意味		合計	
		わからない	わかる		
年齢	20代	度数	52	8	60
		年齢の%	86.7%	13.3%	100.0%
		調整済み残差	5.0	-5.0	
	30代	度数	20	12	32
		年齢の%	62.5%	37.5%	100.0%
		調整済み残差	-2	.2	
	40代	度数	8	12	20
		年齢の%	40.0%	60.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	2.4	
	50代	度数	2	13	15
		年齢の%	13.3%	86.7%	100.0%
		調整済み残差	-4.3	4.3	
60代	度数	2	3	5	
	年齢の%	40.0%	60.0%	100.0%	
	調整済み残差	-1.1	1.1		
合計		度数	84	48	132
		年齢の%	63.6%	36.4%	100.0%

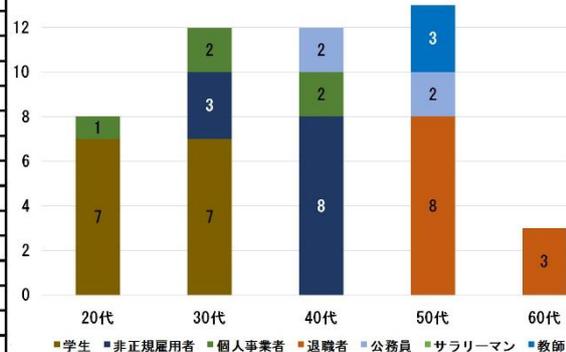


図11 表7の回答者の年齢別の職業構成

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)			モンテカルロ有意確率 (片側)		
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ2乗	36.208 ^a	4	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	38.155	4	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	37.102			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関 有効なケースの数	32.082 ^c 132	1	.000	.000 ^b	0.000	.034	.000 ^b	0.000	.034

a. 2セル (20.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.82です。
 b. 初期シード 1347595139 をともなった132サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は5.664です。

そして、図11のような靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の意味を理解する回答者の年齢をみると、20代と30代の学生が多い。40代の回答者において、非正規雇用者が多く、50代と60代の退職者は歴史建築に施された装飾文様の意味をわかることが考察した。

表8 職業と装飾文様の意味のクロス表

		歴史建築装飾文様の意味		合計	
		わからない	わかる		
職業	学生	度数	38	14	52
		職業の%	73.1%	26.9%	100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8	
	非正規雇用者	度数	15	11	26
		職業の%	57.7%	42.3%	100.0%
		調整済み残差	-.7	.7	
	教師	度数	1	3	4
		職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.6	1.6	
	公務員	度数	4	4	8
		職業の%	50.0%	50.0%	100.0%
		調整済み残差	-.8	.8	
	退職者	度数	4	11	15
		職業の%	26.7%	73.3%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	3.2	
	個人事業者	度数	16	5	21
		職業の%	76.2%	23.8%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3	
サラリーマン	度数	6	0	6	
	職業の%	100.0%	0.0%	100.0%	
	調整済み残差	1.9	-1.9		
合計		度数	84	48	132
		総和の%	63.6%	36.4%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	19.341 ^a	6	.004	.008 ^b	0.000	.027			
尤度比	21.003	6	.002	.008 ^b	0.000	.027			
Fisher の直接法	18.531			.008 ^b	0.000	.027			
線型と線型による連関	.107 ^c	1	.744	.795 ^b	.705	.886	.455 ^b	.343 .566	
有効なケースの数	132								

a. 5セル (35.7%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.45です。
 b. 初期シード 897978343 をともなった132サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は.326です。

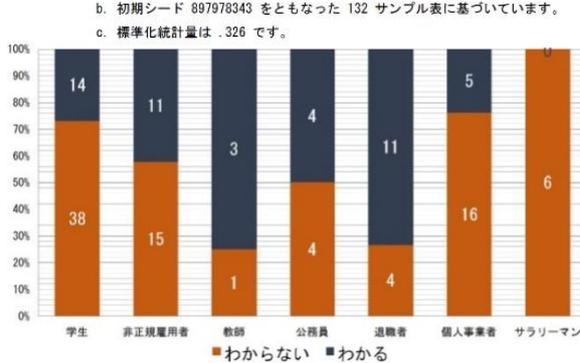


図12 表8の回答者の職業別の棒グラフ

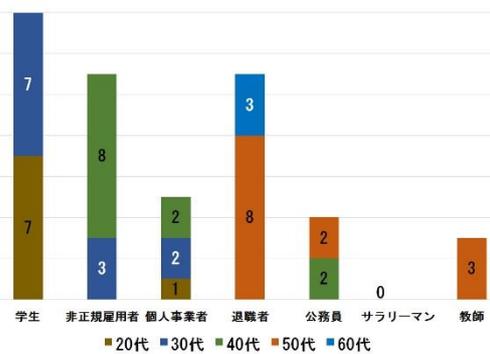


図13 表8の回答者の職業別の年齢構成

表8の職業をみると、調整済み残差が+1.96以上の退職者が強い関連性が表れる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図12の柱形図で示されるように、高齢の退職者と教師が当該地域の歴史建築文様の意味を知っていることが判明した。学生、非正規雇用者、個人事業者とサラリーマンは、その歴史建築に施された装飾文様の意味を全く知らない人が多い事実も考察された。学生の中に、20代と30代が多く、非正規雇用者の中に、40代の回答者がその装飾文様の意味をよく理解することが判明できる。また、大部分の退職者と教師は50代の回答者であったことも考察された(図13)。

要するに、中国の伝統的な建築装飾文様は中国吉祥文化の一部として、中国人の日常生活に溶け込んでいるということである。もちろん、各種各様な動植物の造形と神仙霊獣などの吉祥文様も中国人の心の中に強いイメージを残している。しかしながら、中国の伝統的な生活文化と生活習俗の消失とともに、それぞれの伝統装飾文様の意味も急速に失われている。対象者の年齢が下がるほど、その装飾文様の意味に対する理解度が低くなっている。

今回の調査対象者には、50代、60代の高齢の退職者と教師が非常に多い。彼らは中国の伝統的な生活文化に関する理解度が高い。大部分の40代の対象者は非正規雇用者である。彼らは教育水準と学歴が低いことは一つの重要な要因と思われた。30代の年齢層において、個人事業者と公務員が多い。靖宇街の歴史と中国伝統的建築文様の名称を大体理解したが、その装飾文様の意味、中国伝統的生活文化に対する理解度が低い。20代の学生が最も多く、彼らはインターネットと教科書を通して、そんな伝統的な動植物の造形を判別できたが、その装飾文

様がどのような意匠と文化寓意を持っているかに関する知識が非常に少なくなっている。現在、ハルビン市の学校の義務教育において、科学知識の伝授、健康成長などの教育政策の推進とともに、学生に向けた当該地域の歴史と中国伝統装飾文化に関する教育手段は非常に不足していると思われる。それは当該地域の若い世代のその歴史建築に施された装飾文様の意味に関する認知度が低い重要な要因と考えられる。

③当該地域の中国式西洋建築とその歴史建築の保存に関する意識調査

靖宇街における中国式西洋建築とは、日本の建築学者であった西澤康彦により、その著『図説「満洲」都市物語』において、「中華バロック」という建築スタイルとして初めて提出されたものである。その後、靖宇街周辺の歴史建築は当該地域における典型的な中国式西洋建築のスタイルとして広範に認知された。筆者は、靖宇街周辺の質問紙調査を通して、靖宇街周辺の中国式西洋建築の認知度とその歴史建築の保存に関する意識、調査対象者の「年齢」、「職業」との関連性について考察した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。すなわち調査対象者の属性と当該地域の歴史建築に関する意識には関連性があるといえる。

表9 年齢と中国式西洋建築に関するクロス表

		靖宇街の中国式西洋建築を知っているか?		合計	
		知らない	知っている		
年齢	20代	度数	33	27	60
		年齢の%	55.0%	45.0%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3	
	30代	度数	9	23	32
		年齢の%	28.1%	71.9%	100.0%
		調整済み残差	-1.5	1.5	
	40代	度数	5	15	20
		年齢の%	25.0%	75.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4	
	50代	度数	2	13	15
		年齢の%	13.3%	86.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	2.2	
	60代	度数	3	2	5
		年齢の%	60.0%	40.0%	100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0	
合計	度数	52	80	132	
	年齢の%	39.4%	60.6%	100.0%	

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ ² 乗	14.714 ^a	4	.005	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	15.401	4	.004	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	14.559			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	6.477 ^c	1	.011	.008 ^b	0.000	.027	.000 ^b	0.000	
有効なケースの数	132								

- a. 2セル (20.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.97です。
b. 初期シード 1347595139 をともなった132サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は2.545です。

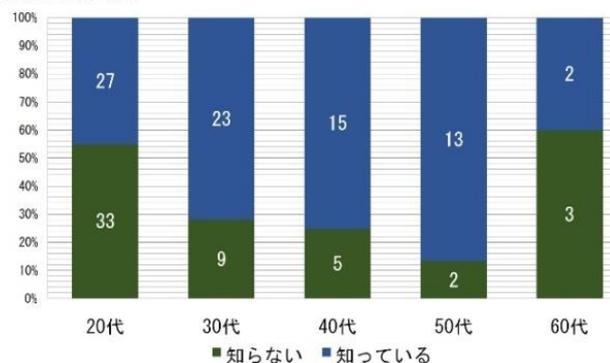


図14 表9の回答者の年齢別の棒グラフ

表9のように、「靖宇街周辺の中国式西洋建築を知っているか」の質問について、132人の対象者で、「知っている」は80人、「知らない」は52人であった。それらは60.6%と39.4%を占める。具体的に調整済み残差が+1.96以上の20代、50代はその問題と強い関連性があったことがわかる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。たとえば、図14のように、20代

の60人中33人は靖宇街の中国式西洋建築を知っておらず、55%を占める。50代の86.7%の対象者が「知っている」を答えた。そして、30代と40代の回答者も靖宇街中国式西洋建築を知っていることが判明した。

表10 職業と中国式西洋建築に関するクロス表

		靖宇街の中国式西洋建築を知っているか?		合計	
		知らない	知っている		
職業	学生	度数	18	34	52
		職業の%	34.6%	65.4%	100.0%
		調整済み残差	-.9	.9	
	非正規雇用者	度数	13	13	26
		職業の%	50.0%	50.0%	100.0%
		調整済み残差	1.2	-1.2	
	教師	度数	0	4	4
		職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.6	1.6	
	公務員	度数	0	8	8
		職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	2.4	
	退職者	度数	5	10	15
		職業の%	33.3%	66.7%	100.0%
		調整済み残差	-.5	.5	
	個人事業者	度数	12	9	21
		職業の%	57.1%	42.9%	100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8	
サラリーマン	度数	4	2	6	
	職業の%	66.7%	33.3%	100.0%	
	調整済み残差	1.4	-1.4		
合計	度数	52	80	132	
	総和の%	39.4%	60.6%	100.0%	

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	14.393 ^a	6	.026	.015 ^b	0.000	.043			
尤度比	18.463	6	.005	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	14.247			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	1.587 ^c	1	.208	.189 ^b	.102	.277	.083 ^b	.021	
有効なケースの数	132								

a. 6セル (42.9%) は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.58です。
 b. 初期シード 897978343 をともなった132サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は-1.260です。

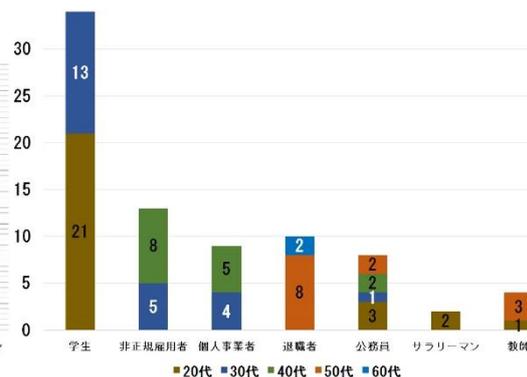
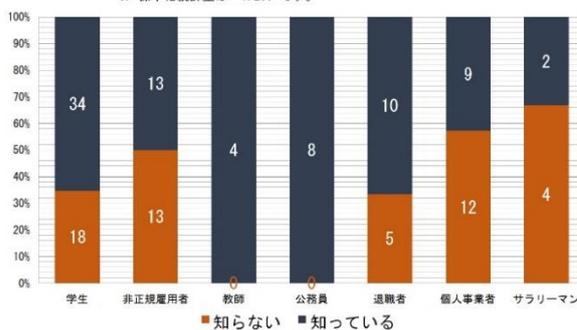


図15 表10の回答者の職業別の棒グラフ

図16 表10の回答者の職業別の年齢構成

表10の職業をみると、調整済み残差が+1.96以上の公務員の全員が靖宇街の中国式西洋建築を知っていることがわかる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図15の柱形図からは、学生の半分以上と退職者、教師の全員と非正規雇用者の半分がその中国式西洋建築を知っていたことがわかる。図16の職業の年齢構成をみると、学生の中に、20代が最も多い。また、30代より40代の非正規雇用者と個人事業者が中国式西洋建築を知っていることがわかる。退職者の中に、50代8人、60代2人であったことを把握した。そして、教師の中に、20代と50代の回答者が「知っている」と答えたことが判明した。

そして、「その歴史建築の保存と活用を知っているか?」について、30代、50代と60代はその問題との強い関連性がみられる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。その問題に対して、117人の対象者が「知らない」と答えて、88.6%を占めることがわかる(表11)。図17で示すように、20代の53人、30代の全員の32人と40代の18人が「知らない」と回答した。50代の26.7%4人と60代2人は「知っている」と答えたが、全体を見ると、大部分の当該地域の住民はその歴史建築の保存と活用に関する知識と認知度が低いと考察された。

表12の職業をみると、学生と教師、公務員、退職者はその問題と強い関連性がある(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図18の柱形図を通して、学生の95%以上と非正規

表 11 年齢と歴史建築の保存に関するクロス表

		歴史建築の保存と活用を知っているか？		合計	
		知らない	知っている		
年齢	20代	度数	53	7	60
		年齢の%	88.3%	11.7%	100.0%
		調整済み残差	-.1	.1	
	30代	度数	32	0	32
		年齢の%	100.0%	0.0%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3	
	40代	度数	18	2	20
		年齢の%	90.0%	10.0%	100.0%
		調整済み残差	.2	-.2	
	50代	度数	11	4	15
		年齢の%	73.3%	26.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.0	2.0	
	60代	度数	3	2	5
		年齢の%	60.0%	40.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1	
	合計	度数	117	15	132
		年齢の%	88.6%	11.4%	100.0%

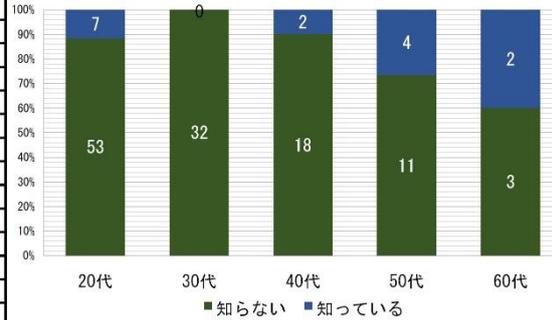


図 17 表 11 の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)	
				有意確率	99% 信頼区間 下限 上限	有意確率	99% 信頼区間 下限 上限
Pearson のカイ 2 乗	11.703 ^a	4	.020	.030 ^b	0.000 .069		
尤度比	13.111	4	.011	.015 ^b	0.000 .043		
Fisher の直接法	11.792			.015 ^b	0.000 .043		
線型と線型による連関	3.790 ^c	1	.052	.068 ^b	.012 .125	.045 ^b	0.000 .092
有効なケースの数	132						

- a. 5 セル (50.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .57 です。
 b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は 1.947 です。

雇用者、サラリーマン全員はその歴史建築の保存と活用に関する概念が判らないことが判明した。教師の中で、3人が建築分野の先生であったため、その建築の保存と活用を詳しく説明できる。しかしながら、公務員の37.5%と退職者の26.7%が「知っている」と回答したが、その対比率が低いのは事実である。

表 12 職業と歴史建築の保存に関するクロス表

		歴史建築の保存と活用を知っているか？		合計
		知らない	知っている	
学生	度数	51	1	52
	職業の%	98.1%	1.9%	100.0%
	調整済み残差	2.8	-2.8	
非正規雇用者	度数	25	1	26
	職業の%	96.2%	3.8%	100.0%
	調整済み残差	1.3	-1.3	
教師	度数	1	3	4
	職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	-4.1	4.1	
公務員	度数	5	3	8
	職業の%	62.5%	37.5%	100.0%
	調整済み残差	-2.4	2.4	
退職者	度数	11	4	15
	職業の%	73.3%	26.7%	100.0%
	調整済み残差	-2.0	2.0	
個人事業者	度数	18	3	21
	職業の%	85.7%	14.3%	100.0%
	調整済み残差	-.5	.5	
サラリーマン	度数	6	0	6
	職業の%	100.0%	0.0%	100.0%
	調整済み残差	.9	-.9	
合計	度数	117	15	132
	総和の%	88.6%	11.4%	100.0%

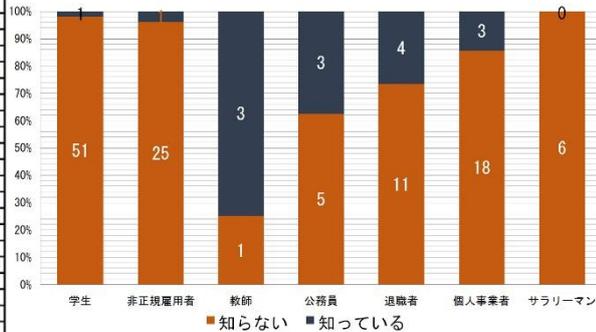


図 18 表 12 の回答者の職業別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)	
				有意確率	99% 信頼区間 下限 上限	有意確率	99% 信頼区間 下限 上限
Pearson のカイ 2 乗	32.002 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000 .034		
尤度比	25.403	6	.000	.000 ^b	0.000 .034		
Fisher の直接法	24.376			.000 ^b	0.000 .034		
線型と線型による連関	5.182 ^c	1	.023	.023 ^b	0.000 .056	.000 ^b	0.000 .034
有効なケースの数	132						

- a. 7 セル (50.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .45 です。
 b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は 2.276 です。

総じて、表 9 と表 10 により、靖宇街の若い世代は当該地域の歴史建築を知らない人が最も多い。なぜなら、前項の質問を参照してわかるように、若い世代は道外区の歴史と伝統的商店街であった靖宇街についての理解度が低いため、靖宇街周辺の中国式西洋建築に対する認知度

が自ずと低いと考えられる。しかしながら、調査対象者の職業をみると、意外に 65%の学生は靖宇街の中国式西洋建築を知っていることが確認された。近年、学校の教育と新聞、インターネット、ウェイシンなどの SNS のソフトを広範に利用するために、学生の若い世代がその靖宇街の歴史建築スタイルについて多少理解していると考えられる。しかしながら、個人事業者と非正規雇用者は前者より当該地域の歴史文化と歴史建築に関する知識に触れる機会が少ないと思われる。

ハルビン市歴史建築の保存と活用に関して、相対的に建築分野に関する知識を詳しく理解する専門家が少ない。それゆえに、調査対象者はその問題に対する認知度が低いと考えられる。大量の歴史建築物が残された旧街並みにおいて、当該地域の住民が、どのように代々居住している歴史建築を保存し、それらの貴重な歴史文化資源を再認識するかということは非常に急切な問題である。その歴史建築を十分に利用しながら歴史建築の元々の姿を保つことは、決して政府の責任だけではなく、当該地域の生活者の協力も不可欠である。一方、彼らはその歴史建築の使用者であり、彼らもその歴史建築の保護者と伝承者になるべきと考えられる。

3.2. 当該地域の文化資源に関する意識調査

前項において、当該地域の住民の形成の歴史と歴史建築に関する意識を考察した。本節においては、質問紙調査の結果を通して、調査対象者の当該地域の文化資源に関する意識を分析したい。その結果は以下の通りである。

①当該地域の文化資源の評価度に関する意識調査

筆者は、質問紙調査を通して、当該地域の文化資源の評価度に関する意識調査を行った。まず、「靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか?」の問題に対して、103 人が「重要」、29 人が「重要じゃない」と回答した。そして、カイ 2 乗検定の分析方法を用いて、対象者の属性とその問題の関連性について考察した結果、有意差が認められた(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。すなわち調査対象者の属性と当該地域の歴史文化資源に関する評価度には関連性があるといえる。

表 13 職業と文化資源の評価度のクロス表

		靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか?		合計
		重要じゃない	重要	
学生	度数	5	47	52
	職業の%	9.6%	90.4%	100.0%
	調整済み残差	-2.8	2.8	
非正規雇用者	度数	10	16	26
	職業の%	38.5%	61.5%	100.0%
	調整済み残差	2.3	-2.3	
教師	度数	0	4	4
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	1.1	
公務員	度数	2	6	8
	職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	.2	-.2	
退職者	度数	0	15	15
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	2.2	
個人事業者	度数	12	9	21
	職業の%	57.1%	42.9%	100.0%
	調整済み残差	4.2	-4.2	
サラリーマン	度数	0	6	6
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.3	1.3	
合計	度数	29	103	132
	総和の%	22.0%	78.0%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	30.991 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	33.755	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	27.898			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	3.598 ^c	1	.058	.045 ^b	0.000	.092	.023 ^b	0.000	.056
有効なケースの数	132								

a. 7 セル (50.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .88 です。
b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は -1.897 です。

まず、表 13 の職業をみると、調整済み残差が+1.96 以上のは学生、非正規雇用者、退職者と個人事業者がある。図 19 のように、その問題に対して、教師、退職者とサラリーマンは靖

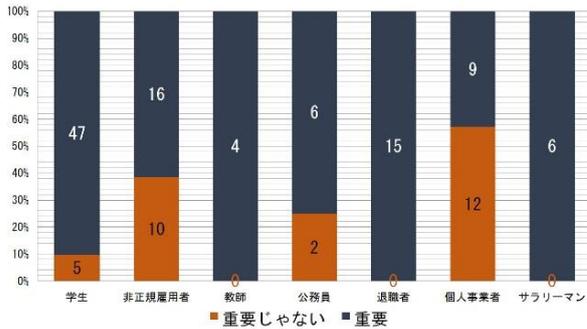


図 19 表 13 の回答者の職業別の棒グラフ

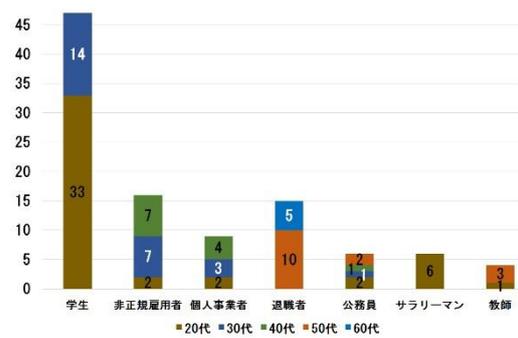


図 20 表 13 の回答者の職業別の年齢構成

宇街の歴史建築を重要な文化資源と回答した。52 人の学生の中で、47 人が重要と回答して、全体の 90.4%を占める。非正規雇用者の 61.5%と公務員の 75%もその歴史建築は重要な文化資源であるという意識を表した。また、図 20 の職業の年齢構成をみると、20 代の学生とサラリーマンが靖宇街の歴史建築は重要な文化資源という意識を表した。非正規雇用者と個人事業者の中に、30 代の若い世代と 40 代の回答者が多い。全員の 50 代と 60 代の退職者は「重要な文化資源」と回答した。

総じて、表 13 によって、「当該地域の住民は文化資源は何でしょうか」と「その歴史建築が重要な文化資源であるか」について異議があった。その歴史建築はほんとうに「価値」があるかという疑問を持っている住民が少ないとは言えない。非正規雇用者と個人事業者のような一部の住民らは、資源とはもとの金銭、水、電力と政府からの政策であると思った。

我々の生活文化と居住している歴史建築も重要な文化資源だと考えられる。靖宇街周辺の中国西洋建築ような歴史建築から、その時期当該地域住民らはそれぞれの装飾文様を通して、伝統的な中国建築文化を継承しながら、能動的に海外建築文化を吸収して、特有な地域建築文化を創造してきた。今日まで残されてきたさまざまな歴史建築とそれらに施された装飾文様は、伝統工芸と宗教習俗と同じ、重要な文化価値と歴史価値を持っている。都市化が急速的に進んでいる今日において、外来文化の衝撃とともに、地域の歴史文化資源を再認識することはさらに重要になる。現在、その文化資源を利用して、共有な生活文化価値観を追求することは当該地域における一番喫緊の要務と思われる。

②当該地域の文化資源関心度に関する意識調査

表 14 年齢と文化資源の関心度のクロス表

		靖宇街の歴史文化資源について関心があるか？		合計	
		関心しない	関心する		
年齢	20代	度数	21	39	60
		年齢の%	35.0%	65.0%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-1.4	
	30代	度数	6	26	32
		年齢の%	18.8%	81.3%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4	
	40代	度数	11	9	20
		年齢の%	55.0%	45.0%	100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8	
	50代	度数	0	15	15
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.6	2.6	
	60代	度数	0	5	5
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4	
	合計	度数	38	94	132
		年齢の%	28.8%	71.2%	100.0%

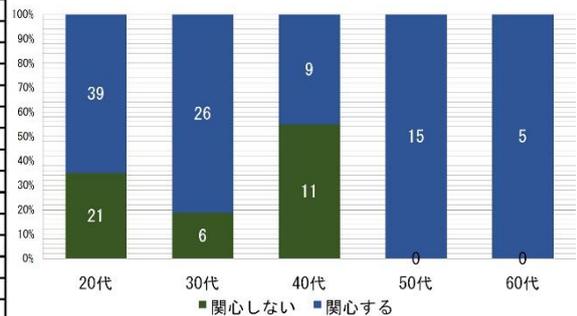


図 21 表 14 の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)	
				有意確率	99% 信頼区間	有意確率	99% 信頼区間
Pearson のカイ 2 乗	17.490 ^a	4	.002	.000 ^b	0.000	.034	
尤度比	22.360	4	.000	.000 ^b	0.000	.034	
Fisher の直接法	17.590			.000 ^b	0.000	.034	
線型と線型による連関 有効なケースの数	3.428 ^c 132	1	.064	.068 ^b	.012	.125	.038 ^b 0.000

- a. 3 セル (30.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.44 です。
 b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は 1.851 です。

その「靖宇街の歴史文化資源について関心があるか？」に対して、表 14 のように、94 人が「関心がある」、38 人が「関心がない」と答えた。図 21 の調査対象者の年齢の棒グラフをみると、20 代の 65%、30 代の 81.3%、50 代と 60 代の全員は当該地域の歴史文化資源について非常に関心があるという意識を表した。しかしながら、40 代の半分以上の調査対象者は「関心がない」と答えた。

また、表 15 の職業をみると、52 人の学生のなかの 40 人が「関心がある」と答えて、76.9% を占める。半分以上の非正規雇用者とサラリーマンが積極的に当該地域の歴史文化資源への関心を表して、57.7%と 83.3%を占める。21 人の個人事業者の中で、14 人が「関心がない」と回答して、66.7%を占めることがわかる(図 22)。教師、公務員と退職者の全員は靖宇街の歴史文化資源への関心度が高まっていることが判明した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図 23 の年齢構成をみると、40 人の学生の中に、20 代は 24 人、30 代は 16 人である。非正規雇用者の中に、20 代の 4 人、30 代の 5 人と 40 代の 6 人である。退職者において、50 代の 10 人と 60 代の 5 人が「関心がある」と答えた。サラリーマンの 5 人は全員 20 代の回答者である。

表 15 職業と文化資源の関心度のクロス表

		靖宇街の歴史文化資源について関心があるか?		合計
		関心がない	関心する	
学生	度数	12	40	52
	職業の%	23.1%	76.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	1.2	
非正規雇用者	度数	11	15	26
	職業の%	42.3%	57.7%	100.0%
	調整済み残差	1.7	-1.7	
教師	度数	0	4	4
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.3	1.3	
公務員	度数	0	8	8
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.9	1.9	
退職者	度数	0	15	15
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.6	2.6	
個人事業者	度数	14	7	21
	職業の%	66.7%	33.3%	100.0%
	調整済み残差	4.2	-4.2	
サラリーマン	度数	1	5	6
	職業の%	16.7%	83.3%	100.0%
	調整済み残差	-.7	.7	
合計	度数	38	94	132
	総和の%	28.8%	71.2%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	29.188 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	34.716	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	27.730			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	1.277 ^c	1	.259	.258 ^b	.160	.356	.136 ^b	.059	
有効なケースの数	132								

- a. 6 セル (42.9%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.15 です。
- b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
- c. 標準化統計量は -1.130 です。

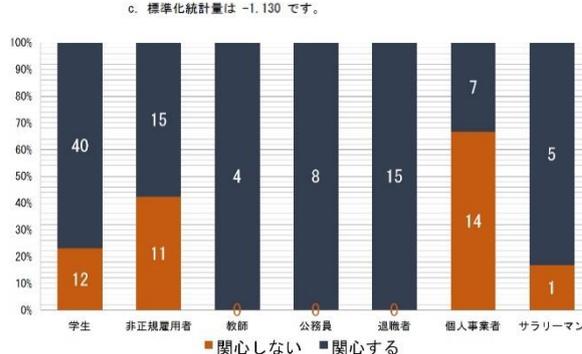


図 22 表 15 の回答者の職業別の棒グラフ

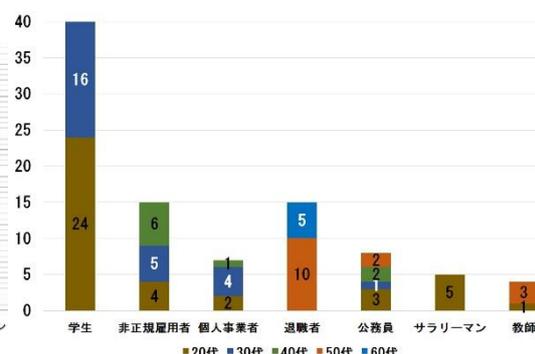


図 23 表 15 の回答者の職業別の年齢構成

その調査結果によって、当該地域の住民は地域文化資源に対する強い関心を持っていることがわかる。前項の意識調査の結果と同様に、大部分の調査対象者は靖宇街周辺の歴史建築が一つの重要な文化資源として再認識するべきと思われる。この分析表により、教師、公務員、退職者と若い世代の学生はどのようにその文化資源を利用するかについて高い関心を持ってい

ることがわかる。同時、個人事業者、一部の非正規雇用者は靖宇街の歴史文化資源に関して関心が低いことも確認された。

③文化資源に基づくまちづくりには、どのような意義があるかに関する意識調査

伝統的商店街である靖宇街の歴史文化資源を再利用することはまちづくりには、非常に重要なことと思われた。今回の靖宇街周辺の質問紙調査を通して、将来、当該地域の文化資源に基づくまちづくりには、どのような意義があるかに関する意識調査も行った。具体的には、その中に「まちの魅力の向上・観光振興」、「歴史・文化の継承」、「まちの誇りと愛着の高まり」、「にぎわいの創出・地域活性化」の4つの選択が含まれる。そして、カイ2乗検定の分析方法を用いて、調査対象者の属性とその問題の関連性についてを考察し、有意差が認められた事例を抽出して分析した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。具体的には、対象者の年齢と「歴史・文化の伝承」、対象者の職業と「賑わいの創出・地域活性化」の間に強い関連性がある。

表16 年齢と歴史文化の伝承に関するクロス表

		歴史・文化の伝承		合計		
		意義がない	意義がある			
年齢	20代	度数	20	40	60	
		年齢の%	33.3%	66.7%	100.0%	
		調整済み残差	3.6	-3.6		
	30代	度数	2	30	32	
		年齢の%	6.3%	93.8%	100.0%	
		調整済み残差	-2.2	2.2		
	40代	度数	2	18	20	
		年齢の%	10.0%	90.0%	100.0%	
		調整済み残差	-1.2	1.2		
	50代	度数	0	15	15	
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%	
		調整済み残差	-2.0	2.0		
	60代	度数	2	3	5	
		年齢の%	40.0%	60.0%	100.0%	
		調整済み残差	1.2	-1.2		
	合計		度数	26	106	132
			年齢の%	19.7%	80.3%	100.0%

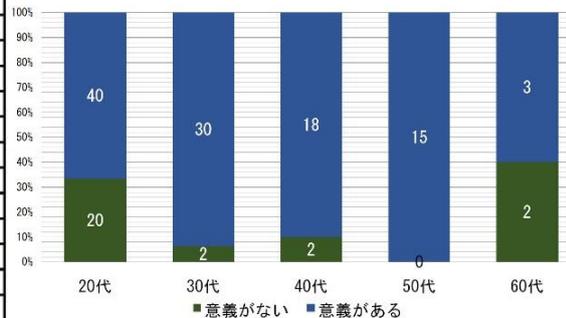


図24 表16の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)		
				有意確率	99% 信頼区間 下限 上限	有意確率	99% 信頼区間 下限 上限	
Pearson のカイ 2 乗	16.883 ^a	4	.002	.000 ^b	0.000	.034		
尤度比	19.912	4	.001	.000 ^b	0.000	.034		
Fisher の直接法	16.684			.000 ^b	0.000	.034		
線型と線型による連関	5.724 ^c	1	.017	.023 ^b	0.000	.056	.000 ^b	0.000 .034
有効なケースの数	132							

- a. 4セル(40.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度は.98です。
b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は 2.393 です。

本項において、「歴史・文化の継承」と「にぎわいの創出・地域活性化」の事例を抽出して、分析する。たとえば、歴史文化資源の再利用の意義について、「歴史・文化の伝承」に「意義がある」と回答した対象者は106人であり、26人はそれは意義がないと回答した。表16のように、年齢をみると、調整済み残差が+1.96以上の20代の対象者の中で、40人が「意義がある」と答えて、当該年齢層の66.7%を占める(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。図24のように、30代の大部分と50代の全員が「意義がある」と回答した。その意識調査の結果をみると、大部分の対象者は歴史文化資源を再認識を通して、当該地域の歴史と伝統生活文化を継承することは最も有効な措置であることと考えられる。しかしながら、20代の33.3%の若い世代はそれは「意義がない」を選択した。彼らはその歴史文化資源の歴史と伝統文化を保存・継承することより、今後、どのように当該地域の文化資源を再利用することをさらに注目していると考えられる。

また、表17を通して、「賑わいの創出・地域活性化」と調整済み残差が+1.96以上の学生、非正規雇用者、教師、公務員、退職者と個人事業者の間に強い関連性が表れる(フィッシャーの

正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。すなわち調査対象者はその項目に対して、著しい分岐がある。具体的には、52人の学生の中に、「意義がある」28人、「意義がない」24人であり、ほぼ均衡状態である。図25のように、26人の非正規雇用者の中に、25人が「意義がない」を選択して、96.2%を占める。21人の個人事業者の中に、18人も「意義がない」と回答した。同時に、教師と公務員は全員「意義がある」を答えた。最も予想外なのは、退職者はすべて「意義がない」を選択したことである。「歴史・文化の伝承」から直接的な効果がイメージできることに比べて、「地域活性化」に対してなかなか困難なイメージを持つ対象者が少なくない。すなわち、大部分の対象者は靖宇街の過疎化、貧困化、伝統的な生活文化の喪失などの身回りの社会問題に対して、有効な措置を講じる願いが切迫していると思われる。また、「賑わいの創出・地域活性化」に対して「自身と関係ない」「困難である」「効果が見えない」などの声が多く挙がった。筆者は、その両方の手段はきわめて必要と考える。

表17 職業と地域活性化に関するクロス表

		にぎわいの創出・地域活性化		合計	
		意義がない	意義がある		
職業	学生	度数	24	28	52
		職業の%	46.2%	53.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.4	3.4	
	非正規雇用者	度数	25	1	26
		職業の%	96.2%	3.8%	100.0%
		調整済み残差	3.8	-3.8	
	教師	度数	0	4	4
		職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.7	2.7	
	公務員	度数	0	8	8
		職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	3.9	
	退職者	度数	15	0	15
		職業の%	100.0%	0.0%	100.0%
		調整済み残差	3.1	-3.1	
	個人事業者	度数	18	3	21
		職業の%	85.7%	14.3%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3	
サラリーマン	度数	2	4	6	
	職業の%	33.3%	66.7%	100.0%	
	調整済み残差	-1.6	1.6		
合計	度数	84	48	132	
	総和の%	63.6%	36.4%	100.0%	

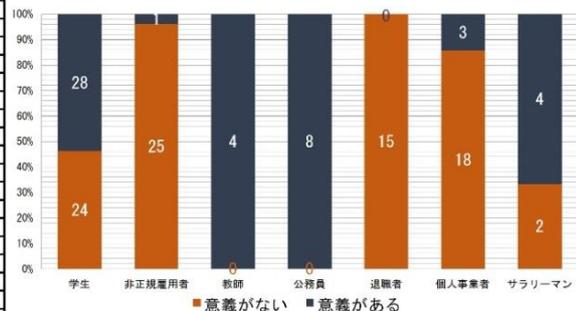


図25 表17の回答者の職業別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)		
				有意確率	99% 信頼区間	有意確率	99% 信頼区間	
Pearson のカイ 2 乗	9.426 ^a	4	.051	.045 ^b	0.000	.092		
尤度比	10.087	4	.039	.015 ^b	0.000	.043		
Fisher の直接法	8.244			.023 ^b	0.000	.056		
線型と線型による連関	.079 ^c	1	.778	.871 ^b	.796	.946	.432 ^b	.321
有効なケースの数	132							.543

a. 5セル (50.0%) は期待度数が5未満です。最小期待度は.68です。
b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は .281 です。

その歴史文化資源に基づいたまちづくりを通して、当該地域の歴史と伝統文化を継承しながら、靖宇街の賑わいの創出と当該地域の活性化することは、非常に重要な意義があると考えられる。地域の文化資源を再認識・再利用することは単純に歴史文化を復興することではなく、それぞれの文化資源を利用することを通して、靖宇街の観光産業と販売産業などの伝統産業に新たな活力を注入することである。地域振興は一気に完成できることとは言えず、靖宇街の歴史建築文化の再認識とその文化資源の再利用を通して、政府の支援政策とともに当地の住民と一緒にまちづくりが徐々に進んでいくことになるとと思われる。

3.3. 当該地域の文化活動に関する意識調査

前項において、当該地域住民は靖宇街の歴史、歴史文化資源に関する意識の現状をおおよそ理解した。本研究は靖宇街における文化活動に関する意識に関しても質問紙調査を行った。以下の通りに、典型的な調査事例を抽出して、分析したい。

①当該地域の文化活動の認知度に関する意識調査

まず、「靖宇街の文化活動を知っているか？」に対しては、「知らない」114人、「知っている」18人であった。カイ2乗検定を用いて、調査対象者の年齢とその問題の間の関連性を考察した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。

表 18 をみると、全年齢層の対象者は普遍的に靖宇街の文化活動を知らないことがわかる。図 26 のように、60 人中、50 人の 20 代の調査対象者、31 人の 30 代と 18 人の 40 代は当該地域の文化活動を知らないことが判明した。分別に 83.3%、96.9%と 90%を占める。さらに、靖宇街の歴史と歴史文化資源によく関心を持っている 50 代と 60 代においても靖宇街における文化活動についての認知度が非常に低い。また、図 27 のような年齢層の職業構成をみると、靖宇街の文化活動を知っている 20 代の中に、サラリーマン 3 人、教師 1 人、公務員 1 人、非正規雇用者 2 人と学生 3 人である。50 代の回答者の中に、教師 3 人と公務員 2 人である。建築知識を持っている教師と政府の公務員は靖宇街の文化活動を多少に理解することが判明した。しかしながら、代々靖宇街に居住している当該地域の住民らは靖宇街の文化活動を全然知らない厳しい実態も考察された。

表 18 年齢と文化活動の認知度に関するクロス表

		靖宇街の文化活動を知っているか？		合計	
		知らない	知っている		
年齢	20代	度数	50	10	60
		年齢の%	83.3%	16.7%	100.0%
		調整済み残差	-.9	.9	
	30代	度数	31	1	32
		年齢の%	96.9%	3.1%	100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.0	
	40代	度数	18	2	20
		年齢の%	90.0%	10.0%	100.0%
		調整済み残差	.5	-.5	
	50代	度数	10	5	15
		年齢の%	66.7%	33.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.4	2.4	
	60代	度数	5	0	5
		年齢の%	100.0%	0.0%	100.0%
		調整済み残差	.9	-.9	
合計	度数	114	18	132	
	年齢の%	86.4%	13.6%	100.0%	

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	55.124 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	67.928	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	58.513			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	3.596 ^c	1	.058	.068 ^b	.012	.125	.030 ^b	0.000	.069
有効なケースの数	132								

a. 5 セル (35.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.45 です。
b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
c. 標準化統計量は -1.896 です。

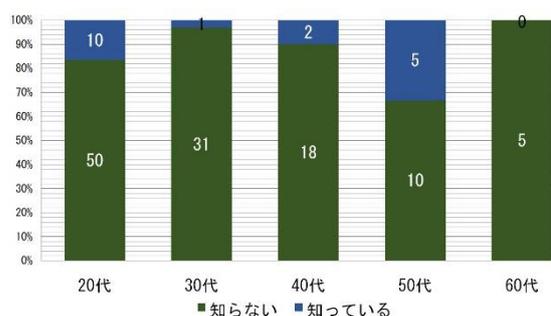


図 26 表 18 の回答者の年齢別の棒グラフ

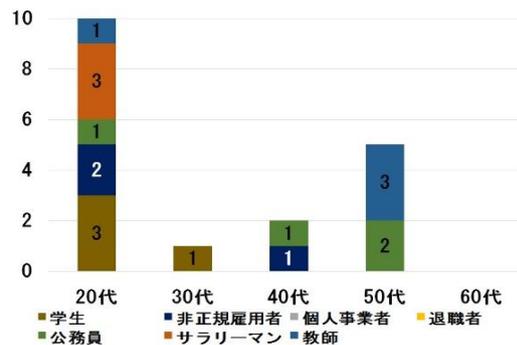


図 27 表 18 の回答者の年齢別の職業構成

町並みの文化活動を通じた当該地域文化の振興にあたっては、住民が代々居住している地域の伝統生活文化を学ぶ機会を設けるとともに、優秀な歴史と文化を伝承していくことが重要である。しかしながら、靖宇街、さらに道外区の伝統文化活動は非常に少ない。地域文化を振興するには、当該地域の住民を主体とした文化活動を創ることが最も重要であると考えられる。靖宇街における歴史建築と伝統生活文化に基づいた文化活動を通して、伝統商店街であった靖宇街の魅力を高めていくことにつながると考えられる。そのため、地域の歴史建築文化、生活習俗などに培われた特色ある伝統的な文化を継承・発展させるとともに、住民団体が自発的に

文化活動を創造する環境を整備することが重要である。

②当該地域の文化活動の参与度に関する意識調査

靖宇街における住民らの当該地域の文化活動の参与度についての調査結果は、以下の通りに典型的な事例を抽出して分析した。

「ハルビン市文化遺産保存志望隊」とは、ハルビン市の新聞記者曾一智氏が、建築専門家、建築学科の学生などと共に、ハルビン市の歴史建築文化の宣伝、歴史建物の改造と取り壊しを見つけ、政府に訴えるために設立された民間団体である。筆者はその文化遺産志望隊の文化活動を調査対象者に簡単に説明した。「そのような文化遺産志望隊の文化活動に参加したいか？」の質問に対して、「参加したい」を答えた人が 100 人、「参加したくない」32 人である。カイ 2 乗検定分析方法を用いて、調査対象者の年齢、職業とその問題の間の関連性を考察した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。

表 19 年齢と文化活動の参与度に関するクロス表

		その文化遺産志望隊の活動を参加したいか？		合計	
		参加したくない	参加したい		
年齢	20代	度数	1	59	60
		年齢の%	1.7%	98.3%	100.0%
		調整済み残差	-5.5	5.5	
	30代	度数	15	17	32
		年齢の%	46.9%	53.1%	100.0%
		調整済み残差	3.4	-3.4	
	40代	度数	16	4	20
		年齢の%	80.0%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	6.3	-6.3	
	50代	度数	0	15	15
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.3	2.3	
	60代	度数	0	5	5
		年齢の%	0.0%	100.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.3	1.3	
	合計	度数	32	100	132
		年齢の%	24.2%	75.8%	100.0%

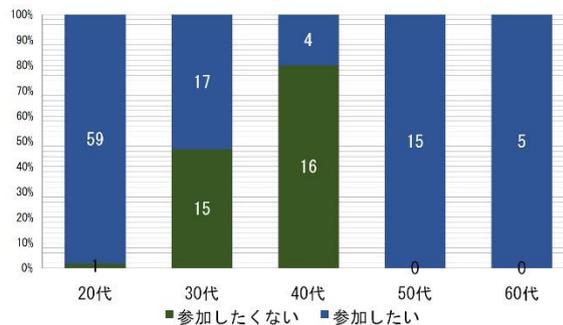


図 28 表 19 の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)	
				有意確率	99% 信頼区間	有意確率	99% 信頼区間
Pearson のカイ 2 乗	65.832 ^a	4	.000	.000 ^b	0.000	.034	
尤度比	71.794	4	.000	.000 ^b	0.000	.034	
Fisher の直接法	65.156			.000 ^b	0.000	.034	
線型と線型による連関	5.559 ^c	1	.018	.015 ^b	0.000	.043	.015 ^b
有効なケースの数	132						

- a. 4 セル (40.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.21 です。
 b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は -2.358 です。

まず、表 19 のように、年齢層をみると、高齢の 50 代と 60 代は強く参加したいとする願いを表した。図 28 からみると、大部分の 20 代の調査対象者は積極的にその民間組織の文化活動を参加する情熱がみられる。30 代は参加したいと参加したくないでわかれており、半分の調査対象者が「参加したい」と答えた。しかしながら、40 代の調査対象者の 20 人の中で大半の 16 人がその文化活動に参加したくない意識があることがわかる。

表 20 の職業をみると、教師、退職者、サラリーマンはその文化活動に参加する願いを表した。図 29 のように、52 人の学生の中で、45 人は参加したいことがわかる。大部分の個人事業者が「参加したい」と答えた。だが、非正規雇用者がそのような文化活動の参与することに対して、消極的な態度を表して、26 人の中でただ 10 人が「参加したい」と答えた。図 30 のように、学生の中に、30 代の 9 人と 20 代の 36 人である。非正規雇用者の中に、20 代の 4 人、30 代の 4 人と 40 代の 3 人である。また、個人事業者の中に 20 代 10 人と 30 代の 4 人である。サラリーマンの全員は 20 代である。その各種各様の職業の年齢構成をみると、20 代と 30 代の若い世代は積極的に文化遺産志望隊の活動に参加する意識を表した。

総じて、大部分の調査対象者は積極的に当該地域の文化活動に参加する意識があることが確認できる。まず、50 代と 60 代の高齢者は、社会貢献できるように生きていく気持ちと、積極

表 20 職業と文化活動の参与度に関するクロス表

		その文化遺産志望隊の活動を参加したいか?		合計
		参加したくない	参加したい	
学生	度数	7	45	52
	職業の%	13.5%	86.5%	100.0%
	調整済み残差	-2.3	2.3	
非正規雇用者	度数	16	10	26
	職業の%	61.5%	38.5%	100.0%
	調整済み残差	5.0	-5.0	
教師	度数	0	4	4
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	1.1	
公務員	度数	2	6	8
	職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	.1	-.1	
退職者	度数	0	15	15
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.3	2.3	
個人事業者	度数	7	14	21
	職業の%	33.3%	66.7%	100.0%
	調整済み残差	1.1	-1.1	
サラリーマン	度数	0	6	6
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.4	1.4	
合計	度数	32	100	132
	総和の%	24.2%	75.8%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	31.931 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	34.754	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	28.605			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	.308 ^c	1	.579	.598 ^b	.489	.708	.333 ^b	.228 .439	
有効なケースの数	132								

a. 6 セル (.42%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .97 です。

b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。

c. 標準化統計量は .555 です。

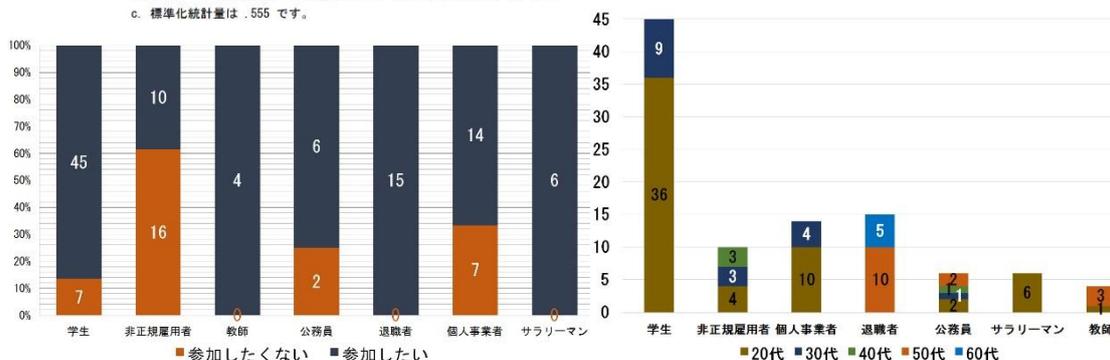


図 29 表 20 の回答者の職業別の棒グラフ

図 30 表 20 の回答者の職業別の年齢構成

的に靖宇街の文化活動に参加し、生き甲斐を求める姿がよく見られる。30代の個人事業者と公務員の人数が非常に多い。ハルビン市地域文化の継承と発展、伝統まちの文化活動に対して、強い関心を持って、積極的に参加したい姿が見られる。20代の学生とサラリーマンは、前項の調査より靖宇街の歴史建築文化に対する認知度は低いが、将来の文化遺産志望隊の文化活動と当該地域の歴史建築の保存と活用に参与することの情熱が推察された。非正規雇用者は当該地域の文化活動について参加度が低くなったが、消極的な回答者の人数が前項より半分に減少した。すなわち、適当な条件があれば、彼らは靖宇街の文化活動を参与することができると思われた。

③将来、当該地域文化の継承と発展に関する意識調査

「将来、当該地域文化の継承と発展には、どのような取り組みを期待するか?」の質問に対して、132人の調査対象者の中で、「地域文化の発展目標や振興方針を制定する」128人、「重要歴史的建築物の保存措置を強める」120人、「重要な歴史的建築と文化遺産の認知度を高める」113人、「市民参加の機会を提供する」90人、「地域文化の伝承の担い手を育てる」120人、「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」110人、「地域文化振興活動に関する情報を発信する」79人、「専門家、学者を含めた民間団体の参加度を増やす」96人と「歴史的建築博物館と生活資料館を開設する」103人が「期待する」と答えた。

筆者はカイ 2 乗検定の方法を用いて、調査対象者の属性とその諸問題の間の関連性を分析した。以下の通りに、強い関連性がある典型的な事例を抽出して、解析したい。

表 21 年齢と地域文化情報の発信に関するクロス表

		地域文化振興活動に関する情報を発信する		合計	
		期待しない	期待する		
年齢	20代	度数	18	42	60
		年齢の%	30.0%	70.0%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	2.2	
	30代	度数	10	22	32
		年齢の%	31.3%	68.8%	100.0%
		調整済み残差	-1.2	1.2	
	40代	度数	13	7	20
		年齢の%	65.0%	35.0%	100.0%
		調整済み残差	2.5	-2.5	
	50代	度数	9	6	15
		年齢の%	60.0%	40.0%	100.0%
		調整済み残差	1.7	-1.7	
	60代	度数	3	2	5
		年齢の%	60.0%	40.0%	100.0%
		調整済み残差	.9	-.9	
	合計	度数	53	79	132
		年齢の%	40.2%	59.8%	100.0%

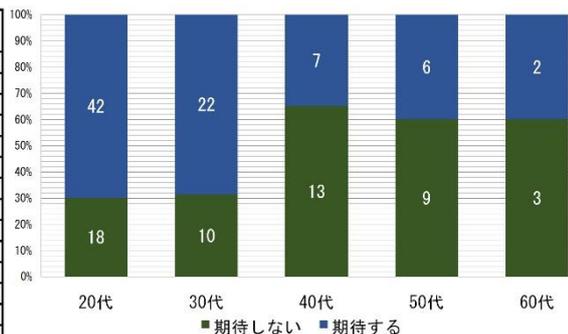


図 31 表 21 の回答者の年齢別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)	
				有意確率	99% 信頼区間	有意確率	99% 信頼区間
Pearson のカイ 2 乗	12.046 ^a	4	.017	.000 ^b	0.000	.034	
尤度比	11.964	4	.018	.000 ^b	0.000	.034	
Fisher の直接法	11.854			.000 ^b	0.000	.034	
線型と線型による通関 有効なケースの数	8.932 ^c 132	1	.003	.000 ^b	0.000	.034	.034

- a. 2 セル (20.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.01 です。
- b. 初期シード 1347595139 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
- c. 標準化統計量は -2.989 です。

まず、表 21 の「地域文化振興活動に関する情報を発信する」に対して、「期待する」を答えた調査対象者は 79 人であり、59.8%を占める(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。年齢層をみると、それに期待する対象者は年齢が上がるほど人数が少なくなる。図 31 のように、42 人の 20 代と 22 人の 30 代の調査対象者が文化振興活動に関する情報を発信することを期待した。40 代、50 代と 60 代の期待する人が少なくなった。

近年、中国のスマートフォンなどの電子製品が急速的に発展している。人々がブログ、SNS を通じて、インターネット上で情報を共有して発信をすることが一般的に行われるようになってきている。もし靖宇街の地域文化振興活動と歴史文化知識などの情報を手軽に多くの人と共有になり、また読者からの反応をすぐに確認できるとしたら、政府と民間団体にとって大きな魅力になるだろう。若い世代はその新たな地域振興の手段を大歓迎した。しかしながら、SNS などの個人情報の流出、悪意ウェブサイト攻撃、迷惑メールなどの被害に遭う可能性も高くなる。そして、個人情報のセキュリティを心配する人も少なくない。また、パソコンとスマートフォンが苦手な 50 代、60 代の高齢者はたくさんいる。それゆえ、「地域文化振興活動に関する情報を発信する」について期待する人が予想より少なくなった。その質問紙調査を通して、将来は、個人情報のセキュリティ対策を強化しながら、新たな手段を用いて地域振興の文化活動の情報を発信することと、当該地域の高齢者に SNS の知識を教えることも喫緊な課題と考えられる。

次に、調査対象者と「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」の関連性をみる。カイ 2 乗検定の解析方法を通して、表 22 のような職業とその問題の間に強い関係がみられる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。その問題に対して、個人事業者以外の各職業は、政府からの金銭的な支援がとても重要としている。図 32 のように、大部分の学生、非正規雇用者と退職者、教師と公務員の全員は地域文化振興に対して、政府からの金銭助成を期待することを選択した。57.1%の個人事業者は異議を持って「期待しない」と答えた。

当該地域の住民は、その歴史文化資源は重要な資源であったと認めたが、その文化資源に基づく内発的にまちづくりを行う理念は浸透していない。なぜなら、まちづくりは政府の政策と資金を投入することに依存していると考えている回答者が多い。将来は、どのように当該地域の住民らがその地域づくりの主体となり、周りの歴史文化資源を再発見、再認識して、積極的

表 22 職業と政府の金銭助成に関するクロス表

		地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う		合計
		期待しない	期待する	
学生	度数	2	50	52
	職業の%	3.8%	96.2%	100.0%
	調整済み残差	-3.2	3.2	
非正規雇用者	度数	5	21	26
	職業の%	19.2%	80.8%	100.0%
	調整済み残差	-.4	-.4	
教師	度数	0	4	4
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-.9	.9	
公務員	度数	0	8	8
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.3	1.3	
退職者	度数	1	14	15
	職業の%	6.7%	93.3%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	1.1	
個人事業者	度数	12	9	21
	職業の%	57.1%	42.9%	100.0%
	調整済み残差	5.4	-5.4	
サラリーマン	度数	2	4	6
	職業の%	33.3%	66.7%	100.0%
	調整済み残差	1.1	-1.1	
合計	度数	22	110	132
	総和の%	16.7%	83.3%	100.0%

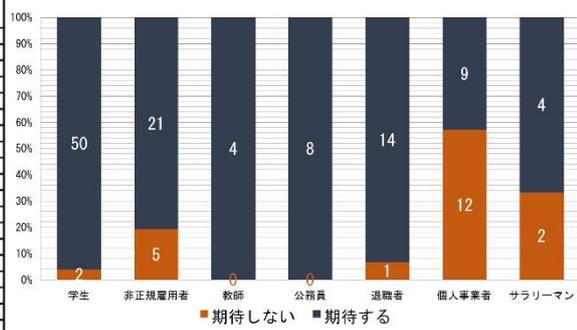


図 32 表 22 の回答者の職業別の棒グラフ

	値	df	漸近有意確率 (両側)	モンテカルロ有意確率 (両側)		モンテカルロ有意確率 (片側)			
				有意確率	99% 信頼区間		有意確率	99% 信頼区間	
					下限	上限		下限	上限
Pearson のカイ 2 乗	35.728 ^a	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
尤度比	32.869	6	.000	.000 ^b	0.000	.034			
Fisher の直接法	29.092			.000 ^b	0.000	.034			
線型と線型による連関	17.429 ^c	1	.000	.000 ^b	0.000	.034	.000 ^b	0.000	
有効なケースの数	132								

- a. 7 セル (50.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .67 です。
 b. 初期シード 897978343 をともなった 132 サンプル表に基づいています。
 c. 標準化統計量は -4.175 です。

に生活文化活動に参加し、地域産業を活かして豊かな生活文化創生に基づくまちづくりを目指していくかは、極めて大きな課題と思われる。

4. 質問紙調査の諸問題の間の関連性の解析

本節において、カイ 2 乗検定の分析方法を用いて、それぞれの調査質問の間の関連性を考察した。その結果を通して、調査対象者の当該地域の歴史建築と文化資源に関する意識調査の特徴を探求したい。

筆者は、「将来、当該地域文化の継承と発展には、どのような取り組みを期待するか?」の中で「地域文化の発展目標や振興方針を制定する」、「重要歴史的建築物の保存措置を強める」、「重要な歴史的建築と文化遺産の認知度を高める」、「市民参加の機会を提供する」、「地域文化の伝承の担い手を育てる」、「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」、「地域文化振興活動に関する情報を発信する」、「専門家、学者を含めた民間団体の参加度を増やす」と「歴史的建築博物館と生活資料館を開設する」の 9 点の項目に基づき、カイ 2 乗検定の方法を通して、他の調査質問との関連性を考察した。

以下の通りに、その典型的な事例を抽出して、認知度、評価度と参加度の 3 つの方面から調査対象者の意識を解析したい。調整済み残差が +1.96 以上の①「靖宇街の文化活動を知っているか?」と「地域文化振興活動に関する情報を発信する」、②「靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか?」と「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」、③「将来の靖宇街の文化活動を参加したいか?」と「重要な歴史的建築と文化遺産の認知度を高める」の間に強い関連性があることがわかる(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。

①当該地域住民の認知度と将来の政府の継承と発展に関する意識調査

「靖宇街の文化活動を知っているか?」と「地域文化振興活動に関する情報を発信する」の関連性のクロス表 23 のように、その靖宇街の文化活動に関して「知らない」は 114 人、「知っている」は 18 人である。当該地域の住民は靖宇街の文化活動に関する認知度と理解度が低いことがわかる。そして、地域文化の振興活動に関する発信することを期待する人は 79 人、期待しない人は 53 人である。しかしながら、当該地域の文化活動を「知らない」人の中に、64 人は「情報の発信することを期待する」の願いを表した。一方、「文化活動を知らない」と「情報を発信す

表 23 当該地域住民文化活動の認知度と地域文化振興の情報を発信することのクロス表

		地域文化振興活動に関する情報を発信する		合計	
		期待しない	期待する		
靖宇街の文化活動を 知っているか？	知らない	度数	50	64	114
		靖宇街の文化活動を知っているか？ の %	43.9%	56.1%	100.0%
		地域文化振興活動に関する情報を発信する の %	94.3%	81.0%	86.4%
		調整済み残差	2.2	-2.2	
	知っている	度数	3	15	18
		靖宇街の文化活動を知っているか？ の %	16.7%	83.3%	100.0%
地域文化振興活動に関する情報を発信する の %		5.7%	19.0%	13.6%	
	調整済み残差	-2.2	2.2		
合計		度数	53	79	132
		靖宇街の文化活動を知っているか？ の %	40.2%	59.8%	100.0%
		地域文化振興活動に関する情報を発信する の %	100.0%	100.0%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)	点有意確率
Pearson のカイ 2 乗	4.784 ^a	1	.029	.038	.023	
連続修正 ^b	3.719	1	.054			
尤度比	5.302	1	.021	.038	.023	
Fisher の直接法				.038	.023	
線型と線型による連関	4.747 ^d	1	.029	.038	.023	.018
有効なケースの数	132					

- a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 7.23 です。
 b. 2x2 表に対してのみ計算
 c. 2x2 のクロス表には、モンテカルロ結果の代わりに正確な結果が与えられました。
 d. 標準化統計量は 2.179 です。

ることを期待しない」の両方を選んだ人が 50 人である。

当該地域の大部分の住民は靖宇街の文化活動に関する認知度が低いが、もし新興の SNS、ブログなどの通信ソフトとコミュニケーション手段を利用すれば、靖宇街の文化振興活動の認知度と理解度を高められると考える。他方、その文化活動に対する認知度が低くて、情報を発信することを否定する人も少なくない。将来、許容可能な地域文化振興の情報を得られる方法を通して、彼らの当該地域の文化活動に関する認知度と積極性を上げることが非常に重要な課題と思われる。

②当該地域住民の評価度と政府から支援助成に関する意識調査

「靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか？」と「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」のクロス表 24 をみると、103 人が「重要」を答えた。すなわち、靖宇街の歴史建築は重要な文化資源であることは大部分の調査対象者の普遍的な認識になると考えられる。一方、地域文化振興には、政府からの金銭などの支援が非常に重要と思う人が 110 人である。さらに、靖宇街の歴史建築の文化資源の重要性を否定する人の中にも、政府からの資金助成がとても必要と思う人が 20 人確認された(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。

表 24 文化資源の評価度と政府から金銭などの助成に関するクロス表

		地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う		合計	
		期待しない	期待する		
靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか？	重要じゃない	度数	9	20	29
		靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか？ の %	31.0%	69.0%	100.0%
		地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う の %	40.9%	18.2%	22.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4	
	重要	度数	13	90	103
		靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか？ の %	12.6%	87.4%	100.0%
地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う の %		59.1%	81.8%	78.0%	
	調整済み残差	-2.4	2.4		
合計		度数	22	110	132
		靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか？ の %	16.7%	83.3%	100.0%
		地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う の %	100.0%	100.0%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)	点有意確率
Pearson のカイ 2 乗	5.524 ^a	1	.019	.026	.023	
連続修正 ^b	4.278	1	.039			
尤度比	4.925	1	.026	.045	.023	
Fisher の直接法				.026	.023	
線型と線型による連関	5.482 ^d	1	.019	.026	.023	.017
有効なケースの数	132					

- a. 1 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 4.83 です。
 b. 2x2 表に対してのみ計算
 c. 2x2 のクロス表には、モンテカルロ結果の代わりに正確な結果が与えられました。
 d. 標準化統計量は 2.341 です。

靖宇街の文化振興活動に対して、当該地域の住民らが周辺の歴史建築が重要な文化資源であると再認識することは大きな進歩と思われる。しかしながら、大部分の住民らは地域文化の振興と文化資源の保護などの望みを政府に託した。「支援が少ない」「投資が欲しい」などの不満

の呼び声が高くなる。確かに、政府による地域振興、産業振興のための資金の支援、政策の促進などの措置が必要だが、内発的な地域振興の観点を見ると、政府より当該地域の住民らこそがその地域づくりの真正の主体である。靖宇街における代々の居住者、歴史建築の利用者と伝統生活文化の継承者として、彼らこそが地域文化振興の主導者といえよう。住民らは主体として、政府からの政策支援と助成を受けながら、自発的にその優秀な地域文化資源を再発見し、当該地域の文化にあう地域振興の道を探すべきと考えられる。

③当該地域の住民の参与度と認知度に関する意識調査

「将来の靖宇街の文化活動に参加したいか?」と「重歴史建築と文化遺産の認知度を高める」の関連性に対して、筆者は、カイ 2 乗検定の方法を用いて、その 2 つの質問の間の関連性を考察した(フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$)。

表 25 文化活動の参与度と歴史建築と文化遺産の認知度に関するクロス表

		歴史建築と文化遺産の認知度を高める		合計	
		期待しない	期待する		
その文化遺産志望隊の活動を参加したいか?	参加したくない	度数	9	23	32
		その文化遺産志望隊の活動を参加したいか? の %	28.1%	71.9%	100.0%
		歴史建築と文化遺産の認知度を高める の %	47.4%	20.4%	24.2%
	参加したい	調整済み残差	2.5	-2.5	
		度数	10	90	100
		その文化遺産志望隊の活動を参加したいか? の %	10.0%	90.0%	100.0%
合計	歴史建築と文化遺産の認知度を高める の %	52.6%	79.6%	75.8%	
	調整済み残差	-2.5	2.5		
	度数	19	113	132	
		その文化遺産志望隊の活動を参加したいか? の %	14.4%	85.6%	100.0%
		歴史建築と文化遺産の認知度を高める の %	100.0%	100.0%	100.0%

	値	df	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)	点有意確率
Pearson のカイ 2 乗	6.463 ^a	1	.011	.019	.015	
連続修正 ^b	5.076	1	.024			
尤度比	5.740	1	.017	.019	.015	
Fisher の直接法				.019	.015	
線型と線型による連関	6.414 ^d	1	.011	.019	.015	.012
有効なケースの数	132					

- a. 1 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は 4.61 です。
b. 2x2 表に対してのみ計算
c. 2x2 のクロス表には、モンテカルロ結果の代わりに正確な結果が与えられました。
d. 標準化統計量は 2.533 です。

表 25 のように、大部分の調査対象者は文化志望隊の活動に参加したいという願いを表した。すなわち、彼らは文化志望隊のボランティアと一緒にハルビン市歴史建築の保存と都市建築文化の継承に貢献する意識がみられる。同時に、ハルビン市の歴史建築と文化遺産の認知度を高める呼び声も高くなり、さらに、文化志望隊に興味がない対象者もその意識を強く表した。現在、ハルビン市文化遺産志望隊は主な建築専門学者と建築分野の学生が多く、その大部分の活動は歴史建築の判断と政府に保存措置を進言することである。一般的な市民にとって、そのようなボランティア活動はなかなか難しいと思われる。将来は、どのように広大な市域における市民と当該地域の住民と一緒に、わかりやすい文化活動を通して、その歴史建築の歴史、建築のスタイルとハルビン市優秀な建築文化を再発見・再認識して、その豊かな文化資源に関する保存と活用の良策を提案するかということが非常に重要な課題と考えられる。

5. まとめ

質問紙調査の内容を分析した結果、靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識の特徴を明らかにしてきた。

(1) 調査対象者の属性と当該住民の意識の特徴

本章の質問紙調査を通して、靖宇街における 50 代～60 代の教師と退職者は豊かな生活知識と社会経験を持っていることが考察された。彼らは道外区と靖宇街の形成の経緯と歴史をよく知っている。同時に、重要な歴史文化資源としての靖宇街の歴史建築を再認識し、当該地域の伝統文化を振興する呼び声が高い。そして、社会貢献できるように生きていく気持ちと積極的に靖宇街の文化活動を参与する生き甲斐を求める姿がよく見られる。個人事業者と非正規雇用者は文化資源と文化活動などの意識調査に関して、消極的な参与意識が表れる。一方、それは

当該地域の非正規雇用者の教育程度が低いことが一つの要因と思われた。他方、ハルビン市においては、中国の急速な経済発展に伴い、過疎化・高齢化や生活様式の変容が進んでおり、道外区は貧しい旧市街地とみなされ、商店街の魅力も失われている。商店街の不景気の影響を受け、就職と生活のストレスも一つの要因と思われる。若い世代の公務員、サラリーマンは当該地域の文化活動を積極的に参与する意識がある。しかしながら、大部分の回答者は当地の歴史と伝統的な生活文化に対する理解度が低い。20代の学生は靖宇街の歴史とその周辺の歴史建築文化に関する認識が大変不足しており、歴史文化資源の認識と活用についての関心度も低い。しかしながら、その意識調査の結果を通して、若い世代は当該地域の文化活動を参与することに対して大きな情熱がみられる。

将来、当該地域の住民が代々構築してきた生活文化と歴史文化資源の再確認を通して、当地の住民と一緒にまちづくりと生活条件を改善することが喫緊である。そして、伝統のまちづくりを進める上で、政府文化政策の支援とそれぞれの文化活動の推進とともに、靖宇街の地域文化振興を展開することが急務である。さらに、住民らの文化活動の積極性を利用し、当該地域の歴史の認知度と文化活動の参与度を高めて、地域文化への愛着と主体意識を育てることが重要な課題と思われる。

(2) 調査質問の間の関連性と当該住民の意識の特徴

まず、当該地域の歴史と歴史建築文化の認知度について、調査対象者は、道外区形成の歴史、靖宇街周辺の中国式西洋建築とその建築の上に施された伝統的な装飾文様の意味に対して、普遍的に理解度が低い。特に、ハルビン市の歴史建築の保護と靖宇街の文化活動について、大部分の調査対象者が知らない状態が確認された。近年、ハルビン市政府が歴史建築の保存と活用などの政策の推進について、巨大な成果を挙げた。しかしながら、靖宇街のような旧市街地区の歴史建築の保護措置と当地生活文化の継承と発展することについて、具体的な保護政策が乏しく、宣伝不足などの問題も浮かび上がる。

そして、当該地域の歴史文化資源について、大部分の調査対象者の関心が高いが、歴史文化資源に基づいたまちづくりに対しては、知らないという回答が多く、関心が低いことが判明できる。当該地域の住民は、その歴史建築が重要な文化資源と認めたが、その資源を利用して内発的にまちづくりを行う理念はまだ浸透していない。なぜなら、まちづくりは政府の政策と資金の投入することに依存するべきという観念を持っている人が少なくないためである。将来は、どのように当該地域の住民を参与主体として、能動的に靖宇街の豊かな歴史文化資源を再認識して、内発的に文化創生に基づいたまちづくりを目指すのかということは、極めて大きな課題と思われる。

今後、靖宇街の地域文化振興のために取り組むべきことについて、調査対象者はそれぞれの政策と措置に対して各自の意見を表した。一方、「重要歴史的建築物の保存措置を強める」、「重要な歴史的建築と文化遺産の認知度を高める」、「市民参加の機会を提供する」と「地域文化の伝承の担い手を育てる」などの措置に対して、大部分の調査対象者が賛成していることがわかる。しかしながら、「地域文化振興活動に関する情報を発信する」などの通信手段を用いて、地域文化の情報を共有することに関して、当該地域の住民の間に大きな分岐も見られる。現代社会の潮流を把握して、その個人情報セキュリティ対策を強化し、新たな技術手段を利用して、若い世代の関心度と参与度を高めて、地域振興の文化活動の情報と政策を宣伝することは重要な課題と考えられる。将来、政府は政策の制定と民間団体が文化活動を展開する時に、当該住民の意見と考え方を広範に聞き取って、社会環境に適した提案と措置を提出することが非常に必要と思われる。

以上、本章において、靖宇街の歴史建築とその文化資源に関する質問紙調査を通し、カイ2乗検定の方法を用いて、調査対象者の属性とその質問の間の関連性を考察した。その解析した

結果によって、当該地域の住民らの靖宇街の歴史、中国式西洋建築のような歴史建築とその伝統建築文化、当該地域の歴史文化資源および、文化活動の参与度に関する意識を把握した。

次章において、その分析結果をもとに、当該地域歴史文化資源と住民生活現状に応じて、特有な生活文化のあるべき姿に合う指針を提出する。

図と表の出典

- 1) 表 1 ～表 25 : 筆者が作成
- 2) 図 1 ～図 32 : 筆者が作成

終章

靖宇街における歴史建築と文化資源に基づき
地域文化振興に関する提言

はじめに

中国東北地域に位置する黒竜江省ハルビン市は、近代の新興都市としての成立以来およそ200年の歴史を有している。同市は、その地理的環境を要因として、1850～1930年頃の移民ブームを経て多民族の生活文化が融和しつつ、ロシア、日本などの多様な外国文化の影響を受け、特有の都市文化が形成された。特に、その時期において、ハルビン市の道外区の靖宇街周辺の建築は、外面的には17世紀以降の西洋建築の特徴が色濃いが、それらのファサードには、中国の伝統的な文様を中心として、特有な「中国式西洋建築」を発展した。それらは、当該地域の人びとが創出した貴重な文化遺産であるといえよう。

しかしながら、今日、ハルビン市は、中国における急激な経済発展に伴う生活様式の変容を主な要因として、伝統的生活文化が消失しつつある。そうしたなかで、道外区は貧しい旧市街地とみなされ、若い世代が急激に減少し、商店街の魅力も失われつつある。さらに、庶民の生活文化の象徴ともいえる中国式西洋建築も、長年の管理不足のために、取り壊しや無秩序な改築による消失が進んでいる。今日、人びとが構築してきた生活文化の再確認・再認識ならびにそれらを活用した活性化が急務である。

こうした背景のもと、本研究は、ハルビン市道外区における靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様を取り上げ、その現状を把握しながら、それぞれの装飾文様の意味と意匠を分析して、当該地域の歴史建築文化の特質を再発見・再認識することを目的とした。そして、当該地域の歴史文化資源の維持・継承を目指した質問紙調査を行って、今後、地域文化を内発的に継承・振興するための方向性を見出すことを目指した。

その道外区靖宇街周辺の歴史建築の現状、その歴史建築文化の特質と当該地域における住民の意識調査の結果、以下の通りに明らかにした。

1. 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する調査

本研究は、靖宇街周辺における法定保存建築一類の2点、二類の8点と三類保存建築の44点、その他の歴史建築53点を調査した。その中国式西洋建築の現状を把握しながら、歴史建築スタイルとその歴史建築のファサードの上に施された装飾文様を取り上げ、靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の特徴を明らかにした。

1.1. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の建築スタイルの分類

『中国近代建築総覧・哈爾濱編』の資料に基づき、靖宇街の周辺における登録された歴史建築には、中華バロック式建築、折衷式建築、1920年代～1930年代の間に隆盛したアール・ヌーヴオー、アール・デコと古典式が確認された。さらに、西洋の建築と中国の建築を融合させた中華折衷式、中華アール・デコ、中華アール・ヌーヴオー式もみられる。

1.2. 道外区靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の分類

本研究においては、現地調査に基づき、靖宇街周辺の107棟の歴史建築において、964点の建築装飾文様を抽出した。そのモチーフによって、(1)植物、(2)動物、(3)人物、(4)文字、(5)幾何、(6)その他の6種に分類した。それらの文様個数は、612点、49点、19点、4点、191点と89点である。

そして、その歴史建築の保存類型、建築スタイルとその装飾文様の関連性をコレスポンデンス分析の方法で解析した。クロス集計表により、靖宇街周辺のⅡ類歴史建築と動物文様、文字文様、その他の歴史建築と植物文様、文字文様の間の関連性が強いことがわかる。Ⅲ類歴史建築と他の歴史建築には、装飾文様が数多く施された現状が読み取れる。そして、アール・ヌーヴオーの建築スタイルには、幾何文様と植物文様が数多く施された、中華バロックの建築スタイルには、植物文様と動物文様が数多く用いられるなどの特徴が考察された。

1.3. 装飾文様の特徴と意味性

靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様には、漢字の同音の特点、身近な動植物の特性や伝統的神話伝説などの伝統的な表現方法を充分に利用して、中国の伝統的な吉祥文化が共有、継承されできた。それらの装飾文様の多くには、当時の当該地域の人びとが共有していた「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの吉祥寓意が確認される。靖宇街の歴史建築の装飾文様は伝統的な吉祥文化のみならず、人格的道德教育と正確な生活価値観を継承、普及させていくための重要な役割を担っていた。彼らは代々の建築装飾文様の寓意と意匠を継承することを通して、自身の道徳と文化への帰属意識を高め、固有の伝統的な生活文化と地域の愛着を普及していたのである。そのように積極的に外来の文化を吸収し、幸せな生活の願望と楽観的な生活態度を自由に表現しつつ、ハルビンの都市文化の形成および発展を促進させた。

2. 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の特質

本節において、靖宇街周辺の107棟の歴史建築に施された964点装飾文様を対象として考察を進めて、抽出・整理した65種類の装飾文様を、さらに「表現方法」と「表現内容」によって分類し、その文様の特質を分析した。靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する表現方法を以下の「スタイル」と「表現形式」の2つの観点から考察した。

2.1. 靖宇街の歴史建築の装飾文様の表現方法

2.1.1. 装飾スタイルに基づく分類

筆者は、靖宇街周辺の歴史建築にみられる装飾文様をそのスタイルによって、「中国装飾文様」「西洋装飾文様」「中西混用文様」の3つに分類した。

(1) 中国伝統装飾文様

本研究は、65種類の文様のうち伝統装飾文様とみなされるものは51種類であった。筆者は、靖宇街の歴史建築に施された吉祥寓意に関する「牡丹」「柳」「蘭」「蝙蝠」「パイナップル」などを「動植物文様」、「方勝紋」「回紋」「盤長」「八卦」などを「宗教文様」と分類した。

(2) 西洋装飾文様

当時の道外区は中国人の庶民階層の居住区域であったが、ハルビン市への外国移民の流入とともに、西洋の生活習俗と建築文化が受容された様子がうかがえる。65点のカテゴリーにおいて、「帆立貝文様」「ブツ文様」などの西洋建築文様が16点確認された。

(3) 中西混用装飾文様

前述した中国装飾文様、西洋装飾文様に加えて、当該地域の歴史建築には、中国装飾文様と西洋装飾文様が混用されたと思われる文様を多数確認することができる。筆者らは、これらを「中西混用装飾文様」と命名した。当該地域の建物の建築を担当した工匠が、周囲の街区の西洋建築に施された装飾文様を模倣し生み出したものと考えられる。

2.1.2. 表現形式に基づく分類

次に、道外区靖宇街周辺の歴史建築における964点の建築装飾文様を、表現形式の観点から単一の文様と組み合わせた文様の2種類に分けることができた。

(1) 単一の文様による装飾

靖宇街周辺の歴史建築には、65種類の装飾文様のうち、51種類が単一の文様による装飾が施されている。牡丹、梅、菊、桃などの中国伝統的な文様もあれば、アカンサス、ロゼットなどの西洋装飾文様もあり、福や寿などの文字図案もみられる。それらは、動植物の文化的な特性、宗教神話と結び付き、装飾的効果のみならず寓意にまで達している。こうした姿が当該地域の建築装飾文様の大きな特徴の要素のひとつと考えられる。

(2) 組み合わせの文様による装飾

中国の伝統的吉祥文化の特徴のひとつに、多様な吉祥要素の組み合わせが挙げられる。靖宇街においては、22点の組み合わせ文様が確認された。そのなかで用いられる文様は、65種類の

装飾文様のなかから32種類に上っている。たとえば、鷹と熊、葦と蟹、鯉と蓮、花瓶と月季、鹿と松、カササギと梅などの組み合わせがあり、これらは、当該地域の人びとの豊かな生活への期待が、中国传统文化の同音異義の表現形式を用いて表現されたものである。

2.2. 靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の表現内容

筆者らは、その65種類の装飾文様に内包される意味を抽出しまとめた。その結果、16種類の表現内容を得た。それらを、福・禄・寿・財・雅・和順と平安の7つのグループに分類した。

(1) 福

中国の吉祥文化において、福とは、元来、幸運や富貴の意味であった。時代の進展とともに、出産順調、子孫繁栄、婚姻円満などの吉祥寓意を包含するようになった。今日、靖宇街の歴史建築に現存する歴史建築に施された文様には、20世紀初頭の当該地域における住民らが求めた福へのさまざまな願いがうかがえる。

(2) 禄

中国の古代社会において官に仕える者に下付された給与である。中国の科举制度の発展とともに、禄は個人の仕途はもとより、事業の成功や出世と密接に関連する概念として認識されるようになった。靖宇街において、儒教文化の影響で、科举試験に合格し国家のために力を尽くすことが人としての最高位の価値と考えられるようになった。

(3) 寿

寿は命が長いという意味である。中国において、命は天の恵みであり、人間が制することができないものと考えられてきた。特に医療技術が未発達であった古代においては、人が健康のまま長寿を全うすることはきわめて希なことであり、それゆえ、靖宇街において、寿は最も重要な願いのひとつであった。

(4) 財

その時期の道外区靖宇街に移住してきた人びとにとって、財を成すことは、家族の生活条件を改善する願望と連動し、きわめて差し迫ったものであったに違いない。商店街の信用と良き伝統を維持して、中国の伝統的な徳行を守りながら新たに豊かな生活をつくることは当時の靖宇街の住民らの共同の目標であったと考えられる。今日、靖宇街の歴史建築のファサードに現存するそれぞれの装飾文様からは、当時の当該地域の人びとが、共に豊かな地域を構築しようとしたあくなき姿勢がうかがえる。

(5) 雅

中国文化において、雅とは、上品で優雅で知的に洗練された情趣であり、貴族や文人に不可欠な教養と考えられてきた。20世紀初頭の靖宇街における住民のなかには、自らの道徳と文化修養を高めることを願い、建築物に装飾文様を施した者がいた。

(6) 和順

和順の意味は、自然・気候が順調で、穏やかで安定していることである。中国文化において、和順は重要な吉祥寓意として靖宇街における住民らの心に深く入り込んでいる。

(7) 平安

太平と安全は、中国の重要な吉祥要素である。靖宇街が建設された19世紀末期から20世紀中期の間は、長年の戦乱が続いたことから、中国の人びとは安心した生活ができない時代であった。当時の道外区靖宇街の人びとが国家の平和・安定、社会の繁栄を切に望んだことは想像に難くない。また、それゆえに、家宅安全・四季平安などの吉祥寓意を託された文様が当該地域の歴史建築に大量に飾られたと考えられる。

2.3. 靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の特質

20世紀初頭のハルビン市道外区靖宇街周辺においては、同市の都市の形成・発展とともに、当該地域に特有の建築スタイルが生み出された。以下のように、それらの歴史建築に施された

多様な装飾の文化的特質を明らかにした。

靖宇街周辺の歴史建築に施された装飾文様には、中国の伝統的なスタイルのものが多く確認された。20世紀初頭のハルビン市の近代建築運動の展開とともに、靖宇街の建築のファサードに西洋スタイルの装飾文様を施したことがうかがえる。西洋文様を参照しつつも、一部あるいは全体が中国の伝統的文様に置き換えられたものもみられ、こうして、靖宇街の中西混用装飾文様が創造された。このような大胆ともいえる文様は、靖宇街における中国式西洋建築の大きな特質のひとつと考えられる。そして、靖宇街の建築装飾文様には、それぞれに内包される寓意を通して、中国の伝統的な生活文化を継承しつつも、新天地である当該地域において豊かな生活を実現しようとした人びとの意識が如実に反映されている。それぞれの建築装飾文様を通して、靖宇街は健康・吉祥・富貴・隆盛・平安などが永続する願いが横溢する空間を構成した。

3. 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査

筆者は、道外区の靖宇街周辺の歴史建築とその文化資源に関する質問紙調査を行った。その質問紙調査を通して、当該地域の歴史建築文化の再確認と歴史文化資源の再利用を目的とした。

3.1. 調査対象者の属性と当該地域における歴史建築と文化資源に関する意識調査の解析

その質問紙調査は、①ハルビン市道外区と靖宇街の形成と歴史、②靖宇街周辺の中国式西洋建築に関する保存現状、③中国伝統的装飾文様に関する認知度、④靖宇街における歴史文化資源に関する評価度、⑤靖宇街における文化活動についての5つの項目で構成され、そして、カイ2乗検定の分析方法を用いて、調査対象者の年齢、職業の属性と当該地域における歴史建築と文化資源に関する意識の関連性について考察した。

3.2. 質問紙調査の諸問題の間の関連性の解析

本節において、カイ2乗検定の方法を用いて、その調整済み残差が+1.96以上の①「靖宇街の文化活動を知っているか?」と「地域文化振興活動に関する情報を発信する」、②「靖宇街の歴史建築は重要な文化資源と思うか?」と「地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う」、③「将来の靖宇街の文化活動に参加したいか?」と「市民参加の機会を提供する」の事例を抽出して、認知度、評価度と参与度の3つの方面から調査対象者の意識を解析した。

3.3. 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査の特徴

本章の質問紙調査を通して、靖宇街における50代～60代の教師と退職者は豊かな生活知識と社会経験を持っていることがわかる。彼らは道外区と靖宇街の形成の経緯と歴史をよく知っている。同時に、重要な歴史文化資源としての靖宇街の歴史建築の再認識し、当該地域の伝統文化を振興する呼び声が高くなっている。個人事業者と非正規雇用者は文化資源と文化活動などの意識調査において、消極的な参与意識が表れる。若い世代の公務員、サラリーマンは当該地域の文化活動に積極的に参与する意思が現れる。しかしながら、大部分の回答者は当地の歴史と伝統生活文化に対する理解度が低い。20代の学生が靖宇街の歴史とその周辺の歴史建築文化に関する認識が大変不足しており、歴史文化資源の認識と活用についての関心度も低い。

将来、当該地域の住民が代々構築してきた生活文化と歴史文化資源の再確認を通して、当地の住民と一緒にまちづくりと生活条件を改善することが喫緊である。どのように住民らの文化活動の積極性を利用し、当該地域の歴史の認知度と文化活動の参与度を高めて、地域文化への愛着と主体意識を育てていくかということが重要な課題と思われた。

3.4. 調査質問の間の関連性により当該住民の意識の特徴

質問調査によって、当該地域の歴史と歴史建築文化の認知度について、調査対象者は、道外区形成の歴史、靖宇街周辺の中国式西洋建築とその建築の上に施された伝統的な装飾文様の意味に対して、普遍的に理解度が低いことがわかった。特に、ハルビン市の歴史建築の保護と靖

宇街の文化活動について、大部分の調査対象者が知らないという状態がわかる。

そして、当該地域の歴史文化資源について、大部分の調査対象者の関心度は高い。しかしながら、歴史文化資源に基づいたまちづくりに対して、知らないという回答が多く、関心度が低くなることが判明できる。当該地域の住民は、その歴史建築が重要な文化資源だと認めたが、その資源を利用して内発的にまちづくりを行う理念はまだ浸透していない。将来、どのように当該地域の住民を参与主体として、能動的に靖宇街の豊かな歴史文化資源を再認識し、内発的に文化創生に基づくまちづくりを目指すのかということは、極めて大きな課題と思われる。

靖宇街の地域文化振興ための取り組むべきことについて、「地域文化振興活動に関する情報を発信する」などの通信手段を用いて、地域文化の情報を共有することに関して、当該地域の住民の間に大きな分岐も見られる。現在社会の潮流を把握して、その個人情報セキュリティ対策を強化し、新興の技術手段を利用して、若世代の関心度と参加度を高めて、地域振興の文化活動の情報と政策を宣伝することは重要な課題と考えられる。

4. 道外区靖宇街における歴史建築と文化資源に基づく地域文化振興に関する指針と提案

4.1. 地域文化資源に基づく地域振興の方針

本研究の質問紙調査・研究の結果によって、発見された特徴と問題点に基づき、将来、ハルビン市政府が靖宇街のような旧市街地区の文化資源に基づいた地域振興を進める際の政策と方針に関して提言したい。

(1) 文化資源の再認識を通して、靖宇街の住民の精神的に「豊か」な生活づくりの意識を呼び起こす

本研究は、靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様を入口として、当該地域の歴史建築文化の特質を抽出することを通して、特有な中国西洋建築の装飾文化が有する社会的・文化的な役割を考察した。靖宇街の歴史建築文化は、まさにそれぞれに内包される寓意を通して、中国の伝統的な生活文化を継承しつつも、当該地域において豊かな生活を実現しようとした人びとの意識が如実に反映されている。かつて、当該地域の人びとと建築工匠らが協力して、その歴史建築の装飾文様を通して、靖宇街という共有空間を構築した。靖宇街は健康・吉祥・富貴・隆盛・平安などが永続する願いが横溢する空間を構成されているといっても過言ではない。その時期、靖宇街における住民の生活はそれほど裕福ではないが、拝金主義の物質を追求することより、幸福楽観の「豊か」な生活を創造することは当該地域人びとの共通意識になった。

今日、道外区は、貧しい旧市街地とみなされ、急速な過疎化・高齢化が進行しており、商店街としての魅力も失われつつある。その優秀な生活文化も歴史建築と一緒に失われた。これから、中国の伝統的な建築装飾の文化的意味の再認識がなされ、靖宇街の人びとの生活から姿を消しつつある本来の生活文化を再発見し、その残された中国式西洋建築に付随する豊かな生活の望み、あるいは積極的な生活の態度と方向性を目指すべきと考えられる。ハルビン市政府が今後の旧市街地区の開発を進展するとき、産業振興、経済効果を強調するより、当該地域の住民と一緒に、物質より内在の豊かな生活文化の継承と発展に注目するべきと考えられる。その当該地域の住民団体を主体としてこそ、伝統的な地域文化の再認識・再発見に基づいた豊かな生活づくりから真正の地域振興と文化振興の目標に達するべきと思われる。

(2) 靖宇街において文化活動を担う人材の育成を推進する

本研究は、靖宇街における住民の意識調査の分析結果によって、若い世代は当該地域の形成の歴史、歴史建築とその建築に施された装飾文様の文化寓意に対する了解度が低いことがわかる。そのゆえに、若い世代は靖宇街の歴史文化資源と地域生活文化に関する認識が大変不足しており、もちろん靖宇街の地域振興などの文化活動をあまり知らない事実が推察された。しかしながら、一方で、靖宇街における 50 代～60 代の高齢者はその旧町並みの歴史、当該地域の

豊かな伝統生活文化と習俗をよく知っていることがわかる。

今後、ハルビン市の旧市街地区における伝統生活文化の伝承と歴史建築の保存ための政策の制定と推進の過程の中で、高齢化、過疎化などの社会問題がだんだん厳しくなった靖宇街において、伝統生活文化を継承してきた人びとのつながりが分断された状況をどのように克服して、当該地域の歴史・文化資源を再認識していくかということが喫緊の課題とされている。特に、若い世代を主体として地域の文化活動を担う重要な人材の育成することは急務と考えられる。その若い世代の当該地域の優秀な文化の継承と地域への帰属感が高まり、当該地域の高齢者が社会貢献できるように生きていく気持ちと生き甲斐を得ていく姿も期待される。

(3) 政府の支援と民間団体の協力を受け、靖宇街における民間の文化活動を強める

近年、ハルビン市政府は、旧市街地域の生活環境を改善し、健全な地域産業発展を実現するために、旧街並みの振興開発計画を提出した。歴史建築の関連する法律に対応しながら、古い街並みの開発を進めることを強調している。しかしながら、旧市街地域を振興することは、単純に歴史建築の改造・再建することだけではなく、当該地域伝統生活文化の継承と発展、住民の文化活動の参与を高めることが必要である。伝統の祭り、生活文化習俗のイベント、旧生活文化の民俗展、旧町並みの写真展などの当該地域の住民らが自発的な文化活動を行うことを通して、政府の旧街並みの振興計画の推進とともに、必ず当該地域の文化振興と関連産業振興への巨大な効果をもたらすと考えられる。

4.2. 道外区靖宇街における地域文化資源に基づく地域振興の提案

(1) 靖宇街に現存された歴史建築に基づく建築マップの製作の短期計画



図1 靖宇街頭道街～七道街における歴史建築マップ(事例)

筆者は、現地調査した資料に基づき、ハルビン市文化遺産志望隊とともに、靖宇街に現存された歴史建築に基づく建築マップの製作の短期計画を立てた。図1のように、ハルビン市と道外区靖宇街の歴史変遷、靖宇街中国式西洋建築の由来を紹介した。そして、靖宇街の平面図の上に、その歴史建築の位置とそれぞれの歴史建築の写真を表示した。靖宇街周辺の歴史建築の番地、スタイル、装飾文様の出現点数などの情報を通して、靖宇街における歴史建築の装飾文様の特徴、その文様の意味と意匠を紹介した。

たとえば、図2は靖宇街359号の歴史建築情報である。この建築情報を通して、その歴史建築がハルビン市Ⅲ類歴史保護建築に登録された情報を知ることができる。その建築スタイルは典型的な折衷主義建築スタイルである。そして、その歴史建築の上には、植物文様7点、その他の文様2点と幾何文様5点が施されている。特に、中国伝統的な瓢箪文様と団扇文様がその



図2 靖宇街における歴史建築マップの事例

歴史建築の特徴である。同時に、その建築情報において、瓢箪文様と团扇文様の写真を追加して、その文様の意味と意匠を説明する。2017年の8月、靖宇街頭道街～七道街の周辺の歴史建築マップが製作完了見込みである。このような建築マップを通して、靖宇街周辺の歴史建築の情報とそれぞれの装飾文様の特徴と意味を紹介しながら、中国の伝統建築文化と中国西式西洋建築に対する認知度を深めて、靖宇街の優秀な歴史文化資源と生活文化を宣伝することを期待する。

現段階において、筆者は文化遺産志望隊の同士と一緒に、2017年8月、靖宇街頭道街～七道街までの歴史建築に基づき、道外区歴史建築マップのシリーズ①を製作完成見込みである。また、続けて、靖宇街八道街～二十道街までの歴史建築と、靖宇街以外の道外区における歴史建築の情報を調査して、その道外区歴史建築マップの後続のシリーズを製作する。

将来、靖宇街歴史建築マップから発足して、当該地域の住民、商店街連合会、他のボランティア団体と一緒に、靖宇街の地域資源、地域の「宝」を再発見して、地域資源マップなどの地域文化活動を行う。そのような長期的な文化活動を通して、靖宇街の地域資源活性化を促す。(2)靖宇街の公共施設を利用して、長期的に歴史建築文化に関する文化活動を展開する

2010年から、ハルビン市政府が道外区における伝統歴史文化街区に基づき、旧市街区の開発計画を展開してきた。図3のように、2015年には、道外区政府は靖宇街商店街の復興ため

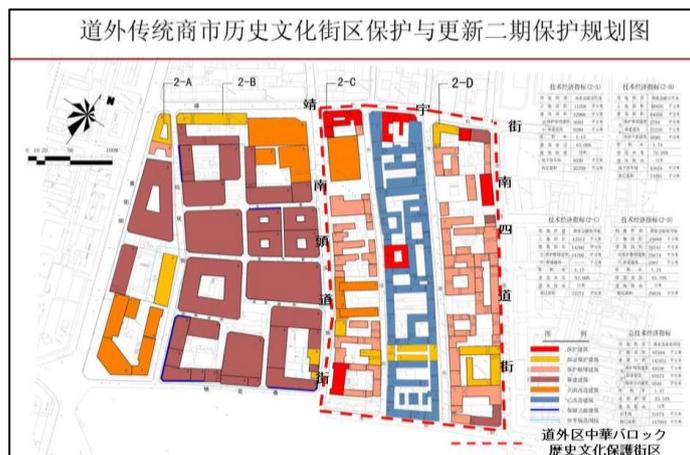


図3 ハルビン市道外区伝統歴史文化街区開発計画(2期)



図4 靖宇街の「中華バロック」歴史文化保護街区

図5 飴細工の展示活動

に、道外区靖宇街において、当該地域の歴史建築を中心として、「中華バロック」歴史文化保護街区を設立した。特に、南二道街～南三道街の青い部分において、中国の伝統飲食店、伝統工芸品店舗と「中華バロック」歴史博物館と文化館(図4)を設立した。現在まで、その歴史建築文化館において、大部分の文化活動が観光ための商業演出と思われた。確かに、図5のように、外来の中国伝統的飴細工を製作するなどの商業演出活動は、大量の観光者を招いた。しかしながら、その経営方針と本研究の靖宇街の地元の歴史文化資源に基づく地域振興と、靖宇街の歴史建築と生活文化を継承・伝達するなどの理念は異なっている。内発的発展の観点からみると、地域住民自らが積極的にその公共資源を利用して、当該地域に関する振興活動を共同参加することが一番重要と思われる。

2017年靖宇街歴史建築文化館における文化活動申請計画書(民間団体)		
	活動内容	対象
2017年3月	靖宇街における伝統東北料理製作の体験	地域住民
2017年4月	靖宇街における宗教建築に関する講座	地域住民
2017年6月	地域住民らが撮影した歴史建築の写真展	地域住民
2017年8月	靖宇街における歴史建築マップの発表	地域住民
2017年9月	歴史建築の装飾文様に関する研究成果の発表	地域住民

図6 靖宇街歴史建築文化保護街区における文化活動申請書

そのゆえに、筆者はハルビン市文化遺産保護志望隊と一緒に、2017年から、その文化館と連携して、長期的に、靖宇街における住民を対象として、当該地域の特有な歴史文化資源に基づく文化活動を展開する予定である。たとえば、図6は2017年度の文化活動申請書の一部分である。3月において、当該地域の郷土料理の由来と製作を体験する。4月、靖宇街周辺の宗教建築を紹介する活動を行う。9月、歴史建築の装飾文様に関する研究の発表となる予定である。地域振興は一気に完成できることではない。将来、筆者はハルビン市の民間団体と熱心な靖宇街の住民とともに、数年を経て、そのような歴史文化資源に基づく文化活動の展開を通して、当該地域の優秀な歴史建築と豊かな生活文化を継承しながら、必ず道外区靖宇街に適する地域文化振興の道を開く。



図7 靖宇北七道街1号「蝙蝠雲紋文様」の3Dデジタルデータ

図8 靖宇南二道街33号「四季平安」の3Dデジタルデータ

(3) 靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の3Dデジタルデータの取得・保存・活用

近年、ハルビン市の急速的な都市開発とともに、道外区靖宇街において、長年を経てつくられた中国式西洋建築が消失している。当該地域の歴史文化資源を再認識し、内発的に地域資源を活性化することが喫緊の課題である。一方、3Dスキャンと3Dプリンタ技術に対して、世界的な関心が高まっている。本研究は、新たな3Dスキャン技術の利活用を通して、靖宇街周辺の中国式西洋建築についてその装飾文様の形状データを取得・保存するとともに、歴史文化資源を共有化し、将来、当該地域の地域活性化を支援する。

図7の写真は靖宇北七道街1号の「蝙蝠雲紋文様」の3Dデジタルデータである。中国の吉祥文化において、雲は祥雲といわれた。その幸福と称された蝙蝠がその祥雲と共に、天から出して靖宇街の住民に福を送って、それらの靖宇街の福運が雲のように絶えずに続いていく吉祥寓意がうかがえる。また、図8の写真は靖宇南二道街33号の「四季平安」という花瓶文様の3Dデジタルデータである。瓶は中国語の平安の「平」と同音であり、平安の意味がある。上のコウシンバラという花が四季の花といわれ、幸福吉祥の寓意が与えられる。その四季の花が花瓶にさされた文様は、一年を通じて平安になる吉祥寓意を表した。現在、新たな3Dスキャン技術を利用して、それぞれの迫真の装飾文様の形状データを取得、保存することができる。さらに、3Dプリンターを利用して、元来触れない歴史建築の装飾文様を実体化、可視化することができる。

靖宇街における文化活動の一部として、2017年から1年間において、筆者はハルビン市文化遺産保護志望隊と一緒に、靖宇街周辺の中国式西洋建築を対象として、残された装飾文様の3Dデジタルデータ取得する予定である(図9)。3Dスキャンを通して、それぞれの歴史建築の装飾文様を記録・保存する。そして、2018年から、靖宇街の文化館と周辺の学校と連携して、定期的に装飾文様の3Dモデルを展示する。若い世代はそれぞれの文様の3Dモデルに触れることにより、中国伝統建築文化と靖宇街の歴史建築への関心を高めることを目的とする。それは新たな3D技術を利用して、歴史建築の装飾文様を保存と活用し、地域の歴史と生活文化を共有する教育活動というものである。将来、その3Dスキャンデータの利活用を通して、靖宇街の歴史文化資源の再認識と地域歴史文化への認知度の高まりから、積極的に地域資源の共有化を促し、地域活性化を支援することを期待する。

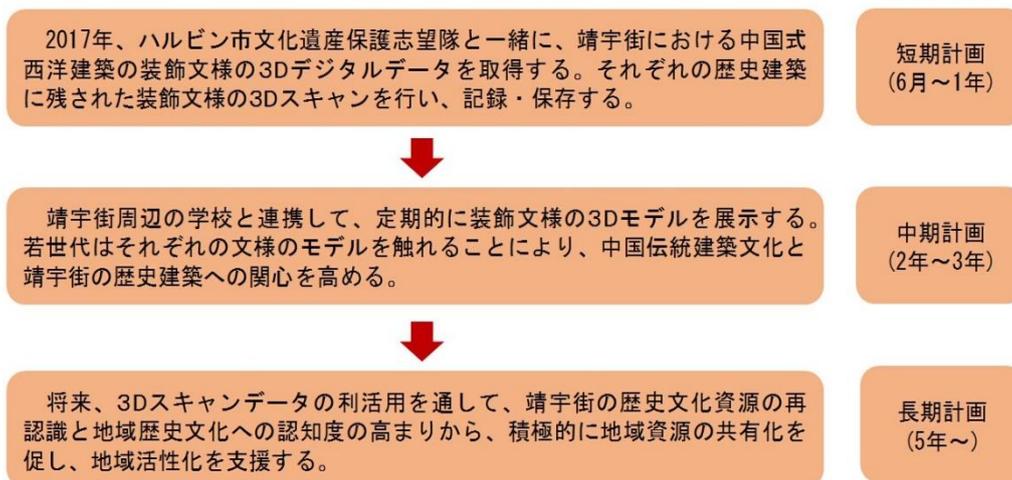


図9 靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の3D技術の利活用

5. 本研究の今後の展望

現段階までの研究は、ハルビン市道外区における靖宇街周辺の中国式西洋建築の現状調査、それぞれの装飾文様の特徴とそれにみられる当該地域の生活文化に関して行われたものである。本研究の重点は当該地域現場調査を通して、靖宇街周辺の歴史建築の保存現状を再確認しながら、その歴史建築の文献資料とそれぞれの装飾文様の写真を通して、今日まで残された靖宇街の中国式西洋建築の最新の資料・情報を系統的に完備することである。

将来、筆者は靖宇街における歴史建築の建造目的、建築の年代などの歴史資料を続けて掘り出して収集、整理する。同時に、その歴史建築に施された装飾文様の彫刻技法、その文様の材質、建築の多種多様な用途により異なった文様の意味と目的をさらに一層研究していこうと考えている。また、新たな3D技術を活用して、靖宇街の歴史文化資源を共有することは、一つの研究方向である。その3Dモデル展示、3Dスキャンなどの長期的な文化教育活動の展開とともに、当該地域住民は潜在的な地域資源を再認識し、積極的に文化活動を参与することを通して、地域活性化を支援することは重要な研究課題である。

本研究はデザイン学研究だけではなく、歴史・社会・地域振興など広範的な研究分野を与えるようになっている。その文様デザイン研究の分野を飛び越えて、歴史、建築、経済などの分野の研究の知識を統合することが非常に必要と思われる。そのゆえ、将来、本研究は、ハルビン市における大学、学術機関と連携し、政府から当該地域の経済発展、都市開発の政策などの地域情報を利用して、地域文化資源に基づき地域振興に関する学術研究を期待する。

図の出典

- 1) 図1～図2、図4～図9：筆者が作成
- 2) 図3：ハルビン市建築計画設計局より

謝 辭

謝 辞

本論文は、筆者が千葉大学 大学院工学研究科 デザイン科学専攻博士後期課程在学中にデザイン文化計画研究室において行った研究をまとめたものです。本研究に関して長期にご指導ご鞭撻をいただきました植田 憲教授に厚く御礼申し上げます。特に、本論文のテーマの決定、論文の構成と書き方において、何度も読んで頂き、指導していただいた植田先生に大変ご迷惑をおかけしてしまいましたことにも心からお詫びを申し上げます。博士前期課程から、植田先生は研究室の理念と研究方法を丁寧にご指導くださるとともに、デザイン文化と生活文化の観念、さらに、将来の学術研究の方向と人生の成長などの貴重な経験を教えていただきました。本当にありがとうございました。

また、本論文をご精読頂き、貴重なコメントを頂きました本学佐藤 公信教授、寺内 文雄教授、柘植 喜治教授に深謝いたします。

そして、本論文の執筆にあたっては、中国黒龍江省ハルビン市建築計画設計局の郭 中良先生に、何回も重要なハルビン市歴史建築に関する文献資料をいただきました。また、ハルビン市文化遺産保護志望隊の先生と学生同士には、道外区歴史建築の研究に関する資料と意見、地域振興の具体的な方策までに全力のご協力とご支援をいただきました。深く感謝いたします。

最後に、これまで私をあたたく応援してくれた両親と、一緒に頑張っていた研究室の皆様、研究を手伝ってくれた後輩に心より感謝しております。ありがとうございました。

盛 穎魁

添付資料

英文要旨

Characteristics of Traditional Building Decoration in Daowai district of Harbin, China

-Regional Development Based on Re-recognition of Historic and Cultural Resources of Jingyu street

1. Introduction

Harbin, as a modern boom town of Heilongjiang province in northeastern China, has boasted a history of more than 200 years since its development. Because of its distinctive geography, Harbin has experienced immigration waves, multi-ethnic cultural integration and cultural impacts from Russia, Japan, Europe, etc. Consequently, a unique urban culture developed between 1850 and 1930, during which the buildings in Jingyu Street in Daowai district of Harbin, in particular, displayed a typical China-western style, featuring 17th-century western architectural elements externally but traditional Chinese decorations internally. This, in a sense, has been a cultural heritage of great value by local people.

Through the research on present situations of decorations in the China western architecture of Jingyu Street in Daowai district of Harbin, this study analyzed designs and implications of various grain patterns, aiming to re-explore and re-recognize the local cultural characteristics of historical buildings. Meanwhile, through the questionnaire survey on inheritance and development of local cultural resources, the study also offered guidance of regional cultural development pushed by inner impetus.

In the first chapter, the author elaborates the formation and development of Harbin typical urban culture from the early 20th century to 1930s. During this period, a huge amount of immigrants, under the impact of immigration waves, swarmed into Harbin, which brought about multi-cultural living culture, and formed Harbin typical culture style in architecture.

In the second chapter, the author confirms the architectural style of the traditional buildings in Jingyu Street in light of his research into the decorations of these China western architecture. Besides, the author has such patterns classified and finally analyzes their designs and implications.

In the third chapter, the author finds out the characteristics of the China western architecture of Jingyu Street through the presentation of contents and techniques of the above decorations.

In the fourth chapter, the author learns the local resident views on traditional buildings and

cultural resources through a questionnaire survey conducted in Jingyu Street.

The author, from the analysis of the implications embodied in the China western architecture of Jingyu Street and the feedback of the questionnaire survey, finally puts forth his interpretation, perspective and guidance of regional future development pushed by inner impetus based on regional cultural resources as the conclusion of his study.

2. Chapter One: "Evolution and Establishment of Harbin Typical Urban Culture"

Through literature review, the author demonstrates the evolution and establishment of Harbin, Daowai district and Jingyu Street respectively. The early 1900s witnessed immigration waves, which prompted Harbin to develop its distinctive urban culture. This exerted profound influence on Harbin traditional architecture's culture as well. In this chapter, the author concludes the following points:

- (1) Immigrants not only had their individual living region but also bring their individual architectural culture in Harbin.
- (2) Traditional buildings in Harbin experienced three stages, namely "primary stages" (1900s-1920s), "develop stage" (1920s-1930s) and "mature stage" (1931-1945).
- (3) Jingyu Street in Daowai district, accompanied with Harbin urban infrastructure construction, gradually became the community for clusters of Chinese people. In the meantime, the unique China western architecture developed as the result of integration between western architectural culture and traditional Chinese decorations.

3. Chapter Two: "Research into the Decorations of China western architecture in Jingyu Street"

By means of field study and literature review to inquire about 107 traditional buildings in Jingyu Street, the author arrives at the following conclusions of this chapter:

- (1) Nowadays, there still exist such western architectural styles as classic, Renaissance, Earl Nouveau, Earl Deco, coupled with China western architectural styles like Chinese-Baroque, Chinese-Eclecticism, Chinese-Earl Nouveau, etc.
- (2) The author took a sample of 964 decorations from 107 traditional buildings, and then classified them into 6 subjects with 65 categories, concerning plant, animal, people, character

or letter, geometry, etc. These grain patterns convey their implication like well-being, longevity, safeness, happiness, fortune and good luck, reflecting the resident vision of a better life.

(3) The history of Harbin, the former international metropolis, and its integrated multi-ethnic living culture find full expression of the above grain patterns and architectural styles.

4. Chapter Three:"Living Culture Reflected by China western architecture in Jingyu Street"

Through the analysis of the sample mentioned above, the author arrives at the following conclusions of this chapter:

(1) All the selected decorations can be roughly divided into Chinese, Western and China-western styles, of which the traits of plants and animals, homo-phony, ambiguity and other presentation techniques have been employed in Chinese and China-western styles, sending the fortunate messages of well-being, longevity, happiness, etc.

(2) After further classification of the sample (964 decorations in 65 categories), the author finally attained 7 meaning groups according to their implication: happiness, official career, longevity, fortune, elegance, good-fortune and safeness.

(3) By imitating western architectural styles and integrating traditional Chinese grain patterns, artisans at that time created China western architectural style, which not only inherited traditional Chinese culture but also assimilated western architectural styles, and simultaneously, this innovative style greatly reflected the living culture then.

5. Chapter Four:"Questionnaire Survey on Traditional Buildings and Cultural Resources in Jingyu Street"

The questionnaire survey conducted in Jingyu Street is composed of 5 projects entitled History of Jingyu Street in Daowai District of Harbin, China western architecture, Traditional Chinese Decorations, Historical Cultural Resources in Jingyu Street and Cultural Activities in Jingyu Street. The author then reaches the conclusion that most respondents knew little about the history of Jingyu Street and the implication embodied in traditional buildings either, and they also had a fuzzy recognition of the historical cultural resources in Jingyu Street. Nevertheless, they took great interest in the cultural activities in Jingyu Street. Therefore, it is

an important task to foster enthusiasm for local people's participation in various cultural activities, through which their interpretations of historical culture will be enhanced.

6. Conclusion

6.1."Distinctive Features and Cultural Characteristics of the Decorations of China western architecture in Jingyu Street"

In summary, through the analysis of the sample of 107 traditional buildings in Jingyu Street, 964 decorations are verified, and they are classified into 6 subjects with 65 categories, concerning plant, animal, people, character or letter, geometry, etc. All the selected decorations can be roughly divided into Chinese, Western and China-western styles, of which the characteristics of plants and animals, homophony, ambiguity and other presentation techniques have been employed in Chinese and China-western styles. This is in line with traditional Chinese architectural characteristics. As Harbin was developing between the early 20th century and 1930s, the local residents in Jingyu Street of Daowai district, influenced by international cultures, completely inherited the essence of traditional Chinese culture and actively created a unique culture of China-western style, a reflection of western architecture and an inheritance and development of traditional Chinese culture. The residents expressed their hope and love to happiness, well-being, longevity, safeness, etc via decorations. This positive attitude to life laid the foundation of a common daily life consciousness, which contributed to a shared living space. Nowadays the decorations of China western architecture still possess significant value of culture and society.

6.2."The Fad of the Remaining Traditional buildings and the Traditional Living Culture in Jingyu Street"

With the rapid growth of economy, the traditional living culture in Harbin is changing. As a result, the remaining Traditional buildings in Jingyu Street fade away and the local resident recognition of historical and traditional grain patterns is lowering. Therefore, it is of great importance to achieve regional prosperity based on the re-recognition of Chinese decorations by protecting splendid historical cultural resources. Apparently, it is necessary to raise people's concern for the China western architecture of Jingyu Street and reinforce the protection for these remaining buildings.

6.3. "Regional Prosperity Based on Historical Cultural Resources"

Clearly, in the future, it is crucial to inherit and develop the local historical cultural resources through the re-recognition of traditional buildings in Jingyu Street and its integration with local resident voluntary activities. According to the analysis of the questionnaire survey and the present society situation, the author puts forth some proposals as followed:

(1) Storage and Application of the Grain Patterns via 3D Technique

It is advisable to apply the ever-growing 3D technique in scanning and storing of the decorations of China western architecture of Jingyu Street to share the local cultural resources. Besides, it is preferable to produce some grain pattern models by 3D technique and exhibit them regularly. Along with such hands-on exhibition, people's interest in history and traditional culture will be stirred up. In summary, it is a pragmatic approach to boost regional activation by full application of 3D technique in the data storage of the grain patterns of traditional buildings.

(2) Application of Public Facilities to Hold Long-term Community Cultural Activities Based on Traditional Buildings.

Cooperate with the local volunteers, cultural and educational institutions, it is necessary to hold community cultural activities relevant to China western architecture in the near future. Through the re-recognition of the splendid local resources in history and culture, it is a pragmatic approach to promote the resident enthusiasm of participation in community cultural activities for the sake of regional prosperity based on historical cultural resources.

As the saying goes, Rome was not built in a day and so it is true of the achievement of regional prosperity. However, the author holds a strong belief that in years of effort together with the implementation of cultural activities, it is attainable, without fail, to inherit and develop the splendid urban living culture of Daowai district in cooperation with Harbin citizens, civil societies and volunteers, and ultimately find out a way of the regional prosperity of Jingyu Street in Daowai district.

表2 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する表現方式の分類

	植物																				動物												
	竹	菊	梅	松	葡萄	月季	蓮花	瓜	鈴蘭	柳	ザクロ	麦	桃	木犀	バイナツブル	オモト	蘭	アカンサス	ロゼット	牡丹	唐草	白菜	バラ	葦	花綱	他	鹿	獅子	鳳凰	孔雀	燕	鷹	蛙
スタイル	中国装飾文様																																
	西洋装飾文様																																
	中西混用文様																																
表現形式	単一の文様																																
	組み合わせ文様																																
登場回数	1	3	8	4	16	1	11	15	27	20	5	3	5	2	3	3	15	22	42	82	179	3	5	2	43	92	5	5	2	1	1	1	2
	文字										人物										他の図案										幾何図案		計
	蟹	龍	蝠	蝶	帆立貝	鶴	鶏	カササギ	熊	福	寿	天使	仙人	グリーンマン	古銭紋	暗八仙	雲紋	八卦紋	博古紋	盤長紋	亀甲紋	卍紋	武器	花瓶	花籠	花壺	水紋	日紋	四角形	回紋	方勝紋	他の図案	
スタイル	中国装飾文様																				幾何図案		51										
	西洋装飾文様																				16												
	中西混用文様																				9												
表現形式	単一の文様																				51												
	組み合わせ文様																				32												
登場回数	1	2	10	8	4	3	1	2	1	1	18	1	2	1	15	3	3	3	4	11	10	2	3	9	18	8	68	42	12	22	26	21	

表3 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する表現内容の分類

	植物																				動物																						
	竹	菊	梅	松	葡萄	月季	蓮花	瓜	鈴蘭	柳	ザクロ	麦	桃	木犀	バイナツブル	オモト	蘭	アカンサス	ロゼット	牡丹	唐草	白菜	バラ	葦	花綱	鹿	獅子	鳳凰	孔雀	燕	鷹	蛙											
福	富貴吉祥					●														●					●	●	●	●					●										
	厄除開運												●						●							●								●									
	多子多孫					●																				●																	
	子孫繁栄																																										
	夫婦円満						●																																				
禄	仕官願調	●																																									
	科擧合格																																										
寿	不老長寿		●																																								
	家族健康			●																																							
財	財宝富溢																																										
	商売繁盛																																										
雅	品德修養	●	●	●																																							
	五穀豊穡																																										
和順	天下太平																																										
	四季平安																																										
平安	四季平安																																										
	家宅安全																																										
	動物										文字										人物										他の図案										幾何図案		計
	蟹	龍	蝠	蝶	帆立貝	鶴	鶏	カササギ	熊	福	寿	天使	仙人	グリーンマン	古銭紋	暗八仙	雲紋	八卦紋	博古紋	盤長紋	亀甲紋	卍紋	武器	花瓶	花籠	花壺	水紋(直線)	日紋(円形)	四角形	方勝紋	回紋												
福	富貴吉祥					●																																					
	厄除開運																																										
	多子多孫																																										
	子孫繁栄																																										
	夫婦円満																																										
禄	仕官願調	●																																									
	科擧合格																																										
寿	不老長寿		●																																								
	家族健康			●																																							
財	財宝富溢																																										
	商売繁盛	●	●																																								
雅	品德修養	●	●	●																																							
	五穀豊穡																																										
和順	天下太平																																										
	四季平安																																										
平安	四季平安																																										
	家宅安全																																										
登場回数	1	2	10	8	4	3	1	2	1	1	18	1	2	1	15	3	3	3	4	11	10	2	3	9	18	8	68	42	12	22	26	21											

質問紙調査資料

「道外区靖宇街の文化資源」に関するアンケートの回答協力をお願いについて

拝啓

市民の皆様には、ハルビン市文化遺産志望隊にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

今回の研究で「道外区靖宇街周辺の中国式西洋建築」について研究することにいたします。今回のアンケートは、市民の皆様の靖宇街の文化資源とまちづくりについてのご意見をお伺いし、計画策定の基礎資料とするために実施するものです。さらに、政府が取り組んでいる施策に対し、市民の皆さんがどのように感じておられるのかをお聞かせいただくことにより、その開発計画の進み具合や課題などを点検しようとする重要な一環です。お忙しいところまことに恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、今回のアンケート調査は、20歳以上の市民からをお選びし、回答は無記名となり、結果はすべて統計的に処理されますので、貴方のご回答が他の人に知られることはございません。市民の皆様の率直な実感をお聞かせいただき、ご協力くださるようお願いいたします。

敬具

担当者 盛 穎魁

年齢

20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上

職種

個人事業主 公務員 教師 非正規雇用者 学生 退職者 サラリーマン

性別 男 女 民族 漢族 その他

1. ハルビン市道外区の形成歴史を知っているか？
よく知っている まあまあ知っている 普通 あまり知っていない
ほとんど知っていない
2. 道外区靖宇街の歴史を知っているか？
よく知っている まあまあ知っている 普通 あまり知っていない
ほとんど知っていない
3. 靖宇街の中国式西洋建築群(中華バロック建築)を知っているか？
よく知っている まあまあ知っている 普通 あまり知っていない
ほとんど知っていない
4. 靖宇街の歴史的建築の保存現状はどう思うか？
よく保存している まあまあ保存している 普通 あまり保存されていない
ほとんど保存されていない
5. 靖宇街の歴史的建築群は重要な文化遺産だと思うか？
とても重要 まあまあ重要 普通 あまり重要じゃない
わからない
6. そのような歴史文化資源について関心があるか？
よく関心がある まあまあ関心がある 普通 あまり関心がない
ほとんど関心しない

7. そのような歴史的文化資源を保存、活用すべきことを知っているか？
よく知っている 大体知っている 普通 少々知っている
ほとんど知っていない
8. 今後のまちづくりを進める上で、その歴史的文化資源は重要だと思うか？
とても重要 まあまあ重要 普通 あまり重要じゃない 全然重要
じゃない わからない
9. ハルビン市歴史建築保護条例を知っているか？
よく知っている 大体知っている 普通 少々知っている
ほとんど知っていない
10. ハルビン市文化遺産志望隊を知っているか？
よく知っている 大体知っている 普通 少々知っている
ほとんど知っていない
11. 今、靖宇街の文化活動を参与することがあるか？
よく参与した まあまあ参与した 普通 あまり参与しなかった
ほとんど参与しなかった
12. 今、道外区の靖宇街の文化活動はどう思うか？
よくできる まあまあできる 普通 あまりない ほとん
どない
13. 今後、そのような文化活動を参加したいか？
必ず参加したい まあまあ参加する 普通 あまり参加したくな
い ほとんど参加したくない
14. 今後、以下のような参加してみたい文化活動があるか？（多数選）
a. 道外区の伝統的生活文化に関するイベント
b. 中国の伝統的祭り
c. 道外区の歴史的な生活資料に関する展覧会
d. 靖宇街の歴史建築に関する展覧会
e. その他
15. 今後、ハルビン市文化遺産志望隊の活動を参与したいか？
必ず参加したい まあまあ参加する 普通 あまり参加したくな
い ほとんど参加したくない
16. 伝統的生活文化資源に基づくまちづくりには、どのような意義があると思
うか？（多数選）
a. まちの魅力の向上・観光振興
b. 歴史・文化の継承
c. まちの誇りと愛着の高まり
d. 快適な暮らしの向上
e. にぎわいの創出・地域活性化
f. 良好な地域コミュニティの形成
g. 意義があると思わない
h. その他
17. 今日、靖宇街の生活文化の伝承と持続的な発展はどう思うか？
よく継承している まあまあ継承している 普通 あまり継承しない
ほとんど継承しない

18. 地域文化の伝承を担う人材の育成はどう思うか？
 とても重要 まあまあ重要 普通 あまり重要じゃない
 ほとんど重要じゃない 分からない
19. 今後、伝統的地域文化の継承と発展には、どのように取り組むべきだと思うか？
 (多数選)
- 地域文化の発展目標や振興方針を制定する
 - 伝統的文化資源についての判定規準を定める
 - 重要歴史的建築物の保存措置を強める
 - 重要な歴史的建築物と文化遺産の認知度を高める
 - 市民参加の機会を提供する
 - 地域文化の伝承の担い手を育てる
 - 地域文化振興の助成などの金銭的支援を行う
 - 地域文化振興活動に関する情報を発信する
 - 専門家、学者を含めた民間団体の参加度を増やす
 - 歴史的建築博物館と生活資料館を開設する
 - その他 _____
20. 以下の写真を通して、中国式西洋建築の装飾文様の名称と意味を選んでください

寓意		名称		寓意
富貴吉祥		蝙蝠		富貴吉祥
家宅平安		桃		富貴吉祥
健康		方勝		家宅平安
幸福		「福」字		健康
多子多孫		「寿」字		幸福
商売繁盛		鯉		多子多孫
五穀豊穡		蓮		商売繁盛
連年有余		卍字紋		五穀豊穡
生生不息		月季		連年有余
不老長寿		蘭		生生不息
金を招く		博古		不老長寿
同心合意		鳳凰		金を招く
天下太平		花瓶		同心合意
品德修養		獅子舞		天下太平
四季平安	麒麟	品德修養		
仕官願望	松	四季平安		
科学合格	鹿	仕官願望		
平昇三級	鶴	科学合格		
辟邪	武器(戟)	平昇三級		
子孫繁栄	蟹	辟邪		
「四君子」	壁長	子孫繁栄		
		「四君子」		

寓意		名称		寓意
富貴吉祥		蝙蝠		富貴吉祥
家宅平安		桃		富貴吉祥
健康		方勝		家宅平安
幸福		「福」字		健康
多子多孫		「寿」字		幸福
商売繁盛		鯉		多子多孫
五穀豊穡		蓮		商売繁盛
連年有余		卍字紋		五穀豊穡
生生不息		月季		連年有余
不老長寿		蘭		生生不息
金を招く		博古		不老長寿
同心合意		鳳凰		金を招く
天下太平		花瓶		同心合意
品德修養		獅子舞		天下太平
四季平安	麒麟	品德修養		
仕官願望	松	四季平安		
科学合格	鹿	仕官願望		
平昇三級	鶴	科学合格		
辟邪	武器(戟)	平昇三級		
子孫繁栄	蟹	辟邪		
「四君子」	壁長	子孫繁栄		
		「四君子」		

プレゼンテーション資料



中国ハルビン市道外区における
中国式西洋建築に見られる
装飾文様の地域特性

靖宇街の歴史文化資源の
再認識に基づく
地域振興

デザイン文化計画研究室
盛 穎魁

中国東北部有数の大都市





図3 1895年にロシア人が作成したハルビンの位置を示した地図(「哈爾濱市歴史建築」)



図4 1910年代の埠頭区と傳家甸地区(「哈爾濱市歴史建築」)

ハルビン市と道外区靖宇街の変遷



図5 1920年代の靖宇街頭道街(「哈爾濱市歴史建築」)



図6 2014年靖宇街三道街市場(筆者撮影、2014年)

ハルビン市多種多様な歴史建築スタイル



図7 中央大街の歴史建築(旧松浦洋行) 1920年代のバロック建築スタイル



図8 中央大街の歴史建築(旧「ミニアクル」レストラン) 1930年代のアーチ・ニューウォー建築スタイル



図9 南岗区国際ホテル(旧「新ハルビンホテル」) 1930年代の流行した「近代式」建築スタイル

写真出典：
『ハルビン市歴史文化名城保護』

同市西洋建築文化の影響を受け、中華バロック建築スタイルが生まれた

今日、『中国近代建築総覧・哈爾濱編』などの文献資料に基づき、ハルビン市の歴史建築をスタイルの観点から分類すると、ハルビン市道裡区と南崗区において、古典式、ルネサンス式、バロック式、折衷式、近代式、ロシア式、1920年代～1930年代の間に隆盛したアール・ヌーヴォー、アール・デコなどの西洋建築スタイルが確認された。

西洋建築文化の影響



中国建築文化の継承

ハルビン市道外区靖宇街の周辺において、西洋の建築と中国の建築を融合させた中華折衷式、中華アール・デコ、中華アール・ヌーヴォー式などの中華バロック式歴史建築がみられる。

5

道外区靖宇街の「中華バロック」と中国式西洋建築

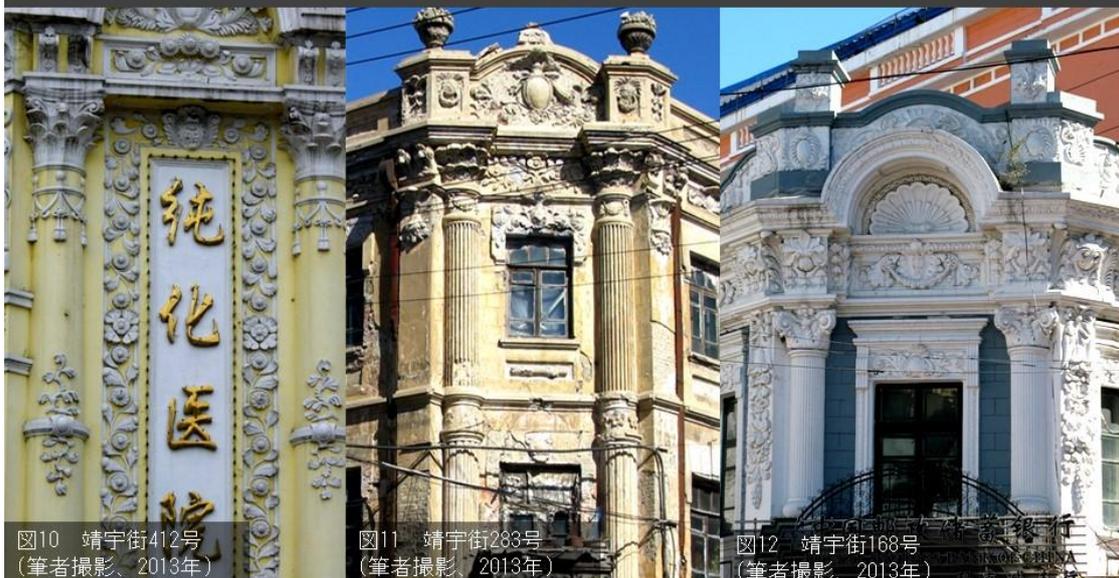


図10 靖宇街412号
(筆者撮影、2013年)

図11 靖宇街283号
(筆者撮影、2013年)

図12 靖宇街168号
(筆者撮影、2013年)

「中華バロック」とは、1996年、日本の建築学者であった西澤康彦先生がはじめて提出され、「19世紀から中国各地に出現した西洋古典様式を模しながらも似て非なる建物の総称」である。本研究は、靖宇街における建築のスタイルが、必ずしも「バロック」に限定されず、多種のスタイルが含まれていることから「中国式西洋建築」と称する。⁶

靖宇街における典型的な中国式西洋建築

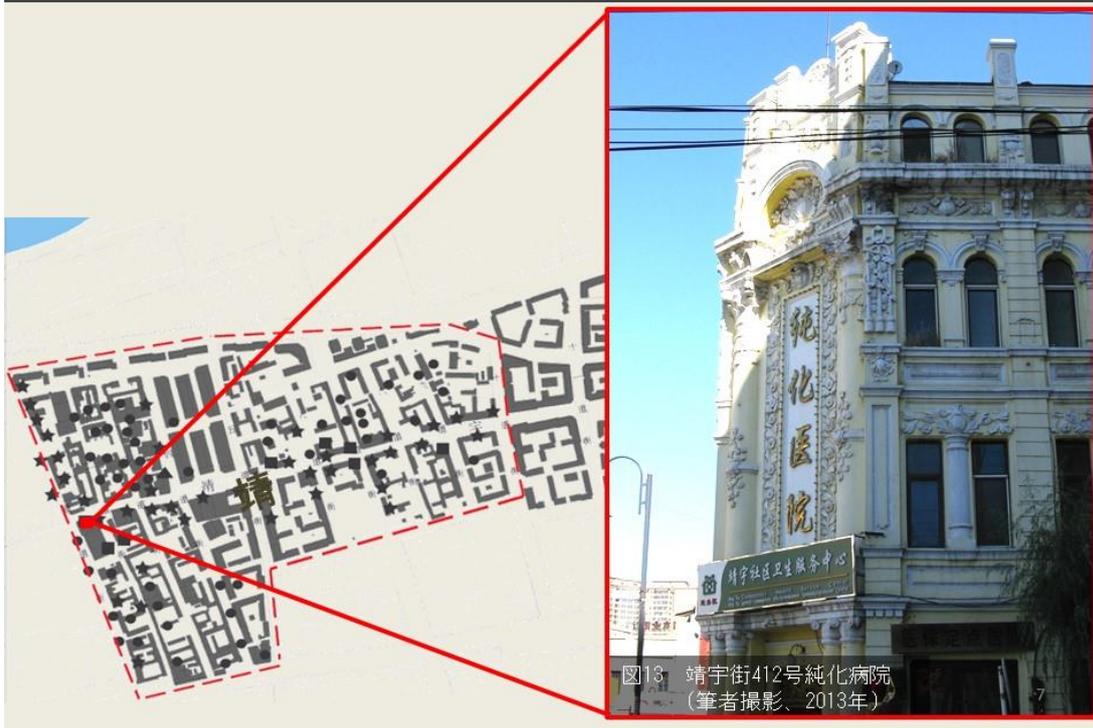


图13 靖宇街412号純化病院
(筆者撮影、2013年)

靖宇街における典型的な中国式西洋建築



衰退している商店街と取り壊された歴史建築



デザイン文化に対する理解

文化の定義

「社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される行動様式ないし生活様式の総体である。」

出典：大辞林 第三版

モノデザイン



地域固有の文化の価値を探求する。



豊かな生活文化を提案する

研究目的

靖宇街周辺の**中国式西洋建築**の装飾文様の現状を調査する。その装飾文様に表出した**生活文化の特質**を抽出することを通して、当該地域に独自の中国式西洋建築の装飾文様が有する社会的・文化的な役割を考察する。

そのような**歴史文化資源**の再認識に基づき、当該地域の住民を対象として、今後の**内発的発展**に基づく地域文化振興の方向性とその地域資源を維持・継承していくための指針を見出すことを目指した。

靖宇街北二道街47号
(筆者撮影、2014年)

ハルビン市歴史建築の保存措置



11

研究方法

文献調査

『哈爾濱市県誌』
『哈爾濱市歴史建築』
『中国吉祥文化』
『中国民間吉祥芸術』
『中国伝統吉祥図典』 など

現地調査

2013年8月～9月、靖宇街周辺の法定保存歴史建築に関する調査を行った。
2014年9月、靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様に関する調査を行った。
2015年8月、靖宇街周辺の住民の質問紙調査を行った。

装飾文様の分類

靖宇街周辺の歴史建築のそれぞれの装飾文様を分類した。さらに、装飾スタイル、表現方法などの観点から分析し、中国式西洋建築の装飾文様に表出した特質を抽出した。

質問紙調査

質問紙調査の結果に基づき、当該地域の住民の意識を考察した。

14

論文構成

序章

第一章 20世紀初～30年代ハルビン市特有の都市文化の変遷と形成

第二章 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に関する調査

靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の意味性と特徴

第三章 靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様に表出した生活文化

靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の表現方法、表現内容とその建築文化の特質

第四章 靖宇街における歴史建築と文化資源に関する意識調査

終章 道外区靖宇街における歴史建築と文化資源に基づく地域文化振興に関する提言

15



靖宇街の住民はどこから伝統生活文化を習得したか？

当該地域の住民は、その装飾文様の意匠と寓意から伝統的な道德教育と生活価値観を継承した

靖宇街の装飾文様は重要な文化的な役割を担う



その歴史建築に残されたそれぞれの装飾文様を
再発見することは急務である

歴史建築の類型、建築番地、建築スタイルなどを統計した

表 1 靖宇街周辺の歴史建築における

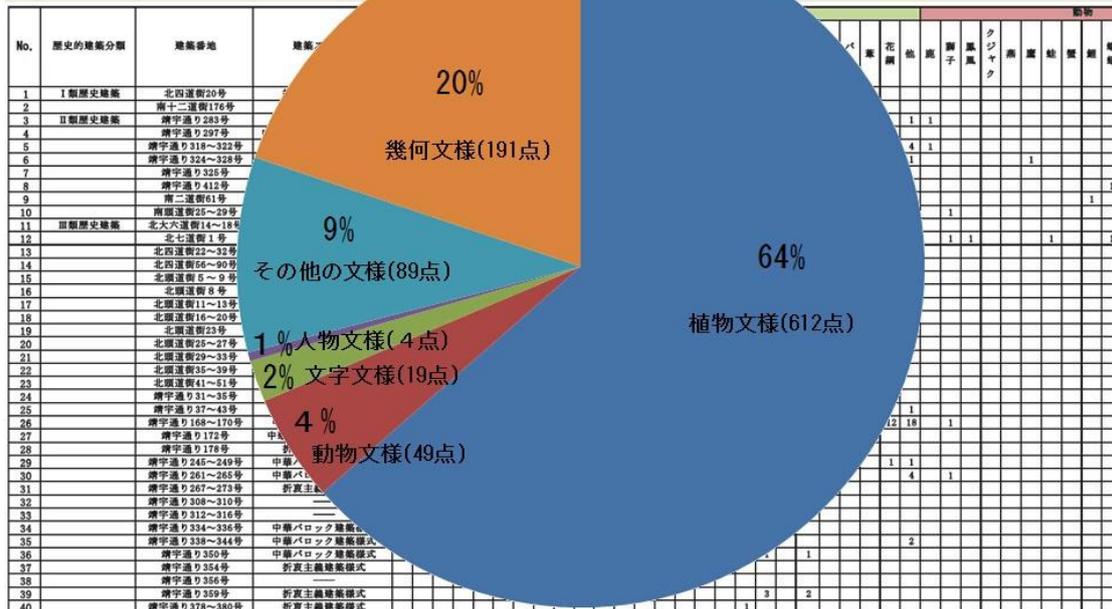


図16 靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の分類

19

靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様

靖宇街周辺地区だけでも964点にもおよぶ装飾文様が施されており、それらは、植物、動物、人物、文字、幾何などに分類される。

それらの装飾文様は、中国伝統的生活文化にみられる要素を中心として、建築スタイルとともに流入したヨーロッパやロシアや日本のものもみられる。その時期、国際都市として形成されたハルビン市の歴史が反映されている。

20



中国式西洋建築の
装飾文様から表出した
生活文化の特質

靖宇街283号(筆者撮影、2013年)

その装飾文様からどのような生活文化を共有したか？

その装飾文様からどのような共有の生活空間が構築されたか？



それぞれの装飾文様の意匠と意味を**再認識**
することは必要である。

22

福、禄、寿、財、雅、和順、平安などの共同意識を創った

表2 それぞれの装飾文様に関する表現内容の分類

種類	文様の意味	出現回数	文様寓意
福	富貴吉祥	23	元来、 幸運 や 富貴 の意味である。時代の進展と共に、 出産順調 、 子孫繁栄 、 婚姻円満 などの吉祥寓意を包含する
	厄除開運	12	
	多子多孫	7	
	子孫繁栄	9	
	夫婦円満	10	
禄	仕官順調	5	個人の 事業成功 や 出世 の意味である
	科挙合格	3	
寿	不老長寿	9	健康・長寿 の吉祥意味である
	家族健康	6	
財	財宝盈満	3	自分の力でお金を 稼ぎ 、豊かな生活をつくること
	商売繁盛	8	
雅	品德修養	12	人びとの 日常修養 を高めること
和順	五穀豊穰	10	自然・気候が 順調 で、穏やかで 安定 していること
	天下太平	6	
平安	四季平安	2	国家の 平和・安定 と 社会の繁栄 のこと ²³
	家宅安全	18	

同音異義を用いて「福」を表した「蝙蝠」文様



図17 五蝠文様(南二道街2号)

五匹の蝙蝠は「五蝠」と言われ、その五福は「**長寿**・**富貴**・**健康**・**好徳**・**善終**の五つの福が集まる」という意味である。



図18 蝙蝠雲紋文様(南三道街北原工場)

蝙蝠がその祥雲と共に、天から出して靖宇街の住民に福を送って、それらの靖宇街の福運が雲のように絶えずに続いていく吉祥寓意である。

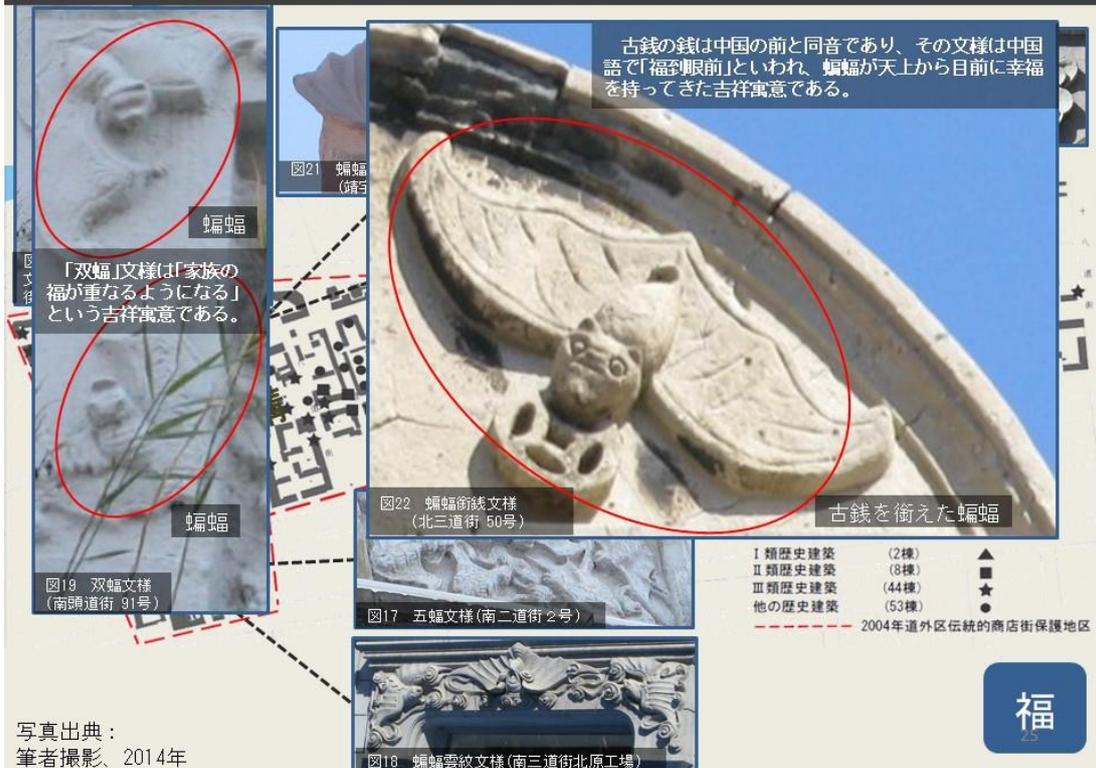
写真出典：
筆者撮影、2014年

福₂₄

靖宇街において各種各様な蝙蝠文様がみられる



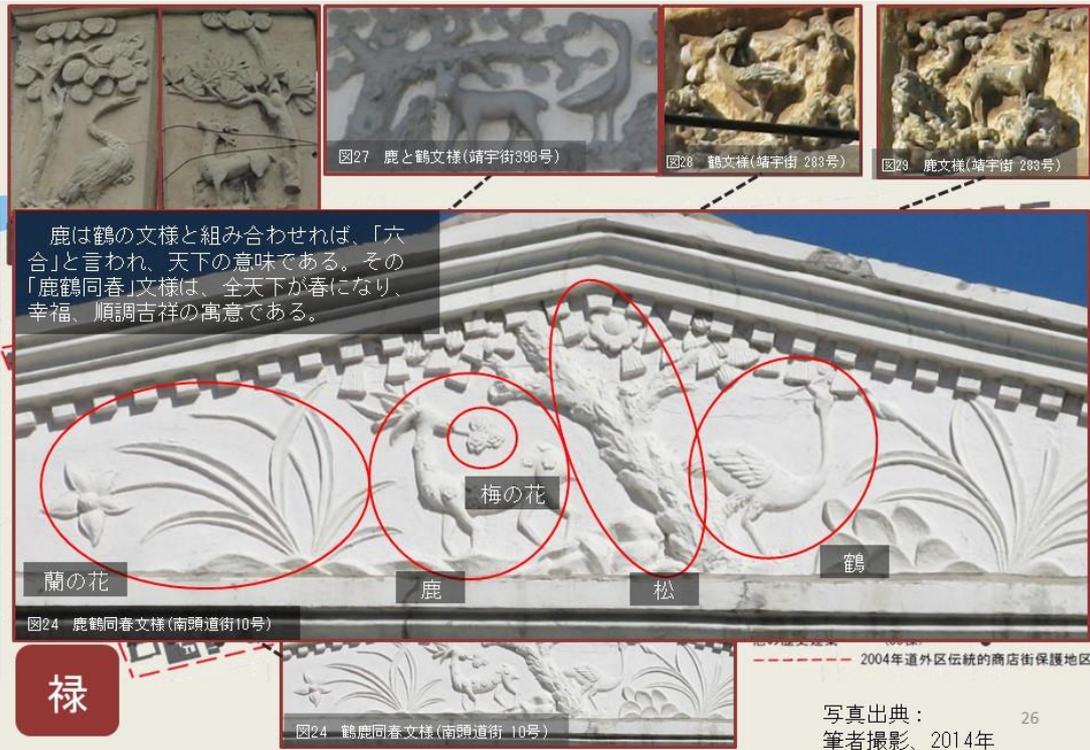
靖宇街において各種各様な蝙蝠文様がみられる



靖宇街において鹿と鶴の組み合わせた装飾文様が多くみられる



靖宇街において鹿と鶴の組み合わせた装飾文様が多くみられる



漢字から図案化された寿字文様



図30 寿字と方勝文様(南九道街182号)

寿字文様とその連続の方勝文様と組み合わせて、家族が永遠に健康長寿という吉祥寓意がある。



図31 寿字と古銭文様(南九道街182号)

寿字文様と古銭文様の組み合わせた文様を施して、家族の後世が健康長寿・商売繁盛の願いを表した。

寿

寿字は中国人に非常に愛されている漢字の一つである。その文様が使われており、当地の住民の生命に対する熱望と健康に対する渴望がよく表れている。

写真出典： 27
筆者撮影、2014年

その装飾文様に表出した生活文化の特質

靖宇街周辺の歴史建築にみられる装飾文様には、当時の当該地域の人びとが共有していた「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの吉祥寓意が確認された。

それらの装飾文様の多くには、当該地域住民の「世々代々」に渡って吉祥を願う文化が継承された。事業の成功、健やかな成長、科擧の合格、子孫の繁昌など、市井の人びとの幸せを願う切実な気持ちが表現されているといえる。



当該地域の住民らはどのようなその生活文化を創造したか？



それぞれの装飾文様の**特徴**を考察する。

靖宇街の中国式西洋建築にみられるアカンサス文様と変容



図34 アカンサス柱頭文様(南頭道街10号)



図35 アカンサス柱頭文様(靖宇街412号)

西洋建築のスタイルの影響を受け、靖宇街の中国式西洋建築のうえにもアカンサス文様が大量に施された。



図36 白菜文様(靖宇街168号)

白菜は、中国語で「百財」と同じ発音であることから、財を呼び込む吉祥植物と思われた。



図37 白菜の柱頭文様(南頭道街91号)

アカンサス文様の葉の美しい鋸歯状と、柔らかな曲線造形などの特性を参照して、白菜の柱頭文様を創造した。その文様に、白菜の吉祥などの文化寓意が与えられた。

白菜文様から白菜の柱頭文様が創造された。

写真出典：32
筆者撮影、2014年

西洋建築にみられるアカンサス文様

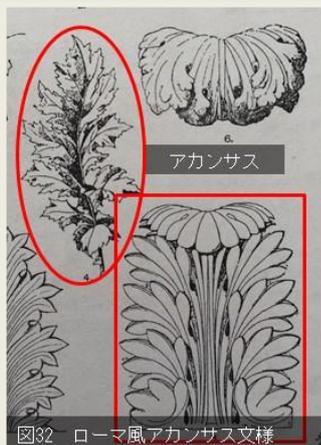


図32 ローマ風アカンサス文様



図33 17世紀、アカンサス唐草文様の銀のジョッキ

西洋建築において、アカンサスは一般的な植物文様として、しばしば使用された。

最初はローマ風の葉の先が丸く広くて、強い曲り方している造形である。17世紀以降、長く伸びたアザミのような唐草文様として、芸術品と建築に施された。

出典：図32、「装飾のハンドブック」、p42
図33、「フランスの装飾と文様」、p75

31

中国式西洋建築にみられる唐草文様の変容



ギリシャ風の草文様

図38 唐草文様(南三道街義曾徳)

ヨーロッパと中東地区の植物造形を採用した唐草文様



牡丹

バロック風アカンサス文様

図39 唐草文様(南三道街義曾徳)

牡丹のような中国の伝統的な要素を加えた唐草文様



中国伝統的な白菜の葉

図40 唐草文様(北頭道街8号)

西洋のアカンサス文様が白菜の文様に置き換えられ、中国の吉祥文化が与えられた。

写真出典:33
筆者撮影、2014年

靖宇街における豊かな生活文化と生活空間の構築

伝統装飾文様の継承 ↔ 伝統生活文化の習得



装飾文様の文化の共有 ↔ 共同の生活文化の構築



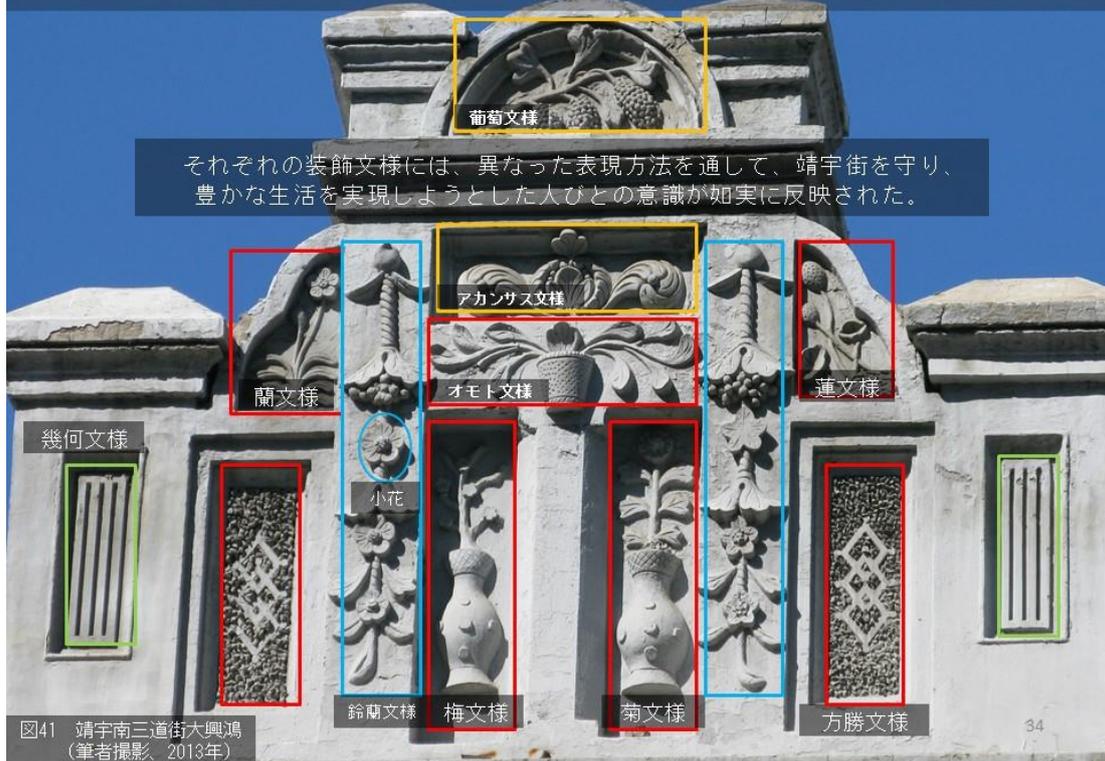
特有な装飾文様の創造 ↔ 豊かな生活文化の伝達



装飾文様デザインを通して豊かな生活文化と生活空間を構築した。

35

靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の特徴



今日、靖宇街における残された歴史建築に関する質問紙調査

調査対象地域

ハルビン市道外区靖宇街(靖宇頭道街～靖宇二十道街)

調査対象者

靖宇街周辺の歴史建築物の居住者、使用者及びハルビン市民

調査方法

現場において質問紙調査を行ない、靖宇街の周辺の歴史建築、生活文化活動と歴史文化資源に対する当該地域住民の意識の実態を明らかにする。

調査期間

2015年8～9月

37

調査対象者の属性

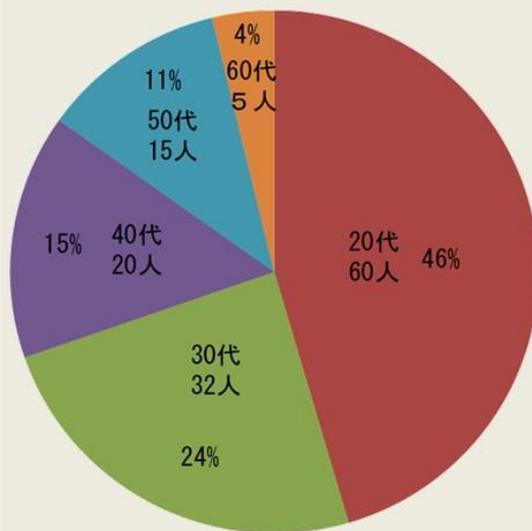


図42 調査対象者の年齢

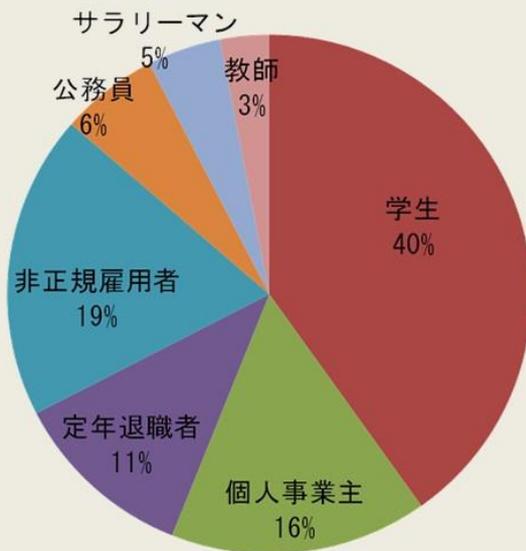


図43 調査対象者の職業

38

調査対象者の属性

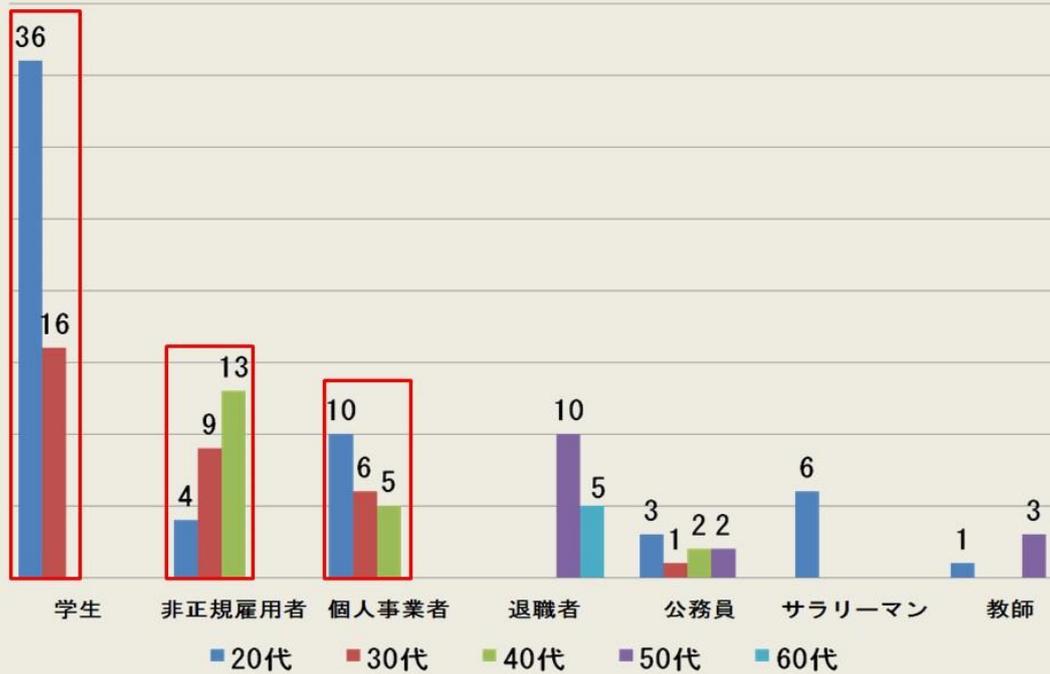


図44 調査対象者の属性構成

39

靖宇街周辺の歴史建築に基づく調査内容

ハルビン市道外区と靖宇街の形成と歴史

靖宇街周辺の中国式西洋建築

中国伝統的装飾文様

靖宇街における歴史文化資源

靖宇街における文化活動

40

靖宇街の歴史建築の装飾文様の意味に関する意識調査

表3 職業と装飾文様の意味のクロス表

職業	職業	歴史建築装飾文様の意味		合計
		わからない	わかる	
学生	度数	38	14	52
	職業の%	73.1%	26.9%	100.0%
	調整済み残差	1.8	-1.8	
非正規雇用者	度数	15	11	26
	職業の%	57.7%	42.3%	100.0%
	調整済み残差	-7	7	
教師	度数	1	3	4
	職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.6	1.6	
公務員	度数	4	4	8
	職業の%	50.0%	50.0%	100.0%
	調整済み残差	-8	8	
退職者	度数	4	11	15
	職業の%	26.7%	73.3%	100.0%
	調整済み残差	-3.2	3.2	
個人事業者	度数	16	5	21
	職業の%	76.2%	23.8%	100.0%
	調整済み残差	1.3	-1.3	
サラリーマン	度数	6	0	6
	職業の%	100.0%	0.0%	100.0%
	調整済み残差	1.9	-1.9	
合計	度数	84	48	132
	総和の%	63.6%	36.4%	100.0%

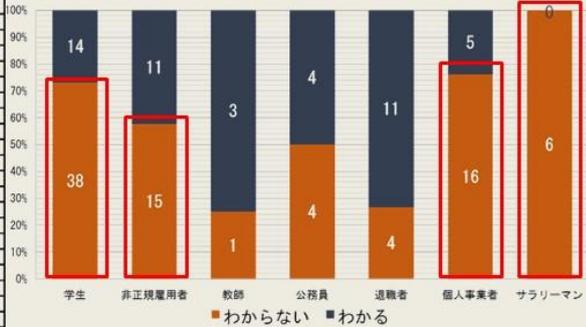


図45 表3の回答者の職業の柱形図

当該地域の住民は普遍的に装飾文様の意味を知らないことが確認できる。

41

当該地域の文化活動に関する意識調査

表4 職業と文化活動の参与度のクロス表

職業	職業	その文化遺産志望館の活動を参加したいか?		合計
		参加したくない	参加したい	
学生	度数	7	45	52
	職業の%	13.5%	86.5%	100.0%
	調整済み残差	-2.3	2.3	
非正規雇用者	度数	16	10	26
	職業の%	61.5%	38.5%	100.0%
	調整済み残差	5.0	-5.0	
教師	度数	0	4	4
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	1.1	
公務員	度数	2	6	8
	職業の%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	1	-1	
退職者	度数	0	15	15
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.3	2.3	
個人事業者	度数	7	14	21
	職業の%	33.3%	66.7%	100.0%
	調整済み残差	1.1	-1.1	
サラリーマン	度数	0	6	6
	職業の%	0.0%	100.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.4	1.4	
合計	度数	32	100	132
	総和の%	24.2%	75.8%	100.0%



図46 表4の「参加したい」の回答者の職業の年齢構成

大部分の住民は積極的に当該地域の文化活動に参加したい願いを判明した。

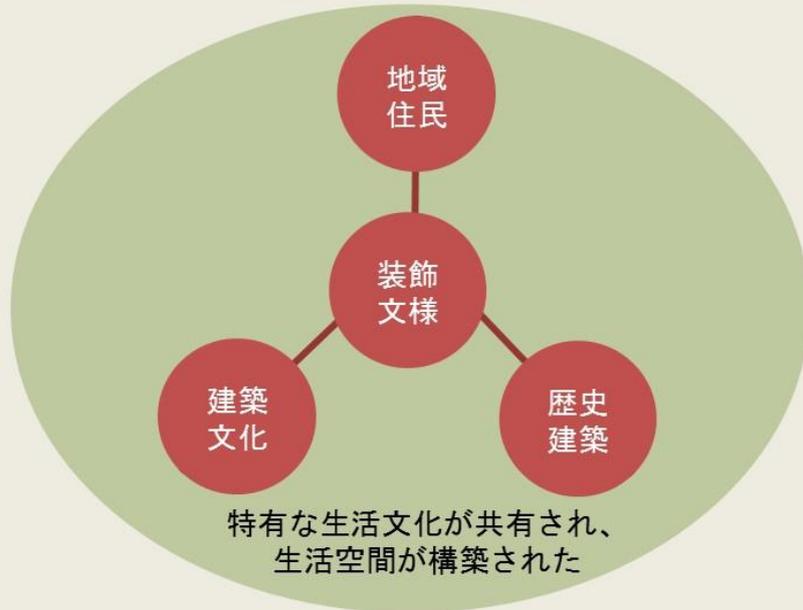
42



靖宇街の
歴史文化資源に基づく
地域文化振興への提案

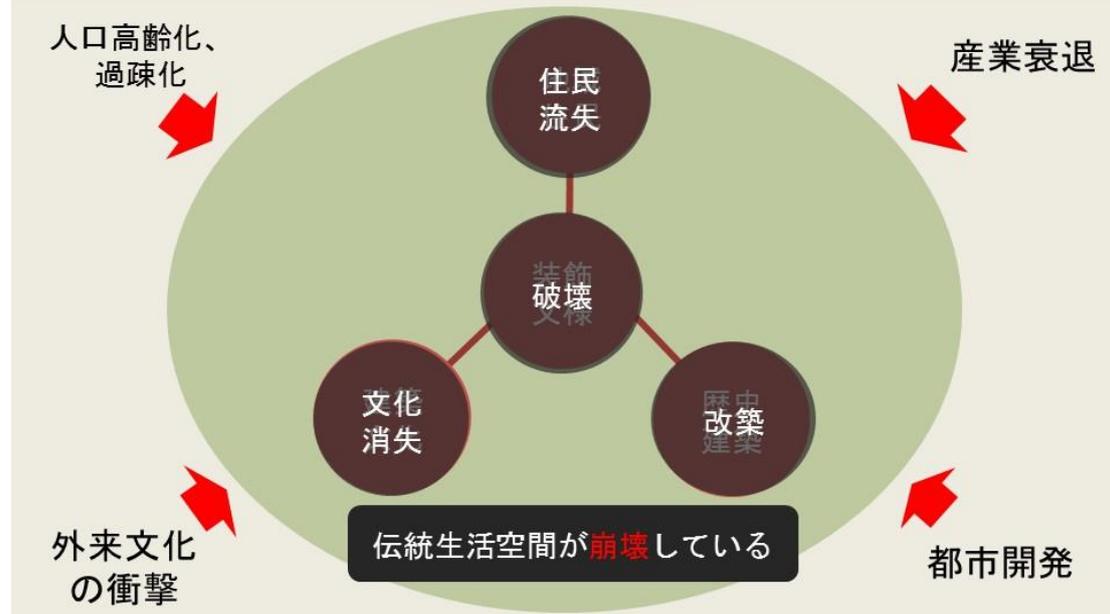
靖宇街283号(筆者撮影、2013年)

靖宇街における装飾文様を通して構築された生活空間



20世紀初頭から、商店街として発展された靖宇街の住民は、中国式西洋建築のそれぞれの装飾文様を通して、特有な生活文化を共有し、共同の生活空間を構築した。その装飾文様は媒介として、住民と歴史建築とそれらの生活文化が有機的に繋がった。

今日、靖宇街における社会現状



20世紀初頭から、商店街として発展された靖宇街の住民は、中国式西洋建築のそれぞれの装飾文様を通して、特有な生活文化を共有し、共同の生活空間を構築した。その装飾文様は媒介として、住民と歴史建築とそれらの生活文化が有機的に繋がった。

歴史文化資源に基づく地域文化振興のあり方への提案

ハルビン市伝統生活居住区であった靖宇街の現状に対して、当該地域特有な歴史文化資源に基づき、地域文化振興のあり方への提案を提出する



靖宇街現存された歴史建築に基づく
建築マップを製作する

中国式西洋建築の装飾文様の
3Dデジタルデータの活用

靖宇街の中国式西洋建築文化館を利用し、
当該地域の文化活動を展開する

45

靖宇街に現存された歴史建築に基づく建築マップの製作の短期計画



図47 靖宇頭道街～七道街の歴史建築マップ(事例)

道外区靖宇街の歴史、歴史建築の建築番地・スタイル・装飾文様などの情報を掲載する。また、その歴史建築の装飾文様の特徴、その文様の意味と意匠を紹介する。

靖宇街に現存された歴史建築に基づく建築マップの製作の短期計画



図48 靖宇街359号の歴史建築情報(事例)

その靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の特徴と意味を紹介することを通して、中国の伝統建築文化と中国西洋建築に対する認知度を深めて、靖宇街の歴史文化資源と生活文化を宣伝する。

靖宇街における歴史建築マップと地域マップ文化活動の展開

参与者

筆者とハルビン市
文化遺産志望隊

道外区歴史建築マップのシリーズを製作する **(現段階)**

2017年8月、靖宇街頭道街～七道街までの歴史建築の情報に基づき、道外区歴史建築マップのシリーズ①を製作完成見込みである。

道外区歴史建築マップの後続のシリーズを製作する **(中期)**

靖宇街八道街～二十道街の歴史建築、靖宇街以外の歴史建築の情報を調査して、道外区歴史建築マップの後続のシリーズを製作する。



参与者

地域住民、民間団体、
商店街連合会、ボラン
ティアなど

靖宇街の地域資源マップに関する文化活動を行う **(長期)**

当該地域の住民を主体として、自発的に靖宇街の地域資源、地域の「宝」を再発見して、地域資源マップの製作とともに、靖宇街の歴史・豊かな生活文化資源を再認識する。

将来、靖宇街の歴史建築マップから発足して、道外区の歴史建築マップを製作する。さらに、当該地域の住民、民間団体と一緒に、地域資源マップを創るなどの文化活動を通して、靖宇街の地域資源活性化を促す。

靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の3Dデジタルデータの利活用



図49 靖宇南二道街33号「四季平安文様」の3Dデジタルデータ



図50 靖宇北七道街1号「蝙蝠雲紋文様」の3Dデジタルデータ

新たな3Dスキャン技術の利活用を通して、靖宇街周辺の中国式西洋建築についてその装飾文様の形状データを取得・保存する。

靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の3Dデジタルデータの活用

2017年、ハルビン市文化遺産保護志望隊と一緒に、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の3Dデジタルデータを取得する。それぞれの歴史建築に残された装飾文様の3Dスキャンを行い、記録・保存する。

短期計画
(6月～1年)



靖宇街周辺の学校と連携して、定期的に装飾文様の3Dモデルを展示する。若世代はそれぞれの文様のモデルに触れることにより、中国伝統建築文化と靖宇街の歴史建築への関心を高める。

中期計画
(2年～3年)



将来、3Dスキャンデータの利活用を通して、靖宇街の歴史文化資源の再認識と地域歴史文化への認知度の高まりから、積極的に地域資源の共有化を促し、地域活性化を支援する。

長期計画
(5年～)

新たな3Dスキャン技術の利活用を通して、靖宇街周辺の中国式西洋建築についてその装飾文様の形状データを取得・保存するとともに、靖宇街の歴史文化資源の再認識と地域歴史文化への認知度の高まりから、積極的に地域資源の共有化を促し、地域活性化を支援することを推進する。

その公共施設を利用して、長期的に歴史建築文化に関する文化活動を展開する



図51 靖宇街における中国式西洋建築文化館
(筆者撮影、2015年)



図52 文化館において中国伝統的な影戯の演出
(筆者撮影、2015年)



図53 髹細工をやっている商人(筆者撮影、2015年)

現在、中国式西洋建築文化館において、大部分の文化活動は外来の商業演出である。

51

本研究の今後の展望

靖宇街周辺の歴史建築の建造目的、建築の年代などの歴史資料を続けて掘り出して収集、整理する。同時に、その歴史建築に施された装飾文様の彫刻技法、その文様の材質、文様の意味によって一層研究を深める。

3Dモデル展示、3Dスキャンなどの長期的な文化教育活動の展開とともに、当該地域住民は潜在的な地域資源を再認識し、積極的に文化活動に参加することを通して、地域活性化を支援することは重要な研究課題である。

文様デザイン研究の分野を飛び越えて、歴史、建築、経済などの分野の知識を統合する。ハルビン市の大学、学術機関と連携し、政府から当該地域の経済発展、都市開発の政策などの地域情報を利用し、地域文化資源に基づく地域振興に関する学術研究を推進していく。

53

公共施設を利用して、長期的に歴史建築文化に関する文化活動を展開する

表5 2017年度靖宇街歴史建築文化館における文化活動の申請計画書

2017年靖宇街の歴史建築文化館における文化活動申請計画書(民間団体)		
	活動内容	対象
2017年3月	靖宇街における伝統東北料理製作の体験	地域住民
2017年4月	靖宇街における宗教建築に関する講座	地域住民
2017年6月	地域住民らが撮影した歴史建築の写真展	地域住民
2017年8月	靖宇街における歴史建築マップの発表	地域住民
2017年9月	歴史建築の装飾文様に関する研究成果の発表	地域住民

2017年から、外来の商業演出だけではなく、文化館と連携して、ハルビン市文化遺産志望隊とともに、長期的に靖宇街の特有な歴史文化資源に関する文化体験を行い、当該地域の歴史建築と豊かな生活文化を宣伝する。

52



ご清聴ありがとうございます

発表原稿

1. 挨拶

こんにちは、デザイン文化計画研究室の盛 穎魁と申します。今日は、中国ハルビン市道外区における中国式西洋建築に見られる装飾文様の地域特性、靖宇街の歴史文化資源の再認識に基づく地域振興と題して、発表を行います。よろしくお願ひします。では、発表をさせていただきます。

2. 地域概要

中国東北地域に位置する黒竜江省ハルビン市は、近代の新興都市としての成立以来、およそ200年の歴史を有しています。同市は、その地理的環境を要因として、1850～1930年頃の移民ブームをへて、多民族の生活文化が融和し、東北地域における有数の大都市になりました。20世紀には、ロシア、日本などの多様な外国文化の影響を受け、特有の都市文化が形成されました。

3. ハルビン市と靖宇街の変遷

ごらんの通り、1896年から東清鉄道の建設とともに、20世紀初頭まで、ハルビン市は最初の小さい集落から、中国の有数の近代都市になりました。道外区も中国人労働者の居留地に設定され、数十年の時間をかけて、中国人の主な居住区になりました。本研究で取り上げる道外区の靖宇街は、20世紀初頭から、道外区の発展とともに、ハルビン市の栄えた中心商店街になりました。

4. ハルビン市における歴史建築スタイル

20世紀初頭から1940年までの近代都市建設の進展とともに、ハルビン市における建築のスタイルは、多種多様な西洋建築文化を反映しました。ご覧ください、左の写真は中央大街における松浦洋行という歴史建築です。その壮大の柱、壁面のほりが深く、装飾的要素の豊かななどの特徴は典型的な西洋バロック建築スタイルと言われます。右の上の写真のように、旧ミニアクルレストランという歴史建築から1930年代で流行したアール・ヌーヴォーの柔らかな曲線デザインの装飾スタイルがよく見られます。さらに、下の写真のように、その新ハルビンホテルという歴史建築を通して、1930年代日本から流入した近代式建築スタイルの姿も見られます。

5. 西洋建築の影響

今日、残された文献資料に基づき、ハルビン市の歴史建築をスタイルの観点から分類すると、ハルビン市において、古典式、ルネサンス式、バロック式、折衷式、近代式、ロシア式、アール・ヌーヴォー、アール・デコなどの西洋建築スタイルが確認できます。同時に、西洋建築文化の影響を受け、中国伝統建築文化を継承しながら、道外区靖宇街の周辺においても、西洋の建築と中国の伝統装飾文様を融合させた中華折衷式、中華アール・デコ、中華アール・ヌーヴォー式などの中華バロック式歴史建築が見られます。

6. 中国式西洋建築とは

まず、道外区靖宇街の中華バロックと中国式西洋建築の関係を説明いたします。

中華バロックとは、1996年、日本の建築学者であった西澤泰彦が始めて提出されました。それは、19世紀から、中国各地に出現した西洋古典様式を模しながらも似て非なる建物の総称と言われました。本研究において、靖宇街の建築スタイルが、「バロック」スタイルだけではなく、多種の建築スタイルが含まれました。そのゆえに、私は靖宇街における歴史建築を「中国式西洋建築」と称しました。その中国式西洋歴史建築には、西洋近代建築の構造とファサードに、西洋装飾文様を参考しながら、大量の中国伝統建築装飾文様を飾っていることが、ハルビン市の近代建築の非常に重要な特徴の一つと考えられます。それらは、当該地域の人びとが創出した貴重な文化遺産です。

7. 典型的な中国式西洋建築

それは、1920年代で建てられた靖宇街412号の純化病院です。靖宇街における典型的な中国式西洋建築と思われました。ご覧ください、その建築の外面的には西洋建築の特徴が色濃いが、

それらの正面のファサードには、中国伝統的な牡丹の唐草文様が施されました。西洋建築のはしらの上にも、盤長文様と唐草文様が大量に飾られました。その建築の上部の上に、鈴蘭、花綱などの西洋風装飾文様が見られますが、中心部に中国伝統的な唐草文様と牡丹文様が多数採用されました。そして、細部をみると、左に梅文様、右に竹文様、下には壽字文様と古銭文様も飾られました。建築の外観は、一見すると西洋建築スタイルに似ていながら、その細部をよく見ると西洋建築とは大きく異なることは、靖宇街における中国式西洋建築の一つの特徴といえます。今日、靖宇街周辺の残された歴史建築からその時期の中国式西洋建築スタイルと多種多様な装飾文様がよく見られます。

8. 現状

しかし、今日のハルビン市は、中国における急激な都市開発とともに、生活様式の変容を主な要因として、こうした歴史文化遺産の消失が進んでいました。道外区の靖宇街も、貧しい旧市街地とされ、過疎化・高齢化が進行しており、商店街としての魅力も失われています。さらに、庶民の生活文化の象徴ともいえる歴史建築も、ながねんの管理不足のために、取り壊しや無ちつじよな改築による消失しました。

9. 研究室の文化に対する理解

まず、私は研究室で学んだデザイン文化に対する理解を説明いたします。文化は、社会を構成する人々によって、習得、共有、伝達される行動様式ないし生活様式の総体です。本研究室の理解は、デザインとは、モノの色や形を考えることだけではなく、人間生活のあり方を探求する学科です。そのものデザインを通して、それぞれに豊かな知恵と歴史が内包されている地域固有の文化の価値を探求します。さらに、豊かな生活と維持可能な社会の構築を目指したデザイン提案を行います。

10. 研究目的

その理念を持って、本研究の目的はご覧の通りです。まず、道外区靖宇街周辺の中国式西洋建築に施された装飾文様の現状を調査します。そして、それぞれの装飾文様に表出した生活文化の特質を抽出することを通して、当該地域に独自の中国式西洋建築の装飾文様が有する社会的・文化的な役割を考察することを目的とします。さらに、そのような歴史文化資源の再認識に基づき、当該地域の住民を対象として、今後の内発的発展に基づく地域文化振興の方向性、その地域資源を維持・継承していくための指針を見出すことを目指します。

11. ハルビン市の歴史建築の保存

1994年からハルビン市の歴史建築物が、Ⅰ類、Ⅱ類とⅢ類の歴史文化遺産に指定され、保存されました。1997年から現在まで、靖宇街周辺の歴史建築も法定保存建築Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類に登録しました。そして、2004年において、靖宇街が道外区の伝統的商店街保護地区に設定されました。

私は、2013年と2014年で、靖宇街を中心とした歴史建築の現状に関して、数回の現地調査を行いました。ご覧の通りに、私は、靖宇街周辺の法定保護されたⅠ類2棟、Ⅱ類8棟とⅢ類44棟の歴史建築と、一般的な民居と廃棄された建築物などのその他の歴史建築53棟を調査しました。

12. ハルビン市歴史建築保護活動の進展と文化遺産保護団体

近年、ハルビン市歴史建築保護政策のしこうとともに、民間において自発的に歴史建築を保護する呼び声も高くなり、多様な民間文化活動が展開していきました。今回、民間団体の一つであるハルビン市文化遺産志望隊を紹介いたします。そのハルビン市文化遺産志望隊は、ハルビン市の建築専門家、建築学科の学生などとともに、ハルビン市の歴史建築の発見と保存、歴史生活文化の継承ためにせつりつされた民間団体です。ごらんの通りに、それは文化遺産志望隊の文化活動において、歴史建築分野の先生はその歴史建築の歴史と銘文を丁寧に説明しています。私は、2013年から、ハルビン市文化遺産志望隊の文化活動に積極的に参加しました。そ

の団体の先生、学生同士と一緒に、靖宇街の歴史建築の現状と保存、日本の内発的発展などの理念と日本における歴史建築の保存の事例を広範に交流しました。本研究において、靖宇街における歴史建築の現地調査と関連した資料の解説について、貴重な意見を聞き取りました。

13. 先行研究・デザイン学観点から

現在、中国国内において、中国式西洋建築に関して執筆・出版された図書は多数ありますが、デザイン学の観点から見ると、装飾文様に注目してなされた研究は極めて少ないです。例えば、『中国近代建築総覧』などの大部分のハルビン市の建築に関する著書は、同市の歴史建築の年代とスタイルを細かく整理して、当時残されたハルビン市の資料をまとめた資料集です。そして、『ハルビン市歴史建築』のようなハルビン市の古い写真を年代順に並べて、ハルビン市の発展史を概観する写真集も多いです。

海外における当該地域を対象にした研究は、『ハルビン市都市計画』などの旧市街の空間形態や建築構造を考察したものであり、装飾文様に関してなされた研究は実に少ないです。

14. 研究方法

研究方法は、ご覧の通りです。

まず、歴史文献に基づき、当該地域成立の歴史を考察しました。1920～1930年代の雑誌と新聞を取り上げ、その時期のハルビン市の庶民生活や多民族都市としての文化の特徴を把握しました。『哈爾濱市歴史建築』などの文献により、ハルビン市歴史建築の形成と発展の脈絡を把握しました。『中国吉祥文化』などの資料から中国伝統装飾文様の意味を確認しました。

2013年から2015年まで、道外区靖宇街周辺において、数回の現地調査と質問紙調査を行いました。それから、文献調査ならびに現地調査で収集した写真と資料に基づき、靖宇街の歴史建築の装飾文様を分類し、それぞれの文様の意味と特徴を把握しました。さらに、装飾スタイル、表現方法、表現内容などの観点から分析し、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の特徴を抽出しました。そして、靖宇街の歴史建築と文化資源に関する意識調査の結果を通して、当該地域の住民の意識の現状と特徴を考察しました。

15. 論文構成

今回、私は、第二章と第三章の研究内容を中心として、靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の意味と特徴、その装飾文様の特徴を抽出して、説明いたします。

16. 現状調査

まず、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の現状調査を説明いたします。

17.

文化の定義の観点からみると、靖宇街における住民らはどこからその伝統的生活文化を習得しましたか？私は、歴史文献資料により、当時、小規模な商店が栄え、多くの労働者が集まった靖宇街において、人びとの識字率が低かったです。靖宇街の住民は家族から継承されてきた生活の知恵と、自家の建築に神話伝説と民間宗教の文様を飾ることを通して、伝統的道德教育と生活価値観を習得したことがうかがえます。すなわち、その建築に施された装飾文様は、伝統的生活習俗と民族文化の継承と教育の重要な文化的な役割を担いました。その故、靖宇街周辺の歴史建築に残されたそれぞれの装飾文様を再発見することが急務です。

18. 歴史建築の装飾文様の分類

その研究目的を持って、私は靖宇街周辺の107棟の歴史建築において、装飾文様の現状を調査しました。そして、964点の建築装飾文様を抽出して、表現内容によって65種類のカテゴリーを分類しました。

19.

ご覧ください、表1のように、私は、建築番地、歴史建築の保存類型、その建築のスタイルと、その装飾文様の出現回数を統計しました。例えば、その装飾文様のなかには、植物文様が多くみ

られ、64%が占めます。第2位の幾何文様は20%であり、人物文様が一番少なくなることがわかりました。

20.

以上、その靖宇街の歴史建築の現状調査を通して、靖宇街周辺地区だけでも964点にもおよぶ装飾文様が施されており、それらは、植物、動物、人物、文字、幾何などに分類されました。それらの装飾文様は、中国における伝統的生活文化にみられる要素を中心として、建築スタイルとともに流入したヨーロッパやロシアや日本のものもみられます。その時期、国際都市として形成されたハルビン市の歴史が反映されています。

21.

次は、中国式西洋建築の装飾文様から表出した生活文化の特質を説明いたします。

22.

前項の調査結果によって、靖宇街の住民らは、その装飾文様からどのような生活文化を共有しましたか？どのような共同の生活空間を構築しましたか？その問題に対して、それぞれの装飾文様の意匠と意味を再認識することはとても必要です。

23.

それを理解するために、私は65種類の文様に内包される意味を抽出してまとめました。その文様の意味と寓意により、福・禄・寿・財・が・和順と平安の7つのグループに分類しました。今回、福、禄と寿の事例を取り上げ、説明いたします。

24. 福

中国の吉祥文化において、「福」とは、元来、幸運や富貴の意味です。時代の進展とともに、出産順調、子孫繁栄などの吉祥寓意を包含するようになりました。今日でも、靖宇街の歴史建築の装飾文様には、20世紀初頭の当該地域における住民らがもつめた福へのさまざまな願いがうかがえます。

まず、蝙蝠文様をみましょう。蝙蝠文様は、動物文様のなかでも代表的な装飾文様といえます。中国語で蝙蝠は漢字の「福」と同音であり、それゆえに、中国の伝統文化において、蝙蝠は長寿、吉祥、幸福の象徴とされ、大量に採用されました。靖宇街周辺の歴史建築にも、その中国の伝統的な同音異義の特徴を利用して、蝙蝠の文様が多くみられます。

ご覧ください、靖宇街南二道街2号の歴史建築には、五匹の蝙蝠が集まる文様が施されました。中国において、五匹の蝙蝠は「五蝠」と言われ、その五福はすなわち「長寿・富貴・健康・好徳・善終の五つの福が集まる」という意味です。その五匹の吉祥寓意が与えられた動物が自宅の上に集まって、永遠に皆を守ることはその時期の靖宇街の住民にとって、一番幸福なことといえましょう。

また、下の写真のように、数匹の蝙蝠がくもから飛び出す造形が中国の伝統的な「蝙蝠雲紋文様」と言われます。中国の吉祥文化において、雲は祥雲と言われます。その幸福と称された蝙蝠がその祥雲と共に、天から出して靖宇街の住民に福を送って、それらの靖宇街の福運が雲のように絶えずに続いていく吉祥寓意がうかがえます。

25. 靖宇街における蝙蝠文様

靖宇街において、各種各様な蝙蝠文様が見られます。例えば、一番左上に、その一双の蝙蝠の文様は「双蝠」といわれ、「家族の福が重なるようになる」という吉祥寓意があります。真ん中の写真のように、蝙蝠が古銭をくわえた文様もみられます。古銭の銭は中国の前と同音であり、そのような装飾文様は中国語で「フクトウガンゼン」といわれ、蝙蝠が天上から眼前に幸福を持ってきた吉祥寓意です。それぞれの異なる装飾文様と意味から、蝙蝠はその外貌こそ醜悪であったが、幸福の象徴として靖宇街の住民を永遠に守る共同意識が推察されます。

26. 禄

「禄」は、中国の吉祥文化において、個人の事業の成功や出世と密接に関連する概念として、認識されました。靖宇街において、中国語の同音異義を利用して意味が与えられた吉祥文様を用いて、飾られた建築が多くみられます。特に、当該地域における建築には、鹿文様と鶴文様のようなそれぞれの装飾文様が組合わされた事例も多いです。

ご覧ください、その写真は南頭道街10号鹿と鶴の装飾文様です。建築のファサードには、松、蘭のような健康長寿の植物文様があり、真ん中に、迫真の鶴文様と梅の花を銜えた鹿文様が施されました。中国の文化において、鹿と鶴が縁起がよい動物と思われ、中国人に親しまれました。特に、中国語で鹿は「禄」と同音であり、事業成功、幸せという意味があります。そして、蘭の花は春の花と言われ、梅の花は万事順調の意味があります。鹿は鶴の文様と組み合わせれば、「ろくごう」と言われ、天下の意味です。その文様が中国語で「鹿鶴同春」と言われ、全天下が春になり、幸福、順調吉祥の寓意が与えられます。靖宇街の住民は建築の上に、繁雑な装飾文様を通して、事業順調、出世成功などの個人願いを表したことがうかがえます。それぞれの装飾文様を組み合わせたことは、中国式西洋建築の装飾文様の多様性を生み出す要因のひとつです。

27. 壽字文様

健康・長寿は中国人の最も重要な願いのひとつです。寿という漢字は長寿を意味し、中国人に非常に愛されている漢字です。ご覧ください、その南九道街182号の歴史建築には、壽字文様が中国伝統的な方勝文様と古銭文様と組み合わせて採用されました。

上の写真の方勝文様は、中国伝統的な幾何文様の一つとして、連続・幸運の意味があります。壽字文様はその連続の方勝文様と組み合わせて、家族が永遠に健康長寿という吉祥寓意が与えられます。下の写真の古銭文様は、古くから商売繁盛の寓意とじゃきをよける縁起よいものとして、中国民間に大量に採用されます。靖宇街の住民は、自宅の建築の上に、その壽字と古銭の組み合わせた文様を施して、家族の後世が健康長寿・商売繁盛の願いを表します。

28. まとめ

以上、中国式西洋建築の装飾文様の意味と特徴を確認することを通して、その装飾文様から表出した生活文化の特質が大体把握しました。それぞれの装飾文様を通して、当時の当該地域の人びとが共有していた「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの吉祥寓意が確認されました。それらの装飾文様の多くには、当該地域住民の「世々代々」に渡って、吉祥を願う文化が表出されていました。事業の成功、すこやかな成長、科挙の合格、子孫の繁昌など、市井の人びとの幸せを願う切実な気持ちがよく感じました。

29.

靖宇街周辺の中国式西洋建築の装飾文様の特徴を説明いたします

30. 靖宇街における住民らはどのようにその生活文化を創造しましたか？

当該地域の住民らはどのようにその生活文化を創造しましたか？その問題に対して、私は靖宇街におけるそれぞれの装飾文様の特徴を考察しました。

31. アカンサス文様

まず、アカンサス文様からみましょう。ごらんのように、それは、ヨーロッパにおいて、もっとも一般的な植物であるアカンサスです。ギリシアで使用されて以来、西洋風なものの中に何度か表われています。古代ローマ風のアカンサスは、葉の先が丸く広くて、強い曲がり方している造形で、強い生命力の象徴とされ、神殿の柱頭を飾る主題です。しかし、17世紀以降のルネサンス風格の流行とともに、アカンサス文様が長く伸びたアザミのような唐草文様として、建築と芸術品に大量に施されました。その右の写真は、17世紀アカンサス唐草文様の銀のジョッキです。

32. 靖宇街におけるアカンサス文様

その時期、靖宇街の中国式西洋建築において、西洋建築の装飾であったアカンサス文様も大量に採用されました。うへの写真のように、靖宇街において、古代のローマ建築スタイルを模倣して、アカンサス柱頭文様を施した歴史建築がよくみられます。

下の写真は靖宇街168号の建築に施された白菜文様です。白菜は、中国語で「百財」と同じ発音であることから、財を呼び込む吉祥植物と思われます。そして、中国伝統文化において、白菜は君子のように、純潔、高尚などの優秀な品性を持っています。ご覧ください、南頭道街91号の建築の工匠は、アカンサス文様の葉の美しい鋸歯状と、そのやわらかな曲線などの特性を参照し、吉祥寓意が持ってきた白菜の柱頭文様を創造しました。それは単純に海外の装飾文様の模倣ではなく、個人の願いとニーズにより新しい装飾文様を創造することです。まさにそれは、中国式西洋建築における装飾文様の一番重要な特徴といえましよう。

33. 唐草文様

次、中国式西洋建築に大量に用いられた唐草文様の事例を通して、当該地域の住民は、国内外の装飾文様を吸収し、さまざまな手段を通して巧みに新たな装飾文様を創造することを説明いたします。その時期の靖宇街において、古典主義建築だけではなく、バロック、アール・ヌーヴオーなどの建築スタイルも多く見られました。そのゆえに、前項で説明したアカンサスの唐草文様も大量に施されました。

ご覧ください、一番上の写真は、アカンサス文様の特徴を模倣した唐草文様です。その唐草文様の細部をみると、全部ギリシアにみられるアカンサス文様の原型とされ、ヨーロッパと中東地区の植物造形を採用したものです。当時の建築工匠は西洋建築装飾の影響を受け、当該地域の建築に適用したことがうかがえます。

真中の写真をご覧ください、その唐草文様の細部はバロック風アカンサス文様です。その西洋風の唐草文様の対称性、複数性などの特徴を参照しながら、牡丹のような中国伝統的な要素を加えました。それは、西洋装飾文様には中国の伝統的な審美要素を加えることを試みたものといえます。

下の写真のように、靖宇北頭道街8号の建築において、当該地域の人びとが、中国人の生活文化に対応した新たな唐草文様を創造しました。その文様を見ると、元来、西洋風のアカンサス文様から中国人が親しんできた白菜の文様に置き換えられました。

今日、靖宇街における歴史建築に関する資料は、大部分がなくなりました。しかし、その歴史建築に残された文様から、当時の人びとが積極的に海外文化を吸収しながら、靖宇街の特有な中国式西洋建築を創造した様子が見られます。

34. 靖宇街における装飾文様の特徴

最後、ごらんの事例を通して、当該地域装飾文様の特徴を分析いたします。

その靖宇街南三道街の中国式西洋建築の正面には、中国伝統的な蘭、蓮、菊と梅文様が飾られました。それらは分別に春、夏、秋と冬を象徴とされました。そして、そのオモト文様も家宅安全の吉祥文様と思われ、方勝文様と一緒に施されました。それは家族が一年を通じて、永遠に家宅安全・健康幸福になっていくという吉祥寓意です。靖宇街において、その中国語の同音異義を利用して、多種多様な文様と組み合わせられ、それぞれの吉祥文様が飾られる建築が多くみられます。それは中国伝統建築文化の特徴と一致です。

そして、その建築の壁面にも、強い生命力を表した西洋風の葡萄文様とアカンサス文様を加えました。さらに、近代建築の幾何文様であった簡潔の直線も見られます。その直線は靖宇街においてスイモンと言われ、家族が水のように絶えずに永遠に生き続けていく吉祥寓意があります。西洋風の鈴蘭文様が施されましたが、細部を見ると数点の小花が添加されました。

確かに、その建築を一見すると、繁雑感があります。しかし、その建築の壁面を十分に利用

して、多民族の文化要素が有機的に組み合わせて、そのさまざまな装飾文様を飾ることを通して、自身の家族と靖宇街を守り、もっと健康・幸福、もっと社会安定の豊かな生活を実現しようとした靖宇街の住民の意識が如実に反映されました。それは、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様のもっとも重要な特徴と言えます。

35. 靖宇街における豊かな生活文化と生活空間の構築

以上、靖宇街周辺の歴史建築の装飾文様の調査を通して、靖宇街における豊かな生活文化とその特有な生活空間の構築を明らかにしました。

靖宇街の住民は、それぞれの歴史建築に施された装飾文様の寓意と意匠を継承することを通して、伝統的な生活文化を習得しました。彼らは独自の生活のみならず、その装飾文様から表出した「健康」「長寿」「平安」「幸福」「富貴」などの生活文化を共有することを通して、内発的に靖宇街から生まれた共通意識と共同の生活空間を構築しました。さらに、国内外の文化を吸収し、特有な装飾文様と中国式西洋建築という建築スタイルを創造しました。まさに、靖宇街の人びとは積極的に共同の生活空間をつくり、創造された装飾文様を通して、当時の靖宇街の豊かな生活文化を伝達していました。それは、20世紀初頭～30年代の間に、靖宇街の住民は内発的に装飾文様デザインを通して、豊かな生活デザインと地域デザインの方向性を発見したといえましょう。

36. 質問紙調査

現在、靖宇街の住民らは代々居住している靖宇街周辺の歴史建築に対して、どのような意識がありますか？私は靖宇街周辺の歴史文化資源に関する質問紙調査を通して、その答えを探求しました。

37. 調査内容

2015年8月、私は道外区の靖宇街周辺の中国式西洋建築に関する質問紙調査を行いました。その質問紙調査を通して、当該地域住民は、その中国式西洋建築と歴史文化資源に関する意識の実態を明らかにしました。

38. 調査対象者の属性

まず、調査対象者の属性をみましょう。ご覧ください、対象者の年齢構成からみると、20代60人、30代32人、40代20人、50代15人と60代5人があります。職業構成からみると、学生53人、非正規雇用者25人、個人事業者21人、定年退職者15人、公務員8人、サラリーマン6人、教師4人7種類があります。分別に40%、19%、16%、11%、6%、5%と3%です。

39. 調査対象者の属性のクロス表

そして、その調査対象者の属性構成からみると、20代の学生が一番多く、30代と40代の非正規雇用者と20代の個人事業者が多く占めることがわかりました。当該地域回答者の低年齢化、30代と40代の回答者が生活と職業の不安定性などの要因によって、次項の質問紙調査の結果に影響を与えました。

40. 調査内容

今回の質問紙調査は、ハルビン市道外区と靖宇街の形成と歴史、靖宇街周辺の中国式西洋建築、中国伝統的装飾文様、靖宇街における歴史文化資源と靖宇街における文化活動についての五つの項目で構成されました。私は、調査対象者の年齢、職業と靖宇街の歴史建築と文化資源に関する意識の関連性について考察しました。今回は、中国伝統装飾文様の意味と靖宇街の文化活動の展開に関する調査結果を抽出して説明いたします。

41. 当該地域の文化活動に関する意識調査

ご覧ください！表3をみると、「歴史建築装飾文様の意味」の問題に対して、「わからない」は84人、「わかる」は48人です。

大部分の退職者がその歴史建築文様の意味を知っていることが判明しました。図 45 のように、学生、非正規雇用者、個人事業者とサラリーマンの職業の中に、その伝統装飾文様の意味を判らない人が多かったです。

中国伝統的な建築装飾文様は、中国伝統文化の一部分として、中国人の日常生活に溶け込んでいました。しかし、伝統生活文化と生活習俗の消失とともに、それぞれの伝統装飾文様の意味も急速に失われています。

今回の調査対象者には、学生が一番多く、彼らはその装飾文様の意味と意匠に関する知識が非常に少なかったです。現在、ハルビン市の学校において、若い世代に向けた当該地域の歴史と中国伝統生活文化に関する教育活動は非常に不足です。将来、どのように当該地域の歴史文化資源を利用して、中国伝統生活文化と靖宇街の歴史建築への関心を高めることは重要な課題です。

42. 文化活動の参与度

私は、質問紙調査を行ったとき、ハルビン市文化遺産志望隊を調査対象者に簡単に紹介しました。「そのような文化遺産志望隊の文化活動に参加したいか？」の質問に対して、「参加したい」は 100 人、「参加したくない」は 32 人です。

表 4 の職業からみると、学生、退職者はその文化活動に参加する願いを表します。そして、図 46 のように、学生の中に、20代は 36 人です。個人事業者の中に、20代は 10 人であり、サラリーマンの全員は 20 代です。すなわち、20代と 30 代の若い世代は積極的に文化遺産志望隊の活動に参加する意識を表します。

総じて、大部分の調査対象者は積極的に当該地域の文化活動に参加することが確認できます。50 代と 60 代の高齢者は、社会貢献できるように生きていく気持ちと、積極的に靖宇街の文化活動に参加し、生き甲斐を求める姿がよく見られます。20 代と 30 代の若い世代は、ハルビン市地域文化の継承と発展、歴史建築の文化活動に対して、強い関心を持って、積極的に参加したい姿も見られます。当該地域の住民は、前項の歴史建築の装飾文様に対する認知度は低いですが、将来の文化遺産志望隊と一緒に、当該地域の歴史文化資源の再認識・再発見などの文化活動に参加することの情熱が推察されました。

43. 提言

最後、本研究を通して、靖宇街の歴史文化資源に基づく地域文化振興のあり方への提案を提出いたします。

44. 現状問題

20 世紀初頭から、商店街として発展された靖宇街の住民は中国式西洋建築のそれぞれの装飾文様を通して、特有な生活文化を共有して、共同の生活空間を構築しました。すなわち、その装飾文様は媒介として、住民と歴史建築とそれらの生活文化が有機的につながりました。しかし、現在、外来文化の衝撃、旧市街地の経済の衰退などの社会の諸問題に対して、伝統町であった靖宇街において、大量の住民が流出し、歴史建築が改築されました。さらに、その特有な装飾文様と豊かな生活文化も失われていました。代々居住している伝統的生活空間が崩壊しています。

45. 提案

ご覧の通りに、私は道外区靖宇街の社会現状に対して、当該地域の歴史文化資源に基づき、地域文化振興のあり方への提案を提出いたします。

46. 建築マップ

まず、私は現地調査した資料に基づき、ハルビン市文化遺産志望隊とともに、靖宇街に現存された歴史建築に基づく建築マップの製作の短期計画を立てました。今回、靖宇街頭道街～七道街までの典型的な歴史建築の事例を抽出して説明いたします。ご覧ください、この歴史建築マ

ップにおいて、ハルビン市と道外区靖宇街の歴史変遷、靖宇街中国式西洋建築の由来を紹介しました。そして、左の靖宇街の地図の上に、その歴史建築の位置を標示して、それぞれの建築の写真を追加しました。その靖宇街の歴史建築の番地、建築スタイル、装飾文様の出現点数などの情報を通して、靖宇街における中国式西洋建築の装飾文様の特徴、その文様の意味を紹介しました。

47. 建築マップの事例

例えば、それは靖宇街 359 号の歴史建築情報です。この情報を通して、その建築がハルビン市Ⅲ類歴史保護建築に登録された情報を知ることができます。その建築スタイルは典型的な折衷主義建築です。そして、その歴史建築の上には、植物文様 7 点、その他の文様 2 点と幾何文様 5 点が施されています。特に、中国伝統的な瓢箪文様と団扇文様がその建築の特徴です。同時に、その建築情報の中に、瓢箪文様と団扇文様の写真を追加して、その文様の意味を説明します。

このような建築マップを通して、靖宇街周辺の歴史建築の情報とそれぞれ装飾文様の特徴と意味を紹介して、中国の伝統建築文化と中国式西洋建築に対する認知度を深めて、靖宇街の歴史文化資源と生活文化を宣伝することを期待します。

48.

現段階において、私は文化遺産志望隊の同士と一緒に、2017 年 8 月、靖宇頭道街から七道街までの歴史建築に基づき、道外区歴史建築マップのシリーズ①を製作完成見込みです。また、続けて、靖宇街八道街から二十道街までの歴史建築と、靖宇街以外の道外区の歴史建築の情報を調査して、その道外区歴史建築マップの後続のシリーズを製作します。

将来、靖宇街歴史建築マップから発足して、当該地域の住民、商店街連合会、他のボランティア団体と一緒に、靖宇街の地域資源、地域の「宝」を再発見して、地域マップを創るなどの文化活動を行います。そのような長期的な文化活動を通して、靖宇街の地域活性化を促します。

49. 3D デジタルデータの取得・保存・活用

次は、靖宇街の中国式西洋建築の装飾文様の 3D デジタルデータの利活用です。近年、ハルビン市の急速的な都市開発とともに、道外区靖宇街において、大量の中国式西洋建築が消失しています。当該地域の歴史文化資源を保存して、内発的に地域資源を活性化することが喫緊の課題です。私は、新たな 3D スキャン技術の利活用を通して、靖宇街周辺の中国式西洋建築についてその装飾文様の形状データを取得・保存するとともに、歴史文化資源を共有し、当該地域の地域活性化を支援します。

ご覧ください、左の写真は靖宇南二道街 33 号の「四季平安」という花瓶文様の 3D デジタルデータです。瓶は中国語の平安の「平」と同音であり、平安の意味です。上のコウシンバラという花が四季の花といわれ、幸福吉祥の寓意があります。その花が花瓶にさされた文様は一年を通じて平安になる吉祥寓意を表します。右の写真は前項で説明した靖宇北七道街 1 号の蝙蝠雲紋文様の 3D デジタルデータです。現在、その 3D スキャン技術を利用して、それぞれの装飾文様の形状データを取得、保存することができます。さらに、3D プリンターで印刷して、がらみ触れない美しい歴史建築の装飾文様を実体化、可視化にできます。

50. 3D デジタルデータの活用

ごらんのように、2017 年から 1 年間において、私はハルビン市文化遺産保護志望隊と一緒に、靖宇街周辺の中国式西洋建築を対象として、残された装飾文様の 3D デジタルデータ取得の予定です。3D スキャンを通して、それぞれの歴史建築の装飾文様を記録・保存します。

また、靖宇街の歴史建築文化館と周辺の学校と連携して、定期的に装飾文様の 3D モデルを展示します。若い世代はそれぞれの装飾文様の 3D モデルに触れることにより、中国伝統建築文化と靖宇街の歴史建築への関心を高めることを目的とします。それは新たな 3D 技術を利用

して、歴史建築の装飾文様を保存と活用し、地域の歴史と生活文化を共有する教育活動といえましょう。

将来、長期的にその3D技術を活用して、靖宇街の歴史文化資源の再認識と地域歴史文化への認知度の高まりから、積極的に地域資源の共有化を促し、地域活性化を支援することを推進します。

51. 公共施設の利用

2015年には、道外区政府は靖宇街商店街の復興ために、中国式西洋建築保存文化館をせつりつしました。しかし、現在まで、その歴史建築文化館において、大部分の文化活動が観光ための商業演出です。確かに、写真のように、外来の中国伝統的な影戯演出と、飴さいくを製作するなどの活動は、大量の観光者を招きました。しかし、その経営方針と本研究の靖宇街の地元の歴史文化資源に基づく地域振興と、靖宇街の歴史建築と生活文化を継承・維持するなどの理念は異なります。内発的発展の観点からみると、地域住民自らが積極的にその公共資源を利用して、当該地域に関する振興活動を共同参加することが一番重要です。

52.

そのゆえに、私はハルビン市文化遺産保護志望隊と一緒に、2017年から、その文化館と連携して、長期的に、靖宇街における住民を対象として、当該地域の特有な歴史文化資源に基づく文化活動が展開する予定です。ご覧ください、それは2017年度の文化活動申請計画書の一部です。例えば、3月で、当該地域の郷土料理の由来と製作を体験します。4月、靖宇街周辺の宗教建築を紹介する活動を行います。9月、歴史建築の装飾文様に関する研究の発表となる予定です。

53. 今後の展望

現段階までの研究は、靖宇街周辺の中国式西洋建築の現状調査、それぞれの装飾文様の特徴とそれにみられる当該地域の生活文化に関して行われたものです。本研究の重点は靖宇街周辺の歴史建築の保存現状を再確認しながら、その歴史建築の文献資料とそれぞれの装飾文様の写真を通して、今日まで残された靖宇街の中国式西洋建築の最新の資料・情報を系統的に完備することです。

将来、私は靖宇街における歴史建築の建造目的、建築の年代などの歴史資料を続けて掘り出して収集、整理します。同時に、その歴史建築に施された装飾文様の彫刻技法、その文様の材質、文様の意味によって一層研究を深めます。

また、新たな3D技術を活用して、靖宇街の歴史文化資源を共有することは、将来の研究方向です。3Dモデル展示、3Dスキャンなどの長期的な文化教育活動の展開とともに、当該地域住民は潜在的な地域資源を再認識し、積極的に文化活動に参加することを通して、地域活性化を支援することは今後の重要な研究課題です。

そして、その文様デザイン研究の分野を飛び越えて、歴史、建築、経済などの分野の研究の知識を統合することが非常に必要と思われます。そのゆえ、本研究はハルビン市における大学、学術機関と連携し、政府から当該地域の経済発展、都市開発の政策などの地域情報を利用して、地域文化資源に基づく地域振興に関する学術研究を推進していきます。

地域振興は一気に完成できることではありません。将来、私はハルビン市の民間団体と熱心な靖宇街の住民とともに、それぞれの歴史文化資源に基づく文化活動の展開を通して、当該地域の歴史建築と豊かな生活文化を継承しながら、必ず道外区靖宇街に適する地域文化振興の道を開きます。

54.

以上で発表が終わりました。ご清聴ありがとうございました。

靖宇街におけるハルビン市Ⅰ類歴史保護建築

No. 1 北四道街 20号 中国農業銀行



星文様



水紋



円紋

No. 2 南十二道街 176号 靖宇街モスク



花網文様



水紋と円紋



円紋

靖宇街におけるハルビン市Ⅱ類歴史保護建築

No. 3 靖宇街 283 号



葡萄唐草文様



牡丹文様



牡丹文様



鹿文様



鶴文様



柳文様



水紋



直線文様

No. 4 靖宇街 297 号



牡丹唐草文様



唐草文様



方勝文様



壽字紋



小花文様



福字文様
盤長文様



小花文様
盤長文様
星文様



古錢文様

	<p>盤長文様 花籠文様</p>
	<p>星文様 小花文様</p>
	<p>旗文様 小花文様</p>
	<p>花籠文様 星文様</p>
	<p>唐草文様</p>
	<p>壽字文様</p>

No. 5 靖宇街 318-322 号



牡丹唐草文様



牡丹文様



牡丹文様



柳文様



牡丹文様



牡丹文様



牡丹文様

		
鹿文様	カササギ文様	方勝文様

No. 6 靖宇街 324-328 号



十字文様



八卦文様
武器文様



武器文様



蘭文様
小花文様



鈴蘭文様



鶏文様

	<p>小花文様 星文様</p>
	<p>古銭文様</p>
	<p>鷹と熊文様</p>
	<p>牡丹文様</p>
	<p>壽字文様</p>

No. 7 靖宇街 325 号



日紋と水紋



直線文様



水紋

No. 8 靖宇街 412 号 純化病院



牡丹唐草文様



牡丹文様



唐草文様



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様

		花綱文様
		直線文様
		
蓮文様	蓮文様	唐草文様
		
牡丹文様	牡丹文様	花籠文様
		
梅文様	竹文様	唐草文様

		
<p>盤長文様</p>	<p>鈴蘭文様</p>	<p>葡萄文様</p>
		
<p>牡丹文様</p>		

No. 9 靖宇南二道街 61 号



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様



唐草文様



花綱文様

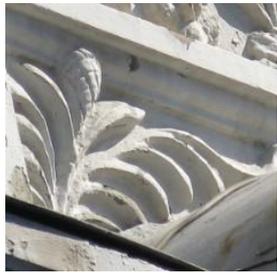


アカンサス文様



唐草文様

	<p>牡丹文様</p>
	<p>牡丹文様</p>
	<p>唐草文様</p>
	<p>牡丹文様</p>
	<p>唐草文様</p>
	<p>唐草文様</p>
	<p>牡丹文様</p>
	<p>唐草文様</p>

	<p>牡丹文様</p>	
	<p>牡丹文様</p>	
	<p>花綱文様</p>	
	<p>唐草文様</p>	
	<p>花壺文様</p>	
	<p>牡丹文様</p>	
		
<p>牡丹文様</p>	<p>牡丹文様</p>	<p>蘭文様</p>

		
<p>アカンサス文様</p>	<p>壺文様</p>	<p>牡丹文様</p>
		
<p>牡丹文様</p>	<p>牡丹唐草文様</p>	
		
<p>牡丹唐草文様と葡萄文様</p>		<p>花綱文様</p>
		
<p>鯉文様</p>		<p>花綱文様</p>

No. 10 靖宇南頭道街 25-29 号 范記永



唐草文様



唐草文様



牡丹文様



唐草文様



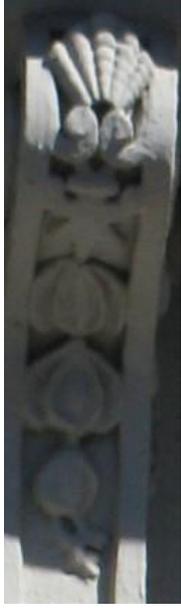
唐草文様



星文様



アカンサス文様

				
<p>花綱文様</p>	<p>水紋</p>	<p>柳文様</p>	<p>鈴蘭文様</p>	<p>水紋</p>

靖宇街におけるハルビン市Ⅲ類歴史保護建築

No. 11 靖宇北大六道街 14-18 号



No. 12 靖宇北七道街 1 号



				
古銭文様	瓜文様	牡丹文様	葡萄文様	蓮文様
				
瓜文様	柳文様	小花文様	柳文様	小花文様
				
鈴蘭文様	ザクロ文様	牡丹文様	小花文様	花籠文様

				
小花文様	鈴蘭文様	柳文様	花文様	小花文様
				
鈴蘭文様	瓜文様	瓜文様	葡萄文様	鈴蘭文様
				
瓜と蛙文様	瓜文様	鈴蘭文様	小花文様	小花文様
				
小花文様	瓜文様	鈴蘭文様	瓜文様	牡丹文様
				
鈴蘭文様	小花文様	小花文様	小花文様	小花文様

			
鈴蘭文様	小花文様	水紋	牡丹文様
			
牡丹文様		唐草文様	
			
アカンサス文様		アカンサス文様	
			
アカンサス文様		獅子舞文様	
			
牡丹アカンサス文様		牡丹アカンサス文様	
			
蘭文様		鳳凰文様	
			
花綱文様		牡丹唐草文様	

	
<p>蝙蝠文様</p>	<p>唐草文様</p>
	
<p>唐草文様</p>	<p>唐草文様</p>
	
<p>直線文様</p>	

No. 13 靖宇北四道街 22-32 号



葡萄唐草文様

No. 14 靖宇北四道街 56-90 号



牡丹文様



牡丹文様



鈴蘭文様



壽字文様



直線文様

No. 15 靖宇北頭道街 5-9 号



牡丹文様

No. 16 靖宇北頭道街 8 号



葡萄文様



柳文様



唐草文様



柳文様



唐草文様



小花文様と水紋



唐草文様



白菜文様



牡丹文様



水紋

No. 17 靖宇北頭道街 11-13 号



幾何文様

No. 18 北頭道街 16-20 号



アカンサス文様



花綱文様



水紋



小花文様



幾何文様

No. 19 靖宇北頭道街 23 号



水紋

No. 20 靖宇北頭道街 25-27 号



水紋と日紋



牡丹文様



日紋

No. 21 靖宇北頭道街 29—33 号



水紋と日紋

No. 22 北頭道街 35~39 号



花文様



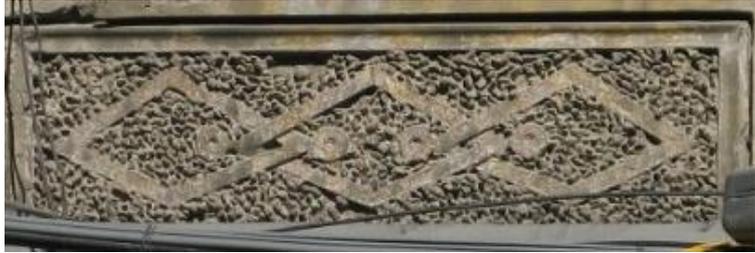
小花文様



牡丹文様



牡丹文様

 A detailed stone carving of an acanthus leaf pattern. The central motif is a large, stylized acanthus leaf with a prominent central vein and a pointed tip. This central leaf is flanked by smaller, more delicate acanthus leaves. The entire composition is set within a rectangular frame with a decorative border.	アカンサス文様
 A stone carving of a peony flower pattern. The central focus is a large, fully bloomed peony flower with numerous layers of petals. The flower is surrounded by large, broad leaves with prominent veins. The carving is set within a rectangular frame.	牡丹文様
 A stone carving of a square lattice pattern. The pattern consists of a series of interlocking diamond shapes, creating a complex, geometric design. The lattice is filled with small, intricate details, possibly representing a floral or geometric motif. The entire design is enclosed in a rectangular frame.	方勝文様

No. 23 靖宇北頭道街 41-51 号



麦穗文様



桃文様



水紋と日紋



麦穗文様



双環文様



水紋

No. 24 靖宇街 31-35 号



円型文様と花綱文様



幾何文様

No. 25 靖宇街 37-43 号



水紋と日紋



博古文様



博古文様



梅文様



蘭文様



鈴蘭文様



牡丹唐草文様



回字文様



唐草文様



帆立貝文様



蓮文様



葡萄花壺文様



花綱文様



牡丹文様



唐草文様



牡丹文様

	
花綱文様	唐草文様
	
牡丹文様	牡丹文様
	
牡丹文様	花壺文様
	
唐草文様	唐草文様
	
唐草文様	アカンサス文様
	
花綱文様	唐草文様

	
花綱文様	牡丹文様
	
牡丹唐草文様	アカンサス文様
	
アカンサス文様	グリーンマン文様
	
アカンサス文様	牡丹唐草文様
	
アカンサス文様	葡萄花壺文様
	
アカンサス文様	アカンサス文様
	
アカンサス文様	アカンサス文様
	
アカンサス文様	花壺文様

		
牡丹唐草文様	花綱文様	
		
牡丹文様	牡丹文様	
		
花綱文様	円形文様	
		
唐草文様	唐草文様	
		
牡丹文様	帆立貝文様	
		
花綱文様	白菜文様	牡丹文様

		
花綱文様	アカンサス文様	花綱文様
		
花綱文様	牡丹文様	牡丹文様
		
花綱文様	牡丹文様	花綱文様
		
牡丹文様	牡丹文様	花綱文様

		
花文様	花綱文様	アカンサス文様
		
花籠文様	花綱文様	花文様
		
アカンサス文様	牡丹文様	牡丹文様
		
花綱文様	牡丹文様	花綱文様

		
花綱文様	花綱文様	アカンサス文様
		
蘭文様	松文様	花文様
		
獅子文様	花綱文様	花籠文様
		
牡丹文様	アカンサス文様	花綱文様

			
葡萄文様	花綱文様	花綱文様	花綱文様
			
花綱文様	花綱文様	鈴蘭文様	鈴蘭文様
			
アカンサス文様	アカンサス文様	鈴蘭文様	鈴蘭文様

No. 27 靖宇街 172 号

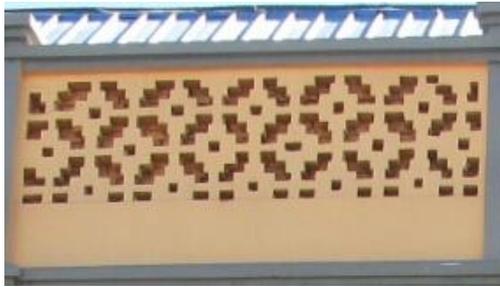


唐草文様



天使文様

No. 28 靖宇街 178 号



幾何文様



幾何文様



幾何文様



幾何文様

No. 29 靖宇街 245-249 号



水紋と日紋



唐草文様



幾何文様



アカンサス文様

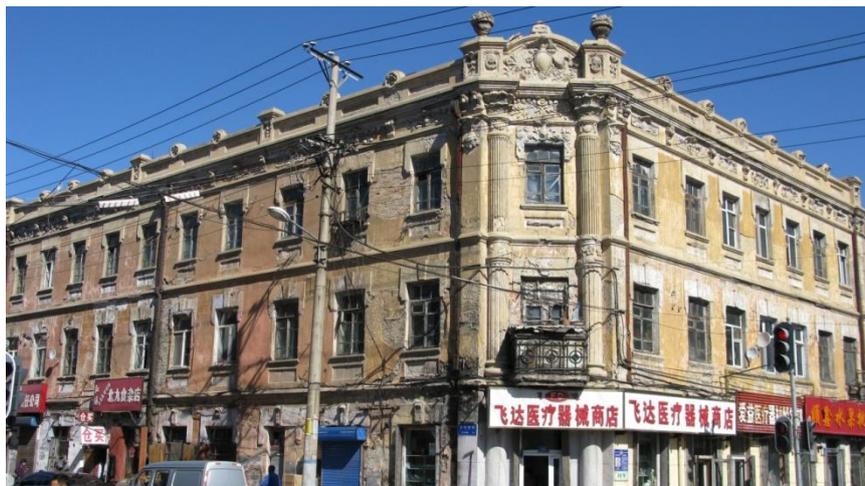


柳文様



柳文様

No. 30 靖宇街 261-265 号



花籠文様



花籠文様



花文様



牡丹文様



牡丹文様



瓜文様



アカンサス文様



牡丹アカンサス文様

	
牡丹アカンサス文様	アカンサス文様
	
牡丹文様	アカンサス文様
	
パイナップル文様	アカンサス文様
	パイナップル文様
	唐草文様
	アカンサス文様
	牡丹唐草文様



牡丹文様



唐草文様

No. 31 靖宇街 267-273 号



水紋、日紋と円形文様

No. 32 靖宇街 308-310 号



幾何文様



幾何文様



幾何文様

No. 33 靖宇街 312-316 号



水紋と幾何文様

No. 34 靖宇街 334-336 号



唐草文様と花綱文様



幾何文様



水紋



回字文様



雲文様

No. 35 靖宇街 338-344 号



唐草文様



唐草文様

No. 36 靖宇街 350 号



花網文様



柳文様



花網文様



蘭文様

No. 37 靖宇街 354 号



直線文様



幾何文様

No. 38 靖宇街 356 号



No. 39 靖宇街 359 号



唐草文様と瓜文様



柳文様



唐草文様と幾何文様



鈴蘭文様

	<p>回字文様</p>
	<p>唐草文様</p>
	<p>牡丹文様</p>
	
<p>瓢箪文様</p>	<p>扇文様</p>

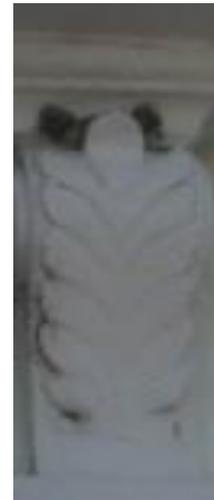
No. 40 靖宇街 378-380 号



水紋



盤長文様



アカンサス文様



直線文様

No. 41 靖宇街 379 号



回字文様



鈴蘭文様



水紋と日紋

No. 42 靖宇街 381 号



唐草文様



水紋と日紋



牡丹文様



牡丹文様



牡丹文様



牡丹文様

No. 43 靖宇街 382-384 号



唐草文様



水紋と日紋

No. 44 靖宇街 383 号



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様



花綱文様



唐草文様



葡萄花壺文様



牡丹文様

		
<p>鈴蘭文様</p>	<p>幾何文様</p>	<p>幾何文様</p>
		
<p>蘭文様</p>	<p>梅文様</p>	

No. 45 靖宇街 392 号



唐草文様



方勝文様



古銭文様

No. 46 靖宇街 398 号



唐草文様



葡萄文様



蘭文様



蘭文様



蓮文様



梅文様



牡丹文様

	<p>牡丹唐草文様</p>
	<p>アカンサス文様</p>
	<p>花綱文様</p>
	<p>鶴、鹿、 鵲と梅文様</p>
	<p>直線文様</p>
	
<p>蝙蝠銜銭文様</p>	<p>アカンサス文様</p>

No. 47 靖宇街 408 号



花と蝶文様



牡丹文様



蝶文様



花籠文様



牡丹文様



牡丹文様

				
<p>蓮文様</p>	<p>牡丹文様</p>	<p>瓜文様</p>	<p>柳文様</p>	
				<p>直線文様</p>
<p>牡丹文様</p>				
				
<p>牡丹唐草文様</p>				

No. 48 靖宇南二道街 19 号



牡丹文様



回字文様

No. 49 靖宇南二道街 30 号



牡丹文様



水紋と日紋

No. 50 靖宇南七道街 262-268 号



花籠文様



古銭文様



方勝文様



牡丹文様



方勝文様



花文様

No. 51 靖宇南七道街 271 号



牡丹文様



唐草文様



牡丹文様



方勝文様



水紋

No. 52 靖宇南七道街 273-277 号



古錢文様



壽字紋



円形文様



方勝文様



方勝文様



小花文様

		
<p>蝶文様</p>	<p>アカンサス文様</p>	<p>鈴蘭文様</p>

No. 53 靖宇南頭道街 49-51 号



牡丹文様



方勝文様



柳文様



壽字紋



牡丹文様

No. 54 靖宇南頭道街 91 号



蓮文様



牡丹文様



牡丹文様



蝙蝠文様



白菜柱頭文様



牡丹文様



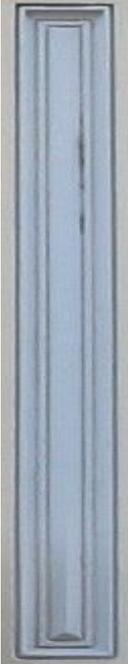
アカンサス文様



鈴蘭文様



古銭文様

	
<p>方勝文様</p>	<p>牡丹唐草文様</p>
	
<p>直線文様</p>	

靖宇街におけるその他の歴史保護建築

No. 55 靖宇北二道街 15 号



アカンサス文様



アカンサス文様



アカンサス文様



花綱文様

No. 56 靖宇北二道街 38-40 号



円紋



円紋



円紋

No. 57 靖宇北二道街 50 号



水紋と日紋

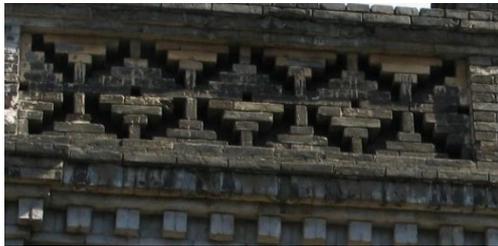


円紋



水紋と日紋

No. 58 靖宇北二道街 51 号



幾何文様



幾何文様



幾何文様

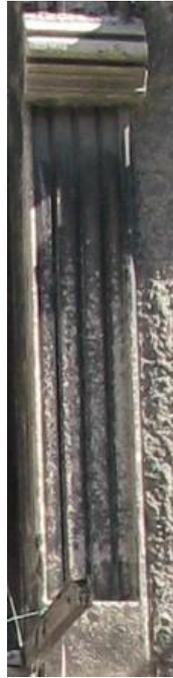
No. 59 靖宇北二道街 53 号



花文様



幾何文様



水紋



直線文様

No. 60 靖宇北二道街 104 号



水紋



水紋



水紋



水紋と日紋



水紋と日紋



水紋

No. 61 靖宇北三道街 2 号



牡丹文様



牡丹文様

No. 62 靖宇北七道街 22 号



円紋

No. 63 靖宇北七道街 52 号



牡丹文様



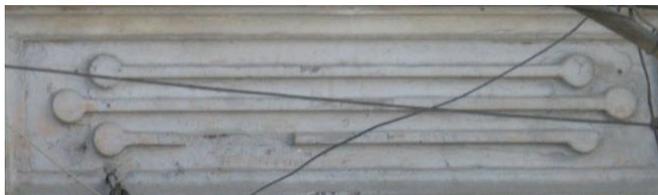
壽字文様



水紋



幾何文様



水紋

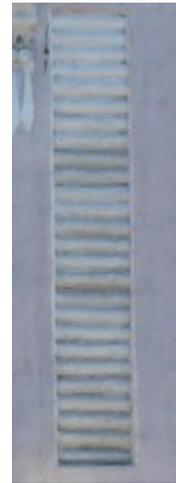


葡萄唐草文様

No. 64 靖宇北七道街 14 号



小花文様



幾何文様

No. 65 靖宇北八道街 1号



唐草文様



牡丹文様



牡丹文様



唐草文様

	<p>唐草文様</p>
	<p>蓮文様</p>
	<p>直線文様</p>
	
<p>蝶と古銭文様</p>	

No. 66 靖宇北八道街 4 号



蝶と花綱文様



アカンサス文様



アカンサス文様



アカンサス文様



牡丹文様



アカンサス文様



唐草文様



アカンサス文様



花壺文様



アカンサス文様

				
花壺文様		直線文様		
				
瓢箪文様		仙人文様		
				
花綱文様		壽字文様		
				
小花文様	小花文様	柳文様	小花文様	瓜文様
				
瓜文様	牡丹文様	牡丹文様	鈴蘭文様	小花文様

No. 67 靖宇北九道街9号



盤長文様と壽字文様



直線文様



水紋と日紋

No. 68 靖宇北九道街 15 号



No. 69 靖宇北九道街 16 号



水紋と日紋



水紋



直線文様

No. 70 靖宇南頭道街 5 号



唐草文様



牡丹文様



牡丹唐草文様

No. 71 靖宇南頭道街 6 号



花籠文様と蝶文様



アカンサス文様



水紋と日紋



牡丹文様



花文様



牡丹文様



牡丹文様

No. 72 靖宇南頭道街 7 号



木犀文様



牡丹唐草文様



牡丹文様



唐草文様



水紋

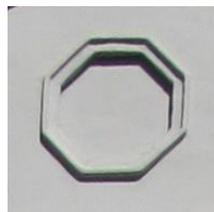


円紋

No. 73 靖宇南頭道街8号



No. 74 靖宇南頭道街9号



幾何文様

No. 75 靖宇南頭道街 10 号



鹿鶴同春文様



花網文様



牡丹唐草文様



唐草文様



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様



唐草文様



牡丹唐草文様



牡丹文様



唐草文様



アカンサス文様



花綱文様



牡丹文様

No. 77 靖宇南頭道街 万瑞福祥



古錢紋

No. 78 靖宇南二道街 1期



桃文様



桃文様



小花文様



牡丹文様



牡丹文様



牡丹文様



花籠文様



花籠文様



盤長文様



牡丹文様



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様



牡丹唐草文様



蝙蝠盤長文様

No. 80 靖宇南二道街 1 期 5-1



幾何文様

No. 81 靖宇南二道街 2 期



牡丹唐草文様



牡丹文様



蝙蝠文様

No. 82 靖宇南二道街 和同志



連年平安文様



四季平安文様

No. 83 靖宇南二道街 嘉和金店



麻の葉文様



牡丹唐草文様



七宝文様



古銭文様



古銭文様



亀甲文様



毘沙門亀甲文様



毘沙門亀甲文様

	
<p>卍字文様</p>	<p>卍字文様</p>

No. 84 靖宇南二道街 京評戲社



幾何文樣



幾何文樣



幾何文樣

No. 85 靖宇南二道街 書画芸術庁



牡丹文様



水紋と日紋

No. 86 靖宇南二道街 同義福



幾何文様



幾何文様



幾何文様

No. 87 靖宇南三道街 大興鴻



葡萄文様



蓮文様



蘭文様



梅文様



菊文様



鈴蘭文様



鈴蘭文様



方勝文様



直線文様



アカンサス文様



オモト文様

No. 88 靖宇南三道街 天和泰



古銭文様



方勝文様



小花文様



牡丹唐草文様



古銭文様と方勝文様



古銭文様



古銭文様と小花文様



方勝文様



壽字文様



卍字文様と方勝文様

	
<p>方勝文様、壽字文様と古銭文様</p>	<p>桃文様</p>
	
<p>四角文様</p>	<p>壽字文様</p>
	
<p>方勝文様</p>	



孔雀文様



才モト文様



鳳凰文様



牡丹文様



牡丹文様



葡萄文様

		
<p>アカンサス文様</p>	<p>ザクロ文様</p>	<p>幾何文様</p>
		
<p>牡丹文様</p>	<p>牡丹唐草文様</p>	
		<p>花綱文様</p>
		<p>牡丹文様</p>
		<p>唐草文様</p>
		<p>アカンサス唐草文様</p>

 A detailed stone carving of an acanthus scrollwork pattern, featuring symmetrical, swirling leaf motifs and scrolls.	アカンサス唐草文様
 A stone carving depicting a central basket overflowing with various fruits and flowers, flanked by smaller baskets and floral arrangements.	花綱文様

No. 90 靖宇南四道街 18 号



アカンサス文様



アカンサス文様



アカンサス文様

No. 91 靖宇南四道街 20 号



No. 92 靖宇南七道街 281 号



牡丹文様



牡丹文様



牡丹文様

No. 93 靖宇南九道街 182 号



方勝文樣
壽字文樣



古錢文樣
壽字文樣



牡丹文樣



水紋

No. 94 靖宇街南頭道街 北原工場



唐草文様



牡丹文様



蝙蝠文様



蝙蝠文様



唐草文様



牡丹文様



牡丹文様



花綱文様



花綱文様



ザクロ文様



唐草文様



牡丹文様



葡萄文様



葡萄文様と瓜文様



唐草文様



蓮文様



花綱文様



瓜文様



幾何文様



博古文様



博古文様

No. 95 靖宇北七道街 10 号



小花文様

No. 96 靖宇北七道街 17 号



小花文様



幾何文様



幾何文様

No. 97 靖宇北三道街 6号



鹿文様



牡丹文様



牡丹唐草文様

No. 98 靖宇北三道街 8 号



直線文様



古銭文様



直線文様

No. 99 靖宇北三道街 10号



直線文様

No. 100 靖宇北三道街 44 号



花綱文様



牡丹唐草文様



花綱文様



花綱文様



牡丹唐草文様

No. 101 靖宇北三道街 李氏燠醬



葦と蟹文様



蓮と鯉文様



幾何文様



亀甲文様



亀甲文様



牡丹唐草文様

No. 102 靖宇北四道街 4 号



唐草文様



牡丹文様



牡丹唐草文様



回字文様



方勝文様



小花文様



柳文様

No. 103 靖宇北四道街 100 号



雲紋文様



雲紋文様



麻の葉文様



亀甲文様



古銭文様



古銭文様



壽字文様



花籠文様

No. 104 靖宇北小六道街 8 号



水紋と日紋

No. 105 靖宇北小六道街 25 号



蘭文様



山水文様



山水文様
梅文様



山水文様



山水文様
松文様

	<p>蘭文様</p>
	<p>竹文様</p>
	<p>梅文様 蘭文様</p>



唐草文様



アカンサス唐草文様



蝶文様



蝙蝠銜銭文様



牡丹文様



柳文様



瓜文様



直線文様



直線文様

No. 107 靖宇北三道街 12 号



蘭文様



菱形文様



菱形文様



花網文様



壽字文様



花網文様



牡丹唐草文様



水紋と日紋



燕文様と三環文様



水紋